

ロシア及び CIS 諸国における教育改革と教師教育の
現代化に関する総合的調査研究

課題番号 15H05198

平成 27 年度中間報告書

平成 27～29 年度
基盤研究 (B) 海外学術調査

平成 28 年 (2016 年) 3 月

研究代表者 嶺井明子
(筑波大学 人間系)

目 次

I. 研究概要

II. 調査報告

1. モスクワ調査①（2015年9月5日～9月12日）-----
-----嶺井明子、岩崎正吾、遠藤忠、大谷実、ミソチコ・グリゴリー-----9--
2. モスクワ調査②（2015年10月12日～10月17日）-----関啓子、白村直也-----59--
3. モスクワ調査③（2016年2月24日～2月29日）-----
-----岩崎正吾、森岡修一、松永裕二-----77--
4. ビシケク調査（2016年3月8日～3月17日）-----ウメトバエワ・カリマン-----102--
5. アルマティ調査（2016年3月11日～3月23日）-----
-----嶺井明子、タスタンベコワ・クアニシ-----109--
6. サンクトペテルブルグ調査（2016年3月26日～3月31日）-----
-----澤野由紀子、大谷実、木之下健一、山下正美-----123--

III. 関連資料（仮訳）

1. ロシアの「教員」－用語の整理-----澤野由紀子-----146--
2. 普通教育機関の教育職員の職業的水準の向上を図る総合計画-----遠藤忠-----151--
3. 子どもの補充教育の発展構想----- 岩崎正吾、森岡修一-----172--
4. 教員養成教育の発展支援構想(案)-----松永裕二-----184--
5. 教師教育現代化プロジェクトの概要-----
-----タスタンベコワ・クアニシ、カキモフ・バザルハン-----190--

I. 研究の概要

研究目的(概要)

教育改革と教員の養成・研修は相互に関連した教育の最重要課題である。いずれの国も急激に変動する内外の課題にさらされ、教育改革に取り組んでいるが、教員養成・研修制度が改革のペースに追いつかないことによる弊害が生じている場合が多い。本研究では、過去25年間に体制転換に伴う大きな変化を経験した旧ソビエト諸国の教育改革と教員養成・研修との関連に焦点を当て、両者の間隙をいかに埋めれば教育改革が効果的となるかを考察する。第1に1980年代後半からの教育改革動向を教師教育に焦点を当てて分析する。第2に近年の学力観変容に対応した教員養成・研修制度改革の実態について明らかにする。第3に多様なアクターによる教員養成・研修プログラム開発と実践の事例研究を行う。第4に教育者のライフストーリーの聞き取り調査を行い、改革の担い手が直面してきた諸問題とその解決策について明らかにする。

① 研究の学術的背景：

国内の研究 旧ソ連・ロシアの教育研究は、主として初等中等教育の制度・内容・方法に焦点が当てられてきた。川野辺敏らによる『ロシアの教育・過去と未来』（1996年）、遠藤忠らによる「教育の分権化に関する研究」（2002年）、福田誠治らによる「英才教育と学校の多様化・個性化に関する研究」（2005年）、岩崎正吾らによる「キャリア教育に関する研究」（2008年）がある。いずれも教育改革の状況を伝えているが、教員の養成・研修との関連についての研究は十分に行われていない。

また、CIS諸国については、嶺井明子・川野辺敏編著『中央アジアの教育とグローバリズム』（2012年）、関啓子著『コーカサスと中央アジアの人間形成』（2013年）があるが、いずれも同様である。直近では福田らによる「体制転換後ロシア連邦20年の教育改革の研究」（2013年）があり、中央のみならず地方各地の教育改革の状況が研究されているが、教員の養成・研修との関連については十分に分析されていない。個人による研究では、環境教育（関啓子）、宗教教育（井上まどか）、言語教育（伊藤美和子）、障がい児のインクルーシブ教育（渡辺健治）の新しい実践に着目した研究の萌芽がみられるが、教員養成・研修との関連には焦点が当てられていない。

国外の研究 1980年代以降、欧米のロシア・CISの教育動向に対する関心が高まっており、例えば近年では(1) Iveta Silova (Edit.) 2010, *Post-Socialism is not Dead: (Re)Reading the Global in Comparative Education*, Emerald Books、(2) David Jonson (Edit.), 2010, *Politics, Modernization and Educational Reform in Russia from past to present*, Oxford Studies in Comparative Education、(3) Борис Старцев, 2012, Хроники образовательной политики 1991-2011, Издательский дом Высшей школы экономики、(4) Aydarova, O. Universal principles transform national priorities: Bologna process and Russian teacher education, *Teacher and Teaching Education*, 37, 2014 (p.64-75)がある。但し、(1)～(3)は教育改革の外的要因を強調しすぎており、教育改革の全体像を把握しきれていない。(4)は本研究の関心に最も近い先行研究である。ロシアの高等教育改革を取り上げて、欧州統一教育圏への統合を目指すボローニャプロセスへの参加が教員養成課程に与えた影響を教師教育スタンダードの分析を通して、5年制専門家養成課程と新しい4年制学士養成課程を比較し、両者のメリット・デメリットを指摘する視点として興味深い。しかし、教育改革と教師教育の関連が示されておらず、教育改革がどのような教師像を目指しているかを明らかにすることが課題として残る。これらのいずれの研究も、ソ連時代の教師教育の経験を分析しておらず、現代との連続面・非連続面を示していない。

またOECDは2008年から国際教員指導環境調査(TALIS)を実施し、2013年の調査には日本を含め34カ国4地域が参加するなど各国における教育改革の担い手としての教員の職能開発を含む指導環境への関心が高まっているが、ロシア・CIS諸国はこうした国際比較調査には参加していない。

研究目的(つづき)

着想に至った経緯

本研究のメンバーの多くは、1980年代から旧ソ連地域の教育政策及び改革に関する調査研究を継続的に行ってきた。1980年代末期に教師が支えた教育改革はソ連解体後の政治・経済の混乱期には停滞し、アメリカ型の新自由主義的改革手法の席卷のなかで混乱を極めた。2000年代以降の経済的安定期のなかで、新しいコンピテンシー型学力観に基づくカリキュラムが整備された。それに伴い教師にも新しい専門性が必要となり、教員養成・研修が大きく変化しているという事実が明らかになった。そこで教育改革と教員養成・研修の関連に焦点化した本研究の構想に至った。

②研究期間内に明らかにしたいこと：

1. 教育改革の再整理と明確化

ロシア・CIS 諸国におけるソ連解体後の教育改革及び教員養成・研修制度改革の進行状況を政策文書及び統計数値に基づき正確に把握する。例えばロシアについては、1992年教育法と2012年新教育法の異同を整理し、「2013～2020年ロシア連邦国家プログラム“教育発展”」が掲げる「生涯にわたる質の高い教育システムの構築」へ向けた改革の全体像を明確化する。「教員養成の発展支援構想・案」（ロシア連邦教育科学省2014年1月）に基づき、基本的骨格を明らかにする。

2. 教員養成・研修制度に関する実態の解明

教育改革と教員養成カリキュラム（大学・中等専門学校のスタンダード）の関係、日本の学校には配置されていない多様な種類の教師の養成（補充教育・学校外教育機関の指導者、特別支援教員、ソツィアリヌィ・ペダゴグの養成）、研修機関での教員研修の実態及び課題等について調査する。その際、免許、養成、採用、研修、配置、処遇などの制度全般を視野に入れ、欧州高等教育圏に対応した高等教育改革並びに欧州資格枠組に対応した教員資格制度の改革に留意しつつ、実態を調査する。

3. 教員養成・研修のプログラム開発および実施に関わる新たなアクターの解明

教師教育に関わる国内外のNGO、企業、メディア、大学や研究機関の事例研究を行う。その際、中央政府や地方政府との関係並びに多様なパートナーとのネットワークに着目する。

4. 教育改革の担い手たちのライフストーリーの解明

教育現場の変化を直接体験してきた教師や教育行政官等のライフストーリーを聴取し、教師の新しい専門職性の形成過程を明らかにする。

③ 当該研究における本研究の学術的な特色、独創的な点、予想される結果と意義：

学術的な特色としては、以下の3つのアプローチから研究課題の解明に総合的に取り組むことである。1) **歴史的アプローチ**：ソ連時代、1990年代のアメリカの影響が濃厚であった時期、2000年代の欧州高等教育圏入りを目指した時期（ボローニャプロセス対応の改革）、2010年代以降ユーラシア経済同盟を基礎とした共通教育圏を模索している時期に区分して解明する。2) **比較教育学的アプローチ**：近年の国際情勢の変化・流動化を考慮し、旧ソ連諸国の独立後の教員養成制度改革の比較を行う。3) **エスノグラフィー**：法制度中心の調査に終わらず、激変の時代を生き抜いてきた改革の担い手である教師等の生の声を聴く。

本研究の**独創性**は、上記の視点から教育改革と教員養成・研修改革との連携の在り方を解明しようとする点にある。

予想される結果と意義 1) 教育改革に伴う教員養成・研修の在り方全体を見直す契機となる知見を提供できる。2) 日本の教育改革で強調されている学校・家庭・地域の連携に有効な仕組みを明らかにする（例：学校外担当副校長の役割）。3) 日本で新たに提起されている教員養成・研修上の諸問題、具体的には小学校の「英語教育」や「特別の教科＝道徳」に相応する新教科の教員養成・研修の在り方についての示唆を得ることができる。4) 日本で問題となっている学校外教育機関の指導者養成及び研修の状況を明らかにし、学童保育・校外教育の在り方に示唆を与えることができる。

本研究は、教育のグローバル化が進むなか、国情を超え、教員養成・研修の在り方を検討する上での大きなインパクトを与えることが期待できる。

本研究の参加者は、以下の通りである。

	氏 名 (所 属)
(研究代表者)	嶺井明子 (筑波大学)
(研究分担者)	岩崎正吾 (早稲田大学) 大谷実 (金沢大学) 澤野由紀子 (聖心女子大学) タスタンベコワ・クアニシ (筑波大学)
(連携研究者)	遠藤忠 (宇都宮共和大学) 関啓子 (一橋大学名誉教授) 松永祐二 (西南学院大学) 森岡修一 (大妻女子大学) 井上まどか (清泉女子大学)
(研究協力者)	川野辺敏 ウメトバエワ・カリマン (東京藝術大学) 木之下健一 (一橋大学大学院) 白村直也 (浜松学院大学) 山下正美 (東京藝術大学) ミソチコ・グリゴリー (筑波大学大学院) カキモフ・バザルハン (筑波大学研究生)

II. 調査報告

1. モスクワ調査① (2015年9月5日～12日)
2. モスクワ調査② (2015年10月12日～17日)
3. モスクワ調査③ (2016年2月24日～29日)
4. ビシケク調査 (2016年3月8日～17日)
5. アルマティ調査 (2016年3月11日～23日)
6. サンクトペテルブルグ調査 (2016年3月26日～31日)

モスクワ調査①報告書

2015年9月5日～12日（8日間）

嶺井 明子
岩崎 正吾
遠藤 忠
大谷 実
ミソチコ グリゴリー

○調査日程

日付	時間	移動・調査機関
2015年 9月5日（土）	16:10	モスクワ・シェレメチェボ空港着（SU263便）
9月6日（日）		教育政策研究所「エヴリカ」のロガチョワ・オリガ国際部長との打ち合わせ
9月7日（月）	10:00-14:00	①モスクワ市立教育大学（教師教育に関するミニシンポ） Московский городской педагогический университет
	17:00-18:00	②モスクワ国立教育大学 Московский педагогический государственный университет
9月8日（火）		③第548番教育センター「ツァリツィノ」 Центр образования №548 «Царицыно» ④第2065番学校 Школа №2065（トロイツキー・ノヴォモスコフスキー行政区の教育関係者との面談）
9月9日（水）	9:00 -12:00	⑤第215番幼稚園 Детский сад № 215
	14:00-17:00	⑥「自己決定」学校附属第869番幼稚園 Детский сад №869 при «Школе самоопределения»
	18:00	教育政策研究所「エヴリカ」のアントーノワ所長とアダムスキー研究指導者との懇談
9月10日 （木）	11:00-13:00	⑦連邦教育発展研究所 Федеральный институт развития образования
	15:00-17:00	⑧高等経済大学教育研究所 Институт образования НИУ «Высшая школа экономики»
	18:00-19:00	⑨継続数学教育モスクワセンター Московский центр непрерывного математического образования

9月11日 (金)	15:00-16:00	⑩ロシア科学アカデミー傘下研究所・研究員へのヒアリング
	19:00	モスクワ・シェレメチェボ空港発 (SU262 便)
9月12日 (土)	10:35	成田着

本調査では、教育政策研究所「エヴリカ」Институт проблем образовательной политики «Эврика»が全てのスケジュールをアレンジしてくださった。以前から大変お世話になっているアントノワ・アーラ・アレクサンドロヴナ所長 Антонова Алла Александровна 所長、アダムスキー・アレクサンドル・イズトヴィチ Адамский Александр Изотович 研究指導者 (научный руководитель)、並びに全日程を通じて我が調査団に同行してくださったロガチョーワ・オリガ・ペトロヴナ Логачева Ольга Петровна 国際交流部長に改めてお礼申し上げたい。



<2015年9月7日(月)>

①モスクワ市立教育大学 Московский городской педагогический университет (教師教育に関するミニシンポ) (訪問時間：10:00～14:00)

1. 対応者・参加者：下記を参照
2. 住所：ул. Садовая-Самотечная, 8
3. 連絡先：<https://www.mgpu.ru/>



当日は、私達の調査にあわせて、ロシア連邦の教師教育の発展に関する大学間調整委員会「教育と教育科学」Образование и педагогические науки のメンバーがモスクワ市立教育大学の教育・教育心理学大学 (Институт педагогики и психологии образования МГПУ) に集まり、教師教育に関するミニシンポが開催された。日本とロシアの双方から下記プログラムの通り合計 5 つの報告があった (右上の写真はシンポに登壇するモスクワ心理・教育大学のマルゴリス副学長)。本シンポの企画・準備段階で主な調整をしてくださったモスクワ市立教育大学のグリーンシクン・ヴァジム・ヴァレリエヴィチ Гриншкун Вадим Валерьевич 国際担当副学長は海外出張のため参加できなかった。

1. ミニシンポのプログラム

10:00-10:10	レモレンコ・イーゴリ・ミハイロヴィチ 挨拶 博士候補（教育学）、准教授、モスクワ市立教育大学長 ボロトフ・ヴィクトル・アレクサンドロヴィチ 挨拶 博士（教育学）、ロシア教育アカデミー会員、調整委員会委員長、高等経済大学・教育学研究所・教育の質モニタリングセンター研究指導者
10:10-10:50	遠藤忠 宇都宮共和大学 教授 「第2次大戦後の日本における初等中等教員の養成・研修制度」
10:50-11:30	大谷実 金沢大学 教授 「日本の授業研究と全国学力テスト：教師の成長に貢献する2つの対立する要因（数学教育を事例に）」
11:30-11:50	コーヒーブレイク
11:50-12:20	マルゴリス・アルカディー・アロノヴィチ 博士候補（教育学）、教授、モスクワ国立心理・教育大学第1副学長 「ロシアの教師教育の現代化に伴う教育学的コンピテンシー形成の評価」
12:20-13:10	アグラナト・ドミトリー・リヴォヴィチ 博士（社会学）、准教授、モスクワ市立教育大学教育担当副学長 「教師教育の現代化プロジェクトへのモスクワ市立教育大学の参加」
13:10-13:40	総括議論
13:40-14:00	コーヒーブレイク

※当初のプログラムにはなかったが、教育政策研究所「エヴリカ」のアダムスキー研究指導者からも報告があった。

2. ミニシンポの参加者

モスクワ市立教育大学からの参加者：

- レモレンコ・イーゴリ・ミハイロヴィチ Реморенко Игорь Михайлович 学長
- リャボフ・ヴィクトル・ヴァシリエヴィチ Рябов Виктор Васильевич 総長
- ゲヴォルキャン・エレナ・ニコラエヴナ Геворкян Елена Николаевна 第1副学長
- アグラナト・ドミトリー・リヴォヴィチ Агранат Дмитрий Львович 教育担当副学長
- カバヒゼ・カテリナ・リヴォヴナ Кахабидзе Катерина Львовна 国際交流局長
- ストリジャック・ウリアナ・ペトロヴナ Стрижак Ульяна Петровна 外国語大学日本語学科長
- クズネツォヴァ・ソフィア・ミハイロヴナ Кузнецова Софья Михайловна 外国語大学日本語学科上級講師

他大学からの参加者

- ボロトフ・ヴィクトル・ヴァシリエヴィチ Болотов Виктор Александрович 調整委員会委員長、高等経済大学教育研究所・教育の質モニタリングセンター研究指導者
- マルゴリス・アルカディー・アロノヴィチ Марголис Аркадий Аронович モスクワ国立心理・教育大学第1副学長
- フォードロフ・アレクサンドル・アレクサンドロヴィチ Федоров Александр Александрович ミーニン名称ニジニ・ノヴゴロド国立教育大学長

11. セルゴマノフ・パーヴェル・アルカディエヴィチ Сергомманов Павел Аркадьевич 教育科学省普通教育局副局長,
12. ボイコフ・ドミトリー・イゴレヴィチ Бойков Дмитрий Игоревич ゲルツェン名称ロシア国立教育大学国際担当副学長
13. アダムスキー・アレクサンドル・イズトヴィチ Адамский Александр Изотович 教育政策研究所「エヴリカ」研究指導者

ロシア側プレゼン1

A・A・マルゴリス モスクワ国立心理・教育大学第1副学長

「ロシアの教師教育の現代化に伴う教育学的コンピテンシー形成の評価」



Оценка формирования педагогических компетенций в ходе модернизации педагогического образования в России

Аркадий Марголис, МГППУ



Апробация инструментария и процедуры оценки

В рамках проекта модернизации педагогического образования апробация инструментария

- была организована в июне-июле 2015 года в дистанционном формате на сайте оценкакомпетенций.рф,
- в апробации инструментария приняли участие **3603 студента из 38 вузов** Российской Федерации.

Описание инструментария

Апробированы **шесть инструментариев по трем направлениям подготовки:**

- педагогическое образование,
- психолого-педагогическое образование,
- специальное (дефектологическое) образование); и **шести профилям:** воспитатель, учитель начальных классов, учитель-дефектолог, педагог-психолог, учитель основного общего образования и учитель среднего общего образования.

07.09.2015

3

Установление соответствия

Проектные команды вузов-участников установили **соответствие профессиональных компетенций** профессионального стандарта педагога (педагога-психолога) и компетенций ФГОС ВО 3+, формируемых при обучении студентов в проектах.

07.09.2015

4

Определение трудовых действий модуля

Проектные команды вузов-участников определили для каждого модуля **набор трудовых действий** профессионального стандарта, которые должны освоить студенты в процессе обучения по модулю.

В ходе апробации Инструментария в каждой группе студентов вуза проверялись только те трудовые действия, которым их обучали в модуле проекта.

07.09.2015

5

Карта компетенций

№ баз	Трудовые действия	РГПУ, Деф. М. 108.056	МПУ, Деф. Б. 100.054	МПУ, Деф. Б. 134.054
1.1.3.	Участие в разработке и реализации программы развития образовательной организации в целях создания безопасной и комфортной образовательной среды	<p>Методы и технологии организации учебно-воспитательного процесса в организациях общего образования и с особенностями образовательной деятельности</p> <p>Оценка и мониторинг основных образовательных результатов учащихся с</p>	<p>Дисциплины профессионального цикла базовой подготовки</p> <p>Теоретические и экспериментальные основы образовательно-коррекционного процесса</p>	<p>Дисциплины профессионального цикла базовой подготовки</p> <p>Изучение, образование и реабилитация лиц с ограниченными возможностями здоровья</p> <p>Теоретические и экспериментальные основы образовательно-</p>
1.1.4.	Планирование и проведение учебных занятий	<p>Методы и технологии организации учебно-воспитательного процесса в организациях общего образования и с особенностями образовательной деятельности</p> <p>Проектирование образовательной деятельности в организациях общего образования и с особенностями образовательной деятельности с учащимися с ограниченными возможностями здоровья</p>	<p>Дисциплины профессионального цикла базовой подготовки</p> <p>Изучение, образование и реабилитация лиц с ограниченными возможностями здоровья</p>	<p>Дисциплины профессионального цикла базовой подготовки</p> <p>Изучение, образование и реабилитация лиц с ограниченными возможностями здоровья</p> <p>Теоретические и экспериментальные основы образовательно-коррекционного процесса</p>
1.1.5.	Систематический анализ эффективности учебных занятий и подходов к обучению	<p>Методы и технологии организации учебно-воспитательного процесса в организациях общего образования и с</p>	<p>Изучение, образование и реабилитация лиц с ограниченными возможностями</p>	<p>Дисциплины профессионального цикла базовой подготовки</p> <p>Изучение, образование и</p>

Независимая оценка

сформированности профессиональных компетенций

Цель: проверка сформированности профессиональных компетенций студентов в соответствии со **спецификой трудовых действий** стандарта профессиональной деятельности педагога (или педагога-психолога).

Квалификационное испытание включает:

- **Профессиональный тест:** проверяет сформированность *профессиональных знаний, умений и компетенций*. Контрольные задания представлены *тестовыми заданиями с несколькими вариантами ответов*.
- **Сборник кейсов:** проверяет сформированность профессиональных компетенций необходимых для осуществления трудовых действий. Сборник кейсов представлен *структурированными кейсами*.

07.09.2015

7

- **Кейс** – педагогическая ситуация, моделирующая профессиональную задачу, проблему, направленная на проверку планирования последовательности профессиональных действий и полноту их реализации.

07.09.2015

8

Межуниверситетские рабочие группы

Привлечены

- к разработке КИМов **102 разработчика**, из них приняли участие в обсуждении и доработке материалов – 74 разработчика из 21 вуза Российской Федерации, в том числе 1 доктор педагогических наук, 57 кандидатов педагогических наук, 10 кандидатов психологических наук.
- к экспертизе КИМов **92 эксперта**, из них приняли участие в доработке материалов – 51 эксперт из 15 вузов и 18 образовательных организаций, в том числе 1 доктор педагогических наук, 37 кандидатов педагогических наук, 5 кандидатов психологических наук.

07.09.2015

9

Критерии экспертизы тестового задания

Описание критерия	Решение
1. Тестовое задание не соответствует проверяемому трудовому действию / действиям	0 – Отклонить
2. Тестовое задание не позволяет проверить знания или умения, обеспечивающие трудовое действие	0 – Отклонить
3. Тестовое задание нуждается в доработке	1а – Доработать тестовое задание 1б – Доработать варианты ответов
4. Тестовое задание соответствует проверяемому трудовому действию / действиям и предлагаемый ответ соответствует заданию	2 – Принять

07.09.2015

10

Критерии экспертизы кейса

Описание критерия	Решение
1. Кейс не соответствует проверяемому трудовому действию / действиям	0 – Отклонить
2. Кейс не позволяет проверить трудовое действие / действия	0 – Отклонить
3. Кейс нуждается в доработке	1а – Доработать кейс 1б – Доработать ответы
4. Кейс соответствует проверяемому трудовому действию / действиям и предлагаемые ответы соответствуют кейсу	2 – Принять

07.09.2015

11

Критерии оценки решений кейсов студентами

Три критерия:

1. Полнота решения профессиональной задачи;
2. Научная обоснованность ответа;
3. Соответствие профессиональному стандарту

Каждый критерий дифференцирован

1. Полнота решения профессиональной задачи	2 – В решении учтена вся необходимая информация и сформулированы уточняющие запросы, ответы соответствуют заданиям; 1 – В решении учтена основная информация, не сформулированы уточняющие запросы для получения необходимой информации, ответы соответствуют заданиям; 0 – В решении не учтена часть необходимой информации, пропущена ключевая информация, профессиональная деятельность в целом не может быть осуществима; ответы не соответствуют заданиям.
--------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

07.09.2015

12

Банк контрольно-измерительных материалов

Составил не менее 100 вопросов по профилю и набор кейсов:

- **всего 1000 тестовых заданий**, из них по программе бакалавриата – 452, по программе магистратуры – 548;
- **и 166 кейсов**, из них по программе бакалавриата – 100, по программе магистратуры – 66.

07.09.2015

13

Пример тестового задания

1. Один из указанных элементов порождает возникновение учебной дискуссии. Этот элемент:

- разные мнения (в классе)
- вопрос учителя
- дополнительная информация
- коллектив одноклассников

2. Совместное с учащимися планирование изучения предметной темы обеспечивает формирование:

- познавательных УУД
- коммуникативных УУД
- регулятивных УУД
- личностных УУД

07.09.2015

14

Пример тестового задания

1. Один из указанных элементов порождает возникновение учебной дискуссии. Этот элемент:

- разные мнения (в классе)
- вопрос учителя
- дополнительная информация
- коллектив одноклассников

2. Совместное с учащимися планирование изучения предметной темы обеспечивает формирование:

- познавательных УУД
- коммуникативных УУД
- регулятивных УУД
- личностных УУД

07.09.2015

15

Пример кейса: «Ребенок с ДЦП»

Описание педагогической ситуации: У моего сына ДЦП. До школы он не посещал детский садик. Но к школе я его **постаралась подготовить: он выучил буквы и цифры, научился читать по слогам.** Ребенок он контактный, с удовольствием общается с другими детьми и взрослыми. Когда мы пошли в первый класс, нам было рекомендовано домашнее обучение, но весь первый год мы проходили в школу. **Ребенок адаптировался, у него появились друзья.** Это все благодаря нашей первой учительнице. Я посещала школу вместе с сыном, помогала ему, когда он в этом нуждался. Без моей помощи ему в школе пришлось бы трудно. Но на следующий год **в классе сменилась учительница:** молодая, уверенная и не идет на контакт. **Она запретила мне находиться в классе вместе с сыном, заявив, что я ей мешаю. У ребенка появились трудности в обучении, он начал замыкаться в себе, страдает успеваемость.** Спрашиваю у него: «Как дела на уроках?». А он только молчит. Школа ему нужна, не существовать же ему в четырех стенах...

07.09.2015

16



- **Дополнительные материалы:** Ребенок страдает ДЦП, имеет серьезный двигательный дефект, по этой причине у него проблемы с социальной адаптацией. В период дошкольного детства родители уделяли самое серьезное внимание развитию ребенка, была проведена коррекционно-педагогическая работа в специализированном центре, который ребенок посещал с родителями, которые также прошли подготовку по направлению: воспитание ребенка с диагнозом ДЦП.
- **По заключению специалистов центра психолого-медико-социального сопровождения, у ребенка сохранен интеллект и он может освоить общеобразовательную программу.**

07.09.2015

17



Задания для кейса

- 1) Перечислите, какие сложности могут ожидать ребенка с диагнозом ДЦП при посещении школы (2–3 сложных ситуации с ребенком)?
- 2) Основной принцип работы с детьми с ограниченными возможностями здоровья в общеобразовательной школе.
- 3) Назовите две технологии, которые можно использовать при обучении данного ребенка.
- 4) Какой совет можно дать родителям данного ребенка?

07.09.2015

18

Описание квалификационного испытания

Один тест включал до 20 тестовых заданий,

- на решение одного тестового задания отводилось 1,5 минуты,
- на один тест до 30 минут,
- на **три теста** до 1,5 часов.

Далее студенты решали **два кейса**, соответственно модулям, по которым проходили обучение.

- На решение одного кейса было отведено 30 минут.

Таким образом, квалификационное испытание продолжалось от 1,5 до 2,5 часов.

07.09.2015

19

Модель оценки

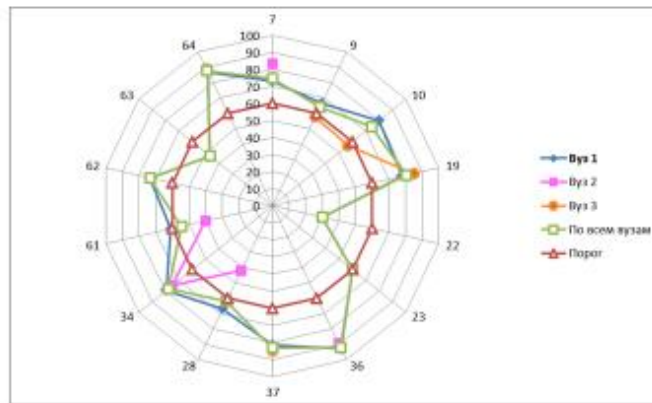
- **Трудовое действие студентом освоено**, если 50% заданий (тестовых заданий и кейсов), направленных на проверку этого трудового действия, выполнено правильно.
- **Трудовое действие освоено на групповом уровне**, если не менее 60% студентов, принимавших участие в тестировании, освоили данное трудовое действие.
- **Модуль считается эффективным**, если студентами освоено 50% и более формируемых трудовых действий.

07.09.2015

20

Профиль сформированности профессиональных компетенций (1)

Трудовое действие освоено, если не менее 60% студентов, принимавших участие в тестировании, освоили данное трудовое действие.



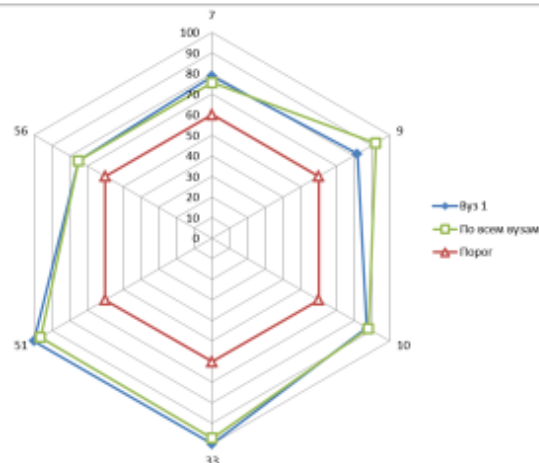
Примечание: ТД отмечены цифрами, вузы – цветом.

07.09.2015

21

Профиль сформированности профессиональных компетенций (2)

Трудовое действие освоено, если не менее 60% студентов, принимавших участие в тестировании, освоили данное трудовое действие.



Примечание: ТД отмечены цифрами, вузы – цветом.

07.09.2015

22

Предварительные выводы

- 1) Частичная освоенность определенных трудовых действий свидетельствует о повышении качества подготовки студентов в связи с усложнением требований профессионального стандарта.
- 2) Квалификационное испытание проводилось, прежде всего, в целях апробации инструментария и процедуры оценки сформированности профессиональных компетенций студентов (выпускников).

ロシア側プレゼン2

D・L・アグラナト モスクワ市立教育大学教育担当副学長
「教師教育の現代化プロジェクトへのモスクワ市立教育大学の参加」

1

Участие Московского городского педагогического университета в проекте по модернизации педагогического образования

Москва, 2015



2

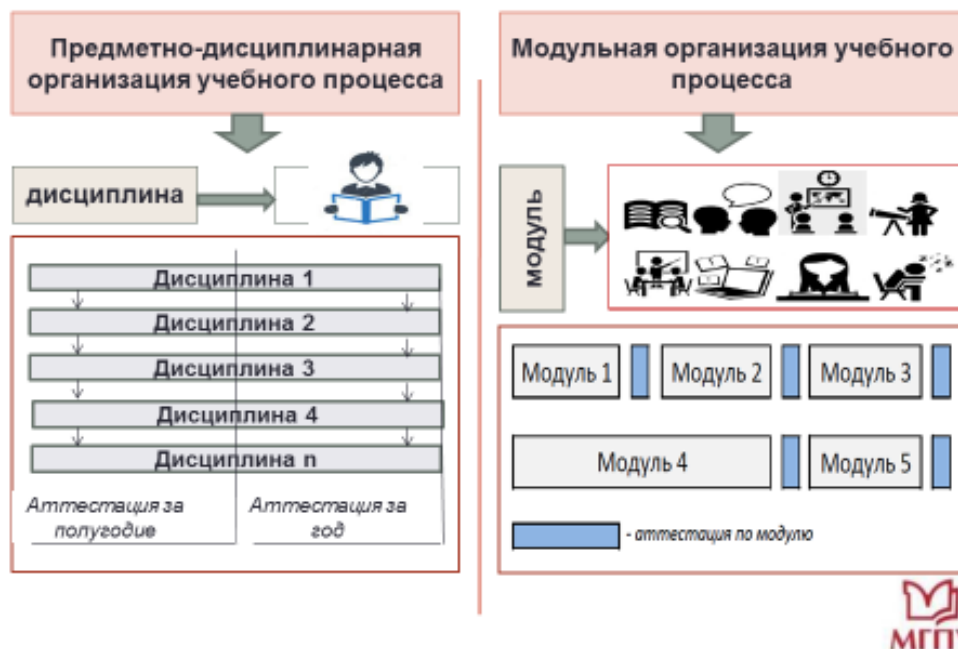
Модели магистерской подготовки, реализуемые в рамках проекта модернизации педагогического образования



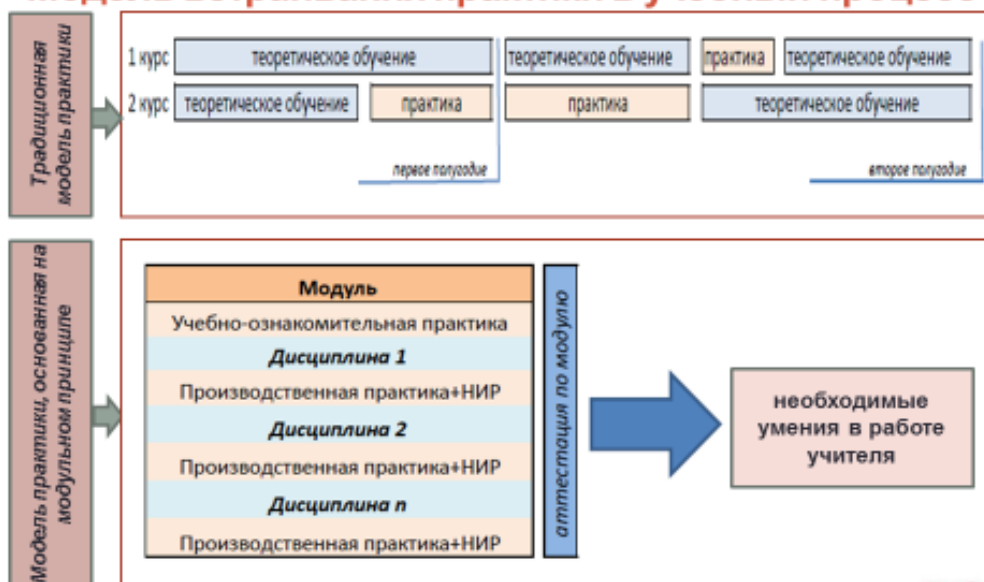
Образовательные результаты как основа для проектирования содержания образовательной программы



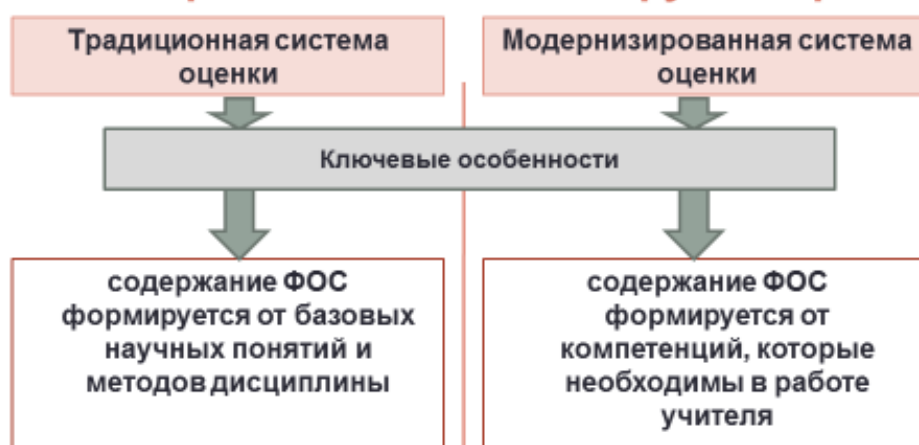
Организация учебного процесса



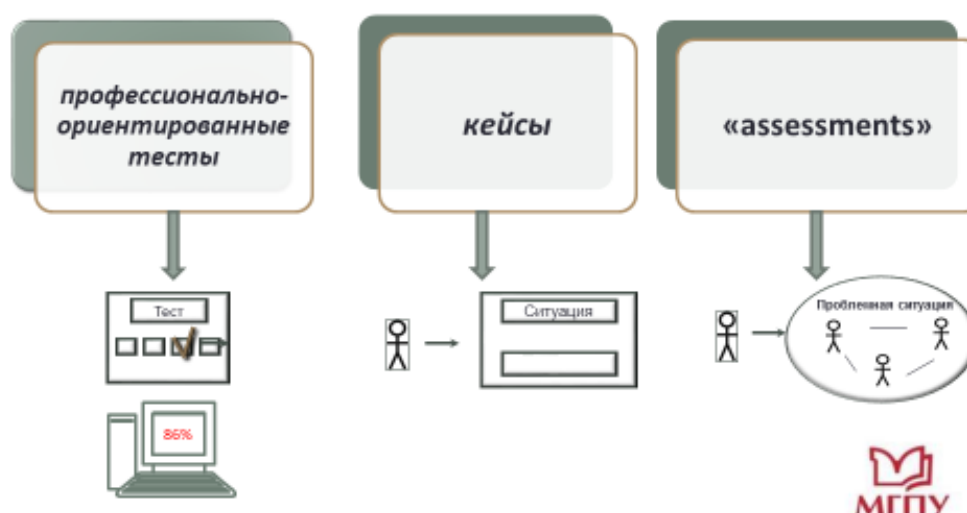
Модель встраивания практики в учебный процесс



Специфика оценочного инструментария



Структура фондов оценочных средств в рамках проекта модернизации педагогического образования



Примеры тестовых заданий: множественный выбор

Трудовое действие 1.1.6. Организация, осуществление контроля и оценки учебных достижений, текущих и итоговых результатов освоения основной образовательной программы обучающимися

Четыре ученика отвечали на 6 заданий теста, ранжированных по равномерному нарастанию трудности. По результатам ответов получились профили: первый – 111000; второй - 101010; третий – 010101; четвертый – 110100. Лучше усвоил содержание проверяемой темы курса, ученик:

- 1) 1-й ученик
- 2) 2-й ученик
- 3) 3-й ученик
- 4) 4-й ученик

Примеры кейсов

Трудовое действие 2.3.7. Организация олимпиад, конференций, турниров математических и лингвистических игр в школе и др.

Группе учителей поручено подготовить и провести междисциплинарную конференцию старшеклассников, посвященную 50-летию выхода человека в открытый космос. В составе объединения работают четыре учителя – учитель математики, учитель истории, учитель биологии и учитель музыки. На конференцию приглашаются учащиеся 10, 11 классов из школ трех смежных районов (всего 24 школы). Школа может принять на конференции до 50-ти участников. Желающие принять участие в мероприятии присылают свои работы на заочный тур, затем приглашаются на очное выступление.

Задание 1

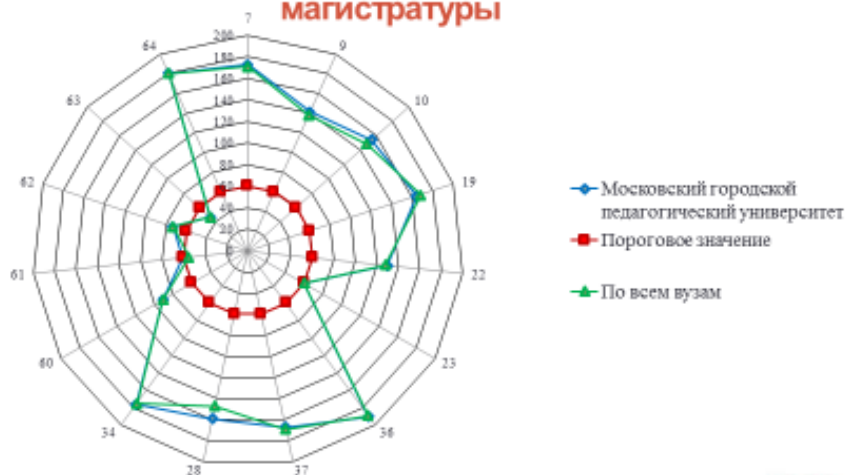
Определите тематику секций, в каждой из которых в качестве председателя жюри смогут работать учителя-организаторы конференции

Задание 2

Задание n



Результаты компьютерного тестирования студентов МГПУ, участвующих в проектах по апробации новых модулей модернизированных программ педагогической магистратуры



ロシア側プレゼン3

A・I・アダムスキー 教育政策研究所「エヴリカ」のアダムスキー研究指導者
「モスクワ市立教育大学と「エヴリカ」のマギストラトウーラ：『教育政策』」

МГПУ

К.С. «Образование и педагогические науки»

Магистратура МГПУ и Эврики «Образовательная политика»

Адамский Александр,
Научный руководитель
Института проблем образовательной
политики «Эврика»

www.euriskonet.ru

aadamsky@rambler.ru

1

Проблематика (общая)

- Образовательная политика – природа деятельности в России существенно изменилась за последние 30 лет.
- Реформа 1984 г. породила многообразие отношений граждан и системы образования.
- Изменения после 1991 г.: возникла проблематика отношений, как следствие этого - задачи и проблемы, которые «простым управлением» уже не решались.

Проблематика (деятельностьная)

- Постепенно сформировался особый вид деятельности: создание, анализ, экспертиза и проектирование норм разнообразных отношений и норм деятельности в образовании.
- Развивалась образовательная деятельность
- Усложнялись способы ее регламентации
- Усложнялись потребности граждан
- Требовались способы их удовлетворения

www.euriskonet.ru

aadamsky@rambler.ru

3

Проблематика (подготовки)

- С нашей точки зрения оптимальной предметность для подготовки специалистов в области регулирования норм и отношений в сфере развивающегося образования является проект
- Проектная деятельность – оптимальный вид образовательной деятельности для профессиональной подготовки специалистов образовательной политики

www.eurokanet.ru

aadamsky@rambler.ru

4

Гипотеза

- Основным объектом образовательной программы магистратуры «Образовательная политика» является проект магистранта.
- В то же время магистрант погружается в 6 направлений обеспечения проектной деятельности
- По ходу создания и реализации своего проекта, рефлексии и анализа оформления и реализации этого проекта, магистрант с помощью преподавателей, обнаруживает свои дефициты и восполняет их.

www.eurokanet.ru

aadamsky@rambler.ru

5

6 направлений обеспечения проектной деятельности

- Образовательная политика
- Нормативно-правовое направление
- Финансово-экономическое направление
- Содержание образования (включая программы, стандарты и оценку качества)
- Большие данные (электронные цифровые среды)
- Образовательные медиа (отношения с обществом)

www.eurokanet.ru

aadamsky@rambler.ru

6

Технология 4

- Итоговая аттестация – защита описания реализованного проекта
- Структура магистерской работы – 6 направлений 6 слайда
- Магистранты – управленческие команды ТиНАО, одного из округов Москвы, из 10 образовательных комплексов: директора, заместители, ведущие методисты, 40 чел.
- Руководитель магистратуры – ректор МГПУ И.Реморенко (arplause)

www.eunikanet.ru

aadamsky@rambler.ru

10

Технология 2

- Магистрант приступает к реализации своего проекта, в своей образовательной организации, при тьюторской поддержке преподавателей
- Магистрант анализирует и рефлектирует реализацию своего проекта в особых учебных форматах, оформляя знаниевые дефициты
- Преподаватели, используя электронную среду, индивидуальные консультации и групповые занятия, ликвидируют дефициты, формируя у магистранта необходимые по ФГОС компетентности и поддерживая реализацию проекта

www.eunikanet.ru

aadamsky@rambler.ru

8

Технология 3

- Аттестация происходит при защите магистрантом каждого этапа
- По ходу реализации проекта магистрант оформляет обобщенную рефлексию в эссе, статьи для научных журналов, выступает на конференциях (в т.ч. МГПУ и Эврики)
- К итоговой аттестации допускаются магистранты успешно реализовавшие свой проект

www.eunikanet.ru

aadamsky@rambler.ru

9

②モスクワ国立教育大学 Московский педагогический государственный университет (訪問時間：17:00～18:00)

1. 対応者：学長 Семёнов А.Л. 他 2 名
2. 住所：ул. Малая Пироговская, дом 1
3. 連絡先：<http://мпгу.рф>
4. 入手資料：

セミョーノフ学長は、2 年前のマトローソフ学長退任によりモスクワ公開教育研究所長から本学学長に就任した。現在「ロシア連邦における数学教育発展構想」実現のための調整グループ委員を務めている。



大谷：教育改革が、現在どのように行われているのか。また、それに応じて、教員養成の改革がどのように行われているのですか。すでに本日の午前中にモスクワ市立教育大学で、その一端をうかがうことができたのですが。

学長：教師教育に関しては、大きな改革が始められて2年目になる。午前中にモスクワ市立教育大学での新しい取り組みについて聞き及んだことと思う。モスクワ市立教育大学は、モスクワ市のための教員養成をモスクワ市の予算で教育を行っている。ご存じのことと思うが、本学は 142 年前に設立された古い大学で、連邦レベルから予算を受け、国立大学としてロシアの 85 の連邦構成主体のすべての科目の教育の教員養成に対応している。一部の教育大学では、例えば、物理教育をしないことを決めたところもある。さらに、英語の教員を多く養成することをよいと考える教育大学もある。連邦教育省からの要請により、本学ではバカラブリレベルの養成に力点を置いている。もちろん、マギストラレベルの教員養成も変わらず行っている。

近年は、ロシア大統領は学校や大学の教員給与を上げるように努力している。そのおかげで、社会の教員に対する態度が急激的に変わりつつある。昔から教員はよい職業と考えられていたが、恐らくは経済的な理由から、よい職業であっても親は子どもに教員になることを勧めてはいなかった。しかし、最近その状況は急激的に変わりつつある。それに応じて、教師教育の改革を進める必要がでてきたし、また、改革ができるようになってきた。

改革の方向性は、全ての教育大学が、教員養成に対する従来のアカデミックなアプローチから新しい別種のアプローチに移行している。従来のアカデミックなアプローチは、学生に知識を提供するものであったし、学生はそうした知識の大部分を実際には習得できていなかった。また、それを習得したとしても、学生は、実際の教育実践において、それらを応用できてはいなかった。そのため、現在、私たちは、教材を学生の能力に合わせようとしている。他方で、学生が学校の中で実習を経験するようにし、そのことで学ぶ上でのモチベーションを高めていくようにしている。

もう一つの大きな変化は、教育を大きな情報環境ネットワークに埋め込んでいくということである。同席のイワノフ副学長は、IT を教育にどのように応用できるかを担当している。私たちの行っている大学改革は、本学に 10 年間務めたことがあるヴィゴツキーの思想に基づいていると考えている。以上、簡単であるが、教師教育の改革である。何か質問があれば。

大谷：伝統的なアプローチがアカデミック・アプローチと呼ぶとすれば、新しいアプロ

一チは何と呼ぶことができるでしょうか。

学長：2つのことがいえる。ただ、全ての特徴を尽くせるものではないが、一つは、「実践志向」という言い方がある。このパラダイムシフトは、別は言いかたをすれば、第一の（従来の）方法論では教授陣をベースとした専門的知識の指導するもので、その際、優秀で好学的な学生に対する教育の優先度が高く、その他大多数の学生の優先度が低く、教授陣の給与を確保するようなものであった。このシステムは、一番目に教授、二番目に学生が位置づけられれば、三番目には学校が来ており、卒業生は学校集団の中で何とか教師として教科等を教えてくれればよかった。現在は今状況が一変し、一番目には学校が位置づき、私たちは学校が何を欲しているかをつかむことが大切である。二番目には学生が位置づき、私たちは、最も優秀な学生、あるいは半分の学生には、学校に行ってほしいと考えている。学生は、学校が必要な教育学・教科指導法を大学で教えなければならない。最後には教授が来て、教授は、学校が必要としていることに即して、教科内容、教授法、子どもの学び方などを教えていく必要がある。教授陣は、学生の現下の発達と将来の発達とを考慮して、すなわち「最近接発達領域」を考慮して教えなければならない。要するに、新しいアプローチは、教授陣中心的なものから、学校あるいは学生中心的なものへと重点を移すものである。

岩崎：新しい教員養成改革の思想はヴィゴツキーに基づくというお話でした。日本では、早くからヴィゴツキーの著作が翻訳され、私も一部を読みました。その中でも「最近接発達領域」という考えが最もよく知られている。ロシアの現在の教員養成改革は、ヴィゴツキーのどのような思想に基づいているのでしょうか。

学長：（英語で説明してもよいか・・・ロシア語でしましょう。）3つのアイデアが重要だと考える。その前に、ヴィゴツキーの思想は非常に翻訳しづらいと思う。それ故、もっともシンプルが原則に基づいて話したい。もちろん「最近接発達領域」は広く知られており、彼以前からあると言われている。教育あるいは教授は、学習者の現下の能力をはるかに超えても、また、すでに可能な範囲で行っても効果的ではない。従って、教育は、常に、一定の水準の新しさや複雑性において行われなければならない。このことは、数学教育においても当てはまり、「最近接発達領域」の原則に基づいて、私たちは数学教育を考えている。現在、単純な算数のスキルの習熟は児童にとって面白くないし、かつ必要でもない。それゆえ、就学前から大学に至るまで、児童・生徒には、何か新しいタイプの課題を提供しなくてはならない。既に述べたように、教授陣は学生の主な成員がどういう人たちであるかを理解して教えなくてはならない。低いレベルの学生には、チューターなどの支援により教える必要がある。その際、重要なことは、学生のスタート地点でもゴール地点でもなく、彼らがどの程度進歩したかである。本学の学生は、学習しよく上達しているというプロセスがあれば学生として意味があるのであって、上達・改善のプロセスがストップしてしまっているようであれば、その学生はもう大学にいる必要はない（退学してもよい）。ヴィゴツキーの第二の命題は、学習プロセスの社会的文脈である。ピアジェのように、子どもは単なる生物ではなく、どちらかというところ、子どもは大きな社会の中の一つの器官（細胞）のようなものである。私たちが、学生の学修も、彼らの学校での児童・生徒たちの観察も、社会の中の文脈で考えなければならない。第三の命題、これはヴィゴツキーのもう一つの考え、それはITに関連しているものであり、それは、彼が1930年に共産主義アカデミーで講義した内容の短い論文で提示されているもので、「心理的道具（インストルメント）」に関するものである[「心理学における道具的方法」のこと]。この心理的道具は、現在私たちがITツールと呼ばれているものにあたる。この文献については、私は英語で評論を書いている。心理的ツールは、人間の精神を変革する。例えば、子どもがパソコンやワードプロセッサにより文章を作成する際の文章の構造は、それなしでおこなうものとは異なったものになる。同じように、学習の構造も、ITを用いること

により、大きく変わるのである。これらがヴィゴツキーの主要な3つのアイデアである。

大谷：数学教育のお話を伺いたいのですが、2013年12月24日、「ロシア連邦における数学教育発展の構想」が政府決定され、2014年12月7日、その構想を実現するためのコーディネイト委員会が組織されました。セミョーノフ学長は委員をされており、そこでの動きや現在の取組みについてお聞かせ願いたい。

学長：本基本構想が出る前に数学教育の必要性を説く大統領令が出された。私は本基本構想作成の委員会委員を務め、その委員会には何十名もの大学教員や何百名もの教員が関与した。基本構想自体は10頁程度の短いものであり、これは広く教育界全体のレベル向けに作成された。本構想で述べられていることの一つに、ITが数学教育の重要な一分野として位置づけることができるということがある。より正確には、IT技術それ自体よりも、むしろそれをどのように活用するかが大切であるということである。今日、数学教育や資格の面で、社会的な構造は変化している。種々のIT技術に数学が活用されており、多くの技術分野にIT技術が浸透している。新しいIT技術の進歩にともない、新しいIT技術を利用するだけでなく、それを創造するための高い資質が求められている。他方で、数学を大衆化し、生活上必要な数理リテラシーや論理的思考能力を育成する上で数学教育は大切である。

数学教育の基本構想で特に重要とされている点は3つあり、一つはモチベーション、教員（要員）、そして教員内容である。モチベーションは、学校教育だけでなく、広く社会全体や経済的な方向性に求めているかなければならない。現在、ロシアはより高度でハイテクな経済状況にあり、さらにロシアと周囲の世界との関係においても複雑な状況にある。歴史的に見ても、各国の発展は軍事力の必要と結びついている。ロシアは西洋の技術への依存度を解消し、自立する必要がある。先に教師教育においても述べたが、ハイテク分野に関するモチベーションは、社会・経済的状況に応じて変化している。数学は、ハイテク、軍事産業の一部として認識されるようになってきている。二つ目の教員（要員）に関しては、既に教師教育のところで話したとおりです。三つ目の教育内容については、まず、就学前、幼稚園教育において大きな変化があった。この数十年、あるいは百年間に、幼年期における数学的発達に関して大きな進展がなされ、ヨーロッパではハンガリーやロシア等で大きな進展があり、最近では日本で、その後シンガポールや米国で用いられた理論もある。最近では、ドイツでは、数学教育の理論が幼稚園段階に取り込まれた。もちろん、これらは、幼稚園の園児に九九を教えるのではなく、後に数学で使われる論理的なストラテジーのようなものを早期の段階から幼児に発達させようというものである。初等段階に関しては、「数学に向かない児童はいない」ということを強調したい。このことは、1956年のユネスコの会議ですでに明言されたことでもある。初等段階においては、児童をよく観察して、彼らの数学学習にみられるギャップを埋めていかなければならない。そのために、コンピュータを使って、児童の知識をチェックして修正するような課題を利用する。教育内容の他の面では、直感的な教材に取組みながら、次第に論理的思考へと発展するような教材、直感的なものから抽象度の高いものへとつなげていくことを支援するような教材を開発することである。他方で、子どもたちが自主的な活動に取り組み、それを通して自ら数学的な法則を見出していくようなこともまた大切なことである。九九であれば、それを覚えるのではなく、九九の決まりを見出し、自分で九九を生み出すような活動に取組む方がよい。次の、基礎学校や上級学年では、学習が遅れている生徒に対応することと、また一人ひとりの生徒の個人的ニーズに応え、また多教科との接点を見出して生徒の興味を引き出していくことが大切である。なお、数学的活動においてコンピュータがツールとして果たす役割を考慮しなければならない。コンピュータを使わないで簡単な問題に取組むよりも、コンピュータを用いてより複雑な問題に取組むことが大切である。このことは教師教育においても教えていこうとしている。

現在進行中の大きな変化は、教師の職業スタンダードの作成である。大統領令により、

最初に作成された職業スタンダードは、数学とロシア語教師のものである。私はこのスタンダードの開発に関わっている。初等段階の教育スタンダードはヴィゴツキーの思想に基づいており、興味があれば、合わせて翻訳し、日本の方に紹介してはどうか。

副学長：日本の教育制度は大変優れており、大変関心がある。最近の教育制度の改革について教えていただきたい。（岩崎先生による説明）

遠藤：モスクワ国立教育大学は、連邦研究大学になる予定は、

学長：研究大学になる基準は国際的なランキングに基づく、特に国際的学術誌に基づく。われわれの研究活動の大部分は、教育・心理学等である。これらの研究は、国際的学術雑誌に反映されない。物理等の理系分野により論文はあるが、尚、研究大学のレベルに達していない。中国の師範大学では、教員数が多く、なんとか研究大学になることもある。しかし、教育大学としての独自の教育スタンダードやプログラムを開発していこうとしている。本学は、教育大学で最もステータスの高い大学なので、もし教育科学省が教育分野も指標に加えるならば、研究大学になりうる可能性はある。それを期待している。

遠藤：セミョーフ学長は教育大学の学長と科学アカデミー会員という 2 つの世界に関わっておられる。今、科学アカデミーと高等教育改革が同時になされている。現在の改革は、アカデミーと大学のどちらにメリットがあるのでしょうか。アカデミーがより強くなるチャンスなのか、大学はアカデミーを追い越すチャンスが与えられようとしているのでしょうか。

学長：教育分野の改革は、教育の経済的効率を上げるものである。それは、継続的な改変でなく、まったく新しい改変で、効率があがらないものは見直されるものである。このような変化は、個人的には劇的な変化であるが、組織全体としては効率的なものになる。研究分野は、教育分野と比較して研究活動がわかりづらく、評価が難しく、客観性に乏しい。研究分野で大きなシャッフルの中で新しく良くなる可能性がある。軍事関係テクノロジーは、教育と同じように、研究分野においてもよい作用が期待される。ソ連時代のすぐれた研究は、軍事関係が多い。アカデミーであっても、予算は軍事関係からのものである。研究者がアカデミーから大学に移籍することは少ない。今後さらに共同研究や協力を進めていきたいし、機会があれば、日本を訪問したい。また、日本の数学の（入試）問題等があれば比較研究のために入手したい（要望のレターを出したい：未だ届いてはいない）。

<2015年9月8日（火）>

① ③モスクワ市立第 548 番教育センター「ツァリツィノ」 Центр образования №548 «Царицыно»（訪問時間：10:00～12:00）

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1. 対応者：Ефим Рачевский 校長、他 2 名2. 住所：Маршала Захарова, д.8 к.1.3. 連絡先：http://www.mhs548.ru/4. 入手資料：時間割（第 5 学年～11 学年）入手（入手資料 1 参照） |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

本校はモスクワ市立学校約 700 校のうちランキング 16 位の学校である。訪問した「青少年」部（Подростковая школа）は定員 700 名のところ、1000 名が入学。このほかに、附属幼稚園 2 園の他、小学部（Начальная школа）と高等部（Старшая школа）があり、児童生徒数は全体で約 2500 人。青少年部は第 5 学年～第 8 学年（基本的には 7 学年まで）で、



普通の学校の分け方とは違う。

校門を通り、中庭の中心には「？」の大きなモニュメントがある。学校は疑問を追及するところというメッセージ。「無名戦士の墓」に例えて「無名教師の墓」と笑っているようだ。

校舎全体が美術クラブのように生徒の作品が廊下の壁などに飾られている。

第5学年～第8学年（基本的には7学年まで）、この年齢段階の子どもたちは行動的。何かを作り出す作業をさせている。科学とは何かをつくりだすこと。

校長は自信たっぷりの男性。歴史、労働、地理、文学の教師をしたのち、校長になった。開口一番、現在進んでいる改革は、20年前に我々が行った改革であり、我々にとっては目新しいことではないと言って放つ。改革のポイントは下記と説明した。

★学校規模を大きくする改革。

経済的側面から有効であるし、教育的側面から多様な可能性を与える点で優れている。この学校では1992-93年に幼稚園から上級学校までの複合施設を創った。幼稚園—初等学校—パドローストコエ（5-8学年、10から13歳）—上級学校。環境は子供の年齢に適している必要がある。校舎は別々。近年、この複合施設・モデルは都市を中心に普及している。この改革は我々にとっては改革ではなく、慣れ親しんだものである。

★コース別教育プロフィールは教育・・・これも25年前から開始している。

★選択制・外部評価。2004年にこのシステムを作った。だからこの学校では国家統一試験導入の際、慣れていたので、やりやすかった。

★就学前段階が、2年前から新教育法により学校段階の一つになったが、2001年に既にそれを行っているのだから、目新しいものではない。

今後しばらくは改革はないと思う。親も教師も改革は嫌だと言っている。議員たちが改革を望んでいる。警察や軍隊の改革はこわいので、教育の改革をするのだ。選挙との関係でしばらくは改革はないだろう。

子どもにとってイニシエーションは重要。一つの段階から次の段階へ。環境から学ぶ。複合施設。5-8学年の子どもにとって、サイエンスとは実際に作ってみること。マスターのもとで。上級段階に行くと、いろいろな情報にアクセスしやすい環境を作ることが必要であり、①共通スタンダード、②子供たちの活動が妨げられない環境をつくること、が重要である。

教員の採用について

自分たちで探す。モスクワでは2年前から教員給与がアップし競争的環境ができています。給与の学校間格差は±15パーセント。空きがわかると、ホームページに公募掲載する。現在今2016年開校の新しい学校を作っているのだから、来週の月曜日に公募する。採用試験を行うことができないので、例えば3人の教師を採用する場合、6名を選んで、半年ぐらい様子を見て3名に絞る。校長はヘッドハンティング。新卒にはメンターをつける。

モスクワ市立教育大学では10年前に1年間のスタジローフカを導入したが、ボローニャプロセス導入の関係で、廃止された。

セミョーノフ学長（改革派）のモスクワ国立教育大学では、1年生から学校へ派遣してくる。

教師の資格は、カテゴリー（1級、2級、上級）のみ残っている。

教師の評価は、モスクワ市の上位 700 校中の 100 校では、各学校の資格審査委員会が行う権限をもっている。評価基準は①子どもとのコミュニケーション力、②教科について、③教師自身の学ぶ力、教材開発能力である。上位 100 校においては、市が行う 5 年に一度の資格向上（102 時間）の研修とは関係なく、教師の評価は学校が行う。あとの 600 校は市が行い、市が決める。

★ロシアの学校の弱点は、行政がすべてコントロールしようとする点にある。だから、2010 年の構想で、結果を出している学校（上位 100 校）には自由を与えることとした。

モスクワ市のランキングの基準

市の委員会で毎年、11-12 月頃に公表される。昨年度の例

1) 9、11 年生の国家統一試験の結果。満点をとった数。一人で 100 点満点を 3 つ獲得したら、3 と計算。ロシア語・数学あとは選択で 4 ないし 5 科目受験する。

2) 全国レベルの学力オリンピックの入賞者（1-3 位）の数。市レベル、地区レベル

3) 4、7 年生に対してモスクワ市が実施するモニタリングの結果。中等教育への準備度を調査。プロフィール前と後の準備度の調査。

4) 付属の幼稚園に対する子どもの数。多いほど良い。

このほか、多様性の観点も評価基準に含めている。（月曜日、レモレンコが指摘していた）しかし実際には浸透していない。バリアフリーの校舎があっても実際には子供は在籍していない場合が多い。特別ニーズをもつ子供一人に、27 万ルーブリ配分される。

学校への予算配分

2010 年から新しい法律（350 頁もある膨大なもの）第 83 番、どの地域でも生徒一人当たり同じ予算がつくことになった。1 年生は 7 万ルーブリ、10 年生は 12 万 3000 ルーブリ。

教員給与

2012 年プーチン大統領令：教員給与は当該地方の平均給与を下回ってはいけない。従来から平均給与が低い地方はすぐに達成できるが、モスクワは高い。モスクワは 6 万 5000、カールガは 3 万ルーブリ。外国語、歴史、ロシア語の教師はすぐに集まるが、物理などは難しい。

教育実習：大学が学校と直接連絡をとって決め、教育委員会に関わらない。

子供の点数が良い、親から文句がでていない、事故・事件がない、こういった学校には教育委員会はかかわらない。

校外学習：大体、通学している学校で 10 時間受けている。外部の機関にお金を渡す必要がある場合はあるが、明確な規定がない。

<宗教文化と世俗倫理の基礎>モジュールは親の集会所が決める。6 モジュールをすべて教えられるように準備ができています。50%ほどが「世界宗教文化」、3 分の 1 が「ロシア正教」、約 10%が「世俗倫理」を学んでいる。聖職者ではなく、普通の先生が教えていることが重要であるという。



④モスクワ市第 2065 番学校 Школа №2065 (訪問時間：15:00-17:00)

1. 対応者：Файдюк Наталия Станиславовна 校長
2. 住所：г. Москва, г. Московский, ул. Радужная, д.5
3. 連絡先：<http://sch2065tn.mskobr.ru/>
4. 入手資料：なし

2065 番学校は、数年前からモスクワ市で進められている統廃合による学校の大規模化の一つの象徴にもなっており、周辺の 13 つの初等中等学校と 5 つの幼稚園を統合したものである。全体の児童生徒数は、モスクワ市で一番多い約 1 万人という。設立は 2011 年。この学校は、2012 年にモスクワ州からモスクワ市に編入されたモスコフスキー市 (город Московский) にあり、学校の校舎や周辺の建物は数年前に建てられたものが多い。モスコフスキー市はノヴォモスコフスキー行政区に入っているが、ノヴォモスコフスキー行政区と一緒にモスクワに編入されたトロイツキー行政区との行政組織が一体化されており、トロイツキー・ノヴォモスコフスキー行政区 (Троицкий и Новомосковский административные округа: ТиНАО) と称されている。また、「新しいモスクワ Новая Москва」という通称もある。ТиНАО の面積は、編入された部分を除くモスクワ市の従来の面積の約 1.4 倍にも及ぶ一方、人口は約 50 万人に過ぎない。しかし、この学校の周辺の地区のような新しい住宅地の建設とともに人口も急激に増えつつある。

この学校は、40 人ほどの ТиНАО の教育者 (各学校の校長・副校長や教育行政の代表者等) が集まって、岩崎先生と大谷先生の日本の教育制度に関する講義を聞いた。その後、質疑応答の時間が設けられた。集まってくれた教育者の多くは、教育政策研究所「エヴリカ」のアダムクスキー研究指導者がモスクワ市立教育大学で作ったマスターコース「教育政策」の院生でもあった。学校自体の見学はほとんどできなかったが、校長先生と少しだけお話しすることができた。また、日本語を少し勉強したことのある女子生徒が 1 人いた。



<2015年9月9日(水)>

⑤第215番幼稚園 Детский сад №215 (訪問時間: 9:00~12:00)

1. 対応者: ①Луговкина Татьяна Васильевна (園長)
②Жанна Петровна Сугак* (ロシア国立人文大学ヴィゴツキー記念心理イ
ンストゥート教員) ※ヴィゴツキーの孫娘が所長
③「黄金の鍵」グループ担当教諭
④その他
2. 住所: Адрес: г. Москва, ул. Лобачевского, 58
3. 連絡先: +7 (495) 432-59-78, goucr215@yandex.ru
4. 入手資料: Child's Development Centre-Kindergarten №215



1. 幼稚園の概要

1963年創立。2008年に新校舎となる。園長は1984年に赴任し、1986年から園長として活動している。

当幼稚園は、324番学校のコンプレックスの一つとしてあり、このコンプレックスの中に当幼稚園を含めて5つの幼稚園がある。きわめて施設・設備の整った幼稚園で、モスクワ市にはこうした幼稚園が10ある。

園児数は317人。幼稚園は、朝7時から夕方7時まで開園しており、普通は夕方5時まで。夕方5時以降は有料サービス。補充教育を受けなければ、居残りが許されている。

「総合プログラム」に基づいて教育されている園児が10グループ、「黄金の鍵プログラ

ム」に基づいて教育されている園児が2グループの合計12グループある。その他、1.5歳～3歳児を対象とした、1日3時間保育のグループが2グループある。親が「総合プログラム」（普通のプログラム）か「黄金の鍵プログラム」（ヴィゴツキーの理論に基づく発達促進プログラム）かを選ぶ。

「総合プログラム」は、ポピュラーなプログラムの一つで、行政はこのプログラムを推奨している。これらは、連邦発展研究所のホーム・ページにすべて掲載されている。「黄金の鍵プログラム」は、YYDの形成をめざしているが、園児段階では、4つのYYDの中でも「人格に係わる普遍的学習行為」が最重要となった。

教員は園長を含めて45人。保育士22人、若い保育士（ニャーニャ）11人、音楽担当3人、補充教育担当1人、心理士1人、言語矯正士2人、体育担当1人、水泳担当1人、技術担当1人、学術指導（メトジスト）1人。各グループは、2人の保育士と1人のニャーニャで担当するが、学生や母親の補助がつく場合もある。

2. 「黄金の鍵プログラム」について

幼稚園は複数のプログラムを選ぶことができるが、園長は資格向上課程でこのプログラムのことを知り、採用した。公立幼稚園では、モスクワ市で8つのグループ、この地区で2つのグループが利用している。

「黄金の鍵プログラム」は、80年代後半から90年代の初めにかけて開発された。プログラムの特徴は、最近接発達領域に基づいて、家庭と幼稚園と異年齢の子どものコミュニケーションを重視し、異年齢構成としている。同じ事柄を違った側面からみることのできる能力を養う社会的構成主義に基づいている。豊かな環境を保障し、幼稚園・家庭・大人・子どもの人間関係と環境との相互作用的の中で育てることを重視している。

〈参考：黄金の鍵〉

ゲ・ゲ・クラヴツォーフの指導の下に、プログラムの著者集団によって開発された。このプログラムは、ヴィゴツキーの情動・意志及び認識の理論とエリコーニンの年齢時代区分に基づいて作成されている。プログラムの基本的目的は、子どもの年齢に応じた発達を情動的な豊かさを保障する環境との有機的統一の中で促進することにある。この統一は、幼稚園を家庭と同化させ、異年齢の子どものグループを組織することにより図られる。教育内容は、空間認識の発達、時間認識の発達、材料を用いた活動能力の獲得、内省（自分の活動を分析する能力）の4つの分野で編成される。

3. 教員の採用・養成について

教員の採用は、普通は就学前教育学部の学生が採用されるが、この幼稚園の方法を学べば誰でも採用したい。採用に当たっては、書類審査と面接を行う。2ヶ月間は試行採用期間である。

教育実習生は、モスクワ国立教育大学、モスクワ市立教育大学及び心理・教育学部から、10月から5月にかけて最大50人がやってくる。この他に、2～4週間の観察実習もある。実習生の受け入れは、各大学と幼稚園との直接契約であり、毎年大学と契約を取り交わす。

4. 各部屋（グループ）見学

○黄金の鍵グループ：2～6歳児の異年齢グループ。普通は20人だが、今日は天気が悪くてダーチャから戻っていないので、8人と少ない。熊さん（写真）は、ロシア国立人文大学ヴィゴツキー記念心理インストゥートの卒業生。担当は、熊さんを含む先生2人、モスクワ人文大学の院生1人、お母さんとPTAの女性1人の5人。お母さんは、子どもが入園して2日目幼稚園や友達と慣れないので、子どもと一緒にやってきて世話をしている

る。

○寝室：ベッド 20 床、週 3 回の音楽の授業、別室で言語矯正体操をしていた。○センサー室：子ども達が毎月カレンダーをつくる。まだ、未完成。○ロッカー室。

○特別クラス：3 歳～6 歳児のグループ。13 人。○普通クラス：5～6 歳児、23 人。

○体操の部屋：11 人の子ども。リトミックの部屋。○就学準備グループ：6 歳児、21 人。

○ロゴピエトの部屋：先生 2 人、入園して最初の 2 週間は診断期間となっており、その後クラスに入る。言語矯正のキャビネット見学。

○図書館：ソ連時代からの文献・資料を含め、かなり充実していた。

○補充教育の専門員：音楽の担当と兼ねている。音楽担当は 3 人いる。○プールの見学。

○補充教育の部屋：補充教育は 3 時～5 時まで。○保健室：常勤の小児科医 2 人体制。

○レゴの部屋：補充教育でも使用。

⑥「自己決定」学校附属第 869 番幼稚園 Детский сад №869 при «Школе самоопределения» (訪問時間：14:00～17:00)

1. 対応者：園長を始め、7～8 人の教員
2. 住所：г. Москва, 15 Парковая, 24a
3. 連絡先：www.art-centr.khabonline.com
4. 入手資料：入手資料 2 参照



1. 幼稚園の概要

幼稚園と学校のコンプレックスで、創立 40 周年を迎えた。「自己決定」の考えに基づく教育を始めたのは、90 年代（25 年前）からである。当該幼稚園は普通の幼稚園ではなく、オールタナティブな幼稚園で、3 歳～5・6 歳までの子どもを収容している。開園時間は、朝 7 時～夕方 7 時まで、子ども達は普通は朝 8 時に登園する。

0 歳～3 歳までの子どもは受け入れていない。その理由は、モスクワ市では、3 歳以上の待機児童 0 政策が採られているからである。短時受け入れの可能性はあるが、現在はやっていない（先に訪問した第 215 番幼稚園の 1.5 歳～3 歳児を対象とする 1 日 3 時間保育のグループのことか）。ヤースリは現在はない。臨時休暇（育休）が 3 歳まで保障されており、1 歳半になってから月 50 ルーブルの手当がある。

園児数は 200 人弱で、8 グループあり、そのうち 5 グループは 3 歳～6 歳の異年齢グループで、最初の 1 年間だけ同年齢のグループで編成する。1 グループは 3 歳から段階的にあがっていくグループ、2 グループは 6 歳児の就学準備グループである。各グループには、2 人の保育士(воспитатель) と 1 人の「若い保育士」(младший воспитатель、ニャーニャ)がつく。かつてのニャーニャを若い保育士と呼ぶのは、そうすることで給料を上げることができるからだ。

教員は、保育士 16 人、若い保育士 8 人、体育担当 1 人、音楽担当 3 人、ロゴピエト 1 人、補充教育担当 4 人（水関係 1 人、数ゲーム 1 人、芸術 1 人、木関係 1 人）である。その他、演劇担当 1 人（無給）、社会教育士（ボランティア、無給）が働いている。

若い園長は、教育大学を卒業し、2002 年から働いている。前の校長に資格向上課程に行くように勧められて、園長にはその校長が推薦してくれた。幼稚園は独立した幼稚園ではなく、コンプレックスの一つになっていた。

2. 幼稚園の特徴

この幼稚園の目的は、「子どもにとって学びやすい環境をつくること」である。そのため、①自由な遊びの環境をつくること、②戸外で散歩するときの方法が従来とは異なっている。この園の特徴について、各先生から一言ずつ、何が特徴であるかの発言があった。

・先生と園児との関係では、先生が一步下がる。何よりも園児の自主性や自己決定を重んじる。

・先生達も決められたプログラムではなく、自分たちでプログラムをつくる。自己決定プログラムである。

・体育館の他に、特別なスポーツ・コンプレックスが各クラスにある。

・自然な環境を再現しようとしている。

・環境を重視するに当たって、二つの原則がある。一つは家族と同様な空間を作ること、二つ目は戸外で昔の路地裏のような空間を作ることである。

・三つ目の原則もある。昔から行っていることであるが、自然を重視し、自然のカレンダーをつくる。

・私は家族と同じ空間をつくるということには反対だ。そもそも幼稚園は家族にはなれないからである。

・なぜ家族かというと、幼稚園は家族そのものにはなれないとしても、親が幼稚園に係わる程度が極めて大きいし、親が様々な行事に参加する。毎週金曜日には、親が子ども達のためにいろんなことをする。園に家族を引き入れることと、園全体が家族のような関係になることは良いことだと思う。

・家族といっても、幼稚園は教育機関なので、守るべきルールがある。その点では家族とは異なるが、家族のような環境が子どもにとって大切であると思う（園長）

3. 自己決定プログラムについて

ここでは子どもと先生の自己決定を重視している。従って、プログラムも自分たちで作成している。Авторская Программа である。しかし、新しい国家教育スタンダードができ

たので、それに合わせるために現在改造中である。

1～2年前にスタンダードが出されたときに、その作成者達の考え方は私たち自己決定の考え方と同じ人たちが入っていた。新スタンダードは本当に画期的なもので、以前は権威主義的な考え方があったが、現在は子ども中心の考え方になっている。

しかし、大きな問題は、全ての法的な決定や文書がこのスタンダードに合っているわけではないことである。まだ合致していない古い規定が残されている。例えば、「こんな遊びはしてはいけない」という規定があるが、スタンダードでは「してよい」となっている。また、スタンダードでは「子どもの遊びは最優先される」となっているのに、就学準備組ではそれができなかつたりする。スタンダードでは、「どれだけ上達したか」が評価されるのに、体育ではノルマが定められていて、モニタリングでノルマをチェックされるという具合だ。

4. 保育料及び補充教育について

保育料は基本料金として、月 2,000 ルーブル徴収する。これは幼稚園の収入となり、予算外資金として、教員の給料としても支払うことができる。子どもの多い家庭は別規定となっており、貧困家庭からは取らない。

Воспитатель は、法律で給料が定められているが、Специалист（専門家）にはそうした法規定がないので、年金受給者（退職者）やボランティアなどに、専門家として、無償で協力してもらっている。

補充教育については、本心をいえば少し徴収したいのだが、創立時の校長の方針で「取らない」とされており、これを守っている。

<2015年9月10日（木）>

⑦連邦教育発展研究所 Федеральный институт развития образования（訪問時間 11:00～13:00）

- | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 対応者：</p> <p>① А.Г.Асмолов 所長</p> <p>② С.В.Монахов 副所長、「ロシア連邦における数学教育発展構想」実現のための調整グループ委員、同ワーキンググループ委員長（заместитель директора по развитию ФГАУ «ФИРО», член координационной группы Минобрнауки России по реализации Концепции развития математического образования в Российской Федерации (руководитель рабочей группы)</p> <p>③ С.В.Панферов 連邦教育発展研究所・革新ネットワークと教育イノベーションセンター主任研究員（ведущий научный сотрудник Центра инновационных сетей и образовательных инициатив ФГАУ «ФИРО» (ответственный секретарь рабочей группы)</p> <p>2. 住所：125319, г. Москва, ул. Черняховского, д.9, стр.1</p> <p>3. 連絡先：Tel: +7 (499) 152-73-41, E-mail : asmolov.a@filo.ru</p> <p>4. 入手資料：</p> <p>① Федеральный Институт Развития Образования, Педагогика достоинства: идеология дошкольного и дополнительного образования, Москва, 2014.</p> <p>② Федеральный Институт Развития Образования, Рождение персонального образования: от концепции развития дополнительного образования детей - к воплощению в жизнь, 2015.</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



[就学前教育の国家教育スタンダードについて]

一昨年に出された就学前教育の国家教育スタンダードは、初等・基礎・中等の国家教育スタンダードと同様に、ヴィゴツキーの文化・歴史的アプローチの考え方に立っているという点では共通しているが、学校段階では、評価やコントロールが厳しくなるのに対して、就学前教育の場合はより「発達」という点を重視してつくられている点が異なっている。子ども時代の多様性をサポートするというのが就学前教育段階の国家教育スタンダードの基本的考えである。次に重要な思想は、子ども時代そのものの価値を充分認識するということである。今までは、就学前段階は学校への準備として考えていたが、現在はそうではなく、学校が子どものために準備するというふうに変換している。もちろん、読・書・算を無くすわけではないが、学ぶに当たっての動機づけが重要であり、動機づけの発展をはかることが第一である。読・書・算は重要であるが、「人間になる」という課題こそが重要である。

自由なスタンダードの作成に大きな貢献をしたのが、エヴリカ教育研究所であり、アレクサンドル・アダムスキーは私の友人である。これは極めて革新的なスタンダードであり、ロシアの革新的教育のネットワークとつながっている。

学校段階では教科的なものが次第に強化されていくが、就学前段階と補充教育では、4つの UUD のうち、人格に係わる UUD とメタ教科的なものが重要である。就学前段階では、UUD の概念を少し作りかえて、UPD(Универсальные Познавательные Действия)にした。UUD の基本的概念は、如何に学ぶかを学ぶことである。

[補充教育に関して]

昨年、「子どもの補充教育の基本構想」が出された。これは、これまでの補充教育の価値を大きく変えるものである。補充教育の主要課題は二つあり、①個人の様々な関心を伸ばすこと、②未知な状況にいかに対応するかということである。未定のリスクのある不安定な状況の中でどのような行為をするかである。課題解決の核となるのは、子ども自身がやりたいことをやるということであり、子ども自身の選択である。

今議論されていることは、「補充教育」の個別対応についてである。補充教育という用語に関して、この用語よりも「パーソナルな教育」(Персональное образование)の方がよいと考えている。

私たちの予測では、7～10 年後にはフォーマル教育と補充教育が入り交じった状況になるとみている。これは就学前教育と補充教育に関することであるが。

補充教育のプログラムに関していえば、学校段階のものより、補充教育の方がより強くヴィゴツキーの考えに基づいていると言える。もちろん、ヴィゴツキーだけではないが、極めて基本的な部分を占めている。

「補充教育の基本構想」に基づいて実践している機関として①「テクノラーマ」というセンター(モスクワからは遠い)がある。また、この研究所の一つの施設で実践している

補充教育機関があり、「氷河期」というプログラム作成し、使っている。③モスクワ市にある有名な総合技術博物館 Политехнический Музей)で「マスチュールスキエ・ナウキ」というリハチョフ校長が行っているものがある。④この研究所が係わってつくられたものとして、モスクワ郊外にあるマーラヤ・アカデーミヤがある。

〈参考：УУД〉

- ・学ぶ能力
- ・新しい社会的経験の意識的獲得への主体の能力
- ・新しい知識の自主的獲得とこの過程の組織を含む技能の形成を保障する行為の方法

<数学教育関係>

大谷：学校教育についてお話を伺いたい。2013年12月に、「ロシア連邦における数学教育発展の構想」が政府決定され、2014年12月7日、その構想を実現するためのコーディネート委員会並びにワーキンググループが組織されました。モナホフ氏はコーディネート委員会委員及びワーキンググループ委員長を、パンフォーロフ氏はワーキンググループ委員をされており、現在の具体的な動きについてお聞かせ願いたい。

所長：2年前に構想が大統領レベルで承認された。その意味で、数学教育改革がどれほど重要であるかが分かる。その後、実施計画が作成され、その計画は数学教育のスタンダードにかかわる。この件に関しては、モナホフ博士とパンフォーロフ所員にお話いただくのがよい。

モナホフ：所長が言われたように2012年に構想が政府により決定された。6ページ程度の短いものである。これは、数学教育改革の展望（パースペクティブ）が定められたことになる。この構想では、学校における数学から、現代社会で生きていく上での数学という視点が提示されている。それは、ロシアに限らず全ての国の数学教育にもあてはまるものである。構想には3つの内容が含まれており、それらは、モチベーション、教員（要員）、そして教育内容である。教育科学省内に調整（コーディネートグループ）ができ、その委員長は連邦教育大臣で、これは基本構想を実施する上での種々の調整を行うグループである。基本的には2020年までの実施計画があり、そのもとで毎年の実施計画が定められる。現在、2016年の計画をまとめている。教育大臣は、基本構想実施のコーディネートを本研究所に委託した。私は数学者ではないが、所長からその責任者を任された。しかし、あまり驚きはしなかった。誰かの言葉であるが「戦争は將軍だけが責任を取れる以上の大きな事である」と。だから、数学も同じように数学者だけに責任をとらせるのは大きすぎと。大谷が述べたワーキンググループは、本研究所内のグループである。本研究所のワーキンググループは、各地方でどのような活動がなされているのかをモニタリングしている。コーディネートの実際の内容は、こうしたモニタリングが主なものである。ロシアは上からの改革が下部組織に展開されるというシステムを取っているので、政府によって数学教育の発展構想が地方で実現される実態を評価している。アスモーロフ所長が言われたように、地方では数学の大衆化を行っており、本研究所はそのマネジメントを行っている。

内容に関しては2点のことを行っている。一つは、生徒の学習のモチベーションを高めるための内容開発であり、もう一つは、ソ連時代からの伝統であるが英才児の教育の支援である。この基本構想において優れていると思う点は、主な方向性を示している点であり、基本的方向性を示し、連邦や地方レベルに何をすべきかを細かく定めていない点である。私は、数学者ではないので、今度は数学者からの話をしてもらおうのがよい。

パンフォーロフ：私たちは基本構想の作成に直接的に関わったのだが、もっとも根本的な考えは、すべての子どもが数学的能力を有しているということである。アスモーロフ所

長とモナホフ氏が述べたように、子どものモチベーションを高めることが重要である。そのために、新しいタイプの様々な知的なコンクールが実施されており、また、学校教育制度の中でもプロジェクト研究が組み込まれている。ロシアでは、国際的なコンクールとして、「数学的プロジェクト」というものがあり、9年前から実施されており、様々な分野があり、数理科学の諸分野（代数、幾何、解析等）、数学の歴史、経済数学（2年前から追加）などの分野がある。このコンクールには5年生から参加が可能である。旧ソ連の共和国、東欧諸国（ポーランド、ルーマニア、ハンガリー）、フィンランド（数学教育の重点を置いている）が参加している。今年10年目になるので、日本で正式に参加していただければ招待状をお送りしたい。2011年に、スチュエクロフ名称数学研究所では、数学の大衆化のための研究室が設置された。ここには、その研究室で開発された教材や書籍を差し上げたい。これらを教師や生徒に提供している。追って、この研究室のホームページのアドレスを紹介する。

大谷：教育発展研究所のホームページを拝見すると、各連邦・地域で開催される会議等の情報が多数掲載されていることは知っています。他方で、今お話を伺ったような具体的な種類の情報は、本研究所のホームページに掲載されているのでしょうか。

パンフォーロフ：本研究所のホームページには、数学教育に関するすべてのイベント、セミナーの情報を載せています。ロシアでどのようなことがあるかをフォローしています。

大谷：モナホフ先生がおっしゃるような各年の報告も本研究所のホームページに掲載されているのでしょうか。

モナホフ：2016年のものは12月か1月にでき、本研究所のホームページに掲載されると思う。数学教育に関する従来からのイベントやセミナーの他に、新しいものとしては、新しく、ソチ・オリンピックの施設を使ったイベントを実施することが大統領の提案である。

大谷：今回の訪問で、数学教育の改革が、学校数学のみならず、補充教育も含めたすべての分野を含む、包括的で総合的で大規模な改革であることがわかりました。ありがとうございました。

モナホフ：これはまさにコンプレックスなのです。

⑧高等経済大学教育研究所 НИУ «Высшая школа экономики», Институт образования (訪問時間：15:00～17:00)

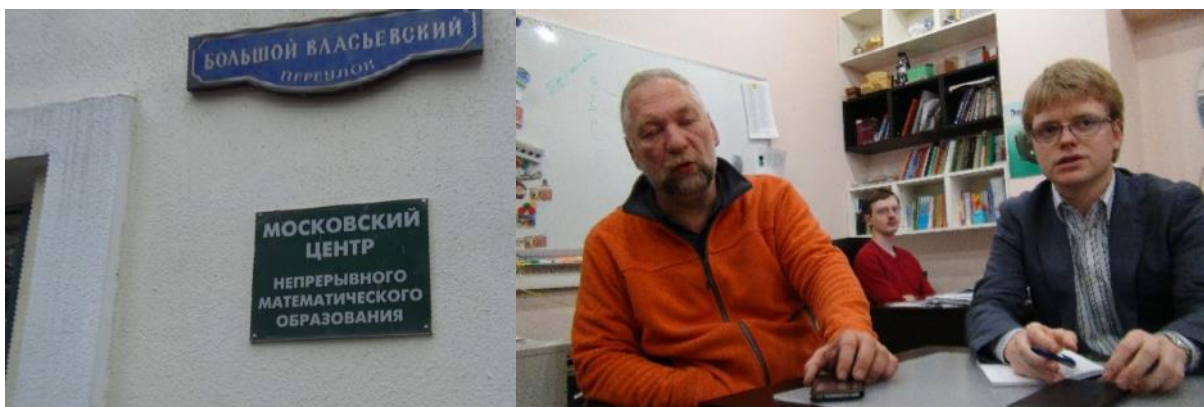
1. 対応者：Дарья Миляева International Operations Manager
2. 住所：г. Москва, Потаповский переулок, д. 16, стр. 10
3. 連絡先：<https://ioe.hse.ru/>
4. 入手資料：

高等経済大学 Высшая школа экономики の教育研究所は教育発展研究所、教育内容研究所等の5つの学内組織を合併して2012年8月に設立された。本研究所のИсак Фрумин 研究指導者は海外出張で参加できなかったが、国際関係マネージャー（兼大学院生）のダリヤさんの他、「教育の文化社会学・人類学センター Центр культурсоциологии и антропологии образования」、「教育の質モニタリングセンター Центр мониторинга качества образования」、「学校の社会経済的発展センター Центр социально-экономического развития школы」の若手の女性研究員3名が対応し、各センターが実施している主な研究領域について説明してくれた。教師教育改革の話はほとんど聞けなかった。

⑨継続数学教育モスクワセンターМосковский центр непрерывного математического образования (訪問時間：17:00～18:00)

1. 対応者：Высоцкий И. Р. 確率論研究室室長
2. 住所：Большой Власьевский пер. Д. 11
3. 連絡先：<http://www.mcsme.ru/>
4. 入手資料：

当初は「教育熟達センター」所長のЯщенко И. В. (директор государственного бюджетного образовательного учреждения города Москвы «Центр педагогического мастерства»)との面談を予定していたが、都合が悪く、知人のイワン・ヴィソツキーと面談を行った。訪問場所は、「数学生涯教育モスクワセンター」(Московский центр непрерывного математического (Центр педагогического мастерства) という4階建ての建物で、Ященко氏もこの4階に研究室があるとのことであった。このような数学に特化したセンターが存在することに驚いた。他の教科でこうした類似のセンターは知らない(なんらかの形態



であるかも知れない)。

本センターは、行政の管轄を受けない「独立」組織で、様々な活動を行っている。例えば、大学で数学を専攻し数学教師を目指す学生に対する(無償の)数学教育の補充授業、エンジニアから数学教師に転職した者に対する数学と数学教育の授業、さらに、いくつかの連邦構成主体の数学教師の現職研修、そして米国の大学卒業生向け(有償の)短期の数学の講義、地方レベルの数学オリンピックの組織、『クヴァンチク(Квантик)』という初等・基礎学校向け雑誌の編集(上級学年向けには有名な『クヴァント(Квант)』誌がある)など、本センターは、実に多様な機能をはたしている。本センターには、正確ではないが、(常勤・非常勤も含めて)20名ほどの数学者が働いている。

1階の施設説明。掲示板：学生向けの補充授業時間割(私たちが訪問した際に、この建物からは大学の学生が課業を終え、帰路につく様子を見ることができた。)、米国学生研修(Math in Moscow：2-3カ月のコースで、15-20名の米国の大学卒業生が現代数学の基礎を学ぶ)。購買部では、児童・生徒向けの啓蒙書、学力オリンピック問題集、外国書籍の翻訳書、さらには現職教員・大学院生・研究者向けの専門書まで実に豊富で、ロシア連邦の中で最も豊かな出版物が整っている(書店ではテスト対策の参考書や問題集が多いので、確かにそうかもしれないと思った)。この施設には、これらの書籍の一部の書籍・雑誌の出版部や編集部がある(『クヴァンチク』編集局は4名で運営している)。

数学教育に対するニーズは極めて高く、学生に対する無償教育は、米国学生の短期研修、附属書籍購買部(数学・自然科学教育関係の出版物)の売り上げ、学力オリンピックの組織、生徒のサークルによる内部収益で賄える(自分の航空会社を持っていてもよい(冗談))。

2階の施設説明。ヴィソツキー氏の研究室は建物2階の2室を使用している。彼らの主な



る業務は、国家統一試験の問題作成と、モスクワ市の学力評価（コントロール）問題の作成である。特に、確率に関する問題の作成をしている。同じ階に図書館がある。2階には、アカデミー会員のアーノルド等がここで毎年7月に「現代数学」の講義を行っており、当時（2001年）のコースの時間・概要の掲示を記念として残している。

上の写真は、このセンターがロシアで組織している地区レベルの数学オリンピックの実施地点である（「戦略的利害地図」と言っていた）。左の白い紙は外国（ヨーロッパ、中国、タイなどである）。北極海の島やカムチャツカ半島でも実施している（画鋏の色の違いは何か分からなかった）。2階は、オリンピック組織、学校の数学クラブの組織をしている。3階は教室で、学生や教員が学ぶ。4階は種々のアドミニストレーションのオフィス、会議室、ポンスレー名称研究室がある。

私は、他の大学やセンターと協力してモスクワ及び全ロシアの数学教員養成や資格向上の研修をコーディネートしている。実施は、本センターでなく、他の地区の学校等に赴いて実施する。今秋には10回の出張がある。すべての地方にも教員の研修所があり、そのセンターで数学教員の研修をしている。その際、「熟練教員センター（**Центр педагогического мастерства**）」と密接な連携をしている。私たちはそのセンターの職員でもある。モスクワ市立「熟練教員センター」は他所（地下鉄フルンゼンツカヤ駅近く）にもあるが、「数学生涯教育センター」はその連携機関で、私の研究室も「熟練教員センター」の一部署である。関係を説明するのは容易ではないが、「数学生涯教育センター」は国立でも公立でも私立でもない「学術独立機関」であり、ヤーシェンコがセンター長で、オフィスは4階にある。

研究室にて面談

ヴィソツキー：ロシアの教員養成は、日本、米国、ドイツ等と異なっている。以前より、教員養成を行っている目的養成機関である「教育大学」と呼ばれる機関がある。最近、総合大学でも教員養成のコースを設置するようになった。例えば、モスクワ大学では、数学を学ぶ学生が、4・5年生で希望すれば教員養成のコース（教育学の基礎、発達心理学、教科指導法等）を受講できる。教育実習が組織されることもある。教育大学では、こうした教育に関するコースが多数あり、教育実習も総合大学よりも充実している。教育大学での養成は4年から5年かけて行われる。主には4年間である。

大谷：それはボローニャプロセスとのかかわりですか。

ヴィソツキー：いえ、そうでなく、ボローニャプロセスというより、モスクワやペテルブルグなど都市部以外の教育大学には、ソ連時代、4年制のものも少なからずあった。モスクワでは、「心理教育大学」という小規模の教員養成大学もあるが、数学の教員養成をしている教育大学は2つ（モスクワ教育国立大学とモスクワ市立教育大学）である（以前は、クループスカヤ名称の通信制の教育大学もあったが）。最近、教員養成の状況は変化した。学校には、教育プロフィールでない教員、様々な工業生産関係の研究所からの教員

が働いている。ロシア政府は、2007年か2008年頃、現在学校で教えている教育学のプロフィールを経験していない教員に研修を受けることを義務付けた。この研修は段階的に導入されていたが、今年から条件が厳しくなった。学校にエンジニア（技師）が学校で教員として働く場合、昨年までは就労しつつ研修を受ければよかったが、今年からまず研修を終了してからでないと就職できなくなった。本センターには、こいしたエンジニア（技師）出身の者のたくさんいる。彼らは2つのタイプがある。一つは、自らの意志で教員を志望する者でこうした人々は優秀な人が多い。もう一つは、給与は安いものの、安定している職種という理由で学校の教員の職を選んだ者である。私たちの仕事は、こうしたエンジニア出身の人々のための研修であり、大抵は、夜間のコースで2年位かかる。エンジニア出身の人々には、残念ながら、教育学の分野だけでなく、数学の基本的知識が乏しいため、数学それ自体の内容についても研修もしなくてはならない。

何れにせよ、学校のすべての教員は、アテスターツイヤを受けるためには、資格向上のコースを受けなくてはならない。私たちの仕事は、教員にこうした研修を実施し、修了証書を与えることである。これがその証書であるが、そこには時間数が書かれている。



5年間で144から256時間を履修する（それは学校や地方によって異なる）。こうした研修は、遠く離れた連邦構成主体では実施しにくい。サハ・ヤクーツイヤが最もよい例かもしれないが、共和国との協定があり、ここで2つのコースを実施している。サハ・ヤクーツイヤは最も大きい連邦構成主体であり、時間帯は2時間で面積は中国と同じほどであるが人口は90万人しかいない。サハ・ヤクーツイヤには教員資格向上研修所にはたいへん熱心な人がおり、我々と連携している。各構成共和国は、独自の資格向上プログラムを各共和国の教育省が実施しているが、ロシアは教育プログラムや教育政策は連邦レベルで定めるので、研修内容には共通性が高い。他方で、最近5-6年、地方の教育大学は、こうした教員の研修において大きな役割を果たすようになってきており、教員資格向上研修所と競合するようになってきている。ただ、問題であるのは、地方のすべての教育大学で、基礎的な数学を教えているわけではない。数学を教える講座があったとしても、そこでの指導内容のレベルは低いことがある。そのようなわけで、私たちのようなセンターの役割が大きいのである。

もう一つ重要な視点は、中央集権化である。この書棚にあるのは、現在使用されているすべての教科書である。日本と比較しれ種類は少ない。他方で、国家統一試験の試験問題がバンクとしてあり、コンピュータで開示されている。そのような状況にあって、本センターの仕事としては、教師が国家統一試験に対応するための支援をすることである。中国と同じく、ロシアでも試験がすべてである。ただ、中国の試験は12のバリエーションから選択ができる。しかしロシアでは統一・共通である。現在、教員に対して国家統一試験準備の出版物を提供することが出版社の優先課題となっている。

大谷：こうした国家統一試験が重視されることを良いと思うか。

ヴィソツキー：良くも悪くもある。国家統一試験は、教育に共通の基準・方向性を与えるという意味で良いと考える。しかし、国家統一試験で、生徒の多様性をすべてカバーすることはできない。ロシアでは長く議論を重ねた結果、ようやく今年から、国家統一試験に2つの水準を設けることになった。このことは、教師にも生徒にもやりやすくなった。

教員養成の話題に戻ると、出版社が国家統一試験関係の出版物を沢山出す状況において、教師に対してそうした文献の有効な使用法を指導することも本センターの仕事になっている。本センターは、地方レベルの資格向上システムに、国家統一試験対策を盛り込んだ。出版社は競争しているので、我々と出版社との関係もできてきて、出版社との要望も踏まえて、養成をすることになる（これは資金獲得の手段にもある）。国家、センター、出版社などが非常に複雑に絡み合っていて、一つのものになっている。

大谷：コースの規模は。

ヴィソツキー：20-30人、200-300人の様々なコースがある。200-300人のものは、例えば、学年開始時期の短期のコースがある。どのようなコースを履修するかは地方によって異なる。例えば、クラスノダール地方は学校数が多く、教員も多く、100名以上の規模の大きいコースとなる。過疎の地方ではそうではない。多民族、多文化、多言語のロシアでは、様々な条件で研修を行っているので、コースの概要を簡単に話すことは難しい。以前、アセアンの会議で、教育指標に関するロシアの「平均」を尋ねられたことがあるが、ロシアでは平均に何の意味もない。

<2015年9月11日（金）>

⑩ロシア連邦科学アカデミー傘下研究所・研究員へのヒアリング

- | |
|--------------------------------------|
| ○インタビュー日時：2015年9月11日（金）15時過ぎから1時間半程度 |
| ○インタビュー場所：シェレメチェボ空港内カフェ |
| ○インタビュー対象：ロシア科学アカデミー傘下研究所所員（希望により匿名） |

Q1： アカデミー改革の影響について

A1： 一般の研究者にとっては、まだ、あまり影響は感じられない。しかし、管理職や官僚（上級事務職）にとっては報告書などが多くなり、多忙化状況が出ているようだ。

そもそもアカデミー中央（幹部会、総裁）と傘下研究所等（研究補助機関や福利厚生施設を含む）は一体的な組織であったが、政府直轄の連邦学術組織庁 **ФАНО**（ファノ、以下組織庁）が新設されたことにより、傘下研究所等は組織庁の管轄下になった。

このことにより予算の流れが大きく変わった。すなわち、改革前には傘下研究所等の経費を含め一括してアカデミー中央に交付されていた予算がアカデミー中央と組織庁に分けて配分されるようになった。具体的には、改革前の予算では統合された3つのアカデミー全体で900億ルーブルであった予算が、改革後（おそらく初年度）にはアカデミー中央60億ルーブル、組織庁1200億ルーブルというようになり、アカデミー中央の力は著しく縮小した。

改革の影響といえばこんな例がある。チェルノゴロフカ **Черноголовка** はモスクワ市北東59キロメートルに位置し、アカデミー傘下の研究所が10施設ほどあり、研究者およそ4000人を含め住民22000人ほどの研究都市 **Наукоград** だが、ロシア科学アカデミー傘下の病院 **поликлиника** があった。その診療レベルが高いだけでなくその地域唯一の病院であり、アカデミー職員だけではなく地域住民一般にとってなくてはならない存在であった。しかし、組織庁が研究組織以外のインフラを削減する方針をだし、病院が閉鎖され住民が大変困っているという事態が起こった。

また、一部に研究所の合併が始まっている。固体物理学研究所（Институт физики

твердого тела Российской академии наук) とマイクロ・エレクトロニクス技術研究所 (ИПТМ РАН) の合併が行われた。両研究所はアカデミーの中の異なる部門 Отделение に属していた研究所であったので合併によって混乱が生じている。今のところ、この合併によるスタッフの削減は行われていないが、おそらく来年あたりから始まるのではないだろうか。

Q2: アカデミーの性格に変化があったということでしょうか。

A2: 予算配分の方式が根本的に変わってしまい、アカデミーは「学者クラブ」に変わってしまった。

ソビエト時代においては、フランス、アメリカ、ドイツ、日本などと異なり、アカデミーは国全体のおよそ 6 割の研究機能を担っていた。アカデミーに匹敵できる組織はモスクワ大学くらいであった。しかし、改革によってアカデミーは研究実施に係る大きな力、すなわち予算配分権を失ってしまった。

先に述べた改革後の年度においてアカデミー中央に交付された 60 億ルーブルの金額はアカデミー会員に対する支払金 (年俸) で消えてしまう。

ソビエト時代、予算は、アカデミーの申請により、科学技術国家委員会から支出されていた。ちなみに、この国家委員会が配分する予算の 7 割は軍事関係の研究に充てられていた。

アカデミーはソ連崩壊により独立性を強めた。すなわち、予算も直接政府から交付されていた (この点はモスクワ大学も同様)。また、アカデミー総裁も 90 年代は大統領による承認を受ける必要はなく、アカデミー総会だけで決められていた。(ペレストロイカ期には傘下研究所の所長も各研究所の研究員総会で決められるようになっていたが) 今回の改革でアカデミー傘下の研究所、すなわち組織庁が財政を管轄する研究所の所長は組織庁が決めるように変えられた。

ペレストロイカ期には運営の民主化やアカデミーの自律性が強化されたという面もあるが、一方で、ソ連科学アカデミーの他にロシア (共和国) 科学アカデミーが創設された。これには政治家やオリガルヒ (政商) が会員として引き入れられ、科学アカデミーの実質をレベルダウンさせたという問題があった。また、プーチン大統領になって側近であるカヴァリチュク КОВАЛЬЧУК Михаил Валентинович (クルチャトフ・シンクロトロン研究センター所長 Курчаговский центр синхротронных исследований) を総裁にしようとした動きが挫折したことも今回の改革の背景にある。具体的に言えば、彼はアカデミーの準会員であるので総裁になるには正会員とならなければならない。彼を正会員にするためにアカデミー会員総会でたびたび彼を総裁にするため選挙が行われたが、そのたびに反対が強く落選し続け、今日に至るまで依然として準会員に止まっている。とはいえ、このような政治的な思惑による人事の動きが改革に至る一連の動きの中で生じている状況は、アカデミーの研究レベルがさらに低下してゆくのではないかという懸念を強く抱かせる。

Q3: 改革によってアカデミーと大学の関係はどうなるのでしょうか。アカデミーの研究者が大学に流れていくというようなことは起こるのでしょうか。

A3: 教育科学大臣 (フルセンコ、リヴァノフ) とアカデミー総裁 (フォルトフ) は仲がひどく悪いので、人事交流は考えられない。数年前 (3~5 年?) に「メガグラント」という大規模事業があり、最大 500 万ドルの金が研究プロジェクトに交付されたが、大学しか応募資格がなかった。

Q4: アカデミーの再編に関する法律が 2013 年 6 月に議会上程され審議された時、プーチン大統領とフォルトフ・アカデミー総裁の間で 2 回にわたって秘密会談がもたれ、その

結果、アカデミー側の激しい反対運動も鎮静化し、改革法が制定されたといういきさつがありました。両者の間でどのようなことがあったと思われますか。

A4： 当初の改革の内容そのものはそれほど変化していないと思う。両者の交渉によって変わったのは、改革のスピードが緩和されたこと、アカデミーの財産の売却が一年間停止されたこと、これはその後停止期間がさらに一年延長された。したがってあと半年後には停止措置が解除されることになる。また、おそらく売却対象についての交渉も行われ、売却対象そのものにも変更の手が加えられたと思う。この結果、反対の勢いが沈静化した。ともかく、アカデミーが一番恐れていることは、よいロケーションにおかれている施設を売却されることである。政府は売却によってアカデミーから巨大な資産を取り戻し、様々な計画を立てることができるが、アカデミーからすれば、売却対象となる施設を移転させてもらえる保障がなく、そのまま失ってしまうことを強く危惧しているのだ。

Q5： アカデミーは国家の学術・科学技術政策についての提案を行うという任務が、「学術政策法」に規定されているが、そのようなことは実際行われているのか。

A5： 学術・科学技術政策についてはアカデミーの方針を下敷きにして決定されている。傘下研究所の経営については総裁と組織庁の長官が話し合っ決めて決めるようだ。

Q6： 今回の改革によって、新たに「ロシア学術基金 Российский научный фонд」が開設されたが、それを含め'92年設置のロシア基礎研究基金、ロシア人文科学基金などの審査はどのように行われているのか。

A6： これら研究費補助金の審査は研究者による、いわゆるピア・レビューにより行われている。アカデミーの研究員の3分の1くらいは審査委員を務めているのではないかと。

入手資料1 第548教育センターの第5学年～11学年の時間割（各学年A組のみ抜粋）

5A								
понедельник			вторник			среда		
1	Обществознание	207	1	Русский язык	210	1	Математика	321
2	Обществознание	207	2	Рис.1/Жив.2	20/19	2	Математика	321
3	Русский язык	210	3	Рис.1/Жив.2	20/19	3	Ритм.гимнастик.	1/323
4	Естествознание	104	4	Рис.1/Жив.2	20/19	4	Литература	15пр.
5	Трен-г по МУН	210	5	Русский язык	210	5	Английский яз.	2086/3106
6	Английский яз.	106/102	6	Математика	321	6	Комп.техн.	305/307
7	Физкультура	с/з	7	История	207	7		
четверг			пятница			суббота		
1	Математика	321	1	История	204	1	Рис.2/Жив.1	19/20
2	Русский язык	210	2	Русский язык	210	2	Рис.2/Жив.1	19/20
3	Литература	15пр.	3	Практ.-ест- знан.	104/206	3	Рис.2/Жив.1	19/20
4	Английский яз. комп.1/ДПИ2	307/110 2/11	4	Математика	321	4	Литература	15пр.
5	комп.1/ДПИ2	2/11	5	Физкультура	с/з	5		
6	комп.1/ДПИ2	2/11	6	Английский яз.	305/201	6		
7	комп.1/ДПИ2	2/11	7			7		
8	комп.1/ДПИ2	2/11	8			8		
6A								
понедельник			вторник			среда		
1	Английский яз.	3106/102	1	Математика	112	1	Рис.2/Жив.1	19/15
2	Математика	112	2	Математика	112	2	Рис.2/Жив.1	19/15
3	История	204	3	Ритм.гимнастик.	1/323	3	Рис.2/Жив.1	19/15
4	Трен-г по МУН		4	Русский язык	205	4	Математика	112
5	Рис.1/Жив.2	20/19	5	Русский язык	205	5	Русский язык	205
6	рис.1/Жив.2	20/19	6	Комп.техн.	305/307	6	Физкультура	с/з
7	рис.1/Жив.2	20/19	7			7		
четверг			пятница			суббота		
1	Математика	112	1	Русский язык	205	1	Физкультура	с/з
2	Биология	202	2	Английский яз.	3106/201	2	География	309
3	История	204	3	Английский яз.	3106/201	3	Литература	15
4	Литература	15пр	4	Комп.1/ДПИ2	2/11	4	Русский язык	205
5	Пр.гр.англ.яз.	3106/110	5	Комп.1/ДПИ2	2/11	5	Обществознан.	204
6	Естеств.науки	104/313	6	Комп.1/ДПИ2	2/11	6		
7			7	Комп.1/ДПИ2	2/11	7		

7А								
понедельник			вторник			среда		
1	Физкультура	с/з	1	Русский язык	309	1	Русский язык	3пр
2	География	309	2	Английский яз.	109/111	2	География	309
3	Алгебра	110	3	Алгебра	110	3	Физкультура	с/з
4	Геометрия	110	4	Биология	202	4	Физика	313
5	Английский яз.	109/111	5	<i>Рис.1/Жив.2</i>	20/19	5	Алгебра	110
6	История	317	6	<i>Рис.1/Жив.2</i>	20/19	6	Геометрия	110
7	Обществознан.	317	7	<i>Рис.1/Жив.2</i>	20/19	7	<i>НАЛП</i>	15
8			8			8		
четверг			пятница			суббота		
1	Комп1/ДПИ2	2/11	1	<i>Рис.2/Жив.1</i>	19/20	1		
2	Комп1/ДПИ2	2/11	2	<i>Рис.2/Жив.1</i>	19/20	2	Биология	202
3	Комп2/ДПИ1	2/11	3	<i>Рис.2/Жив.1</i>	19/20	3	Физика1/РГ2	104/323
4	Комп2/ДПИ1	2/11	4	Алгебра	110	4	Физика2/РГ1	104/1пр
5	Литература	15пр	5	Информатика	306/307	5	История	320
6	Русский язык	3пр	6	Русский язык	3 пр	6	Литература	15
7	Английский яз.	109/111	7	<i>Пр.гр.англ.яз.</i>	109/111	7		
8А								
понедельник			вторник			среда		
1	Алгебра	206/110/311	1	Физика	104	1	География	309
2	Геометрия	206/110/311	2	Химия	206	2	Русский яз.	15
3	Обществознан.	207	3	История	207	3	Литература	15
4	Обществознан.	207	4	Алгебра	110/311/212	4	<i>Рис.1/ТГ2</i>	9/арт-х
5	Биология	202	5	Геометрия	110/311/215	5	<i>Рис.1/КГ2</i>	9/арт-х
6	Физкультура	с/з	6	Английский яз.	111/203а	6	<i>Рис1/инф2</i>	9/арт-х
7	Физкультура	с/з	7			7		
четверг			пятница			суббота		
1	Русский яз.	15	1	Алгебра	110/216/311	1	Химия	206
2	Литература	15	2	Биология	202	2	Физкультура	с/з
3	Физика	104	3	Английский яз.	111/203	3	<i>Ист.искусств</i>	3пр
4	Английский яз.	203а/111	4	Жив.1/Комп.2	14/18	4	<i>Ист.искусств</i>	3пр
5	История	207	5	Жив.1/Комп.2	14/18	5	Русский яз.	15пр
6	Алгебра	110/311/213	6	Жив.1/Комп.2	14/18	6	География	309
7	<i>Рис.2/ТГ1</i>	9/арт-х	7	Жив2./Комп.1	14/18	7		
8	<i>Рис.2/инф1</i>	9/арт-х	8	Жив2./Комп.1	14/18	8		
9	<i>Рис2/КГ1</i>	9/арт-х	9	Жив2./Комп.1	14/18	9		
9А								
понедельник			вторник			среда		

1	Экономика	303	1	Алгебра	3106/311	1	Литература	15
2	История	204	2	Геометрия	215/311	2	История	204
3	Жив.1/Комп.2	14/18	3	<i>Ист.искусств</i>	3пр	3	Английский яз.	2086/314
4	Жив.1/Комп.2	14/18	4	<i>Ист.искусств</i>	3пр	4	Физкультура	с/з
5	Жив.1/Комп.2	14/18	5	Русский язык	217	5	География	309
6	Жив2./Комп.1	14/18	6	Физика	313	6	<i>РЯ-практикум</i>	217
7	Жив2./Комп.1	14/18	7	Биология	202	7	<i>Рис1/ТГ2</i>	9/15а
8	Жив2./Комп.1	14/18	8	<i>РЯ:тесты</i>	217	8	<i>Рис1/инф2</i>	9/15а
9			9		217	9	<i>Рис1/КГ2</i>	9/15а
четверг			пятница			суббота		
1	Алгебра	215/311	1	Русский язык	217	1	География	309
2	Алгебра	215/311	2	Литература	15	2	Обществознан.	204
3	Физика	313	3	Литература	15	3	Биология	202
4	<i>Рис.2/Инф1</i>	9/15а	4	Химия	206	4	Физкультура	с/з
5	<i>Рис.2/КГ1</i>	9/15а	5	Алгебра	215/311	5	Физкультура	с/з
6	<i>Рис.2/ТГ1</i>	9/15а	6	Геометрия	215/311	6	Химия	206
7	Английский яз.	314/203а	7	Английский яз.	314/201	7		
8			8	<i>МА:тест(2 гр.)</i>	215	8		
10А								
понедельник			вторник			среда		
1	Естествознание	202	1	Литература	15	1	<i>МА-тренинг1</i>	110
2	Естествознание	202	2	Литература	15	2	Алгебра	110/216/215
3	История	320	3	Английский яз.	113/111	3	Геометрия	110/216/215
4	Обществознан.	320	4	Русский язык	217	4	Жив.1/Комп.2	14/18
5	Алгебра	110/216/206	5	<i>Ист. искусств</i>	3пр	5	Жив.1/Комп.2	14/18
6	Геометрия	110/216/206	6	<i>Ист. искусств</i>	3пр	6	Жив.1/Комп.2	14/18
7	<i>МА-тренинг1,2,3</i>	110/206/216	7	<i>РЯ-практикум</i>	217	7	Жив2./Комп.1	14/18
8	<i>МА-тренинг2</i>	206	8			8	Жив2./Комп.1	14/18
9			9	<i>МА-тренинг 3</i>	216	9	Жив2./Комп.1	14/18
четверг			пятница			суббота		
1	Алгебра	110/216/213	1	<i>Дек.жив.1,2</i>	11/14	1	Литература	15
2	Английский яз.	113/111	2	<i>Дек.жив.1,2</i>	11/14	2	<i>Рис2/Инф1</i>	15/9
3	Обществознан.	303	3	<i>Дек.жив.1,2</i>	11/14	3	<i>Рис2/КГ1</i>	15/9
4	География	309	4	История	320	4	<i>Рис2/ТГ1</i>	15/9
5	Физкультура	с/з	5	Английский яз.	113/111	5	География	309
6	Физкультура	с/з	6	Естествознание	202	6	Физкультура	с/з
7	<i>РЯ-тренинг</i>	217	7	<i>Рис1/ТГ2</i>	15а/9	7		
8	<i>РЯ-тренинг</i>	217	8	<i>Рис1/Инф2</i>	15а/9	8		
9			9	<i>Рис1/КГ2</i>	15а/9	9		

11А								
понедельник			вторник			среда		
1	<i>Ист. искусств</i>	3пр	1	История	204	1	<i>Дек.жив.1,2</i>	11/14
2	<i>Ист. искусств</i>	3пр	2	История	204	2	<i>Дек.жив.1,2</i>	11/14
3	Алгебра	311/321/206	3	Литература	15	3	<i>Дек.жив.1,2</i>	11/14
4	Английский яз.	113/111	4	Естествознание	206	4	Обществознан.	207
5	Естествознание	205	5	Английский яз.	113/111	5	Обществознан.	207
6	Естествознание	205	6	Геометрия	215/311/320	6	Русский язык	319
7	ОБЖ	306	7	Физкультура	с/з	7	<i>РЯ-практикум</i>	319
8	ОБЖ	306	8	<i>МА-тренинг</i>	215/311/320	8		
9			9	<i>МА-тренинг</i>	215/311/320	9		
четверг			пятница			суббота		
1	Рис.1/ТГ2	9/15а	1	Рис.2/ТГ1	15а/9	1	Физкультура	с/з
2	Рис.1/ТГ2	9/15а	2	Рис.2/ТГ1	15а/9	2	Жив.1/Комп.2	14/18
3	Рис.1/инф.2	9/15а	3	Рис.2/Инф1	15а/9	3	Жив.1/Комп.2	14/18
4	Алгебра	311/211/213	4	Алгебра	112/216/311	4	Жив.1/Комп.2	14/18
5	Геометрия	311/211/213	5	Литература	15	5	Жив2./Комп.1	14/18
6	Английский яз.	113/111	6	Литература	15	6	Жив2./Комп.1	14/18
7	Физкультура	с/з	7	<i>Истор.-кл.вопр.</i>	207	7	Жив2./Комп.1	14/18
8	<i>РЯ-тренинг</i>	319	8	<i>Общест.сл.вопр.</i>	207	8		
9	<i>РЯ-тренинг</i>	319	9			9		

入手資料2 第869番「自己決定」幼稚園入手資料一覧

	著者 書名・誌名 出版社	種別	発行年
1	Классное руководство и воспитание школьников	雑誌	2007年 6,7,11,13,15,17,19,21,22,24 の各号
2	Андрей Русаков Эпоха Великих Открытий в школе девяностых годов АНО «Агенство образовательного сотрудничества»	単行本	2005年
3	Сергй Реутский Физкультура про другое АНО «Агенство образовательного сотрудничества»	単行本	2006年
4	Вячеслав Сухарев Сказки-раскраски и История с Рисованием АНО «Агенство образовательного сотрудничества»	単行本	2007年
5	Александр Тубельский Школа будущего, построенная вместе с детьми ООО «Издательство "Первое сентября"»	単行本	2012年
6	Маргарита Головина и другие Детский сад, живущий жизнью детей Образовательные проекты	単行本	2013年
7	Лариса Журавлева Общий камертон и некоторые шедевры - Истории про больших и маленьких в детском саду Образовательные проекты	単行本	2014年

モスクワ調査②報告書

2015年10月12日～17日（5日間）

関 啓子
白村 直也

○ 調査日程

日付	時間	移動・調査機関
2015年 10月12日（月）		JAL441 便にて成田発（日本）モスクワ着（ロシア）
10月13日（火）	10：00 ～11：30 12：00 ～14：00 17：00 ～19：00	① ヤコヴレヴァ・ナターリヤ・ゲンナヂエヴナ Яковлева Наталья Геннадьевна (Кандидат экономических наук, доцент) ② チェルニャコフ・セルゲイ・フェリクソヴィチ Черняков Сергей Феликсович (зам. директора школы "Образование ПЛЮС", преподаватель истории) ③ スラーヴィン・ボリス・ヒョードロヴィチ Славин Борис Федорович (Фонд Горбачева, советник Президента, философ)
10月14日（水）	10：00 ～12：00	④ ロシアろう者協会 Всесоюзное общество глухих
10月15日（木）	10：00 ～12：00 15：00 ～17：00	⑤ モスクワ国立教育大学 МПГУ ⑥ 第288番幼稚園 Детский сад 288
10月16日（金）	10：00 ～12：00	⑦ スモーリン・オレグ・ニコラエヴィチ Смолин Олег Николаевич (Депутат Госдумы, первый зампред Комитета по образованию) JAL442 便にてモスクワ発（ロシア）
10月17日（土）		成田着（日本）

本報告においては、①～③と⑦を関が、④～⑥を白村が執筆を担当した。

<2015年10月13日（火）>

- ①ヤコヴレヴァ・ナターリヤ・ゲンナヂエヴナ氏への聞き取り調査
(訪問時間：10:00～11:30)

1. 対応者：Яковлева Наталья Геннадьевна (Кандидат экономических наук, доцент)
2. 住所：関・白村の滞在ホテル「Даниловская」
Москва, Большой Староданиловский переулок, д. 5.
3. 連絡先：個人の連絡先なので記載は控える
4. 入手資料：特になし

1. 聞き取り調査の課題

本科研の研究目的を踏まえたうえで、25年間の教育改革の実態を、とりわけ改革のキー・ファクターである教師に絞って検討する。歴史的視野に立てば、前体制からの移行過程の意味を読み取ることも必要である。ソ連の教育および教員養成システムと、現ロシアの教員養成政策との類似性(あるいは継承性)と相違点を明らかにしなくてはならない。教育改革の計画と実施を担ってきた人々の多くが、両体制を経験した人々だから当然であるともいえよう。そこで、まず「ソヴェト教育とは何であったのか?」という問いに、調査者も向き合うことになる。その上で、体制転換によって、どのように教員養成政策が再編されたかを検討する。

もうひとつの課題は、現在の教員養成の背景にある教育の実態と教師の声(実態)を掘り起こすことである。

両課題への取り組みの入口として、現在の教育と教師について発言している研究者・教師のなかから、教育の実態と改革に批判的な見解を持ち、なおかつソヴェト教育への関心を持っている人、社会主義の脱構築および新しい社会主義理念の再編と教育とを結びつけて構想している人物に会うことにした。論文や著書もあり、批判的言説を掘り下げる資料にアクセスしやすい人を、インタビュー対象として選定した。

今回のインタビューは本調査のための予備調査としての位置づけで、半構造的なインタビューを行った。仮設生成的な機能を期せずして果たしてくれることを、わずかながら期待した。

2. 聞き取り調査の対象者の選定

まず、注目したのは、A. ブズガーリン氏である。なぜなら、彼は、ソ連の正の遺産として、教育・文化・科学に言及し、教育はソ連の最大の成果といってもよいと断言しているからである。

そこで、彼と季刊誌『アルチュルナチーヴィ』が展開する「批判的マルクス主義派」の言説に着目した。ブズガーリン氏は、ソ連時代に、人間の多面的発達を目指す教育がすべての人に開かれ、世界水準の科学技術や、誰でも享受できる高い水準の文化といった資本主義の枠を超えるものが萌芽的であれ生み出されたが、ブルジョア的な課題の解決が不十分で、体制の崩壊を招いたとみる。

A. ブズガーリン氏は書籍も論文も多く、発信力が旺盛である。彼は、閉塞状況の資本主義にとって代わる社会があるとすれば、創造的活動に立脚したもので、その本性は共同的創造であるとする。約言すれば、彼の主張は、「オルターナティブな社会的・人類的・エコロジー指向的社会統合」である。

そこで、「批判的マルクス主義派」グループの人あるいは立場の近い人を、書籍や雑誌やネットの論文によって絞り込んだ。このグループの人々は、トロツキーの主張に近いことや、ソ連＝国家資本主義論への批判では共通しているが、「社会主義性」の理解ひとつをとっても異なり、グループ内の見解は多様で、グループ内外での意見交換が活発であることも、特徴の一つである。

そこで、男女の多様な協力者を選定した。熟年の研究者、若手の研究者、教師、政治家である。インタビュー後の共通した素朴な印象は、舌鋒鋭い現実批判であった。社会のとりつくりたる表層が見事にはがされ、むき出しの実相が示された。

なお、中国に出張中のブズガーリン氏は、共同研究者の中からもっとも私たちの研究課

題に近い、若手女性研究者を紹介してくれた。ブズガーリン氏の人選に感謝している。

3. Яковлева 氏

Яковлева 氏は、ブズガーリン氏のもとで研究し、いまでも共同して研究活動を行っている若手の女性研究者である。彼女の専門は、教育の政治経済学で、モスクワ大学の経済学部において経済システムと比較分析を学んだ。



3.1 ブズガーリン氏のソ連時代についての評価について

彼女は、次のように語った。ブズガーリン氏は、ソ連時代の教育や教育システムについて高く評価している。

インタビュー当時、2015年11月の国際学術会議の開催にむけて準備中であった。この会議も今大会で3回目になる、という。ロシア中から500人以上が参加する予定だが、外国からの参加者も少なくない。去年はフランスやアメリカ、中国などからも参加者があった。（参加を促されたが、辞退した。）

3.2 国際学術会議のコンセプト

国際学術会議のコンセプトは、ブズガーリン氏とスモーリン氏がアイデアを出して作り上げた、という。主なテーマは、教育の科学の問題だ。スモーリン氏とブズガーリン氏が基調報告をする予定になっている。その後はいろいろな課題を扱うセッションがもたれるとのこと。そのひとつが、教育の歴史をめぐるもので、ソ連の教育遺産を扱う。（会議の成果は書籍になるというので期待している。）

3.3 ソヴェト教育の評価

ブズガーリン氏や彼女は、ソヴェト教育システムの何を評価しているのか。訊いてみた。根本的には、科学的ディシプリン、基礎・基盤的科学が強かったことである。評価できるとして挙げられた点を列挙すれば、①基盤的・基礎科目、基礎準備、②国の計画・管理、③技術部門の強さ、④能力に応じた、すべての人への無料の教育保障、⑤官僚主義の縮小、である。③については、この伝統は失われてしまったが、復活させる必要がある、と強調された。

計画と管理について補足説明があった。現在、教育のコントロールは厳しいが、計画がない。計画こそが必要だ。このように強調された。

3.4 現在の教育改革について

改革の現状への批判が、次のように、問題として語られた。(1)スモーリン氏もブズガーリン氏も、統一国家試験には否定的である。なぜなら、テストのシステムが子どもにふさわしくないからだ。子どもは、読み、書き、そして自由に意見を活発に話す存在で、ソ連時代にはその実態があった。今は、テストのみに注意が向いている。コメントを加えれば、現在のテスト形式では自由な自己表現が十分になされないことを批判している。

(2)経済のシステムと教育システムは相互に無視しあっている。そのため卒業生が仕事を見つけられないことが、一番大きな問題だ。卒業しても専門分野の仕事に就けない。

(3)大学教育をめぐる国家の管理がない。有償化が進んでいる。MBAのディプロマには、現在は国家がかかわっていない。2年前までは国家の出すディプロマであった。いまトップとされる高等経済学院は、prestigeは高いが、有料で高額だ。この大学は、20年前に西欧のシステムをモデルにして創設された。

(4)教師は子どもたちのために集中的に頑張っているとはいえない。アンケートや各種申し込み書などのドキュメントを書くこと(モニタリングなど)に追われている。高等教育で

も同様である。高等教育は行き詰まっている。教師は、学生に教えるよりも、教育省などからの文書を読み解くのに追われている。大学評価が行われているが、教育の根本とは関係のない研究者の経費や外国人の生徒数や財政などが評価の中心である。

(5)90年代から商業ベースの大学が増え、私立の初等・中等教育から高等教育までつくられたが、レベルは低い。国家が支援し、たとえば、エンジニア養成など、高い専門性を保証させるべきである。税金を免除するのほひとつの方法だろう。教育の質の評価を行う専門家グループの活動がいつそう必要になっている。

3.5 いま大事なことは何か

いま大事なことは何かという問いに答えて、以下の諸点が示された。

まず、人間をつくる（育てる）ことが一番大事だ。ソ連時代は、工業と農業の発展が最優先だったが、いまは、人間をつくる（育てる）ことが一番大事だ。なのに、十分な予算が付けられていない。人間にこそ価値があるのに。

経済の人間化が重要である。市場化が文化領域も侵食している。これを修正すべきだ。以前も文化はエリートのものであったが、ソ連時代はそれでも、文化会館などが建設され、無料で文化の享受が多くの人に保障されていた。インタビュー対象者の息子は、無料でチェスクラブに通っていたが、一年前から、モスクワ市役所および教育委員会付属のクラブはすべて有料化された。人々の頭の中に、市場（リーノック）が入り込んでしまいつつある。〔ソ連時代の文化の享受のありようも検討すべきだろう。〕

政治経済学は僅かにモスクワ大学で生き延びているが、研究方法として復活されるべきである。

追記：なお、この「批判的マルクス主義派」グループの活動には大きな妨害はないが、支援を得ることは簡単ではない。それでも、教育改革をめぐる提案を国会に提出した。

<2015年10月13日（火）>

②チェルニャコフ・セルゲイ・フェリクソヴィチ氏への聞き取り調査

（訪問時間：12:00～14:00）

1. 対応者：Черняков Сергей Феликсович
(Зам. директора школы "Образование ПЛЮС", преподаватель истории)
2. 住所：関・白村の滞在ホテル「Даниловская」
Москва, Большой Староданиловский переулок, д. 5.
3. 連絡先：個人の連絡先なので記載は控える
4. 入手資料：なし

1. Черняков 氏

Черняков 氏は、初等・中等学校の教頭で、歴史の教師をしている。

2. 教育改革について

教育改革は二段階で行われた。一段階目の90年代の改革は、肯定的なものであった。否定的な面もあったが、教育の人間化など肯定的な面が多かった。しかし、2005年からの改革は、改革の第一段階とは反対の方向に向かった。教育は物品になったようで、買う対象になってしまった。経費を軽減するために、学校システムが再組織化され、学校が統合されるようになった。統合すれば、校長が一人になり、校医も一人になる。学級の生徒数が増えれば、教育のレベルは下がるが、教員の給与はあがる。だから、教員はこれを歓迎しないわけでもない。

大事なことは、ソ連時代の教育の課題は「全面発達」で、明確であったことである。それは試みであって、実現はされなかった。現在は、教育は、知識をもった消費者づくりに向かっていて、国家の目的を考えず、周りのことを無視して、自分の利益だけを考えるよ

うな、チェーホフの作品に出て来る小市民を作っている。

教育の改革は、教育の内容の改革になっていない。形式〔外的条件〕の改革で、PCの導入や校舎の修理や給与の改善などが取り組まれている。

給与の改善は、もちろん大切だ。モスクワの場合、教員が1.5人分働くと、月に55,000ルーブリになる。悪くない数字である。しかし、地方の給与は、25,000ルーブリだから、地域格差は大きい。そのかわりモスクワの教員は、地方のシンポジウムやコンクールなどのイベントに参加しなくてはならない。〔だから、負担もある。〕

新しいスタンダードは、〔具体的な〕教育内容についてではない。そこには抽象的な「べき」論的な項目が列挙されている。スモーリン氏は、スタンダードに具体的なことを吹き込まなくてはならない、と指摘している。学校の教員はスタンダードにもとづき自分のプログラムをつくることになる。頑張っている教員もいるが、難しいと悩む人もいる。ザンコフのプログラムのように、良い結果を出すことは少ない。だから、スタンダードの価値は限定的である。

3. 教員養成の改革について

教育改革は、教員養成の改革を伴っているが、養成システムは問題を含んでいる。教員〔の養成課程〕は、哲学や教育学や歴史学を学ぶよりも、プレゼンテーションなど、自分をどのように紹介するかといった、いわば形式的なものを学ぶように方向付けられている。

ソ連時代の〔正の〕遺産はあるにはあるが、それらは試みであった。しかも、学校は社会の一部だから、遺産は今そのままでは使えない。社会も教育も学校もすべて全面的に改革しないと、悪循環に陥る。ブズガーリン氏とスモーリン氏を中心とした実際に頑張っている改革グループに期待している。〔上で触れられた、国際会議にも言及された。〕

改革グループに対して、政府は反対している。教育者も賛成しているわけではない。だから、改革グループは雑誌やインターネットで意見を交換し、活発に発信している。だが、教育の戦略について考える人は少ない。考えているのは、教員の5パーセントくらいだろうか。第一、モスクワにある学校の教員たちの90パーセントは地方出身者である。地方では収入が低いので、モスクワで働いている。

<2015年10月13日(火)>

③スラーヴィン・ボリス・ヒョードロヴィチ氏への聞き取り調査

(訪問時間：17:00～19:00)

1. 対応者：スラヴィン Борис Федорович (Фонд Горбачева, советник Президента, философ)
2. 住所：スラーヴィン氏宅 (個人の住宅のため記すのを控える)
3. 連絡先：個人の連絡先なので記載は控える
4. 入手資料：なし



1. スラヴィン氏

スラヴィン氏はゴルバチョフ基金の研究者で、専門は哲学である。ボリス・スラーヴィン氏は、スターリン・モデルとは対照的なレーニン・モデルに立脚し、市場経済を容認したうえで、自主管理＝産業民主主義を実践し、政治的・思想的多元主義を認める社会民主主義を重視している。これが、彼の言う新しい社会主義だ。彼は、協同＝連帯原理を尊重し、エコロジー的社会主義、草の根民主主義を主張する。

2. ソヴェト教育について

一番大事なことは、ソ連の指導部が、何のために教育が必要かを理解していたことだ。その目的は全面発達であった。教育システムは、全面発達のための方法と内容を機軸にして構成されていた。問題解決〔型学習〕の方法が模索され、その一つとして自己教育が位置づけられた。

現在、教育はサービスになってしまった。ソ連時代は無料であったが、いまは有料のシステムが拡大している。これは憲法違反だ。レーニンが批判した暗記中心の教育が復活した。生徒は、考えずに受動的に受け取るばかりで、創造的な部分がなくなった。

ロシアの教育は、現在、西側の教育の弱点を引き継いでいる。ポローニャ・プロセスや統一国家試験などである。前者は、法律の学校で生まれたもので、法律と形式の原則にもとづいている。西欧でも反対する国が少なくない。発達した国家にふさわしいものではない。マカレンコやウシンスキーさらにはスホムリンスキーなどを思い起こそう。

ソ連の社会主義は、ソヴェト権力とアメリカ・タイプの教育とドイツの鉄道システム、それに西洋の資本主義の発達を加えた理念であった。

市場は生産のためで、教育や芸術には、市場のルールはつかえない。

3. エコロジー社会主義について

スラーヴィン氏が論文で主張するエコロジー社会主義について訊いた。

古い社会主義では、工業の発達とともに環境が汚染され、空気の汚染や騒音という許されないエコロジー問題が起こった。新しい社会主義は、エコロジー問題を解決すべきである。資本主義は人間と自然を無視している。アメリカと中国は京都議定書にサインしない。サインしたら、経済発展がストップしてしまうからだ。〔社会が尊重し追求する〕目的は、人間であり、きれいな空気、きれいな水である。北欧の国々の選択した道は正しい。ドイツは核エネルギーを中止した。

新しい社会主義の主な教育目的は、全面発達である。自主管理は理想的なアイデアである。自分の意志にもとづき創造的であることが大事なのだ。

4. 新しい社会主義への道

新しい社会主義への道はどのようなものか。現在のロシアには労働運動も無いし、政党は、数こそ多いが弱い。しかし、資本主義は近い将来、自身の否定的な顔をあらわにし始めるだろう。生活レベルも落ちる。エコロジー問題は深刻になる。そうしたなかで、市民は自らの道を考え、歩まなくてはならなくなる。

現在、プーチンの支持率は86パーセントと、高い。指導部はこれに満足している。プーチンは石油輸出で市民の生活レベルを向上させた。エリツィンのときに、100ドルであった教授の給料は、プーチン政権下で1000ドルになった。だが、石油が値下がりし、生活レベルも落ちている。経済発展は厳しい局面に遭遇している。

<2015年10月14日（水曜日）>

④全ロシアろう者協会(Всесоюзное общество глухих : ВОГ)本部事務所にて聞き取り調査（訪問時間：10:00～12:00）

1. 対応者：Рухледев Валерий Никитич (Президент ВОГ)他
2. 住所：123022, Москва, ул. 1905 года, д. 10-А, стр. 1
3. 連絡先：+7 499 255 6704 URL：http://www.voginfo.ru/
4. 入手資料：協会の歴史関連の書籍、DVD等

1. 全ロシアろう者協会について

2015年10月14日(水)の午前10時に全ロシアろう者協会本部を訪問した。入り口で入館チェックを受け、協会事務所の受付へと向かった。対応して下さったのは、会長ルフレデフ・ヴァレーリー・ニキティチ Рухледев Валерий Никитич 氏、副会長イヴァノフ・スタニスラフ・アレクサンドロヴィチ Иванов Станислав Александрович 氏、ロシア教育アカデミー矯正教育学¹研究所 Институт коррекционной педагогики Российской академии образования 所長マロフェエフ・ニコライ・ニコラエヴィチ Малофеев Николай Николаевич 氏、そしてろう者の教育と手話センター—Центр образования глухих и жестового языка センター長コマロヴァ・アンナ・アナトリエヴナ Комарова Анна Анатольевна 氏であった。

まず、視察状況に入る前にここで、ロシア語における障がい児関連の術語について触れておきたい。研究所名にある「矯正（ロシア語では коррекционная、英語では correctional に該当する）」や「障がい（ロシア語では дефект、英語では defect、1960年代に出版された「障がい学²（ロシア語 дефектология、英語 defectologia）」という学術雑誌は名前を変えずに今も出版されている）」はもとより、日本語で表記する際にはその訳語が問題になる術語がいくつかある。本報告書内においては基本的に従来 of 慣例に倣っているが、注意を要する際にはその旨記していくことはじめに断っておきたい³。

さて、聞き取り調査では初めに、日本側とロシア側双方の簡単な自己紹介を終え、その後円卓のある会議室に移動した。会長ルフレデフ氏の隣に手話通訳者が座り、聞き取り調査が開始された。冒頭、関先生より本科研調査の趣旨説明があり、先方からは協会の活動についての説明があった。

この協会の歴史は19世紀にさかのぼる。設立のきっかけは、19世紀末の帝政ロシア期のろう学校卒業生らが同窓会を行ったことにあった。普段の生活では周囲にろう者がいなかったため、定期的にこうした同窓会のような集まりを卒業生たちは持つようになった。この集まりは、ロシア革命後のソヴィエト政権から一度は解散を命じられたものの、1926年には一転して社会団体としての公的な認証を得るに至った。このあたりの歴史については協会ホームページ(<http://www.voginfo.ru/>)に詳しい。

協会のホームページによれば、現在、協会の主要な課題は、ロシア共和国の聴覚に障がいのある市民 граждан の権利を擁護し、彼らに社会的リハビリテーション социальная реабилитация を行い、そして社会へ統合 интеграция することにあるとされている。また、ろう者の市民権 гражданское право を取り巻く状況、情報や様々なサービスへのアクセス、学校教育と職業準備教育、良質な医療サービスと社会保障などをめぐる状況に協会に主要な注意は向けられている。

協会の会員は、およそ9万人のろう者からなっており、全ロシア連邦内に79の地域支部 региональный と800以上の地方 местный 支部を有している。

さて、今回の科研調査にてこの協会を聞き取り調査の対象としたのには、次のような2つの理由がある。

i) 1994年のユネスコ・サラマンカ宣言以降、世界中で特別支援教育やインクルーシブ教育の推進が取り組まれていることは比較的良好に知られているように思う。それはロシア

¹ この研究所については一言付け加えておきたい。黒田によれば、本研究所の歴史は長く1908年に設立され、当初は医療・教育局と呼ばれ、後に何度も名称が変更されているという。実験欠陥学研究所、特別学校研究所、欠陥学研究所となり、1992年からこの矯正教育研究所と改称されている。（黒田学『ロシアの障害児教育・インクルーシブ教育』クリエイツかもがわ、2015年、6頁。）

² 渡邊はこの雑誌の訳を「障害学」としているが、本稿では昨今の障がい者をめぐる状況に対応するため「障がい学」とした。渡邊健治「ロシアにおけるインクルーシブ教育について」SNEジャーナル、第17(1)号、2011年、13頁。

³ マロフェエフ氏によれば、「特別ニーズ教育を必要とする子ども（children with special educational needs）」という言葉が法令上導入されたのは1991年のことであったという（ニコライ・マロフェエフ「ロシア連邦における障害児教育」黒田学『ロシアの障害児教育・インクルーシブ教育』所収、クリエイツかもがわ、2015年、12頁）。

においても同様である。そこで、ろう者という当事者の立場から現在のロシアの特別支援教育やインクルーシブ教育が抱える問題を語ってもらい、その把握をしたいと考えた。そこで浮かび上がった問題を、他の聞き取り調査（教育行政や大学等）結果と突き合わせることで、ロシアにおける特別支援教育やインクルーシブ教育を多角的に検討するという目的がある。

ii) また本科研のテーマである「教員養成」についても、①教育行政、②大学をはじめとする養成機関、③学校という現場でどのような教員が養成されようとしているのか、また④市場の動向を敏感に察知する教育を受ける側(生徒や保護者等)はどのような教員を必要としているのかについての希望もあるだろう。こうした様々な「声」に耳を傾けつつ、ロシアの教員養成が大局的にどのような状況にあるのかを調査したいと考えた。今回訪問したこの協会は、④の教育を受ける側にある当事者社会団体である。したがって、④の立場から上記 i) と ii) について語ってもらうと同時に、率直な質問を投げかけることとした。

2. ロシアにおけるインクルーシブ教育をめぐって

—矯正教育学研究所所長マロフェエフ・ニコライ・ニコラエヴィチ氏と当事者の語り—

今回の聞き取り調査においては、協会会長や副会長の他に、幸運なことにロシアの障がい児教育を理論的に牽引する立場にあるロシア教育アカデミー 矯正教育学研究所所長マロフェエフ・ニコライ・ニコラエヴィチ氏に同席頂けたことから、理論的な部分にも踏み込んだ質問をした。



写真中央がマロフェエフ氏

一通りの自己紹介と趣旨説明などを終えて、会長は「協会はろう者が抱える問題を、関係省庁と緊密な連携をもって解決しようとしている」と述べ、とりわけ教育の分野では「学校教育における手話の教育言語としての法制化」を目指し活動している最中だということを強調した。

ソヴィエト期のろう教育においては、ドイツ口話法⁴の影響を強く受けた教育が展開されており、ろう教育の主要な目的の一つには、ろう児に口話を習得させることが掲げられていた。だが、会長の話によるとここ 30 年間でそうした教育のあり方に少しずつ変化が起きているという。というのも、近年では手話を学校教育に教育言語として位置づけていこうと訴える意見と、手術によって障がいを治すこともできるため、ろう児に手話は必要ないという 2 つの意見が当事者の間で出てきているという。

障がいの程度の問題はもちろんあるが、学校教育においては、とりわけ生徒の学習成果との関連で手話や口話の位置づけは非常に繊細で重要な問題であり、また長期的には彼らの将来設計(職業訓練や就労等)を考えると問題はより複雑化するという。協会としては、手話の教育言語として法律上の位置づけを求めているものの、会員間で足並みが揃っていないわけではなさそうである。



左写真：円卓での聞き取り調査の様相

⁴ 音声や書記言語を教育言語として主に使用する方法。

以上のように手話の位置づけをめぐる現状について伺ったあと、矯正教育学研究所所長マロフェエフ氏に対してもお話を伺った。

まず、ソ連とロシアの違い、ひいてはソ連期に展開されていた特別教育 *специальное образование* と現在注目を浴びるインクルーシブ教育 *инклюзивное образование* の違いについて、マロフェエフ氏に尋ねた。それは先に述べた 1994 年のユネスコ・サラマンカ宣言はもちろんのこと、近年では 2008 年の国連・障害者権利条約にロシアが署名し、2012 年にはその批准といった大きなうねりがある中で、なかなか教育の現状に関する情報が入ってこないからである（研究者が少ない、ということもあるだろう）。この点に関してマロフェエフ氏は、「一番の大きな違いは、就学する学校について児童の親にその選択権が付与されたことだ」とした。児童をどの学校に就学させるかをめぐって、親の興味・関心は増大するむきがあるという。

マロフェエフ氏は「ソ連期、特別教育は国から与えられるものであった。90 年代には自由に学校を設立することができ、私立学校が増えたが、その際ドイツやアメリカの方法が積極的に取り入れられた。」と述べた。「結果として、ヴィゴツキーすら知らない教育者たちが多く現れ、ソ連期の特別教育の伝統が弱まっていった。」という。

またインクルーシブ教育が今日広く注目されるのは、教育に係る予算を削減することから効果的であることから、教育行政に歓迎されていることが背景にあるとする。聞き取り調査でもマロフェエフ氏は述べていたが、「子どもの特別な教育的ニーズに適合しないような共通の教育システムへのアクセスを提供しても、実際それは子どもから質の良い教育の権利を奪ったことになる⁵」と述べていることから、インクルーシブ教育のあり方に対して非常に懐疑的な見方を示していた。インクルーシブ教育は、現代教育システムの発展段階において最も進んだシステムであると氏は述べるが、他方でソ連期から培われてきた特別教育システムがそれに全て取って代わられてしまうのは非常に危険だ、というのがマロフェエフ氏の持論である。

一方、当事者にはインクルーシブ教育というのはどのように映っているのだろうか。現在のロシアの教育について会長に尋ねたところ、「今のロシアにはソ連期にあったような教育の原理がない」と述べ、「ソ連期に実施されていた特別教育はもはや必要なく、インクルーシブ教育の発展のみが叫ばれているといえる」とした。また、「インクルーシブ教育に賛成する者の多くは、障がいの「治療」を念頭に置いているように見受けられる。」とし、インクルーシブ教育を推進する人たちは「ソ連期からある全ての特別学校を閉鎖し、インクルーシブ教育の学校を設立しろとまで彼らは主張している」という。会長の意見としては、インクルーシブ教育の長所を確かに認めつつも、それを展開するための条件整備が今のロシアにできているかと言えば、決してそうではないという。

また、「インクルーシブ教育の浸透・実施状況については、世界的にみてもロシアは遅れていると言えるが、とりわけろう教育については、教員が手話を使用できる、もしくは学校に手話通訳者を配置するなどの措置が必ず必要である」という。そうした条件整備が整わないままに叫ばれるインクルーシブ教育に対して、最近では関係者から否定的な意見が出始めているようだ。会長の理想としては、ソ連期からの特別学校をなくしてしまうのではなく、インクルーシブ教育と特別学校の双方を保存しなければならないというものであった。

以上で時間となり、協会での聞き取り調査は終了した。他にも尋ねたい質問はあったが、会長副会長ともに忙しく、切り上げることとなった。先に述べた i) インクルーシブ教育の現状については、その長所を認めつつ、その中でソ連期の特別教育の伝統をどのように捉えていくのかが問題となっている。一切を放棄して新しい教育に向かうのか、それとも併存させるのか、という問題である。伝統を一切放棄することに賛同する教育者もいるよ

⁵ ニコライ・マロフェエフ「ロシア連邦における障害児教育」黒田学『ロシアの障害児教育・インクルーシブ教育』所収、クリエイツかもがわ、2015 年、13 頁。

うだが、ロシアにおいてそのための条件整備ができていないことを会長は危惧している。

また ii) の教員養成については、ろう者という立場からであるが、教育言語との関係で手話を使用できる教員の養成が望まれるということであった。

<2015年10月15日(木)>

⑤モスクワ国立教育大学障がい学部 Дефектологический факультет МГПУ
(訪問時間：10:00～12:00)

1. 対応者：Татьяна Александровна Соловьева
2. 住所：Москва, проспект Вернадского, дом 88, кабинет 718
3. 連絡先：+7 (495) 438-17-81 URL: <http://xn--c1arjr.xn--p1ai/>
4. 入手資料：特になし。



タチャーナ先生



障がい学部1年生生徒

1. ろう教育における手話と口話の問題

2015年10月15日、モスクワ国立教育大学障がい Дефектологический 学部を訪問した。対応して下さったのは、タチャーナ・アレクサンドロヴナ・ソロヴィエヴナ先生と障がい学部1年生の学生であった。タチャーナ先生は、前日の全ロシアろう者協会訪問でお会いしたマロフェエフ氏に大学院時代に指導を受けているため、マロフェエフ氏の考えも良くご存知のようであった。したがって、前日の聞き取り調査の内容を踏まえて、この聞き取り調査は進められた。

モスクワ国立教育大学は、障がい児教育（インクルーシブ教育）に係る教員を養成するロシアでも代表的な教育研究機関である（先生の話によると、ロシア全土で障がい児教育の教員を養成する大学は3大学しかないという）。したがって、モスクワ国立教育大学での聞き取り調査から、障がい児教育に係るロシア国内のある意味最先端の、同時に数少ない取り組みを伺い知ることができるといえよう。

またマロフェエフ氏の教え子ということで、対応頂いたタチャーナ先生の専門も同じろう教育であり、聞き取り調査はろう教育を通じたロシアのインクルーシブ教育のあり方を、そしてインクルーシブ教育における教員養成のあり方を問うものとなった。

全ロシアろう者協会の聞き取り調査の箇所でも少し触れたが、ろう教育における最も重要な問題の一つに、手話と口話のどちらを通じて教育を行うのが良いのか、という教育言語の問題がある。この問題は日本においても長く議論されてきた。ここでその問題の詳細に触れることはできないが、ロシアにおいてもこの問題は研究者や当事者社会団体等の間

で議論され続けている。当事者社会団体といえば、前日に訪問した全ロシアろう者協会は1926年に設立されて以降、手話をろう者の文化的な「アイデンティティー」と位置づけ、ろう者の結束を深めようとしてきた。

とりわけ、ペレストロイカ以前まで協会は、自身が運営する企業（レンガ工場など）に多くのろう者を就業させて、その雇用を確保してきた。その場合にはろう者は周囲と手話を用いて意思疎通をはかるため、当事者の間から口話を習得するニーズはさほど挙がらなかった。だが、現在ではろう者の進学や就業先も多様化していることもあり、非ろう者と意思疎通をとる機会も徐々に増えつつある。ペレストロイカ以前にも全くなかったわけではないが、こうした状況下でろう者やその保護者の間では、口話を話さないと社会の一員になれない、という意識が強化されつつあるようだ。

当事者社会団体の活動と緊密な連携を持つマロフェエフ氏は、ろう児に手話の運用に慣れさせることがろう教育においては重要であると述べていた。だが、今回お会いしたタチヤーナ先生の持論は違っていた。タチヤーナ先生は、協会をはじめとする当事者社会団体がペレストロイカ以前はろう者の雇用を広く取り持ってきたこともあり、その繋がりでろう教育における手話の使用を全否定するわけではない。だが、将来を見据え、つまり社会の一員になるべくろう児を教育する、というろう教育のあり方を考えた場合、手話と口話の位置づけをよりバランスのとれたものにする必要がある、ということを強調されていた。バランスというのは、あくまでろう教育のレベルをキープすることを念頭においてのことである。それゆえ、ソヴィエト期の口話教育を再検討し、その経験を受け継ぐ必要性を述べていらっしやう。協会が手話を教育言語として法制化する動きを見せているが、こうした動きにもついても慎重な姿勢をタチヤーナ先生は示しているようだった。

2. インクルーシブ教育における教員養成

聞き取り調査の冒頭で、以上のようなろう教育における手話と口話の問題をめぐる現状を伺った。では、インクルーシブ教育が叫ばれる現在、どのような教員養成が教育研究機関として実施されているのか、という点に話題は移った。ロシアのインクルーシブ教育についての先行研究として黒田は、2011年の「障害者のための連邦プログラム⁶」や2012年の大統領令599号「教育および科学の分野における国家政策の実施について」を踏まえ、2014年開催の冬季ソチオリンピックを契機に障害児・インクルーシブ教育は新たな展開を見せると同時に学校現場での実践の変化を見た⁷としているが、実際はどうか。教育現場の状況を踏まえて質問をしてみた。

まず、教員養成が抱える問題点については2点あるようだ。1つは、ロシアの大地は広大なため、地域によって障がい児への対応が異なることにある。具体的には就学前から障がい児の教育が展開されるところがある一方、ないところもあるという。

2つ目はインクルーシブ教育の教員養成の学部が、ロシアにはそもそも少ない点である。この教育大学の障がい学部のホームページにはインクルーシブ教育の専門家として数名の専門家が名を連ねている。先生曰く、インクルーシブ教育の専門家は社会的に広く求められているにも関わらず、専門家養成の機関がロシア全土で3校しかないことが一番の問題であるという。教員養成を考える上でタチヤーナ先生は、「教員養成の方法は、様々な種類とレベルの障がい児に対応したテクノロジーを必要とする」と述べられた。テクノロジーというのは具体的にどのようなものか、という問いについては、「子どもにとって何が必要で、何が適切な対応なのかを教員は決定するが、そのために教員が持つべき特別な知識等」であるという。

また、実際の教員養成課程で近年重視されているのは、①通信教育の発展と教員への啓蒙、②両親への「障がい」についての啓蒙、③「理想的な学校プログラム」(実習)の3点で

⁶ このプログラムの中では約1,400円を拠出することで障がい者の幅広い教育の可能性や公共交通機関を一新するなどが掲げられている。

⁷ 黒田、前掲書、6頁。

あるという。

①については、多くの教員を養成していく必要性から通信教育を今後広く行っていき、また今まで障がい児に接したことの少ない教員に対して知識を普及していく必要があるためである。②については、自分の子どもに何らかの障がいがあると分かった際に、多くの親は戸惑うことが多い。さらに情報が得られない中では子育てをする上でより多くの問題が生じやすいことから、両親を啓蒙する必要があるからである。最後の③については、学部学生を実際の教育現場に実習に行かせることで、インクルーシブ教育下での「理想的な学校」とはどのような学校なのか、またどのような学校が今必要とされているのか(主に施設等の環境条件、様々な専門家の配置状況)を生徒に能動的に考えさせる狙いがあるという。

とりわけ、実習に行くまでの授業を通じて得た知識を、実習を通じて見直すことも狙いの1つにあるされている。

3. 連邦国家教育スタンダードについて

前日の全ロシアろう者協会訪問後、筆者はモスクワの市内を2時間程度散策した。前回モスクワを訪問したのが2011年のことだから、実に4年間でモスクワがどのように変化し、街を歩く人々がどのような表情で生活をしているのかを見ておきたいと思った。また、筆者はモスクワを訪問する際に必ず書店を訪れるようにしている。市の中心部に位置する2階建ての書店「ドーム クニーギ(日本語にすると「本の家」)」はその一つである。1階の学習参考書コーナーには様々な学年の参考書や問題集が並べられているが、とりわけ統一国家試験関係の書籍は、種類や数において群を抜いていた。

この書店で一冊の書籍「ろう初等教育の特別連邦国家教育スタンダード⁸⁾」を購入した。プーチン政権下の2004年に「国家教育スタンダード」が成立し、2007年にロシア連邦法「教育について」でこのスタンダードは連邦国家としての統一性の弱まりから「連邦国家スタンダード」に変更された。障がい児教育領域においては、先の矯正教育研究所のマロフェエフ氏が中心となり2013年に「障害を持つ子どものための特別な連邦国家スタンダードのコンセプト」が編纂されたが、この書籍はその中のろう初等教育に係るものである。ちなみにこの「ろう初等教育の特別連邦国家教育スタンダード」作成にはタチャーナ先生も参加している。

そこで、この本に関係する質問を残り時間わずかでタチャーナ先生に投げた。タチャーナ先生が先に述べられたことであるが、ろう教育にせよインクルーシブ教育にせよ、教育のレベルをどのように保障していくかが関係者の間で一つの争点になっているという。教育のレベルということでは、普通教育とろう教育の連邦国家教育スタンダードの兼ね合い等、気になる点は多々ある。長期的には、これは初等教育終了後の、ひいては大学入学時の統一国家試験にもかかわってくる問題である。

この連邦国家教育スタンダードについては、2016年9月から新しい教育スタンダードが開始されるとし、普通学校のスタンダードとは異なり、障がいの種類とレベルに応じて4種が用意されているという。細かな点については先行研究をもとに触れておくと、4種類というのはⅠ. インクルーシブ教育、Ⅱ. 特別学級形態、Ⅲ. 特別学校、Ⅳ. 最重度特別支援形態であるという⁹⁾。学校の種類(ろう学校やインクルーシブ学校など)によって別個で決められており、そのスタンダードは子どもが何を学校で学ぶかを、アカデミックスキルと生活的スキルの比率をもとに決めている(中等教育のスタンダードは現在作成中とのことでその詳細について伺うことはできなかった)。ちなみにⅠについては教育目標や内容は普通学校と同じであり、Ⅱは少人数教育、Ⅲはより生活的な自立に重点をおいている特別学校である。そしてⅣは障害に応じた個別支援教育が基本となる支援学校である、と説

⁸⁾ T. C. Зыкова, M. A. Зыкова, T. A. Соловьёва, Специальный Федеральный государственный образовательный стандарт начального образования глухих детей : проект, Просвещение, 2013.

⁹⁾ 岡花折一郎「ヴィゴツキーの障害児教育論と現代ロシアの教育」黒田学『ロシアの障害児教育・インクルーシブ教育』所収、クリエイツかもがわ、2015年、48頁。

明されている。このスタンダードについては未定の部分があると先生は述べられたが、今年 2016 年 9 月には実施されるとのことで、購入した書籍の読み込みを含め注意深く見ていきたいと考えている。

また障がい者が受験することを鑑み、統一国家試験には 2 つのバリエーションが用意されているといい、障がい者用のものは、特別な形式と問題からなる試験のようだ。その試験では文章校正が重視される。ソ連期からろう者が入学する大学として、バウマン工科大学がよく知られているが、その大学にはろう者が入学するための特別枠があり、特別な入学試験が実施されているという。

ロシア国立教育大学での聞き取りは、以上で時間切れとなり終了した。前日の全ロシアろう者協会での聞き取りと重ね合わせてみると、何を問題として捉えているかに違いが見受けられた。今回の教育大での聞き取り調査では、ソ連期の特別教育について触れられることもままあった。タチヤナ先生は、決してソ連期の特別教育で培われた経験がないがしろにしているわけではない。教員養成という点で当面は、インクルーシブ教育の教員養成を行う機関数が、圧倒的に足りないことを一番の問題としていた。

<2015 年 10 月 15 日 (木) >

⑧第 288 番幼稚園 Детский сад №288 (訪問時間 : 15:00~17:00)

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1. 対応者 : Прочухаева Мария Михайловна2. 住所 : г. Москва, Ковров переулок, дом. 33. 連絡先 : ds288@yandex.ru URL : http://kmb-4.mskobr.ru/dou_edu/strukturnoe_podrazdelenie_quot_detskij_sad_quot_288_quot/4. 入手資料 : 幼稚園パンフレット |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

1. 幼稚園におけるインクルーシブ教育のあり方

10 月 15 日の昼 14 時頃、第 288 番幼稚園を訪問した¹⁰。モスクワの中心地から車で 1 時間超の場所にあり、周囲は住宅に囲まれた閑静な場所に園はあった。

出迎えてくれたのは園長のプロチュハエヴァ・マリア・ミハイロヴナ氏であった。彼女に従い園に入る。園長の話によると、この園は 2009 年に設立され、広さは 5000 平方メートル、敷地の中央に 3 階建ての施設がある。ちなみに職員数は 87 人(うち 15 人が現在育児休暇中)とのことであった。

まず、園のグラウンドや花壇、そして遊具などを案内してもらった。広大な施設の中には写真にあるような園児が遊ぶための遊戯が数多く設けられていた。日本でもよく見かけるものもあったが、我々がついのめり込んでしまうような、非常に興味深い遊戯もいくつかあった。

校舎の脇に作られていた花壇には生徒が植えたという多くの草花があり、季節によって様々な花が園を彩るといふ。一通り案内して頂いた後、校舎の中に通された。

さて、我々がこの園を訪問したのには大きな理由がある。この園は 2008 年度の国主催の「将来の就学前施設」というコンクールで賞を受け、国からの補助金を得て設立されたものである。この園の特色は、ロシアではまだ少ない就学前施設でインクルーシブ教育を実施していることにあり、ロシアのインクルーシブ教育の現状をうかがい知る上で欠かせない施設の一つだと判断したからであった。

¹⁰ 私たちが訪問した様子が第 288 番就学前施設のホームページにて紹介されている。[http://kmb-4.mskobr.ru/dou_edu/strukturnoe_podrazdelenie_quot_detskij_sad_quot_288_quot/novosti/15_oktyabrya_2015_goda_sp_detskij_sad_288_posetila_delegaciya_iz_yaponii/] (2016 年 3 月 5 日閲覧)



園内に設置されていた遊具



園の入り口



廊下に張られた職員のディプロマ

思い返せば、2012年5月7日、ウラジーミル・プーチン第4代ロシア連邦大統領はその就任に際して13本の大統領令に署名した（このうち10本は、現在の任期が切れる2018年前後までの期間を対象とした国家目標を定めている）。その中の一つ、大統領令第599号「教育及び科学の分野における国家政策の実施について」においては、職業教育や就学前教育等の充実が掲げられている。具体的には、2016年までに3歳から6歳までの未就学児童全てが就学前教育を受けられるようにする、とある¹¹。就学前教育の拡充が目指されている中で、では具体的にどのような設備や性格を備えたものが必要とされ、また拡充されつつあるのかをうかがい知る上で、この第288番幼稚園は大きなヒントを与えてくれるように考えられる。

先にこの園の広さなどについて触れたが、もう少し詳しく述べておきたい。校舎の中には簡単な工作ができる工房や25メートルプール、そして特別な感覚治療部屋なども設置されている。この園には、現在（2015年10月時）440人の園児がおり、このうち何らかの障がいを持っている園児は160人にのぼる。この障がいの内訳として、もう児が2人、難聴児が2人、肢体不自由児が17人、そしてダウン症児36人等という説明を受けた（この数字は合計の数字として160人とならない。確認のため園長あてに質問のメールを出したが、この報告書の執筆時に返事は受けていない。）。

この440人という数字は、一つの園が抱える人数としてはかなり多いほうである。園長いわく、一つの施設は通常80人～100人程度が定員となっており、地区ごとに施設は設置されるようだが、とりわけこの地域は住民が多いことから定員が多めに設定されているとのことであった。また、この園は地域の保護者から良い評価を受けているようであり、毎年受け入れ希望が定員を上回っているようだ。

またこの園の特徴としてもう1点触れておく必要がある。この園は、初等教育学校を併設するコレージュの「就学前施設」として位置づけられている。システムが複雑だが、この園を卒業すると市の中心部にある初等教育学校に希望者は全員入学することができるという。この園では初等教育の1年次クラスが設置されており、市の中心部にある初等学校

¹¹ 小泉悠「プーチン政権の優先政策課題」『外国の立法』国立国会図書館、
[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3507778_po_02520102.pdf?contentNo=1](2016年3月5日閲覧)

には 2 年時から入ることも可能であるという。園長いわく、その初等学校でもこの園同様のインクルーシブ教育が実施されているとのことであった。

また費用についても質問してみた。国からの補助金で運営されていることからこの園は国立であることはいうまでもないが、この園に子どもを預ける際の費用は、保護者が子ども 1 人当たり 20%を支払うこととされ、3 人以上の子どもがいる場合については全額無料扱いされるという。



教室の様子

このように園について説明を受けた後、具体的な話に入っていった。インクルーシブ教育を実施する上で、この園では2つのクラスが用意されている。それはインクルーシブクラス(児童数は 1 クラス 17 人：このうち 4 人が障がい児。紹介されたクラスの障がい児の内訳は、ダウン症児、難聴児、肢体不自由かつろうである児童、自閉症児)と、障がい児のみのクラス(同 9 人)である。クラスは両隣に位置し、その中央にはちょっとした交流スペース

スが確保されており、休み時間などには両クラスの児童が会話をしたり、遊ぶなど交流を持つ場が用意されている。



授業について質問したところ、インクルーシブクラスには障がいの程度が軽度の児童が参加しているとのこと、とりわけ細かな説明を引き出す時間がなかったが、先に触れた特別な感覚治療部屋での感覚を養う訓練の他、ダンスホールでのリズム感覚を養うダンスの授業(左写真)が実施されていたため、そちらを見学することが許可された。これらは、個々の児童に合わせた追加、個別的な授業という位置づけであった。

2. 教員の採用について

また、その後本科研のテーマである教員養について話題は移った。この園には、モスクワ大学やモスクワ教育大学の生徒らが毎年実習にやってくるという。この園で働くことを希望する学生もいるようだが、園長は彼らの実習活動を観察し、学生らがどのようなクリエイティブな活動をするのか、イマジネーションに富んだ活動をするか、そして責任感があるかを重視し採用、不採用を決定するという。

また採用された後に先生は、個別の追加、個別的授業の担当者になるか、またはクラスの授業を担当するかを決められる。これは決して自分で選ぶことはできないようだ。園内に設置される委員会が、誰がどのクラスや授業を担当するかを決める。園長いわく、とりわけ障がい児クラスを担当する教員は他の担当に比べて技能や体力的に優れた人が選ばれるという。だが、教員の精神的な負担を考えると、インクルーシブクラスと障がい児クラスの2つのクラス間で担当を交代することもあるという。

教員の技能向上を目指して、園ではセミナーが毎週開催されている。先生や医者、そして教育方法学者などが集まり、園内の問題の検討をする。また、教員同士で授業見学やピ

デオ撮影などをし、検討しあう場が設けられているという。

今回この園を訪問した時間が遅かったこともあり、追加、個別的授業以外の授業風景を見学することはできなかった。インクルーシブクラスと障がい児クラスが両隣に設けられ、その間に交流スペースが設けられていたが、休み時間等にどのような会話や交流が持たれているのかは非常に興味深かった。この園には勤務を希望する学生が数多くやって来るとのことであったが、教員の負担を園としてどのようにサポートしているのか、という点についてはうかがい知ることができなかった。今後はこうした現場の「声」に注意深く耳を傾けながら教育行政や教育研究機関の教員養成のあり方を注視していきたい。

<2010年10月16日(金)>

⑦スモーリン・オレグ・ニコラエヴィチ氏への聞き取り調査

(訪問時間：10:00～12:00)

1. 対応者：Смолин Олег Николаевич
(Депутат Госдумы, первый зампред Комитета по образованию)
2. 住所：議員会館内事務所
103265, Москва, ул. Охотный ряд, 1, Государственная Дума РФ.
3. 連絡先：個人の連絡先なので記載は控える
4. 入手資料：なし

1. Смолин 氏

スモーリン氏は、鋭い批判的な思考と創造的な構想力で知られ、日本でも論文が紹介されている。国会議員で、ロシア下院教育委員会第一副委員長である。

スモーリン氏のサイトの情報を以下に紹介する

- депутат Госдумы, первый зампред Комитета по образованию;
- доктор философских наук, член-корреспондент РАО;
- первый вице-президент Паралимпийского комитета РФ;
- председатель Общероссийского общественного движения «Образование — для всех»;
- президент Ассоциации издателей и пользователей учебной литературы «Российский учебник»

スモーリンさんのサイト＝ <http://www.smolin.ru/> の情報。

スモーリン氏のご両親は、教員であった。氏の視力障害は先天障害ではなく、新生児期～乳児期の失明であったのかもしれない。ホームページでは視覚障害については、「фактически слепым от рождения」と書かれているので、誕生時には若干の視力があつたのかもしれない。スモーリン氏は中等教育の段階で音楽学校に進学している。視力を失い、点字で文章を読むが、両手を使い、視覚障害の無い人よりも速読できる、と秘書が驚いていた。

2. 教育の問題状況とは

- (1) 教育への国家予算が少ない。



スモーリン氏

ロシアは、教育費の占める割合が、OECD のリストによれば、先進国中、下から 2 番目である。教育の近代化のためには、教育費の比率を上げるべきである。しかし、2015 年の予算では、前年よりも低くなってしまったし、残念ながら、2016 年はもっと低くなると思う。

(2) 教員の労働形態

教員の給与は高くなった。しかし、長時間働くことが必要になった。学校教員の伝統的な労働時間は、1 週 18 授業で、それに授業準備時間を加え、40 時間であった。現在は、平均 28 授業なので、準備時間を加

えると、60 時間働くことになる。それが無理となると、準備時間をカットすることになってしまう。大事なものは、授業準備なので、[事態を改善するために] 法案を提出した。

(3) 官僚主義

各学校は、毎年 300 ものレポートを準備する。ロシアの教員は、レポートを書くために多くの時間を割いている。三分の二は国レベルのペーパーで、三分の一は地方機関のために準備する書類である。

そこで、スモーリン氏たちは下院の教育委員会に提案を行った、という。

教育官僚は、学校のサイトから情報を得るべきであり、教育に対するチェックは、8 月に 1 回だけ行えば十分だ、と彼は言う。

(4) 教育の質と学習の質

半信半疑だが、国際学力比較調査 [TIMSS] によれば、小学校は世界のトップクラスのひとつである。PISA でも順位は向上した。30-40 位だろう。

しかし、統一国家試験をみれば、32 パーセントが、太陽は地球の衛星と思っている。[基礎学力の低さを示す事例がいくつも紹介された]。[国際学力調査の結果が向上しても、] 現在の生徒の四分の一が答えられない問題を、40 年前はすべての子どもたちが答えられた。

ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」という原則に違反している、といわれている。

3. 人格（リーチノスチ）を育てることが大事

訓育（育てる：ヴァスピターニア）戦略は国の戦略である。[訓育をめぐる問題は山積している。] 問題の一つは、麻薬である。850 万人が麻薬に手を出している。300 万人が麻薬中毒である。特に若者に多い。

もう一つの問題。それは、助け合いの気持がなくなったことである。1992 年、ロシアの若者の 60 パーセントが、助け合い・相互援助を重視していたが、現在は、競争的な個人主義が強くなった。自分の達成に満足するが、何よりも一番満足するのは他者の失敗だ、という。

訓育戦略は、学校と家族の協力が必要というが、委員会 [上のコミティー] は、子どもを育てる人間を育てるのが必要だとみている。

また、不平等も犯罪の基礎になるから、不平等を克服すべきだ。だが、国の訓育戦略にはその問題は書き込まれていない。

4. 教員養成について

ソ連解体後の実態について、次のように語られた。(1) 連邦解体後、教員養成大学への進学は否定的な選択となった。どういうことかということ、大学入学が希望通りにいかないと、つまり、失敗すると、教員養成大学に進学する、というわけだ。(2) 教員養成大学の卒業に際して、就職活動がうまくいかないと、教員になる。

教員の給与が高くなったことはいいことだ。地方で教員の給与が、平均収入よりも高く

なれば、若者は教員養成大学に行くようになる。とはいえ、給与が上がったものの、2 倍も働くことになった。こうなると、自分を発達させるための自己学習ができない。

5. 高等教育

統合案がある、という。〔高等教育施設の 40 パーセントを廃止する案がある：スモーリン氏の論文による。〕

6. 障がい教育

ソ連の障がい教育はよかった。主に特別学校での教育実践が優れていた。今はインクルージョンが強くなった。子どもにふさわしい条件を、インクルージョン学校に作らないと、意味がない。特別学校で学んだ子どもの方が、インクルージョン学校で学んだ子どもよりも知識水準が高いという事例もある。

スモーリン氏が学んだ全寮制学校は、とてもよいシステムであった、とのこと。特別学校的なシステムとインクルージョン的なシステムの両方が必要である、と指摘された。

7. 感想

インタビューに協力して下さった方々の言説は、客観的事象に裏付けられている。とはいえ、目指すべき理念は掲げられるものの、ふつうの人々を引き付けるような、その実現へのアプローチが示されていない。国会への提言の提出などの具体的な活動は注目できるが、教育を具体的に改善するための方途が、鮮明ではない。

しかし、社会事象の社会科学的な分析、歴史的なアプローチなど、事象の背景を深く掘り下げる学問的な手法は見事である。産業や経済の発展（新自由主義的な成長論）からではなく、まず人間からという発想の転換、自然（エコロジー）と人間を第一に考える姿勢は、現状では新自由主義のグローバルな展開に対して劣勢を余儀なくされているが、しだいにグローバルに共感者を生み出す可能性も帯びている。このグループの主催する国際学会には国内外から多数が出席している。

彼・彼女たちの指摘が、わが国のことかと思われるときがあり、たびたびはっとさせられた。教育のグローバル化は、各国の歴史と個性を背景に押しやり、教育改革をグローバルに画一化させているように見える。この画一化に従うことは、研究者にとって世界の潮流の最先端を行っているようで気持ちいいかもしれないが、山積する深刻な教育問題と重層的な大きな格差の実状を前にすると、なんとかしなくてはならないと思わずにはいられない。厳しい現実批判と、それを踏まえた創造的な理論と、学問的に裏付けられた実際的な運動が必要と思われる。「批判的マルクス主義派」の人々は、この作業の手がかりの一部をソ連という歴史の批判的検討から得ようとしている。

インタビュー対象者や「批判的マルクス主義派」の人々が示唆するように、ようやくソヴェト教育の正の側面と負の側面を腑分けして、前者を現代的に再構成し、後者を根本的に解析するときが来たように思う。

今求められているのは、過去を無視することではなく、一步踏み込んで、帝政ロシアと社会主義ソヴェトと現ロシアの教育を比較する視野と切り口ではなかろうか。

参考文献

岡田進(2015年)『ロシアでの討論 ソ連論と未来社会論をめぐって』ブックレット・ロゴスNo.10

関啓子(2015年)書評「岡田進著『ロシアでの討論 ソ連論と未来社会論をめぐって』『ロシア・ユーラシアの経済と社会』No.999、2015年11月号、45-49ページ

モスクワ調査③報告書

2016年2月24日～29日（6日間）

岩崎 正吾
森岡 修一
松永 裕二

○調査日程

日付	時間	移動・調査機関
2016年 2月24日（水）	10:45 15:00	成田発 JL441 (S74122) 便 モスクワ（ドモジェードボ空港）着 ホテル（ホリデーイン・レスナーヤ）4泊
2月25日（木）	10:00～12:00 14:00～15:30	①高等経済大学教育研究所 ② ロシア国立社会大学 ○社会活動・教育・総合青年学部（факультет социальной работы, педагогики и ювенологии） ○心理・社会医療・適応リハビリ技術学部（Факультет психологии, социальной медицины и адаптационно-реабилитационных технологий）
2月26日（金）	13:30～15:30 16:00～18:00	③私立ロシア新大学 ○心理・教育学部 ④ロシア国立人文大学 ○ヴィゴツキー記念心理インストゥート
2月27日（土）	10:00～12:30 13:00～15:00	⑤子ども・青少年創造発達センター「テフノラーマ」 ③ ⑥テフノラーマにて円卓会議
2月28日（日）	17:00	モスクワ（ドモジェードボ空港）発 JL440 (S74121) 便／機内1泊
2月29日（月）	8:35	成田着

<2016年2月25日（木）>

①高等経済大学教育研究所 Институт образования НИУ «Высшая школа экономики»（訪問時間：10:00～12:00）

<p>1. 対応者：</p> <p>①Александр Михайлович Сидоркин（教育研究所教育プログラム局長） ②Семен Васильевич Янкевич(教育研究所応用法開発センター主任研究員) ③Сергей Геннадьевич Косарецкий(教育研究所学校社会経済発展センター長) ④Куприянов Борис Викторович（教育研究所学校社会経済発展センター研究員）</p> <p>2. 住所：Москва 101000 Россия, Потаповский пер. 16/10</p> <p>3. 連絡先：Тел.: + 7 (495) 772-9590-23061(Янкевич), 8-962-902-3696(Куприянов) E-mail: syankevich@hse.ru, boriskuprianoff2012@yandex.ru</p> <p>4. 入手資料：</p>

① Центр социально-экономического развития школы Института бразования, ДОПОЛНИТЕЛЬНОЕ ОБРАЗОВАНИЕ ДЕТЕЙ В РОССИЙСКОЙ ФЕДЕРАЦИИ (Высшая школа экономики, Москва, 2016 www.hse.ru) (パワーポイント資料)

② Boris Kupriyanov, CHILDREN'S LEISURE ACTIVITIES / TWO GENERATIONS OF RUSSIANS – A sociological study of parents of schoolchildren –

③ 法律資料

- ФЗ ОБ ОБРАЗОВАНИИ
- Федеральная целевая программа развития образования на 2015-2020 годы
- Указ о мерах по реализации государственной социальной политики №597
- Профессиональный стандарт - педагог
- Профессиональный стандарт – педагог дополнительного образования
- Программа поэтапного совершенствования системы оплаты труда в государственных (муниципальных) учреждениях на 2012 - 2018 годы.
- Национальная стратегия действий в интересах детей на 2012 - 2017 годы
- Концепция развития дополнительного образования детей
- ФГОС среднего общего образования / ФГОС основного общего образования / ФГОС начального общего образования / ФГОС дошкольного образования



【教員の職業スタンダードについて】

教員の職業スタンダードと教員養成スタンダードの二つのスタンダードは関連性があると思がちだが、そうではない。というのも、管轄する役所が異なり、独立した形で作成されたからである。教員の職業スタンダードの方には、ロシアで有名なヤンブルク校長が積極的に参加して作成された。

私（Александр Сидоркин）が思うには、教員の職業スタンダードは、教員に対しては要求が高すぎて現実的ではない。ただ、このスタンダードをめぐる議論は、ロシアにおいて教員がやるべきことは何かなど、とても活発に行われた。その意味では極めて有意義であ

った。

教員の職業スタンダードは、就学前、初等、基礎、中等教育のそれぞれの職業専門に関して定められたものだが、私（Сергей Косарецкий）の見解だが、それぞれのレベルが書かれているにも拘わらず、各段階の教員の発達や資質のレベルが示されていない。これは欠点である。先進的な教育プログラムには、そうした教員の資質についても言及されており、そうしたスタンダード構想においては、教員の活動の現状や資質について評価することも可能であり、教員の成長に関する評価も可能になると聞いている。教育・科学省もこうした欠点については認識しており、レベル・アプローチを取り入れると聞いている。

スタンダード自体は構造的な枠組みをもっており、連邦レベルだけでなく、地域や学校の要素を取り入れることも可能である。スタンダードの長所の一つは、心理学的な要素を多く取り入れ、一般の生徒だけでなく、できる生徒や困難を抱えた生徒に対して、どのように対応すべきが書かれていることである。また、スタンダードは、教員がその実践活動の中でヴィゴツキーやルリアの歴史・文化的アプローチを取り入れることを求めている。

しかし、この教員の職業スタンダードを高等教育段階で使用すると、少しギャップが見られる。昨年、当研究所は、連邦オペレーターとして、日本も参加している教員の国際的調査であるタリスに係わったが、その調査の結果、特に若手の教師は身体障害者や困難を抱えた生徒などへの指導に問題があり、職業上の資質や能力の課題となっていることが明らかとなった。2014年にタリスの教育大臣会議が開催されたときに、私（Сергей Косарецкий）も代表団の一人として出席したのだが、ロシアの教育大臣のリバーノフは、タリス調査の結果を考慮に入れて、教員養成や教員の資格向上に取り入れなければならないと表明した。

また、教師教育に関する重点の一つは、実際の学校現場における教育実習の際に実技をできるだけ多く取り入れることである。

【効率的契約の導入（внедрение эффективного контракта）の意味について】

この用語には、イデオロギー的要素と規範的法的要素がある。2011年から大統領令で出されている課題で、徐々に実現されている課題なのだが、教員給与の引き上げの問題がある。効率的契約とは、一つにはこのことに関連しており、教員がバイトや家庭教師などをしなくても、その職業活動を遂行することができることを意味している。教育法やその関連法令の中で規定されているのは、教員の平均給料は、その地域の平均給料以下になってはいけないということである。また、他方で、教員給与の引き上げ際して、国家は教員に対してその活動に対する要求を高めた。すなわち、教員の活動の質を高めることを要求している。

具体的に給料を決めるために、教員の活動の効率評価指数を作成した。効率的契約は、教育分野だけではなく、労働関係やその他の分野の契約にも関係している。補足すると（Семен Янкевич）、効率契約という言葉は、法的に決定された用語ではない。これは、ロードマップを定めているロシア政府の政令によって決定されている。法的に言えば、ロシア連邦法上の「労働契約」と同じものである。労働契約は、セルゲイ氏が述べたように、教育機関と教員との関係を定めた文書である。この労働契約の中に、効率評価指数がそれぞれ示されている。教員は、決まった目標をどれだけ達成しているかによって給料も決定される。

これまでは（Сергей Косарецкий）、教員の給料は、基本給とボーナス的部分によって構成されていた。このボーナス的部分は地域内でも地域間によっても大きな違いがあった。余りに格差が開いたので、労働組合の依頼があり、基本給の方を上げて、ボーナス的部分の割合を少なくするという事になった。

【補充教育教員のスタンダードについて】

補充教育の教員については（Борис Куприянов）、独立したスタンダードが今年の9月8日に作成された。現在は、この効率的契約に基づく活動が行われるように、契約が進めら

れている段階にある。このスタンダードは、2014年に補充教育発展の基本構想が出された翌年の2015年に出されたものである。

補充教育教員のスタンダードをも含めて、以上の資料等について、ロシア語バージョンでよければ、差し上げることができる（Александр Сидоркин）。

【効率的契約の思想と OBE との相違について】

基本的には OBE と同じアイデアである（Александр Сидоркин）。ただ、残念なことに、ロシアでは子どもたちの成果をはかるテストなど、資料が大変少ない。成果については見えないままであり、また、その成果についても客観的な測り方がないという問題を含んでいる。もう一つのアイデアは、教員は、自分の義務や責任や自分の出した成果について、学校の指導部と話し合うことができるようになるということだ。この研究所は、効率的契約の考え方については賛成なのだが、ただ、労働組合からは、集団契約ができなくなるという批判があがっている。

【教員の給料格差について】

効率的契約は、これは人によってとらえ方も違うが、私（Сергей Косарецкий）の考えでは、格差を無くすと言うより、格差をつけるという考えに立っている。つまり、効率的契約は、地域の平均的給料以下になってはいけないという前提の下で考えられているので、格差を認めているということになる。

ロシアは地域により、経済や社会など、その他の特徴が極めて多様であり、地域差と共に学校への予算の配分についても様々であり、共通の連邦スタンダードを導入する妨げとなっている。既述のように、ロシア連邦では、地域予算の中で、地域の平均給与以上という指標に基づいて、教育予算が作成され、教員の給料も支払われるという構造になっている。全ロシア連邦の平均給与によって教員給与を支払うようになると、地域の平均給与より遙かに高くなるどころと、地域の平均給与より少なくなるどころが出てくるので、これは問題である。

もう一つのロシアの特徴は、労働市場における人材の流動性が低いということである。モスクワ以外は、ある地域から他の地域へ働きに行くという現象はほとんど見られない。モスクワをめぐっては集中的移動はあるが、他の地域ではほとんど起きない。

ハンティ・マンシースクは、85の連邦構成主体のうち、生活水準の最も高い4つの地域（ヤマロ・ネネツ、モスクワ、チュメニ）の一つであり、確かにこの地域への移動はあるが、教員の移動が多いというデータはない。これらの地域は、石油採掘業と直接関係している。移動のネックとなっているのは住宅の購入問題である。給料が高くなっても、住めるようになるまでは短期間ではできない。もちろん、農村学校に就職させるのは難しい面が多いが、そのため、国は住居を与えたり、優遇措置を取ったりしている。

最も教員給与の高いチュコツ自治管区と最も低いアデゲイ共和国とでは、5倍以上の差があるが、チュコツ自治管区は製品や食料品が極めて高く、給料だけではなく、その他の指標との関係で見えていく必要もある。ロシアにおける北方地域には、生活条件が極めて厳しいので、追加手当も支払われている。「ロシアでは誰が最も良い生活を送っているか」というネクラソフの詩があるが、ロシアではどこで教員は良い生活を送っているか、という調査をするので、結果が出たらお知らせしても良い。

【補充教育教員のスタンダード意義について】

補充教育教員のスタンダードが作成されたこと自体、これまでのロシアではなかった前例のない活動である（Борис Куприянов）。これは、最近の5年間において開始されたプロセスで、それまでは補充教育教員の活動ノルマは作成されていなかった。

これまで、ロシアでは、長年にわたり、クラブ活動の指導者、児童音楽学校の教師、スポーツ学校の監督はそれぞれ異なった枠組みで活動していた。これらが統一されたことは全く新しいことだ。昨年の9月に作成されたスタンダードによれば、補充教育は、ロシア

連邦教育法に基づく教育プログラムを作成して活動することになっている。今までは、専門的（職業的）活動には大きなばらつきがあったが、これからは一定の共通の枠組みに準じて活動することになる。

【補充教育の無償性とアクセス性の法的保障について】

ロシア連邦教育法には、補充教育の無償性とアクセス性の法的保障については触れられていないが、それに関して、二つの大統領令がある。大統領令は、概して固定的なものではないが、その一つは、2012年からのもので、2020年までに、全生徒の75%を補充教育に包括するという目標を出している。この目標は各地域に対して厳しく管理されており、その達成は厳しくチェックされている。もう一つの大統領令は、児童のための国家戦略に係わるものだが、その中では、予算資金の範囲内で60%を包括するとなっている。ただ、この60%は厳しく管理されていない。この数字は、地域内、地域間及び都市の間でも異なっており、無償の補充教育を提供されている子どもと有償の補充教育を提供されている子どものばらつきがみられる。

【教員給与引き上げのロードマップについて】

2012年の国家機関の労働賃金の段階的改善プログラムでは、2018年までに平均給与と比較して、200%に引き上げる職種のものとして100%に引き上げる職種のもの2つのグレードが示されているが、これらは予定通りの進捗状況にあるのかについてである。

2倍になるのは、大学の教員等で、100%になるのは普通教育機関の教員等であるが、100%に引き上げられても、地域予算の赤字の問題が当時から存在しており、また、これは石油価格下落の前に開始されたものであり、進捗状況としては極めて厳しい。どこの地域でも、このように引き上げる資金がない。

高等教育機関ではそうではないかもしれないが、普通教育機関では、給料が上がると負担も大きくなると言われている。これは法的問題ではないのだが、議論としては、効率的契約の問題と係わっていると指摘する向きがある。みんなが同じ意見ではないのだが、一部でこうした意見がある。また、同じ学校の中でクラスの生徒数を増やすとか、現在、モスクワで積極的に行われているプロセスなのだが、学校の合併が進められており、これらによって、給料が高くなるということもある。

補充教育の教員に関しては、普通教育機関の教員より給料が低い、普通教育機関の教員と同程度に引き上げることが目指されており、給料が上がると負担が高くなると言われており、高等教育機関の場合は、教員の削減により、残った教員の給料が高くなることもあるという意見がある。まだ、正式なデータをもっていないが、地域によっては、正規の教員が非常勤の教員になるケースが多くなってきているという。

確かにこれらの問題点があるが、この研究所の専門家グループの意見では、給料を上げたケースは、ソ連時代でも、ソ連解体後も前例のないような出来事で、それによって今の経済の危機の中でも、教員のモチベーションが下がることや教員が仕事を辞めるといったことは避けられていると考えている。私どもの調査の結果によると、教員という職業は、競争力があり、社会に包摂されている職業の中で、現在の状況の中でも評判の高い職業になっている。今年は、教員養成大学の入試競争率と入学率が高くなり、今年の1年生は質が高いという声があがっている。

教師教育改革の構想によると、教員志望者が少なく、資格を取っても教員になる者が少ない上に、教員になったとしても転職が多いということが指摘されている。こうした傾向が止まったとはまだ言えないが、そうした状況の変容の兆しもあるということである。当然、地域によって異なるのだが、モスクワの場合は、他の職業との競争において教員が上回る場合も多い。皆さんが、日本語を教えて下されば、モスクワの学校で日本語教師として雇ってあげることもできる。

【成績の公表について】

日本では、学力テストの結果を県段階だけでなく、学校ごとに公表する動きがあり、成績を上げるために、余り芳しくない仕事をしたりするということが報道されているが、ロシアにおける結果の公表に関する議論について。

ロシアも同じである。生徒の学力を評価する方法がかなり制限されており、今までは、統一国家試験(ЕГЭ)しかなく、その結果によって、学校と教師の評価が行われ、ボーナスにも影響した。さらに、統一国家試験の結果は、地域の知事の活動の効率を評価する根拠の一つにもなっていた。当然、日本と同様に、成績の改ざんの事例もあったし、学校や教師は、統一国家試験のことにのみ専念するという動きも見られた。

2年前から、知事の活動の効率性評価から統一国家試験の平均点が外された。これは、上からの圧力を避けて、客観的評価ができるようにしたものである。その結果、透明性は増したように思われる。また、連邦レベルにおいては、各地域の統一国家試験の平均の結果や学校の評判等については公表しないようにした。ただ、地域内又は都市内では、それぞれの学校の成績を公表し、それによって学校の評判が決まる場合もある。

最近の2年間に、評価方法も拡大され、第11学年の統一国家試験だけでなく、第9学年の卒業試験やナショナル調査や国際調査などの結果も取り入れられるようになった。これらの結果の公表の是非については、現在様々な議論が行われている。ただ残念なことは、試験の結果は、ユーザーや親に対して向けられているのではなく、上部に対する報告として用いられているということである。

【補充教育教員の資格制度について】

以前と異なることは、校外活動の先生から補充教育の「教師」(педагог)に移行したことであり、今まではクラブ活動「担当」やクラブ活動「指導者」であったものが、「教師」となったので、教師教育という条件が必要となったことである。今までは、地域によってアプローチも異なり、補充教育教員になるにはそれほど厳しくはなかった。最近の4年間で、補充教育教師になる者は、高等教育を受けているか、中等または高等の教師教育を受けていなければならないことになった。例えば、専門性を持っている大学の研究者で、教師教育を受けていない者や産業や生産関係の技術者、非常事態省の専門家なども、補充教育を行うことはできる。

現在は、いくつかの矛盾も存在している。現在、補充教育を行っている教員の多くは、教師教育を受けた人たちである。例えば、非常勤で教えている人でも、元々は教師である。他方で、伝統的に形成されてきた補充教育のリソースが十分に利用されていないという意見もある。国家のトップレベルの発言の中では、この問題を解決するための具体的指示は出ているが、まだ解決されていない。職業スタンダードは共通になっても、補充教育機関は統一した管轄機関になったのではなく、今もまだそれぞれの省庁の管轄下にある。

例えば、スポーツ学校の場合、補充教育の部分もあれば、それに属さない部分もあり、補充教育として指導していれば、教員として指導することになり、補充教育外のプログラムに基づく活動であれば、スポーツ監督もしくはトレーナーとしての活動になる。

補充教育に関しては、2012年の教育法の中では、二つの種類のプログラムがある。一つは職業前教育プログラムであり、もう一つは普通教育の発達プログラムである。前者の職業前補充教育に関しては、教育条件や教育成果に対する要求が厳しく定められており、これは、学校の普通教育と同様である。後者の普通補充教育の発達プログラムでは、そうした要求は存在しておらず、かなりフレキシブルで、様々なバリエーションがある。

地域によって補充教育制度は違いが大きく、補充教育のレベルや管轄機関も異なり、教員の給料も異なり、補充教育にかかる費用も違いが大きい中で、補充教育においては学校よりももっと格差や違いが生じている。補充教育に関しては、こうした多様性やフレキシビリティがあるので、測定したり計算しにくい部分があり、国家機関としてはどのように取り扱うか困っている部分もある。

【補充教育の名称について】

学校教育の付属、補足と言った補充教育の名称のニュアンスについて。ロシアでは制度としての補充教育の歴史は、既に 100 年を超えている（ソビエト時代からは 2013 年で 95 年となる）のだが、分野によっては、例えば、音楽や美術に関しては 200 年前から行われている。一般的には、20 世紀の初めに、ポリシェヴィキ政権により、社会的プロジェクトとして成立した。このプロジェクトの基本的課題は、子どもたちの暇な時間をどのように組織するかであった。様々な要素が組み合わされて、自然な形で発展してきた。

一方で、芸術や美術分野の補充教育は、文化の見本に基づいて組織されているが、他方で、クラブ活動の要素もあり、子どもたちの具体的な興味・関心を伸ばし、コミュニケーションを行う場として組織されている。第三の要素として、小さなクラブの指導者や教員の考え方や価値観・世界観に基づいて組織されてきた面もある。これらの 3 つの柱があり、こうした多様性が社会に好意を持って受け入れられてきた。

ソ連時代にあったもう一つの要素は、現在は余り発展していないが、それは、社会的なイニシアチブのサポートという要素であった。子どもたちや大人がやりたい分野があって、国家的支援や社会的支援があり、金銭的な支援もあった。このようなイニシアチブに敏感になったり、社会的、文化的挑戦に対応する要素をこれから強化しなければならないと考えている。

【課外活動における教員の負担について】

タリスの調査の結果、日本の教師は授業だけでなく、部活の指導で大変忙しいという結果が出ている。日本の文科省は、チーム学校という形で、地域や様々な人たちが学校をサポートする体制をとることによって、教師の負担を減らそうとしているが、ロシアの補充教育の経験から学ぶことが多いのではないかということについて。

日本と異なり、ロシアの教師が補充教育を行う場合や部活の指導を行う場合には、教師としての活動の負担外のことになり、追加的な財務措置が取られる。この場合には、強制的にやらされるのではなく、教員の希望によるものであり、追加の報酬を得て授業を行うことになる。国家予算から支出している活動ではなく、父母の費用負担となっている活動に関しては特にそうである。いくつかの分野では、このことにより、補充教育の質に関するリスクが生じてくるが、他方で、補充教育の教員の方が普通の学校の教員より教え方がうまいという事例もある。ただ、補充的財務措置という制度があり、一般的には、補充教育機関の教員に担当させるより、学校の教員に担当させた方が有利であるとされている。

モスクワの例を挙げると、近年、独立した補充教育機関の数は、3分の1～5分の1に減少した。これは、なくなったわけではなく、独立していた機関が学校の中に編入されたということである。正式なデータを持っていないが、一つの動きとしては、学校の中の補充教育センターでは、補充教育機関の教師ではなく、学校の教師が補充教育を担当するようになってきている。しかしながら、学校や隣の補充教育センターではなく、外部の補充教育機関に通っている子どもたちに、その理由に関する調査を行ったら、教育のレベルが高いからと言う答が多かった。

補充教育の実施形態には、4つのバリエーションがある。一つは、学校の教師が補充教育を行う形態、第二は、学校の中で補充教育教師が常勤となって行う形態、第三は、補充教育機関の教師が学校に通ってくる形態、第四は、補充教育機関で補充教育教師が教える形態である。

現在の補充教育の活動分野は、従来の文化や芸術よりも科学・技術関係の分野が強化される傾向にある。日本は、ロボット技術やエンジニア育成に優れているのだが、技術分野にのみ重点を置きすぎると、その成果が上がらない場合もあり、芸術関係の発展が落ち込んでしまうという恐れもあるので、バランスを取った発展戦略が重要になる。

②ロシア国立社会大学（Российский государственный социальный университет）（訪問時間：14時～16時）

- （1）社会活動・教育・総合青年学部（Факультет социальной работы, педагогики и ювеналии）
- （2）心理・社会医療・適応リハビリ技術学部（Факультет психологии, социальной медицины и адапционно-реабилитационных технологий）

1. 対応者：シジコワ・ヴァレーリヤ・ヴィクトローヴナ（Сизикова Валерия Викторовна(1)の学部長）、ペトロワ・エレナ・アレクセーエヴナ（Петрова Елена Алексеевна(2)の学部長）、他に男性2名、女性1名
2. 住所：ул. Лосиноостровская д.24, каб 320
3. 連絡先：8-926-326-9106、<http://www.rgsu.net/>
4. 入手資料：なし



ロシア国立社会大学について

1991年創設の新しい国立大学。СНГ 内で唯一の государственный социальный университет で、社会的分野の管理職エリート（управленческая элита）の養成を目的としている。訪問当時は、社会・人文学部、外国語学部、情報技術学部、芸術・社会文化活動学部、心理・社会医療・適応リハビリ技術学部、社会保険・経済・労働社会学部、社会行政・社会学部、社会活動・教育・総合青年学部、法律学部の9学部で構成されていたが、その後大幅な学部改組が行われ2016年7月現在では、人文学部、高等教育前教育学部、補充・専門教育学部、遠隔学習学部、芸術・社会文化活動学部、情報技術・セキュリティ学部、コミュニケーション・マネジメント学部、外国語学部、心理学部、科学/科学・教育要員養成学部、社会活動学部、心理学部、行政学部、体育学部、経済学部、法律学部の16学部によって構成されている。なお、社会活動・教育・総合青年学部は社会活動学部、心理・社会医療・適応リハビリ技術学部は心理学部に改組されたようである（2016年7月現在両学部の学部長は両学部とも同一人物であるので）。なお、本大学は、ロシア連邦および CIS 諸国に40以上の分校を擁する。学生数は分校を含めると10万人以上（モスクワ地域では8万人）と極めて大規模である。学生の大部分は無償学生である。

両学部長へのインタビュー内容

- ① 社会活動・教育・総合青年学部と心理・社会医療・適応リハビリ技術学部が本学で最大の学部。心理学関連の様々な専門家（特殊心理学、欠陥学など）も養成。また、アスピラント、カンディダートも養成。

- ② この大学が1991年に新しい創設された理由は、旧ソ連邦のペレストロイカ時代のロシア教育にとって社会的分野での活動は大変重要とみなされたこと、旧ソ連邦時代には存在しなかった新しい職業があらわれその養成も必要になったことによる。ソーシャルワーカーや社会心理士などの需要が高まったが、1990年までにはこの分野の人材を養成する国立大学は存在していなかった。
- ③ 本学には9学部がある。卒業生の9割は様々な社会的分野（学校外教育、補充教育、社会教育、社会体育、社会福祉）の他、教育分野でも働いている。
- ④ 本学は現在4年制（バカラブリアート）に移行しているが、一部の専攻にはまだ5年制のスペシャリスト養成課程がある。それは医療、心理職関連分野である。現在大学院制度の改革も進行中である。
- ⑤ 教員養成も3学部（芸術・社会文化活動学部、心理・社会医療・適応リハビリ技術学部、社会活動・教育・総合青年学部）で行っている。これらの学部では、IT関連分野の人材養成も行っている。
- ⑥ 心理・社会医療・適応リハビリ技術学部では、教員養成よりも心理関係職（学校心理士やSWなど）の養成が中心である。本学科の卒業生の9割は専攻分野で働いている。卒業生で補充教育担当教員になった者の25%程度が学校に就職し、残りの者は補充教育、社会教育関連の施設で働いている。
- ⑦ 2013年から職業スタンダード（第3世代）が作成され、これに基づいて教育スタンダードが作成されている。本学はこれに従って活動している。
- ⑧ 「教師教育の発展支援構想」（案）（2014年1月ロシア連邦教育科学省公表）に基づいて活動を始めた大学もある。この案の検討はまだ継続中である。
- ⑨ 本学でも学生のメンタルヘルスの問題はある。男女問題、家庭問題、進路関係などで学生の一部には鬱病などの精神疾患に罹患する者もいる。本学にはカウンセリングセンターがあって、このような学生のケアを行っている（森岡先生の質問：「日本では学生（女子学生）のメンタルヘルスが問題になっているが、貴学での状況、学生（女子学生）の悩みの傾向やその対策についてお聞きしたい。」への回答）
- ⑩ 本学の国際的な評価は悪くない。最近アメリカから視察団が来て、本学はハーバード大並みの良質な教育を行っていると評価した。本学は国際協力を力を入れている。日本の大学とも教員や学生の交換協定を結ぶなどして、国際協力を推進したい。本学は英文の科学雑誌も発行している。その編集長は Петрова Елена Алексеевна（心理・社会医療・適応リハビリ技術学部学部長）である。日本からの寄稿も大歓迎である。
二人の学部長は会議のために1時間ほどで退出。その後を二人の男性教員が引き継いだが、その内の一人はマカレンコの研究者であったので、岩崎先生が積極的に情報や意見の交換を行った。

<2016年2月26日（金）>

③私立ロシア新大学（Российский новый университет）、心理・教育学部
（Факультет психологии и педагогики）（訪問時間：14時～15時）

1. 対応者：アグネフ・アレクサンドル・セルゲーエヴィッチ（Огнев Александр Сергеевич 心理・教育学部長）
2. 住所：ул.Радио22, каб 305
3. 連絡先：8-915-250-6147、<http://vuz.edunetwork.ru/77/v517/>
4. 入手資料：Персональный навигатор



私立ロシア新大学について

1991年設立。学長はロシア私立大学協会会長でもある В.А.Зернов（技術学博士）。6学部（ビジネス・技術学部、人文学部、情報システム・コンピューター技術学部、心理・教育学部、経済・行政・財政学部、法学部）と2つの研究所を擁する。1999年から2012年の間、著名な物理学者である Сергей Петрович Капица(1928-2012)が本大学の研究活動を指導した。分校、通信制課程および付属カレッジ（中等専門学校）がある。

学部長へのインタビュー内容

- ① 本学は、もともとモスクワ物理技術大学の教授らによって創設されたもので、工学や産業分野の人材養成に力点を置いてきたが、総合大学なのだから自然科学だけでなく人文系、社会科学系の学部も必要ということになり、本学部（心理・教育学部）が開設された。本学部では、開設当初から最先端の教育を行っている。最新の教育環境を整え実践重視の教育を行っている。4年制（バカラブリアート）である。
- ② 効率性指標（Показатель эффективности）とはロシア連邦教育科学省が作成したもので、大学の活動をモニタリングする際の評価指標である。モニタリングの結果に応じて政府は大学に交付金を出している。その指標は、入学者の国家統一試験の平均点、教員充足率（常勤教員一人当たり学生数、修士号・博士号取得者比率など）、教育のための物的基盤の充実度（学生一人当たりの教室面積など）、卒業生の専攻分野への就職率など。（松永の質問：「貴大学の HR によれば、貴大学の Показатель эффективности は、2014年の4点（7点満点）が2015年には5点（7点満点）と改善したとのことだが、Показатель эффективности とは何か」への回答）
- ③ 私立大学には、効率性指標によるモニタリングの結果に基づいて、国家から無償入学枠が与えられる（国家発注枠でその経費は国家が負担する）。本学部には2012年から無償枠が与えられている。その数は心理系で10名、教育系で5名、計15名程度だが、この数は年度によって異なる。
- ④ 本学部学生の80%は女子である。心理・教育系の学部はもともと女子が多く、自然系・技術系には男子が多い。学部学生数は1000名ほどでその内の60%程度が社会人学生（勤労学生）である。夜間制、通信制もあるが、本学部は週7日間（つまり土日も）授業を行っている。夜も10時まで授業を行っている。勤労学生の殆どは就学前教育機関で働いている者が将来働きたいと思っている者である。一般に勤労学生は学習意欲が強く、学部の授業に対する要望も厳しい。近年モスクワ市では就学前教育機関の保育士・教員への需要が高まっているが、モスクワの多くの大学がその養成を止めてしまっているので、本学部の存在意義は大きい。
- ⑤ 『Персональный навигатор』という冊子（入手資料）を使って、学生のキャリアガイダンス、キャリア教育を行っている。この冊子は、ヴィゴツキー、レオンチェフ、ガルペリンらの理論を参考にして作成したものである。例えば、教職を目指している者には、この冊子を通して、教員としてのコンピテンス、人生行路のたどり方、人生目標

- の達成の仕方、社会的存在としての自己の在り方などを考えてもらっている。
- ⑥ ロシアにおける私立大学の発展可能性についてということだが、ロシアでは今後も私立大学の役割はあまり大きくならないであろう。一部の有力な私立大学は今後も生き残り一定の役割を果たすと思うが、既存の私立大学のすべてが生き残れるとは思わない。ロシアの私立大学の多くは、今後国立大学への併合・吸収合併、PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）とかの生き残りの道を模索せざるをえないであろう。（松永の質問：「ロシアにおける私立大学の発展可能性についてのご意見を」に対する回答）

<2016年2月26日（金）>

④ロシア国立人文大学ヴィゴツキー記念心理インスティトゥート Институт Психологии им. Л.С.Выготского РГГУ（訪問時間：16:00～18:00）

1. 対応者：
 - ① クラフツォーバ、エレナ・エヴゲーニエヴナ(ekravcva@rambler.ru)夫妻での対応懇談
 - ② ジリャーエブ、アンドレイ・ゲンナリエヴィチ(mebix@yandex.ru)
 - ③ 他 2名の研究者
2. 住所：125993, ГСП-3, Москва, Миусская площадь, д.6
3. 連絡先：Тел (495) 973-4016, 973-4017, Email: priemnik_ip@mail.ru、
サイト：psychology.rsu.ru
4. 入手資料：
 - ① 『インスティトゥート案内』（ロシア語、英語）
 - ② 『ヴィゴツキー全集』（ロシア語版、全16巻刊行予定のうち）第1巻（全750頁）、201年発行。（第2巻は2016年11月刊行予定。第3巻以降は順次刊行予定）



<1> ヴィゴツキー研究の現在

当インスティトゥートは1995年に創設されたが、翌96年にヴィゴツキー生誕100年記念日を迎えたのを機に、ヴィゴツキーの名を冠することになった。

エヴゲーニエヴナ氏の説明によると

- ① モスクワ大学ではヴィゴツキーよりもレオンチェフの影響力が大。
- ② ヴィゴツキーの伝統は本学において、より保たれている。
- ③ ヴィゴツキーの文章は一見平易だが、解釈が難解。
とのことであり、レオンチェフとヴィゴツキーの異同についても興味深い指摘があった。1, 2の点については後述するが、第3の点に関しては、森岡が『心理学の危機』（柴田・藤本・森岡・訳、明治図書、1987年）に基づき、マルクスやヘーゲル等の豊

富な引用が随所にみられること（たとえば同書「心理学の危機の歴史的意味」の冒頭の、マタイ福音書からの引用<建築家に一瞥もされなかつた石が重要視されることになった...>における、その「石」になるのは実践と哲学との統一であることのメタファーの複雑さ）に触れ、さらにヴィゴツキーの文章は一見平易に思えるが、ポドテクストとしては深い内容を含意しており、その解釈には厳密なテクストクリティックが前提となることを指摘したところ、エヴゲーニエヴナ氏も全面的に賛意を表明された。特にヴィゴツキーの著作は、これまでもかなり多様に解釈され、外国でも明らかな誤読と思われレケースが見られるので、その点も配慮したうえで注釈にも細心の注意を払い、今回未公開文献も含めた全16巻の全集を刊行することとしたとのことであった。

入手資料（上記）の同書は、全700頁超の大部のものであり、きわめて興味深い論稿が収録されている。柴田義松氏がすでに邦訳した『芸術心理学』を中心に芸術・演劇（ハムレット等）に関する未公開の論稿、心理・教育・哲学者・芸術家等（たとえばバフチン、ゴーリキー、ルナチャルスキー、バーナードショー、アンナ・アフマトヴァ、オストロフスキー、スタニスラフスキー、メイエルホリド、等々）のそれぞれ1頁大の多彩な写真、手稿等がセンス良く収録されており、読む楽しさとともに学術的価値が高い。同全集はソブキン（В.С.Собкин）を中心とした監修・編集グループによる注目すべき成果であり、第1巻の劈頭における75頁に及ぶソブキンの序論・解説は最新のヴィゴツキー研究のレベルを示しており、今後の重要な里程標となるであろう。今後は岩崎・松永両先生・ニコルスメンバーとも共同で、同書の重要文献を検討してみたいと考えている。

<2> インスティトゥートの理念と実践

次に、教育スタンダードの変遷と基本的理念について岩崎先生から質問がだされ、教育スタンダードの基本的理念は「普遍的」がキーワードとなることが示された。さらに幼稚園の評価指標としては、<知識><能力><技能>が基本的指標であり、教育活動、教授＝学習がそのベースとなるとの説明であった。

<普遍的行為>

・教育の心理学的要素が初めて国家的レベルで認められるようになってきた。

「教育は発達を導く」は、その際のヴィゴツキーの重要な基本的テーゼである。

「読み・書き・計算」は可視的で記録・評価が比較的容易だが、<普遍的行為>は不可視的であり、記録や評価は容易でない点を十分考慮しておく必要がある。その観点からも、教員がヴィゴツキーの思想を十分理解しないで生半可な解釈で生徒に接することは危険である。

<黄金のカギ>

「小さな子供のための学校は小さな学校であってはならない」

・幼稚園のない時代は家族全体が学校であった。

ヴィゴツキーの言う「異年齢集団」の教育（協同的教育＝発達の最近接領域の活性化）が重要。

⇒ 家族的雰囲気のある学校＝父母の役割の重要性。

<知的影響> 「知能」にとっては「感情」が重要。

・「教える」主導の教育をやめて子どもの感情を豊かにする「イベント」（イマジネーションの役割）の教育。

⇒ おとぎ話、珍しいおもちゃ、クマのぬいぐるみなど。

・未知の国への関心。行ったことのない国への想像力（北の国、南の国へのイマジネーション⇒日本への興味）、音楽の要素も取り入れる。

<継承>

・「黄金のカギ」プロジェクトは小学生も参加。読み・書き・計算等すべての要素を含む。

低学年では家のおもちゃを作る中で、長さの概念等の学習。年長者が年少者を指導して、何が不足しているかを自己認識。

・「黄金のカギ」プロジェクトは25年の歴史。

幼少期からこのプロジェクトで育った子供は異なった反応を示す。

ここでは学校の教師は子供に「規律」を教える必要がない。⇒<自律>の精神。

ダヴィドフとの関連性

・生徒は<自律>の精神により健康レベルも高く、教師がいなくても規律を守ることができる。

↓ ↓

・思春期では「抽象的思考への関心」が高まる。（ヴィゴツキー『思春期の心理学』柴田義松・森岡修一・中村和夫訳、明治図書、2004年、参照）

<社会的・心理学的トレランス>の重視。

「黄金のカギ」の授業を受けた生徒は<社会的・心理学的トレランス>が高い。

・ただ、就学前期と思春期との中間項におけるプログラムがあまりないことが問題。

思春期ではスポーツ等において「競争」原理が多い、＝不寛容な心的態度

<3> レオンチェフとヴィゴツキー

・レオンチェフとヴィゴツキーの解釈の比較

レオンチェフはヴィゴツキーと異なった解釈 ⇒ 歴史的・文化的理論の相違

レオンチェフは伝統的メソッドだがヴィゴツキーは異なる。

ヴィゴツキー；意味合いから意義へ（意味⇒意義）

レオンチェフ；意義から意味あいへ（意義⇒意味）

「道具主義」の解釈の違い*

*附記；この点に関しては『心理学の危機』（柴田・藤本・森岡・訳、前掲書）の序文（A.H.レオンチェフ執筆、p7-50）とヴィゴツキー自身の報告「心理学における道具主義的方法」（p. 51-59）（1930年）における<道具主義>を比較していただきたい。

「活動理論」の検討の必要性**

**附記；心理学者 A.H.レオンチェフの子息である言語学者 A.A.レオンチェフ監修『現代ソビエト心理学—言語活動理論の基礎—』（米重史樹・森岡修一・桑野隆 訳）（上・下）明治図書、1980 の第1部「言語活動の存在論」は、A.H.レオンチェフの担当執筆になるものであり、第1章（活動についての一般的概念）、第2章（言語活動）、第3章（発話の多様性の諸要因）について、邦訳38ページにわたり「活動」理論が詳述されている。ヴィゴツキーが活動理論であるか否かについては、中村和夫氏の詳細かつ厳密な分析があり、天野清氏らの主張とともに森岡も中村氏の「ヴィゴツキーは活動理論ではない」との主張に賛同するものである。

<4> その他の質疑

松永先生・岩崎先生の質問

・<黄金のカギ>プロジェクトは成果を上げているにもかかわらず、広範な普及を見せていないのはなぜか？

・理想的な子供とは？

等について、活発な質疑応答が続いた。

議論が白熱したため、当初予定していた附設のヴィゴツキー博物館の開館時間を過ぎてしまい、貴重な展示物を見ることができなかったのは大変残念であった。次回はぜひ博物館の見学を果たしたい。同インスティトゥートは、これまで日本人研究者とも交流があるとのことで、われわれとしても今後、活発な日ソ学术交流に積極的に取り組んでいきたい。

<2016年2月27日(土)>

⑤子ども・青少年創造発達センター「テクノラーマ」 Государственное бюджетное образовательное учреждение города Москвы, Центр развития творчества детей и юношества "Технорамa на Юго-Востоке" (訪問時間：10:00～12:30)

1. 対応者：①Барышев Андрей Юрьевич (センター長)
②その他、テクノラーマ職員、関係者多数
2. 住所：109377 Москва, 12-я Новокузьминская улица, дом 6, корпус 2
3. 連絡先：+7(495)379-63-47 (Секретарь: +7(495)379-69-34) ,
4. 入手資料：Department of education Moscow, "Technorama in the south-east"
Center for development of children and youth



施設の概要

2010年10月18日付モスクワ市政府決定No.2280「モスクワ市政府教育局系統の国家教育機関の再組織について」によって創設された。

利用生徒数4,800人、5.5歳～18歳までの子どもが利用する。生涯教育施設として大人用の特別プログラムもある。この場合は年齢の制限がない。常勤教師43人＋非常勤で対応。週7日、10時～20時まで活動している。午前中の授業もあれば、午後の授業もある。また、学校ごとの授業もあれば、一人の生徒相手の授業もある。当テフノラーマは、モスクワ市教育局の管理下にあり、南東地区の技術補充教育の拠点である。テフノラーマとは、技術の場（площадка）という意味である。

子どもの補充教育プログラムは、自然科学分野で43プログラム（無料26、有料17）、技術分野で35プログラム（無料17、有料18）あり、体育・スポーツ分野にも1つのプログラムがある。

【施設・サークル見学】（センター長の話）

①チェスの部屋：



父母も子どもと一緒に実験に参加したりする。ここにはWIFIもあり、自由に使えるようになっている。様々な教室でIT技術を使用している。

ロシア的なものの考え方は、上から行政的に与えると言うよりも、自分で選ぶ方を好む。アメリカの場合は、むしろ提案されることを待っている。従って、ここでは、ロシアの父母の考えに沿って、彼らのやりやすいようにしている。

③ 3D技術クラス：



物理、化学、生物学、ナノテクを合わせた応用科学。7～11学年（14～18歳）の生徒が参加。1～5学年（6～10歳）のクラスや大人のクラスもある。理論学習の後、実践的な課題に取り組むが、生徒自身が3D教材の作成を行う。がん細胞などを3Dにより、詳しく解説。ナノテクの説明。飛行機の扶翼の原理、その構造的特徴など。テキサスのインストルメント社が支援している。3Dを使う場合の授業効率の国際調査を行ったが、4割程度高いという結果が出た。

③インターネットクラス



ここには3人の専門家がおおり、インターネットに関心のある子どもや父母に対して様々な技術指導を行っている。

④物理・天文クラス



実際に見て、手で触って、確信しながら理解していくという、世界で共通の教授法（直観教授法、実物教授法）を用いている。

⑤迷路の部屋



間違えると、元に戻って違う道を探ることになる。左へ左へと行くと、出られるようになっている。

⑥プラネタリウム



極めて本格的なもので、30人が入れるスペースとなっている。天文学のオリンピックでは優勝した。いくつかのレベルに別れていて、レベルに応じた資料を用いて、クラスごとに課題に取り組む。

⑦GPS 望遠鏡



⑧国際教育センター：



オートデスク社が無料でソフトを提供する。

⑨コンピュータクラス：6～10歳のクラス。コンピュータを利用して紙工作（ペパークラフト）を行う。サムソンのコンピュータが使用されている。



⑩モジュール・ロボット技術：5.5～10歳。物理と電子工学の融合。子どもたちが自分でプログラミングする。



⑪ ロボット技術クラス (増田君参加)



⑫ 就学準備クラス (5.5~6歳)

⑬ ゲームの部屋 (フレールスの恩物もあった)

⑭ 数学クラス (就学準備クラス、モチベーションをつけさせることがねらい)

⑮ 自動車ラボのクラス：1~11 学年が対象。週 5 日開講。安全文化を身につけさせることがねらい。18 歳から免許が取れるので、16 歳から教習所に通う子どももいる。

⑯ 電子工学のクラス

⑰ スマートハウス：インテル社が支援している。携帯とマイクロチップを利用し、既存の技術を使って異なる使い方を工夫することがねらい。インテル社のコンクールがある。



⑱ 安全ルールの部屋：火事や交通事故など、非常事態に直面してどのように行動するかを教える。近隣の学校と提携して、1~11 学年の生徒がここで学ぶ。非常事態省の職員が担当している。施設・設備がある学校にあって、他の学校にない場合、教育法 15 条により、協定を結び、協力することになっている。このテクノラーマでは実践を指導し、学校では



理論を教える。6種類の火事に対応した消火の仕方(огнетушитель)や人体の手当の仕方の模型。

⑱ソフトプログラミングのクラス：この種のアメリ
カ最大の会社 National Instruments 社が支援してい
る。

⑳化学とナノテクのクラス（増田君参加）：
7～9年生。アルカリ性と酸性の性質を用いた実
験。



<2016年2月27日（土）>

⑥テフノラーマにて円卓会議（訪問時間：13:00～15:00）

1. 対応者：

- ①Кондратенко Наталья Борисовна(モスクワ市教育庁、社会化・補充教育副局長)
- ②Буйлова Любовь Николаевна（モスクワオープン教育大学、子ども補充教育学講座長）
- ③Филатова Марина Николаевна（モスクワオープン教育大学、子ども補充教育学講座教授）
- ④Андрей Викотрович Павлов(モスクワ市職業教育機関«Воробьевы горы»所長)
- ⑤Барышев Андрей Юрьевич（テフノラーマセンター長）
- ⑥モーシン・ダニエル（モスクワ市教育庁国際担当）
- ⑦その他

2. 住所：同上

3. 連絡先：同上

4. 入手資料：

- ①Буйлова Любовь Николаевна, Нормативно-правовые основы воспитания и дополнительного образования детей (актуальные нормативно-правовые акты и документы), Издательство<Перо>, Москва 2014 г.
- ② Л. Н. Буйлова, М. Н. Филатова, Сборник программ повышения квалификации для работников системы дополнительного образования детей, Выпуск № 1, Издательство<Перо>, Москва 2014 г..
- ③Л. Н. Буйлова, М. Н. Филатова, Концепция развития дополнительного образования детей: руководство к действию, Методические пособие, Москва 2015 г..
- ④Л. Н. Буйлова, М. Н. Филатова, Методические рекомендации для педагогов дополнительного образования обучающихся на курсах повышения квалификации, Издательство<Перо>, Москва 2014 г.
- ⑤М. Н. Филатова, Индивидуализация и персонификация дополнительного образования детей, Методические пособие, Москва 2015 г.
- ⑥ Департамент образования города Москвы, Программа развития дополнительного образования детей в городе Москвы на 2016-2018 гг.
- ⑦Буданова Г. П., Буйлова Л. Н., Дополнительное образование детей, Нормативно-правовые документы и методические материалы, Центр <Школьная книга>, Москва 2008 г.

1. テフノラーマセンター長、アンドレイ・パールイシェフ

学校と補充教育機関は、施設や設備などに関して、相互に協力しなければならないことがロシア連邦教育法に規定されている。概して言えば、学校で理論関係のことは行い、ここでは実践や実技に関連した授業を行うことになる。課題や分野により様々で、1回だけのこともあれば、年間を通して行うこともある。



人気が高いのは、技術創造や自然科学に関する分野である。個人的なグループもあれば、クラス全体のグループもある。つまり、個人的にここにやってくる生徒もいれば、学校がクラス全体で通わせる場合もある。ここでの教育は極めてフレキシビリティに組織されるということだ。

モスクワ市教育局が設立者であり、モスクワ市教育局に管轄されている。モスクワ市教育局に補充教育機関全体の情報があり、全ての法律関係の文書、指導部や教員の情報、補充教育機関の教員給与についてもデータとし

て公開されている。また、それぞれの補充教育機関にどのような施設や設備があるのか、無償か有償かについても分かるようになっている。

インテル社は、当社が認定したセンターに助成金を与えている。インテル社認定のセンターはロシア連邦に7つあり、そのうち3つがモスクワにある。このテフノラーマはそのうちの一つである。センター同士のコンクールが行われ、優秀者や優秀グループには賞金や様々な特典が与えられる。

2. モスクワ市教育庁社会化・補充教育副局長、ナターリア・コンドラチェンコ

モスクワの補充教育制度について説明したい。これは、モスクワ市教育局の正式なホームページである。この中に補充教育分野が入っている（インターネットが固まってしまっただけで動かなくなった）。モスクワの補充教育制度はユニークなもので、モスクワ市という町自体がユニークなのだが、学校、カレッジ、大学（インストゥート）、文化機関（博物館、美術館、劇場）など、これら全ては補充教育制度の中に入っている。モスクワ市教育大臣のイサク・カーリーナさんが述べている通り、モスクワ市は教育に対して極めてオープンな姿勢を保っている。ホームページで示されている一番鮮やかな部分が補充教育を指している。

モスクワ市の学校制度は週5日制だが、数年前から土曜日は補充教育の日となった。所によっては以前からそのような形態を取っていた学校もあるが、約5年前くらいからモスクワ市全体でこのようになった。

モスクワ市の教育指導部の交代により、教育の現代化が開始され、学校予算が生徒数によって決定されるようになった。生徒一人あたりの費用はかなり大きなもので、生徒一人あたり年12万ルーブル配分される。学校は、以前よりも生徒一人ひとりに、より関心をもたざるを得なくなった。生徒イクオールお金というわけである（笑い）。学校の課題の一つは、生徒の親に当該学校へ関心をもたせ、自分の子どもをその学校に通わせたいようになることになった。学校では生徒の獲得をめぐる競争が始まり、学校は良い授業を行い、先端的な教育技術を使って子どもを引きつけなければならなくなった。補充教育もそうである。

モスクワは大きな町で、交通渋滞は皆さんも体験されたと思うが、遠くに行くには結構時間がかかる。そこで、教育局は、普通教育も補充教育もアクセスを保障するために、居住地の近くに設置する方針を出している。全ての教育機関は子どもの教育を全面的に保障しなければならないが、そこに占める補充教育の役割は大きい。前述の通り、土曜日を補充教育の日として制定し、テフノラーマのようなセンターや博物館やその他の補充教育機関で子どもたちの興味や様々な関心に答えるようにしている。

補充教育の場合、国家によってその無償が保障されているわけではないが、生徒及びプログラムの75%は無償になっているーモスクワ市の場合か？ー

ー75%は、補充教育のコンセプトの中で2020年までに達成するという大統領令に掲げられている数字だが、モスクワ市の場合は「電子応募制度」というシステムから推測すれ

ば、補充教育に参加する率は既に 90%を超えている。率の計算の仕方も変わった。これまでは1人の生徒が5つのクラブに通えば、5人と計算したが、現在はいくら通っていても、1人と計算する。

補充教育には技術、自然科学、体育・スポーツ、美術、ツーリズム、社会科学関係の6つの教育分野があり、それらの中にも様々なコースがある。つまりは、補充教育には、人間が関心をもちそうな全ての分野が網羅されている。昨年の9月に補充教育の「電子応募制度」が開設された。実際に補充教育機関に行って登録しなくても、インターネットで補充教育の種類やプログラムを見て、どれに参加するかを家のコンピュータから応募できるようになった。どのような補充教育機関があるのか、フットボールの場合どのような監督が指導しているのか、どのような補充教育プログラムがあるのかなどについて、モスクワ市の国家サービスというポータルに公開されており、そこから知ることができる。このシステムのおかげで、全体としてどのくらいの生徒が補充教育に参加しているのか把握することができるし、どのサークルが人気があるのか、どの分野を発展させなければならないかなどについても分かるようになった。

森岡先生のご指摘のように、ロシアではバレエや芸術関係はこれまでかなり発展してきたが、現代世界の変化の中で最も人気が高まっているのは技術関係の創造の分野や自然科学関係の分野である。これらの分野は極めてニーズが高く、集中的に発展させて行かなければならないと考えている。

こうした共通のシステムによって、個人の教育軌跡（教育マップ）を形成することが可能になる。補充教育制度は5歳～18歳までであり、小さな子どもの場合は、何かやりたいとか、何かやるのが好きだという欲求に基づいて何らかのクラブに入るが、もっと深く学びたいければ、どこかのカレッジの補充教育へ移ったり、あるいは大学へ入ったりする。職業に辿り着くまでの道が余り長くないように、「クラブから工場まで」という道筋をつけてあげる。

クラブ活動だけではなくて、教育プロジェクトという機会もある。最も人気が高く、3年くらい続いているものに、「大学の土曜日」というプロジェクトがある。毎週土曜日に、モスクワの全ての大学は市民が自由に出入りできるようにオープンにしている。様々な年齢の子どもたちが父母と一緒に、上級生の方が多いが、大学で催されるレクチャーを聴いたり、ワークショップに参加したりして、モスクワの大学で指導している第一級の学者の授業を受けることができる。その他、軍隊に関心をもっている子どもの場合には、「勇気の土曜日」というプロジェクトがあり、軍関係の施設や博物館に通っている。あるいは、「職業環境」というプロジェクトがあり、子どもたちは中等職業教育機関へ行って、職業の種類や内容及び将来性などについて説明を受けたりする。これから導入予定のプロジェクトとして、「エンジニアの土曜日」がある。これらの目的は、できるだけ早く子どもたちに職業への関心と道筋を見つけさせることにある。将来の職業を選択し、知識や技能を身につけて、自分にそれが合っているかを判断させることが重要である。

モスクワの補充教育の発展は、モスクワ市の教育発展プログラムの枠内で遂行されている。その主要な目的は、モスクワ市の子どもたちが成功を収めるために、よりよい環境や条件を整備することにある。モスクワの子どもたちは特別な子どもたちだと考えている。というのも、モスクワ市の子どもたちは、世界の大都市の子どもたちと同様に、都市環境の縮図の中で生活しており、都市で生じている新たな様々な問題を抱えているが、ソビエト時代に強調されたように調和的な発達を保障しなければならないと考えている。よく教育され、現代的な知識や技術を備え、訓育面でも優れた様々な問題を解決することのできる人間にしなければならない。

付け加えると、補充教育はプログラム・アプローチを取っており、10万以上のサークルやクラブがあり、3～4万近くのプログラムがある。プログラムは、入門段階、紹介段階、基本段階、深化段階の4つの段階に別れている。一部は有償になっているが、それでも入りたいというニーズが高い。補充教育制度の本格的な現代化が行われ、モスクワ市には150くらいの補充教育機関があったが、最適化(оптимизация)の結果、独立した機関は約

30 くらいになり、残りはコンプレックスの中に入った。コンプレックスとは、就学前教育機関、学校、カレッジも入る場合もあり、そして補充教育機関もその中に入っている。

3. モスクワオープン教育大学、子ども補充教育学講座長、リュボフフィ・ブイロワ

必修の課外活動について（質問—第二スタンダードでは、5つの分野から選択して、週10時間受けるように定められているが、その取り方はどのようになっているのか？）。モスクワオープン教育大学は、教員の資格向上を行っている主要な大学の一つである。私は補充教育学講座で活動していたが、丁度、課外教育学講座に講座の名称が変わったところなので、質問にお答えしたい。その理由は、第二スタンダードの実験を始めたが、教員はこうした活動に余りなれていないので、その準備をしなければならないことになった。私自身、どのように行わなければならないのか、その理解も必要になり、教員にも教えなければならないようになった。

課外活動に関して簡単に申し上げると、課外活動は補充教育ではない。これらは独立した教育の形態（種類）である。連邦教育法には、教育の二つの種類が規定してある。普通基礎教育と補充教育である。課外活動は普通基礎教育の一部である。これは学校の基礎教育プログラムの中に入っており、最大10時間を超えてはならない。従って、課外活動は、学校によって3時間であったり、5時間であったりもする。課外活動の時間を補充教育の時間に使うことはできない。なぜなら、予算も違うし、課外活動は憲法や教育法により、その無償性が保障されているが、補充教育はそうではない。関心があれば、比較表にして示した私の論文をお送りしたい（是非頂きたい）。

モスクワオープン教育大学の補充教育学講座について簡単にお話しすると、教員の資格向上を行うために2007年に設立された。併せて研究活動や教員の組織関係の活動なども行っているが、基本は資格向上である。補充教育教員の資格向上の構造的な水準ごとのモデルが作成されている。

第一段階は、この補充教育システムで働き始めた教員かまたは教師教育を受けていない者を対象としている。補充教育機関で働いている多くの専門家は、教育学の教育を受けていない。子どもに教えたくなくなったスポーツマンやエンジニアや俳優など、専門教育は受けているが、教師教育を受けていない。専門のことは詳しくても、上手に教えたり、子どもの心理について知っているわけではない。これは最初の段階である。

第二段階は、プロとしての成長をみざす段階である。カリキュラムはモジュール構成になっている。第一のモジュールは、子どもの教育学的・心理学的特徴について深める。普通は36時間のコースである。第二のモジュールは、教員のニーズや関心によって変わるが、同様に36時間コースで、音楽、振り付け、踊り、芸術的創造など、補充教育の全ての分野が含まれている。さらに、具体的な問題に合わせて作成されるプログラムもある。例えば、補充教育における専門家の評価の問題、プログラムの作成技術、子どもの研究活動などである。

毎年、1,000人～1,500人の教員に授業を行っている。講座ができた段階では、講座の同僚は50人いたが、現在は4人になった。4人になっても、このように多くのコースの研修ができる理由は、遠隔教育技術を用いているからである。

事前にご質問頂いた文献と資料を持ってきた。私たちの所では、補充教育の研究を行っており、補充教育の歴史の研究も現在の法令の研究も行っており、また、プログラムの開発やその他の解説を書いたりもしている。ご質問に答えていない部分やその他の質問があればいつでも問い合わせて下さい。コンピュータがうまく動けば、一つのプログラムの例をマリーナ・ニコラエヴナからお示ししたい。

4. モスクワオープン教育大学、子ども補充教育学講座教授、マリーナ・ニコラエヴナ

教育発展プログラムの中の一つのポイントは、補充教育の質を高めることである。これは、子どもの補充教育制度にも、補充職業教育制度にも関係しており、また、資格向上コースも含まれている。その際、重要なのは、補充職業教育を受けた質の高い成果とは何か

を規定することである。プログラムを受講した教師は、どのような知識を得たのか、どのようなコンピテンシーを習得したのか、そのような知識やコンピテンシーを自分の職業活動の中でどのように活用するのかという、こうした情報が極めて重要である。

現在、社会が求めている人格は補充教育の教員にもなくてはならないものである。例えば、子どもたちの中の関係づくりや情報を入手し、その情報を必要に応じてうまく加工することやコミュニケーションがうまくできることなどである。そうした人格形成のための環境をつくるのが私たちの役目であり、こうした情報環境を構築している。また、教え方も現代化しなければならず、IT 教育技術も使用しなければならない。それは、モジュール原則を持っているプログラムの作成についてもそうである。

プログラムは補充教育の質を向上させる役割を持っている。資格向上制度において、プログラムの持つ役割は大きく、それは教育法や職業スタンダードに基づいている。補充教育プログラムの目的は、自己の活動の中に新しいコンピテンシーを取り入れ、これまでの活動を改善することである。また、国家注文があり、国家サービスを遂行しなければならない。その際、重視していることの一つは、心理学的及び教育学的要素である。特に、教育学的知識を持っていない教員の場合は、新しい能力を育てるということにもなる。

プログラムの構成に関しては、メソッド的な部分を重視している。例えば、音楽家とか、自分の専攻をもっている教師の場合、現代的な教育メソッドや教育技術について、私たちの所で学ぶことができる。そのため、私たちのコースでは、それぞれの職業活動の教育方法の専門家たちを契約ベースで引き入れている。受講生の間では、こうした授業のニーズが高い。授業の形態に関しては、教員（受講生たち）は聞くだけではなく、授業に積極的に参加しなければならない。トレーニングや実戦を伴うセミナー、問題に関する議論、グループ活動などを行う。教師達は、自分の意見を大胆に、恐れることなく意見交換する訓練を積む。

これは、ホームページだが、世界の最も大きな大学で使われているモデルで、LMS を使用している。私たちのオープン教育大学のユーザーは 50 万人に上る。現在、古いバージョンを新しいバージョンに入れ替えているが、教育能力が遙かに高くなる。セミナーの最中に、相互の活動をチェックしたり、意見交換がやりやすくなる。ここに、大学のすべての講座のリストがあるが、これは、私たちの課外活動教育学講座の全てリストである。これは、現在実施しているコースで、赤い部分がすでに実施済みのコースである。ここ数年間に実施してきたコースのプログラムは 50 種類以上あるが、それぞれの授業の情報にアクセスすることが可能である。ここには、講義の内容やプレゼンの内容、ビデオレクチャーなどもある。これらのすべてのデータは、パスワード無しに公開されている。

これは、この大学の心理学者が授業を行っている様子である。それぞれの授業や各テーマに関して、それぞれ資料がついており、コースを卒業してからも情報が得られるようになっている。それぞれの授業の段階で、中間的評価や最終的評価も行われる。受講者に宿題や課題を与え、それが遂行されたら、報告をさせ、評価し、さらに課題を与えるといったことである。たとえば、この 6 人のグループに課題を与える。このグループのメンバーは自分の課題を遂行して、その結果をファイルの形式で担当教師に送る。担当教師はこのファイルを開いて評価し、コメントをつけて返し、それで終わる場合とさらに取り組むべき課題が指示される場合がある。（コンピュータの動きが少し遅く、ファイルが開かない）

第二世代のスタンダードでは、УУД の形成が一つの目標とされているが、補充教育機関においてもそれは目標とされている。補充教育の成果を評価するスタンダードが存在しなくても、補充教育においても普通教育においても個人の発達を促すという目的があり、そうした社会的に有用な価値を身につけた子どもを育成することが目ざされる。補充教育は、教科横断的サークルやメンバー構成など、普通基礎教育にはない、コンピテンシーを育成するための有利な条件がある。補充教育の最大の目的は、社会的価値を身につけた子どもの育成であり、そうした人格の形成である。その際の人格とはどのような特徴を持っているのか。能動的に知識を獲得する力、市民としての資質、社会に積極的に参加するこ

と、コミュニケーションできる力である。このような社会的資質を表しているのが УУД であり、コンピテンシーである。オープン教育大学では、このような現代的課題に答えることのできる教員の資質の育成にもあたっている。

5. モスクワオープン教育大学、子ども補充教育学講座長、リュボフフィ・ブイロワ

(補充教育機関の教師になるための資格や条件について再度質問) 最近、教育の現代化が図られており、新しい文書が数多く採択され、教育制度のインフラ整備が進められている。補充教育のインフラも変化し、学校だけでなく、補充教育機関の統合も進められており、その数値さえ分からなくなるほどである。このような変化が進行している中で、教員に対する要求も変わってきている。

昨年(2015年)の9月8日に補充教育教員の職業スタンダードが出された。それによれば、これまでは補充教育の教員は子どもだけを扱っていたが、大人も扱わなければならなくなった。つまり、補充教育の教員は子どもと大人を対象とする教員となった。教育・科学省はこのスタンダードの実験計画(апробация)を作成し、パイロットケースとなる地域も決定されている。2017年の1月からこのスタンダードは有効となる見込みがある。しかし、今の形のまま有効となるかどうかは分からない。というのも、教員に対する要求が余り高すぎるので、少し弱められるという可能性がある。

補充教育機関の教員になるには、一つには、専門を持っているか、または教育学の高等教育を受けなければならない。その後、昇任するにあたっては、例えば、主任教師になる場合は、少なくとも2年間教育関係の仕事をしなければならない。また、スタンダードには、教師の主要な労働機能についても書かれている。これらは要するに、普通補充教育プログラムの開発と実現に係わるものである。教師は、様々な条件下にある子どもの教育ができるようにならなければならない。つまり、インクルーシブ教育の能力も要求され、ITを用いた教育も行うことができなければならない。または、外国語も2か国語話さなければならないという厳しいルールも示されている。この資料についても関心がおありになれば、送ることができる。

6. モスクワ市職業教育機関<<雀が丘>>所長、アンドレイ・パーヴロフ

教育制度の変化が激しいので、専門家に対する情報サポートがこれまで以上に必要になっている。情報サポートには連邦レベルのものと地域レベルのものがある。その中の一つにドブラゾヴァーニエ(Дообразование)というサイトがある。5年前から開設されており、様々な情報を取ることができる。法律関係もあれば、教授法関係もあり、最近の動きを伝えるニュース関係も含まれている。モスクワの他のサイトにもリンクしており、便利である。

雀が丘の人材センターは、様々な補充教育教員の育成をしており、様々な課題作成に従事し、ウェブでも情報提供をしている。補充教育教員の最大の課題は、補充教育プログラムの作成であり、これに関するサポートも行っている。

補充教育内容の刷新の課題もある。補充教育は最もバリエーションが高く、現代の科学、技術、文化、芸術などの挑戦に最も適切に答えることのできる分野である。世界の変化は、まず補充教育の中に反映されなければならない。

これは、モスクワの補充教育に関するオープンな雑誌で、無償のサイトで公開されている。今年の2月から刊行されており、補充教育の専門家や学者が記事を書いている。モスクワだけではなく、その他の地域の補充教育の関係者が読んでいる。皆さんもアクセスできるので、この雑誌を通して、モスクワの補充教育の特徴を理解することができる。また、国際協力の一環として、皆さんが研究なされていることや使用しているメソッドをこの雑誌に紹介して頂ければ有り難い。共同研究や共同調査や比較研究などにも関心をもっているので、一緒にやれればと考えている。

補充教育と生涯教育との関係については、補充教育は子ども向けと大人向けの双方を含んでいるので、補充教育は、生まれてから年を取るまでの生涯にわたって実施されると考

えても良い。補充教育はオープンな形のバリエーションに飛んだシステムであり、個々人の教育ルートを構成する極めて重要な領域である。様々な分野で自分はどれだけやれるのかを試行しながら、自分の発達を生涯にわたって築き上げていくものである。国家的システムであり、並行的なシステムとして存在し、個々人のニーズを満たす重要な制度として位置づけられている。その際、個人の発達が優先的に考えられており、この原理は、子どもの補充教育においても、大人の補充教育においても主要な要素となっている。

7. 補充教育機関の財源について

設置者と協定書が締結され、3年間の財務保証が決定されている。それは、インフレ率をも考慮して計算される。運営費は予算だけではなく、自主財源からなっている。予算と自主財源の割合があり、モスクワ市の予算が1ルーブルとすれば、こちらで獲得しているの財源は40コペイカである（テフノラーマ所長）。自主財源として獲得した1ルーブルに対して、モスクワ市は8ルーブル提供している（モスクワ市補充教育副局長）。法律で定められているのは、その使い方は独自に補充教育機関が決定してよいということである。例えば、改修工事にどれだけ支出し、新しい設備購入にどれだけ使うかということである。「生徒がお金を持ってくる」ということも言える。というのも、施設の評判が高くて、生徒が多ければ多くの予算がつくからである。コンピュータを通した応募制度の話があったが、それは生徒や親がその施設に投票しているということの意味する。子どもの数に応じて、自動的に予算が入るシステムになっている。

8. 補充教育の歴史について

2013年で95年の歴史を迎えたと書かれている本があった。補充教育または補充教育機関のソ連時代から今日のロシア連邦までの歴史について書かれた本について質問。新生ロシア連邦になってから2008年までの分厚い文献と、それ以降2013年（2014?）までの決定や法律を掲載した本を3人に寄贈される。歴史的な本としては、1923年に出された芽ディンスキーの文献をシベリアの大学がスキャンして、アップロードしている。

※後日（4月10日）、1919年の補充教育についての最初の決定、1918年のメディンスキーの本、1923年のメディンスキーの本の3つの資料を送ってもらう。

ビシケク調査報告書

2016年3月7日～3月17日（11日間）

ウメトバエワ・カリマン

○調査日程

2016年 3月7日（月）		成田発
3月8日（火）		ビシケク到着
3月9日（水）	10:00 ～ 11:30	<p>クルグズ共和国教育・科学省、ビシケク市教育管理局 (Министерство образования и науки КР. Управление образования Мэрии города Бишкек.)</p> <p>①カルグロヴァ・マイラム・リスキルベコヴァ Калыгулова Майрам Рыскулбековна 学齢前から高等教育部門の専門家、音楽、製図、家庭科、造形美術の授業を統括。 (специалист отдела развития дошкольного и среднего общего образования, курирует уроки музыки, ИЗО, труды, черчение)</p> <p>②アリムベコヴァ・アナラ・イスライロヴァ (1965～) Алимбекова Анара Исраиловна 学齢前から高等教育部門の専門家、ロシア語と文学の授業を統括。 (специалист отдела развития дошкольного и среднего общего образования, курирует уроки русского языка и литературы)</p>
3月10日（木）		クルグズ国立図書館で資料収集
3月11日（金）	10:00 ～ 12:00	<p>サティルガノフ総合教育ギムナジウム No.69 Учебно-воспитательный комплекс-гимназия No.69 им. Сатылганова (2001年に設立)</p> <p>③アタエヴァ・サイラグル・トクトスノヴァ Атаева Сайрагуль Токтосуновна 学長 (директор школы)、ビシケク市ソビエト代議員 (депутат бишкекского городского кеңеша)</p> <p>④トクトボロット・ウール・ウルクベック (1994～) Токтоболот уулу Улукбек テミル・コムズ・アンサンブルの実習生 (руководитель ансамбля темир комузистов, стажёр)</p>
	14:00 ～ 15:00	<p>ギムナジウム総合学校 No.26 フランス語学習を中心とする Гимназия-комплекс No.26 с углубленным изучением французского языка (1965年に設立)</p> <p>⑤チェルニャフスキー・アレクサンドル・ヴラディミロビチ (1958～) Чернявский Александр Владимирович 音楽教員 (учитель музыки)</p>

3月12日(土)		サティルガノフ学習教育総合ギムナジウム No.69 Учебно-воспитательный комплекс-гимназия No.69 им. Сагылганова ⑥タシュマンбетヴァ・グリナ・テミロヴァ (1987~) Ташманбетова Гулина Темировна 音楽教員 (учитель музыки)
3月13日(日)		ビシケクの本屋さんで資料収集
3月14日(月)	10:00 ~ 11:00	Республиканский Учебно-Методический Центр Эстетического Воспитания “Балажан” (РУМЦЭВ “Балажан”) (1986年に設立) ⑦サディルバエヴァ・ディルデ・ジュンデュバエヴァ (1959~) Садырбаева Дилде Жүндүбаевна 「ジャシュ・トルクン」(若い波) というクルグズ民族楽器のアンサンブル指導者 Руководитель детского фольклорного ансамбля “Жаш толкун”
3月15日(火)		クルグズ国立アカデミーにて資料収集
3月16日(水)		ビシケクを出発
3月17日(木)		成田着

【図1】クルグズ共和国における教育機関

クルグズ共和国教育・科学省
Министерство образования и науки КР

ビシケク市教育管理局 Управление образования Мэрии города Бишкек			
スベルデウロフスコ エ・ライオノ Сверловское районо	レニンスコエ・ライ オノ Ленинское районо	ペルヴォマイスコ エ・ライオノ Первомайское районо	オクチャブルスコ エ・ライオノ Октябрьское районо

クルグズ教育アカデミー КАО- Кыргызская Академия Образования	
①	チュイ州 オブロン Чуйское облоно
②	オシュ州 オブロン Ошское облоно
③	イシククル州 オブロン Иссыкульское облоно
④	ジャララバード州 オブロン Жалал-Абадское облоно
⑤	タラス州 オブロン Таласское облоно
⑥	ナルヌ州 オブロン Нарынское облоно
⑦	バトケン州 オブロン Баткенское облоно

- ※ オブロン州国民教育部 (областной отдел народного образования)
- ※ ライオノ地区国民教育部 (районный отдел народного образования)

基本情報:

ビシケクにある学校: 94校

そのうちクルグズ語の学校: 36校

教員の勤務時間は週 20 時間であり（授業の準備、例えばノートチェックなどの時間を除く）、月給（одна ставка）換算で 100,000 ソムとなる。2016 年 3 月時点のレートは 1 ドル=73 ソムであり、日本円にすると約 13,700 円である。教員が働く時間は大抵週に 25～27 時間までで、クルグズ共和国教育・科学省によると 27 時間以上の就業時間を取ることはできない。

教員のカテゴリーは次の通りである。

Заслуженный учитель, народный учитель, отличник образования, высшая категория, первая категория, вторая категория.

教員が Заслуженный учитель と народный учитель になった場合は衣料費や公共料金などが無償となり様々な特権が付与される。высшая категория, первая категория, вторая категория の場合は大きな違いがなく、教員の月給は勤続年数で決まり、例えば勤続 10 年の場合では教員の月給が 2 割昇給される。

<2016 年 3 月 9 日（水）>

クルグズ共和国教育・科学省、ビシケク市教育管理局

被調査者①：カルグロヴァ・マイラム・リスクルベコブナ

Калыгулова Майрам Рыскулбековна

クレンケエフ音楽専門学校卒業後、芸術大学に入学し合唱指導、音楽教育を専攻した。卒業後は 30 年間音楽の教員として働く。現在クルグズ共和国教育・科学省、ビシケク市教育管理局において学齢前からの高等教育部門の専門家、音楽、製図、造形美術の授業を統括する。

Калыгулова 氏は音楽の授業について次のように語る。

授業のプログラムについて

昔は音楽の授業はカバレフスキー（Д.Б.Кабалевский）が作ったプログラムによって行われていたが、現在はカバレフスキーのプログラムや、カオ（КАО）によって作られたプログラム、教員がオリジナルのプログラムを作り、それらを用いた授業がほとんどである。

現在の学校は、音楽教室で音楽を聴ける DVD、テレビ、楽器、CD プレーヤーなどの設備が整っていない学校は少なくない。こうしたことから、授業のプログラムは各学校の音楽教育設備の程度に合わせてながら行われている。一方ソ連時代は全ての学校の音楽機材は国家予算で平等に購入され、カバレフスキーのプログラムで授業を進めていた。

授業と教員について

現在、音楽授業のレベルは非常に低い。その理由は、学校の予算が理系の授業に重きが置かれていることにある。時間割を見るとわかるが、音楽の授業だけではなく、製図（черчение）、造形美術（рисование）、家庭科（труды）の時間が削減されている。音楽教員の養育についての問題も少なくない。例えば、クルグズ国立音楽大学やクレンケエフ音楽専門学校のような音楽機関の卒業生は学校の音楽の教職になかなか就こうとしない。その理由は、音楽の授業で教える内容と自分の音楽教育のレベルが異なっているところにあるのではないかと思われる。音楽大学在学中に膨大な時間を、厳しい楽器の練習に費やしてきた卒業生にとっては、単に教えるという作業がつまらなく見えるのではないかとも思われる。特に最近では学校で音楽教員が楽器の演奏ができず、子供を上手く指導できないことが問題になっている。

いまでは音楽の授業のレベルは教員と学長の積極的活動によって決まる。それは例えば、音楽の教員は教室の諸設備を購入する必要性を学長に納得させ、学校の予算を少しでも多めに音楽の教室に使用することで、音楽教員の良い授業を行うことの動機にもなり、様々

なコンクールやイベントにも参加することに繋がるのではないかと思われる。

<2016年3月11日(金)>

サティルガノフ学習教育総合ギムナジウム No.69 (クルグズ語学校)

被調査者④: トクトボロット・ウール・ウルクベック
Токтоболот уулу Улукбек (1994~)

タラス州、Караштуу-Манас 地区、Арал 村の出身である。彼はアラル村の Үсөнбаев 学校を卒業後、ベイシェナリエワ (Б.Б. Бейшеналиева) 芸術大学へ入学した。専門はフォルクローアで、ダスタン¹というジャンルの歌である。Токтоболот 氏は学校の 8 年生 (13~14 歳) のときからコムズを弾いている。コムズの演奏と歌を Кочурбаев Самат 教員に習い、テミル・コムズは Кутман Султанбеков 教員に習った。現在、Токтоболот 氏はベイシェナリエワ芸術大学の 4 年生であり、2016 年の 3 月 1 日から No.69 学校で仕事をしている。しかしその仕事は大学の授業の一環となっている。Токтоболот 氏が勉強しているベイシェナリエワ芸術大学では授業の単位を取るため、実際に学校で教員の仕事をしなければならず、ロシア語ではプラクティカ (практика) と言う。プラクティカは 1 年に 1 回行われ、3 年生は 10 日間、4 年生は 20 日間、5 年生は一ヶ月程の期間が設けられている。この仕事が終わってから学校から評価書 (成績書) のような書類をもらい、その書類を Токтоболот 氏たちが大学に提出し、その評価書に基づいて授業の単位が決まる。

Токтоболот 氏と一緒に 3 人の大学生がこの学校でプラクティカを行っている。そして彼らが No.69 学校と同じように No.67 学校と No.78 学校で今年の 3 月 1 日から 3 月末までにアンサンブルの教員・指導者として働く。

テミル・コムズの授業は週に 2 回で、2 時間半行う。この学校では二つのテミル・コムズ・グループがあり、一つ目のグループの学生は学校の授業が始まる前に参加し (вторая смена)、時間は 11 時から 12 時半までである。二つ目のグループは 12 時半から 13 時半までであり、朝の授業 (первая смена) を持つ子供たちが参加する。

夢や将来の仕事について Токтоболот 氏が有名なアクン²とダスタンチ³ (дастанчы) になりたいと答えた。学校の教員の仕事については、特になりたいとは思わないが、やらないといけなくなる可能性が高いと答えた。

<2016年3月11日(金)>

ギムナジウム総合学校 No.26 フランス語学習を中心とする (ロシア語の学校)

被調査者⑤: チェルニャフスキー・アレクサンドル・ヴラディミロビチ
Чернявский Александр Владимирович (1958 年生)

1974 年から 1978 年までフルンゼ市⁴音楽教育専門学校で勉強する。その学校を卒業後、No.15 学校で音楽の教員や、陸軍オーケストラの団員として働く。1981 年から 1985 年までベイシェナリエワ芸術大学に入学し、КПР (культпросветработник) と合唱の指揮者を専攻とする。芸術大学の卒業後から現在にまでの 39 年間に渡り、音楽の教員として従事し、ギムナジウム総合学校 No.26 では 1985 年から 30 年間勤めている。

¹ダスタン (дастан) は、物語、話、小説、ストーリー、フィクションという意味である。(黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』東京: 大学書林、2002 年、679 頁。)

²アクン (акын) とは楽器を弾きながら即興的に歌い、語り、話芸を行う芸能者を意味し、詩人、歌手、楽器奏者、語り手、作曲家などの音楽家に関する概念すべてを包含する。

³ダスタンチ (дастанчы) は、ダスタンを歌う人である。

⁴フルンゼ (Фрунзе)。1926 年から 1991 年までクルグズ共和国の首都の名称である。

Чернявский 先生は今でもカバレフスキーのプログラムで音楽の授業を行っている。カバレフスキーのプログラムは1980年代の終わりころに全ての学校で普及した。

<2016年3月12日(土)>

サティルガノフ学習教育総合ギムナジウム No.69 (クルグズ語の学校)

被調査者⑥：タシュマンベトヴァ・グリナ・テミロヴナ
Ташманбетова Гулина Темировна

1987 年にナルン州に生まれた。子供の頃から音楽の先生の仕事が夢だった。ナルン州の学校卒業後、2005 年にアラバエフ (Арабаев) クルグズ国立大学の教育学科に入学した。5 年後 2010 年に大学を卒業し、しばらく様々な所で音楽の教員として働く。2014 年から No.69 学校で働き始めてから 1 年半になる。4 年生から 7 年生までの音楽の先生である。音楽の授業はビシケク市役所の教育管理局によって作られたプログラムで行われている。音楽授業の時間は各クラスで週に 1 時間行っている。

Ташманбетова 氏がアラバエフクルグズ国立大学に入学する以前には、特に音楽を学ぶことにはなかった。

クルグズ共和国における学校教育制度は、日本と同じように小・中・高等学校に分けられており、小学校には満 6 歳もしくは 7 歳で入学する。小学校は 1~4 年、中学校は 5~9 年と高等学校は 9~11 年生までであり、全部で 11 年間である。11 年間のうち義務教育は、小・中学の 9 年間までである。ソ連時代は全ての教育機関は無償であったが、現在は国が経営しているものもあれば、私立学校もある。

<2016年3月14日(月)>

Республиканский Учебно-Методический Центр Эстетического Воспитания “Балажан” (РУМЦЭВ “Балажан”)

「バラジャン」が 1986 年に設立した。「バラジャン」のサークルは三つの教育部門に分かれている。一つ目は учебный отдел 「教育部門」、二つ目は музыкально-сценический отдел 「音楽・演劇部門」、三つ目は отдел ДПИ (декоративно-прикладное искусство) и НТ (народного творчества) 「実用美術と民俗工芸部門」である。以下、調査対象となったのは、二つ目の「音楽・演劇部門」のコムズ・アンサンブル「ジャシュ・トルクン」(Жаш толкун) である。

被調査者⑦：サディルバエヴァ・ディルデ・ジュンデュバエヴナ (1959~)
Садырбаева Дилде Жүндүбаевна

「ジャシュ・トルクン」(若い波) という子供のクルグズ民族楽器アンサンブル指導者である。

タラス州、タラス市出身である。1977 年から 1981 年までにクレンケエフ音楽専門学校、1981 年から 1986 年までベイシェナリエワ芸術大学で勉強を続けながら 1984 年からタラス市に移住し、コムズの教員として児童音楽学校で働き始める。1996 年に再びビシケクに戻り、児童音楽学校のコムズの教員となる。2006 年から「バラジャン」で働き始める。34 年間の豊富な実地経験のある教員である。

現在、Садырбаева 氏が指導しているアンサンブルは様々なフェスティバルやコンサート、コンクールに積極的に参加し、活躍している。Садырбаева 氏のコムズのレッスンはグループレッスンであり、場合によっては楽譜で教えることもある。

●クルグズ共和国における *внешкольное образование*

クルグズ共和国では *внешкольное образование* 「学校外の教育」は年齢によって三つのグループに分けられている。第1グループは、6・7歳まで（就学前の教育⁵）の子供のための教育、第2グループは、6・7歳（小学校一年生）から18歳（成年になるまで）のグループと第3グループは18歳以降、すなわち大人のための教育である⁶。2009年の調査によると、クルグズ共和国では、133の「学校外の教育機関」⁷があり、その機関で勉強を行っている生徒数は79,795人である⁸。

2011年時点で、「学校外の教育」を受けるには次の教育機関がある。それは、児童教育センター⁹、児童創作センター¹⁰、児童・青年創作センター¹¹、共和国のエコロジー、地誌学と観光の児童・青年センター¹²である¹³。このような教育機関ではさまざまなサークルがあり、ダンス、油絵、コムズ、歌、手芸、外国語（主に英語）を受けることができる。コムズ・サークルでは、楽譜を使わず口頭で伝承しているため、このような教育は「プロ」音楽教育と見なされておらず、「アマチュア」音楽教育と呼ばれている。また、「学校外の教育機関」には誰でも入ることができるが、児童音楽学校に入学するためには、入学試験を受けなければならない。子供には、楽器の技術以外にも音楽的素質が求められる傾向にあり、試験の内容には音楽記憶、リズム感なども含まれる。

今回のサティルガノフ総合教育ギムナジウム No.69 のテミル・コムズ・サークルと Республиканский Учебно-Методический Центр Эстетического Воспитания “Балажан” (РУМЦЭВ “Балажан”)のコムズ・サークルは「学校外の教育機関」として興味深い調査対象となった。小・中学校の音楽の授業では子供達はクルグズ民族楽器に触れる機会がほとんどないことに対して、上記で取り上げた教育施設では楽譜を用いない「伝統的」な方法で楽器の習得ができる。

さらに РУМЦЭВ “Балажан”は学校外の教育施設のため、楽器の習得が当然と思われるが、サティルガノフ学習教育総合ギムナジウム No.69 のテミル・コムズのアンサンブルが存在していることが Атаева 学長の主導で設立され、全ての学校であるというわけではない。このテミル・コムズアンサンブルでは特に宿題もなく、子供達が無償で好きな時間に民族楽器に触れることとこの授業が今後も続いていくこと、つまり場所や時間、教員の給与面を含め、教員にとって良い環境を作るという点で、この学校での音楽教育は充実しているといえる。

今回の調査では、小・中学校で行われている音楽の授業の様子の見学ができ、また教員にインタビューをすることもできた。その結果、音楽の授業はソ連時代と比較すると、週に行われる授業の時間の割合が減少し、授業の質も大幅に衰えていることが明らかになった。その理由として、学校に割り当てる政府の予算が減ってきたことで音楽の授業に必要な設備を整えられないこと、教員の月給が非常に少ないために良い教育を受けた音楽大学等の卒業生が学校の教員になりたがらないことが挙げられる。

現在、学校で音楽の授業は1年生から7年生まで行われており、その時間は各クラスで週に1回である。授業の内容は学校によって異なっており、ロシア語の学校では、クラシックや、ロシアの民謡、ヨーロッパの作曲家について学んでいる。一方、クルグズ語の学校では、クルグズの作曲家、音楽、演奏家について学ぶことが主である。対して、両学校では共通して、ソ連時代と同じように音楽の授業で歌を歌うことが主眼に置かれており、

⁵ Дошкольное образование (露)

⁶ Аналитический доклад, *Художественное образование в Кыргызской республике* (Бишкек, 2011), p. 38.

⁷ Внешкольное учреждение (露)

⁸ Ibid., p. 38.

⁹ Детский образовательный центр (ДОЦ) (露)

¹⁰ Центр детского творчества (ЦДТ) (露)

¹¹ Центр детско-юношеского творчества (ЦДЮТ) (露)

¹² Республиканский детско-юношеский центр экологии, краеведения и туризма (РДЮЦЭКТ) (露)

¹³ Ibid., p.39.

歌を通して歴史や、時代、作曲家、音楽そのものの理解と知識が深まると考えられている。こうしたことから、2014年にカオ（KAO）によって作られた音楽授業のプログラムは1983年にカバレフスキーのプログラムを基に作られ、授業の方針は大きく変化していないことが明らかになった。

アルマティ調査報告書

2016年3月11日～3月23日（13日間）

嶺井明子
タスタンベコワ・クアニシ

○調査日程

日付	時間	移動・調査機関
3月11日（金）	22：05	クアニシ アルマティ空港着
3月12日（土）	10：00～11：30	① アルマティ州エンベクシカザフ郡教育局 Отдел образования Енбекшиказаского района Алматинской области
3月13日（日）	10：00～16：00	② カザフスタン共和国教育アカデミー附属図書館 Библиотека Академии образования Республики Казахстан
3月14日（月）	10：00～11：30	③ イエシツク人文・経済カレッジ Есикский гуманитарно-экономический колледж
3月15日（火）	10：00～11：00	④ アルマティ市教育局 Управление образования г.Алматы
	22：05	嶺井明子 アルマティ空港着
3月16日（水）	10：00～12：00	⑤ カザフ国立教育大学教育心理学部 Институт педагогики и психологии Казахского Национального Педагогического Университета (КазНПУ им.Абая)
3月17日（木）	10：00～12：00 14：00～16：00	⑥ 第1番アルマティ国立カザフ人文・教育カレッジ Алматинский государственный казахский гуманитарно-педагогический колледж No.1 ⑦ ナザルバエフ知的学校（化学・生物学深化学習） Назарбаев интеллектуальная школа химико-биологического направления
3月18日（金）	10：00～13：00 23：10	⑧ 国立教員研修所 Республиканский институт повышения квалификации руководящих и научно-педагогических работников системы образования Республики Казахстан 嶺井先生 アルマティ空港発
3月19日（土） ～20日（日）	10：00～12：00	⑨ 国立図書館 Национальная библиотека
3月21日（月）	13：00～14：30	⑩カザフ国立教育大学研究委員会書記、教師教育改革検討会メンバー、アイトバエヴァ氏へのヒアリング
3月22日（火）	23：10	クアニシ アルマティ空港発
3月23日（水）		12：10 成田着

<2016年3月12日(土)>

①アルマティ州エンベクシカザフ郡教育局 Отдел образования

Енбекшиказахского района Алматинской области (訪問時間: 10:00~11:30)

1. 対応者: Ахметова Римма Ауесхановна, начальник отдела образования
2. 住所: Алматинская область, г. Есик, ул.Токатаева дом №51
3. 連絡先: 772(775)7-28-88 E-mail: umit.m1983@mail.ru
4. 入手資料: Дорожная карта развития трехязычного образования на 2015-2020 годы.
(「2015-2020年の三言語教育開発のロードマップ」)

質問: エンベクシカザフ郡の教育全体(学校数、教員数など)について紹介してください。

答え:

2015年9月現在、エンベクシカザフ郡¹には29の就学前教育機関(国立23カ所、私立6カ所)と34の初等中等普通教育学校と併設されているミニセンター(3~6歳児が対象)がある。現在は3~6歳児の77.3%、4,758人の子どもが就学前教育を受けている。「2011~2020年の教育発展プログラム」は2020年まで3~6歳児の100%が就学前教育機関に入っていることを目標としているので、この目標に向けてエンベクシカザフ郡も努力している。就学前教育機関で552人の教員が働いている。残念ながら、教員の流動が激しく、2014年度に比べて教員数は31人に減っている。

初等中等普通教育学校数は81校である。カザフ語を教授言語とする学校数は30校、ロシア語は2校、ウイグル語は2校、複数の言語で教えるいわゆる複数教授言語学校(смешанная школа)は47校である。在籍している児童生徒の全体数は40,595人である。教員数は4,381人である。すべての学校はインターネットに接続されており、このうち32校はブロードバンド、残りの学校はダイアルアップ接続である。パソコン1台当たりの生徒数は14人である。

さらに、17の小規模学校もある。そのうち14校はカザフ語学校であり、3校は複数教授言語学校である。このうち初等教育(第1~第4学年)のみの学校は4校、基礎初等中等教育(第1~第9学年)は3校、初等中等普通教育学校(第1~第11学年)は5校である。在籍している児童生徒の全体数は1,002人である。近年小規模学校の数が減少傾向にある。これは、小規模学校の統廃合によるところが大きい。2012年からスクールバスが運行することになって子供たちが隣の村にある学校までバスで通えるようになった。

2014年度の国家統一試験²の平均点は79.5点であり、2013年度に比べると3点高く、また全国の平均点79.4とほぼ同じである。同年度の卒業生の52%が国家統一試験を受けた、そのうちやく3割弱が国家要請の無償枠で大学に進学できた。これは決して良い結果ではなく、改善の余地が残る。

中等職業教育は6つのカレッジにおいて提供されている。二つのカレッジ(イエシツク

¹カザフスタンは、14の地方行政主体(область)と首都アスタナ、特別政令指定都市アルマティ市、及びロシアに2050年まで貸出されており、ロシア連邦の連邦特別都市とされているバイコヌール市(宇宙基地)から構成されている。エンベクシカザフ郡は、14ある地方行政主体の一つ、アルマティ州を構成する16の郡(район)の一つである。2015年1月現在の人口は約29万人である。

²国家統一試験(Единое национальное тестирование, ЕНТ)は初等中等普通教育修了試験と大学入学試験を統合した試験であり、2004年から教育科学省直轄の機関「教育及び学術分野における質管理局 Комитет по контролю качества в сфере образования и науки」によって実施されている。教授言語(カザフ語またはロシア語)、カザフ語(ロシア語で学んだ受験者)やロシア語(カザフ語で学んだ受験者)、数学とカザフスタンの歴史の4つの必修科目と、英語、生物学、化学、地理、物理の中から一つ選択する計5科目、125点満点の四者択一試験である。

人文・経済カレッジとシェレック工業技術カレッジ)は国立である。他の5つは私立である(ジェティス法科カレッジ、イエシツク医科カレッジ、シェレック医科・人文カレッジ、イエシツク専門技術カレッジ)。これらのカレッジでは373人の教員が教えている。在籍している学生数は4,423人である。そのうち1,489人は国家要請(無償)枠、2,934人は有償で学んでいる。3,794人は全日制で学んでおり、629人は通信生である。およそ70%の学生はカザフ語で学んでおり、30%はロシア語で教育を受けている。

質問：

教員の状況について詳しく教えて下さい。例えば、先ほどの就学前教育機関での教員流動の問題が挙げられたが、教員不足は問題になっているか。教育大学新卒の採用はどのように行われているか。

答え：

教員不足の問題は就学前教育段階のみで存在している。理由はもちろんいろいろ考えられる。幼稚園の訓育者(воспитательница)になるためには、教育カレッジの卒業で十分であるが、「2020年までの教育発展プログラム」は幼稚園の訓育者も大卒であることを目的にしているので、若い訓育者が大学に行くように園長が勧めるべきである。大学を卒業していれば給料も20%上がるので、これはモチベーションになって、近年大学に行くために休職する人がいる。ちなみに、2015年度の幼稚園の教員の学歴は大卒45%、教育カレッジ52%、初等中等教育修了者3%である。学校しか出ていないものは、基本的に保母(няня)として働く。また、伝統的に幼稚園の訓育者になるのは女性ばかりであるため、就職してから結婚して子どもを産む人もいる。カザフスタンの法律では、妊娠36週目から出産後1年まで産休をとれる。さらに、3歳まで育児休暇をとれる。それを全部使う訓育者ももちろんいる。その中でやはり職場に復帰しない人もいる。もちろん、訓育者の仕事が大変、給料が少ないという理由で辞める人もいる。

学校の場合は、教員不足の問題はないが、高齢化の問題がある。エンベクシカザフ郡の初等中等普通教育学校で教えている教員の60歳以上の教員は全体の22.9%である。伝統的に学校教員の8割は女性であることを考慮すれば、ほぼ4人に一人は年金者である。ある³。46~60歳層は41.6%、31~45歳層は20.3%である(2014年9月現在のデータ)。近年、大学新卒の採用が増えているが、残念ながら彼らの離職も顕著である。

質問：

若者の教職離れの理由として何が考えられるか。

答え：

いろいろな理由があると思う。給料に満足しないことが多いだろう。でも、給料は経験、カテゴリー、様々な仕事内容によって追加されてどんどん増えていく。若者はすぐに高い給料がほしい。それから、2009年から「卒業証書を持って田舎へС дипломом в село」という国家プログラムによって大学を卒業した農村に就職する若者が就任手当て(移住旅費、住居購入または建設のための低利子ローン)をもらえる。しかし、それでも若者は金額が少なすぎるとか、村で家を買うためのローンの利子が高すぎるとか不満である。非常に残念なことである。

質問：現職教員の研修について教えて下さい。

答え：

従来の教員研修は2~3年に一回州レベルの教員研修所において教科別に週単位で(基本的に夏季休業中に)実施されていた。2012年からは新しい教員研修制度が導入された。そ

³ カザフスタンの法律では、女性の定年退職年齢は58歳、男性は63歳である。

これは国立教師力開発センター「オルレウ」(Национальный центр повышения педагогического мастерства «Орлеу»)⁴が開発した教員研修である。短期と長期に分かれる。短期は72時間のものであり、働きながら受けるものであるが、長期の研修は3カ月の休職をとってアルマティ州の教員研修所で受ける。2012～2014年度にはエンベクシカザフ郡の289名の学校教員がこの新しい教員研修を受けた。247人は第3初級段階、13人は第2中級段階、29人は第1上級段階を修了しており、これは教員全体の6.6%である。今年(2016年度)から機能的リテラシーを基本とする新しい初等中等普通教育国家スタンダードが導入されるので、教員の研修が喫緊の課題である。

<2016年3月14日(月)>

③イェシク人文・経済カレッジ Есикский гуманитарно-экономический колледж (訪問時間：10：00～11：30)

1. 対応者：Жошибекова Гульнар Сагатовна, директор колледжа
2. 住所：Алматинская область, г. Есик, ул.Абая 320
3. 連絡先：772(775)7-32-00 E-mail: egek.col@mail.ru
4. 入手資料：イェシク人文・経済カレッジの紹介パンフレット

最初にカレッジのディレクター、ジョシベコヴァ氏にインタビューをした後、施設見学をした。

ヒアリング

質問：教育カレッジの全体像、教育方針について教えて下さい。

答え：本人文・経済カレッジは、1966年に師範学校(педучилище)として設置され、今年50周年を迎える。1993年には教育カレッジ、2010年には人文・経済カレッジと改名されて現在に至る。12の専門で1,734人の学生が学んでおり、165人の教員が教えている。国家要請による無償枠(全体の7割程度)と有償枠がある。教授言語はカザフ語とロシア語である。カザフ語で学ぶ学生のほうが多い。

専門分野は①就学前教育、②初等教育、③カザフ語、④図工・美術、⑤音楽、⑥体育、⑦事務処理とアーカイビング(делопроизводство и архивоведение)、⑧翻訳(カザフ語、ロシア語、英語の三言語)、⑨観光業、⑩ホテル業、⑪IT、⑫会計。学生のほとんどが教員養成専門に在籍する。教員養成関係の専門分野(就学前教育、初等教育、図工・美術、音楽、体育)は各50人の2クラスに分かれる。それ以外の専門分野は1クラスずつである。いくつかの分野は複数の専攻に分かれる。学生は二つの専攻を選択できる。例えば、①の就学前教育ではそれは訓育者(воспитатель)と自己認識(самопознание、道徳教育)である。②の初等教育では初等教育教師(учитель начальных классов)、外国語(иностраннный язык、英語)、自己認識(самопознание)、③のカザフ語は事務処理(делопроизводитель)、教員心理士(педагог-психолог)と社会教員(социальный педагог)に分かれる。④の図工・美術は図工・美術の教師とデザイナー、⑥の体育は体育の教師、治療体育(лечебная физкультура)とマッサージ、⑦の事務処理とアーカイビングは書記(секретарь-референт)とアーカイブ事務(архивовед)、⑨の観光業はツアーガイドとツアーオペレータ(ツアーを売り込む туроператор)という専攻に分かれる。このように様々な専攻に分かれているのは、卒業生の就職の可能性を広げるためである。

質問：卒業生の進路について教えて下さい。ソ連時代と違って今は職場配置がないが、そ

⁴ このセンターに関する説明は本調査の訪問機関⑧を参照。

のメリット・デメリットについてどう思うか。

答え：

卒業生全体の就職率は72%である。残り28%は男性の場合徴兵があり、女子の場合結婚・出産することが多い。また、大学に進学する人もこの28%の中に入る。2014年からデュアル教育(дуальное обучение)が導入されている。これは政府の工業・農産業地帯開発ロードマップの一環として、指定地域の中等職業教育機関はそこにある企業などと共同で教育プログラムを開発して、当企業に教育実習、インターンシップに行った学生が卒業後にそこに就職するという制度である。この制度によって卒業生の就職が保障される。

職場配置制度が市場経済には合わない制度である。若者を就職先で縛ることはよくない。若者は自分の能力によって就職できるように政府が条件整備をしている。

質問：実際に教員になる卒業生がどれぐらいいるか。学校や幼稚園に就職したい学生もこのデュアル教育制度を利用するのか。教育実習はどのように行われているか。教育実習は何時間あるか。

答え：

デュアル教育制度は学校や幼稚園には当てはまらないが、本カレッジが所在するイエシツク市の四つの学校と契約があり、これらの学校で教育実習を受けた学生の中から優勝な学生が卒業後に就職できるようになっている。実際に学校や幼稚園に就職する人は約半分である。本カレッジに来る若者はエンベクシカザフ郡の農村地域出身であり、自分の村の学校に教員として就職する人がいる。また、教育実習も自分の村の学校で受けることができる。教育実習は1年生のときから始まる。9年の基礎初等中等教育修了者⁵は1年目には初等中等普通教育の科目(10~11年生の分)と「専門入門」(«введение в специальность»)という科目を学ぶ。この「専門入門」の枠内で2週間の教育実習がある。11年の初等中等教育修了者には1年目の前学期が「専門入門」の科目がある。9年修了者の2年目、11年修了の1年目の後期からは教育実習が一緒に行われる。教育実習の全体時間は120時間、このうち30時間は卒業前教育実習(преддипломная практика)である。

質問：昨日はエンベクシカザフ郡の教育局でインタビューしたとき、若者の教職離れ、教員の高齢化の問題が指摘されたが、カレッジはそういう問題があるか。

答え：

大学卒業後にカレッジに教員として採用する若者が近年増えている。ほとんどがすぐやめてしまうとは言えないが、女性の場合は結婚・出産でやめる人、男性の場合は、給料が少ないということを理由にやめる人はたまにいる。高齢化は確かにみられるが、教員不足の問題はない。やめて2~3年経ってから戻ってくる人もたまにいる。しかし、そういう人はこちらでは需要がなければ、再採用は不可能である。

質問：カレッジの教員の研修について教えて下さい。

答え：

教員養成課程の教員は2012年から国立教師力開発センター「オルレウ」において教員研修を受けることが義務付けられている。この研修を受けなかったら資格審査(аттестация)を通れず、資格の再認定(подтверждение категории)、資格の向上(получение следующей категории)もできない。非教員養成課程(事務処理とアーカイビング、観光業、ホテル業、IT、会計)の教員は教育科学省が定める中等職業教育専門別、資格別の研修を受ける。

⁵ 教育関係の専門に進学する者の在籍期間は、9年基礎初等中等教育修了の場合3年10カ月、11年初等中等教育修了の場合2年10カ月である。非教育専門では全社が2年6カ月、後者は1年10カ月である。

<2016年3月15日(火)>

④アルマティ市教育局 Управление образования города Алматы
(訪問時間：10：00～11：00)

1. 対応者：Алишева Роза Турганбековна, главный специалист отдела среднего образования
2. 住所：г.Алматы, ул. Калдаякова, 62
3. 連絡先：7(727)293-85-81 E-mail: dep@edualmaty.kz
4. 入手資料：Стратегический план управления образования г.Алматы на 2011-2015 годы (「2011-2015年のアルマティ市教育局戦略計画」)

ヒアリング

質問：アルマティ市の教育全体について教えてください。

答え：

アルマティ市は、1997年に首都がアスタナに移転されてから特別政令都市となり、カザフスタンの経済的、文化的中心である。人口は約170万で、カザフスタンの最大都市である。アルマティ市教育局の管轄下に420の就学前教育機関(国立175、私立189、ミニセンター56)、244の初等中等普通教育機関(国立201、私立43)、84の中等職業教育機関(国立22、私立62)、15の寄宿学校(養護施設含む)、27の補充教育機関(国立25、私立2)がある。教員の全体数は約22,000人である。

2015年度には就学前教育機関に54,401人の子どもが在籍しており、1～6歳児の48%、3～6歳児の70%が就学前教育を受けている。2020年までには3～6歳児の全員が就学前教育機関に入れるようにすることがアルマティ市の大きな課題の一つである。

201の国立初等中等普通教育学校には201,963人の児童生徒が在籍しており、43の私立学校には10,603人の児童生徒が在籍している。

7つの学校は12年制学校である。これらの学校は2010年から初等中等教育の11年制から12年制への移行が実験されている学校である。

アルマティ市の2014年度の初等中等教育修了者の国家統一試験の平均点数は92.1点であり、これは全国平均の79.4より12.7点高い。アルマティ市の国家統一試験受験者の平均点が全国でも一番高い状況が4年間続いている。また、4年生と9年生が受ける学力外部審査⁶の結果も3年間連続で全国で最も良いものである。

中等職業教育は84の職業カレッジにおいて63の専門、97の資格の専門家養成が行われている。ここで61,616人が学んでいる。2015年度には8,400人が国家要請無償枠で入学しており、このうち7,600人はアルマティ市の予算枠での要請であり、800人は国の予算枠である。32のカレッジにはデュアル教育制度が導入されており、1,908人がこの制度で学んでいる。市内の48の小中企業と契約が締結されており、これらの企業への就職が保障される。

質問：教員の状況について詳しく教えてください。教員不足は問題になっているか。

答え：

⁶ 学力外部審査(Внешняя оценка учебных достижений, ВОУД)は、初等中等教育段階では第4学年と第9学年、高等教育では大学2年生を対象とする審査であり、2004年から国家統一試験と同様に「教育及び学術分野における質管理局」によって実施されている。実施の目的は教授・学習内容の国家教育スタンダードへの対応を審査である。実施形態は、カザフ語を含む4つの科目の四者択一試験であり、試験時間は120分である。カザフ語以外の3科目は質管理局が決める。

教員不足の問題はない。アルマティ市には教員養成大学としてカザフ国立教育大学と国立女子教育大学がある。このほかに、カザフ国立大学、カザフ国立スポーツアカデミーなどもあるので、これらの卒業生のほとんどがまずアルマティ市の学校に就職することが第一の目的である。したがって、教員の不足というより、一つのポスト当たりの倍率が高く、競争が激しいと言える。アルマティ市長は毎年、創造性に富む、クリエイティブな 1,000 人の教員に一人 15 万テンゲ奨励賞を出している。さらに、毎年 500 人の「アルマティ市優秀教員」が選ばれ、その報酬は一人 30 万テンゲである。このほかに、「全国の優秀教員」というコンクールでもアルマティ市の 3 人の教員が優勝し、200 万テンゲずつもらっている。このような政策は、学校教員の仕事の魅力さを高めているので、アルマティ市の学校では教員不足の問題がない。

質問：教員の高齢化の問題がないか。

答え：

高齢化の問題とは言えないが、定年して働き続ける教員がもちろんいる。これはそのような教員の豊富な経験が若手教員を育てるために必要であるほかに、彼ら自身の生き甲斐でもある。でも、年々年金者教員の割合が減少している。やはり、現代の新しいテクノロジーに彼らに対応できないという問題もあり、パソコンを使って授業案、試験問題、報告書などを作成できないからである。それから、電子黒板の使い方もなかなか見つけられないことやインターネットで情報を検索することとか。生徒のほうが教員よりできてしまうということは今の時代の特徴であるから、年金年齢に達した教員は、教育現場の現代要求に対応できなければ退職してもらうことしかない。

質問：教員研修について教えてください。

答え：

教員研修は基本的に国立教師力開発センターのアルマティ市ブランチ（旧アルマティ市教員研修所）で行われる。これは新しい制度であって、短期研修と長期（3 カ月研修）もある。ナザルバエフ知的学校の教授・学習経験を学び、自分の教育活動に取り入れることが目的である。アルマティ市には二つのナザルバエフ知的学校がある。物理・数学深化学習と化学・生物学深化学習の学校である。これらの学校では新しい教授法が使われているほかに、三言語（カザフ語、ロシア語、英語）で教授・学習が行われている。教員研修では三言語で教えることも学んでいる。二つの知的学校では頻繁に公開授業などが開催されるので、ほかの学校の教員がそれを見に行く。

質問：三言語で教えることが研修より、大学での教員養成段階でのほうが効果的ではないか。

答え：

近年教育大学を卒業して教員になる若者の中には英語で教えられる者もいるが、決して多くない。国家教育プログラムは 2020 年まで三言語での教育の導入を目指しているので、若手教員だけでは不十分である。中層の教員も三言語で教えられるように新しい教員研修制度が導入されている。研修を受けた人の給料が増額されることもすべての教員が研修を受けるように奨励するために考えられたことである。この改革は確かにいろいろな課題があるが、不可能なものではない。

<2016 年 3 月 16 日（水）>

⑤カザフ国立教育大学教育心理学部 Институт педагогики и психологии КазНПУ им.Абая (訪問時間：10：00～12：00)

1. 対応者：Кенесбаев Серик Мухтарович, директор института
2. 住所：г.Алматы, ул. Толе би 30
3. 連絡先：7(727)291-33-53 E-mail: pededu@kaznpu.kz
4. 入手資料：Программы специальностей бакалавриата «Социальная педагогика и самопознание», «Психология», «Дошкольное обучение и воспитание», «Педагогика и методика начального обучения», «Дефектология» (バカラブリアートの専門分野別教育プログラム「ソーシャルペダゴジー及び自己認識」、「心理学」、「就学前教育及び訓育」、「初等教育のペダゴジー及び教授法」、「矯正学」)

最初にケネスバエフ学部長からカザフ国立教育大学及び教育心理学部の概要説明を受けてから、学生と教員による研究プロジェクトの発表会を聴講した後、学部の建物の中、及び近くにある他学部を見学した。

カザフ国立教育大学教区・心理学部の概要

カザフ国立教育大学は、1928年に設立されたカザフスタンの最も古い大学であり、現在9つあるナショナル大学の一つ、トップ教員養成大学である。教育・心理学部には2000人の学部生、250人の修士課程の大学院生、63人の博士課程の大学院生が学んでおり、245人の教員が教えている。4つの講座(кафедра)がある。①「一般教育、成人教育、社会教育講座 Кафедра общей, возрастной и социальной педагогики」は教員心理士(педагог-психолог)、社会教員(социальный педагог)、自己認識(道德教育)の教員(учитель самопознания)を養成する。「一般・応用心理学講座 Кафедра общей и прикладной психологии」は教育心理学、理論及び実践心理学の専門家(специалисты в области педагогической психологии, теоретической и практической психологии)を養成する。③就学前・初等教育の理論と方法講座 Кафедра теории и методики начального и дошкольного образования」は就学前教育機関及び初等教育の教員を養成する。④「特別支援教育講座 Кафедра специальной педагогики」は、障がい児の教育に携わる矯正専門家(дефектолог、その中で логопед, сурдопедагог, олигофренопедагог, тифлопедагог)を養成する。この四つの講座のほかに全学講座(общеуниверситетская кафедра)として設置されているのは「一般教育学講座」である。この講座はほかの学部において教育学関連の科目を担当する。

さらに、この学部の下でインクルージブ教育の研究実践センター、心理学研究所、「知的国民形成研究所 НИИ формирования интеллектуальной нации」、民族教育研究センターが察知されている。

2014年から複数の外国の大学と交流協定を結び、ダブル・ディグリープログラムを導入している。大学院生は外国の協定大学先で最短で3カ月、最長で1年間の海外研修を受ける。

質問：ロシアでは教育大学には能力の低い、教職に向いていない学生がくるという問題が指摘されているが、こちらではそういう問題があるか。

答え：

そのような問題は国家統一試験で教育大学入学のための合格点数が低く設定されていたときあった。しかし、近年は125点満点のうち、85点を取らないと教育大学に入学できないので、もうそういう問題は解消されつつある。さらに、教職への向き不向きをみるためには今年(2016年度)から教育大学に入りたい受験者は国家統一試験のほかにもいわゆる創造的試験(творческий экзамен)も受けることが決まっている。この試験では子ども観、教育観が出てくるように問題が出され、受験者がエッセイを書く。したがって、教員に向けた

学生の選抜が行われるので、二つ目の問題も解決される。

質問：カザフスタンがボロニャープロセスに加盟して、大学の教育課程が5年から4年になったことで教育大学ではどのような問題が出てきたか。教育実習の時間が削減されたと聞いているが、どのように対応しているか。

答え：

確かに、問題が多い。単位制度の導入による混乱が本当に大きい。従来の教授・学習内容を単位の枠にどのように収めればいいのかまだ試行錯誤している。学校現場での教育実習の時間は確かに短くなっているが、教育実習に割り当てられる20単位の時間換算には学校で実際に授業をすることだけではなく、自習、講義、ゼミも含まれるため、従来の時間よりは多くなる。

質問：卒業生の進路について教えてください。実際に教職に就く人が多いか。

答え：

大学は卒業生の就職支援に取り組んでいる。アルマティ市だけではなく、全国の州教育局から学校教員の求職の情報を取り寄せ、卒業生に提供している。2014年度には教育・心理学部の卒業生の6割が就職して、2割が大学院に進学している。もちろん、教員にならない人もいる。就職先はさまざまである。

<2016年3月17日(木)>

⑥アルマティ国立カザフ人文・教育カレッジ Алматинский государственный казахский гуманитарно-педагогический колледж №1

(訪問時間：10：00～12：00)

1. 対応者：Джунисалиев Жанболат Сманович, директор колледжа
2. 住所：г.Алматы, ул. Шемякина 13
3. 連絡先：+7 (727)290-87-44 E-mail: pedkoll@mail.ru
4. 入手資料：Методикалық әдістеме «Өзін өзі тану» Алматы: 2014 (カレッジ教員が開発した教授法の冊子『自己認識』)

最初にカレッジのディレクター、ジュヌスアリエフ氏からカレッジの概要説明を受けたあと、施設を見学し、英語、数学、道徳教育、就学前教育専門の教育実習準備の授業を参観した。

人文・教育カレッジの概要

本カレッジは1978年に師範学校として設置され、1994年に教育カレッジ、2010年に人文・教育カレッジとして改名された。現在、6つの専門分野で教えている。それは、①初等教育、②就学前教育と訓育、③外国語(英語)、④カザフ語、⑤翻訳・通訳、⑥体育とスポーツである。教授言語はカザフ語のみである。1,143人の学生が学んでおり、110人の教員が教えている。学生の約半分が国家要請の無償枠で学ぶ。特に無償枠の定員が一番多いのは初等教育である。本カレッジはアルマティ市とアルマティ州のみならず、全国からの若者を受け入れる。しかし、教育実習はほとんどアルマティ市内に11あるパートナー学校で行われる。9年終了後に来る学生の場合、在籍期間は3年10カ月である。この約4年の間に計24週の教育実習を受ける。このほかに卒業研究の実習もある。卒業生の進路はさまざまである。約8割が就職し、そのうち半部以上が学校や幼稚園に就職する。

⑦ナザルバエフ知的学校（化学・生物学深化学習） Назарбаев интеллектуальная школа химико-биологического направления（訪問時間：14：00～16：00）

1. 対応者：Алибаева Бахыт Оразалиновна, директор школы
2. 住所：г.Алматы, Наурызбайский район, мкр-н. Калкаман-2, ул. Елибаева, 2
3. 連絡先：7(727) 331-01-10 E-mail: info@hbalm.nis.edu.kz
4. 入手資料：

最初にアリバエヴァ校長から学校の概要説明を受けたあと、施設を見学した。

ナザルバエフ知的学校（化学・生物学深化学習）の概要

2015年9月現在、全国で20のナザルバエフ知的学校があり、その目標はグローバル人材の育成である。この学校は2009年から設置され始めた。現在、13州に一つずつ、アルマティ市に二つ、シムケント市に二つ、首都アスタナに二つずつある。校舎が新しく建てられ、学校の構造は普通の学校と違っており、先端な機械設備が完備されている。これらの学校は、国家教育スタンダードに従わず、独自の教育内容を教える。英才教育学校という位置づけではあるが、これらの学校の教授・学習実践は全国の学校に広めることが目的である。主な教授・学習は統合された教育プログラム(интегрированная образовательная программа)に沿ってカザフ語、ロシア語、英語での三言語教育、クライテリア別評価(критериальное оценивание)、特別な訓育活動から構成される。二つの学校には国際バカロレア DP が開設されている。機能的リテラシー、コミュニケーション能力、批判的思考の育成が目指されている。この学校には初等中等教育第7学年から入学できる。入学試験は二段階の選抜から構成される。第一次試験は入学希望の学校のプロフィール（数学・物理、化学・生物学）の科目の四者択一のテストが行われる。この試験で40%以上の正答の受験者は、第二次試験を受けられる。この段階の試験は筆記試験であり、3段階の難度がある。解答は解説型になる。選抜は二つの試験の合計点によって行われる。合格者は大統領奨学金を受給する。学校は無償であるが、授業料を払ってでも子どもを入れたいという保護者が増えているので、有償枠の開設が検討されている。国家予算から知的学校の生徒一人当たり1年で200万テンゲ（約70万円）が割り当てられる。制服、教材、ノート、体操着、上履き、1日3食がこの予算に入る。2015年9月現在、20校には13,590人の生徒が在籍している。

教員も試験によって選抜される。教員の試験は3段階からなる。最初に書類審査によって合格した者のみが、四者択一のテストを受ける。それを合格した者はカザフ語、ロシア語または英語で提示された課題についてエッセイを書く。エッセイの点数で合格した者は面接を受ける。2015年9月現在、20校には3,914の教員が働いている。このうち282人が欧米諸国出身の外国人である。教科担当の教員とクラス担任(куратор)は別々に働く。クラス担任は教科を一切教えず、生徒たちの訓育、文化活動などを指導する。教員の月給の計算是普通の学校の教員のものとは異なり、通常平均給料の2~3倍になる。

本校（化学・生物学深化学習知的学校）は2015年8月11日に開講され、19目の知的学校である。生徒の定員は960席であり、全国で最大規模の知的学校である。校舎、宿舎、グラウンドなどを合わせて、5.6ヘクタールの面積を占める。宿舎の入居定員は270人である。宿舎には学校から60キロ以上離れた生徒が入居でき、一日5食がつく。入居は無償である。

本校には140人の教員が働いており、12人は外国人である。

<2016年3月18日（金）>

⑧国立教員研修所 Республиканский институт повышения квалификации руководящих и научно-педагогических работников системы образования Республики Казахстан (訪問時間：10：00～13：00)

1. 対応者：Макатова Жансауле Алиевна, директор института
2. 住所：г.Алматы, ул. Амангельды 61
3. 連絡先：7(727)267-44-21 E-mail: info@ripkso.kz
4. 入手資料：«50 лет РИПКСО РК: прошлое, настоящее, будущее» (『国立教員研修所 50周年：過去、現在、未来』)

国立教員研修所では、研究所の職員によるパワーポイントプレゼンテーションの形でカザフスタンの教員研修制度及び本教育研修所に関する説明が行われた。

教員研修制度について

教員研修を担う国立教師力開発センターは、2009年のナザルバエフ知的学校の設置、2010年のナザルバエフ大学の設置と並んで、ケンブリッジ大学及びペンシルベニア大学がカザフスタンの教育科学省の委託を受けて、その制度と活動内容を開発したものである。国立教師力開発センターは今回訪問した「教育制度管理職及び教育研究職の専門性向上のための国立研修所」と14の州レベルの教員研修所、首都アスタナ市と特別政令都市アルマティ市の教員研修所、計17カ所の教員研修所を統合した組織である。これまでは、各州の教員研修所と、教育管理職の研修を行っていた国立教員研修所は独立した組織であったが、新しい制度のもとで、これらの17カ所すべてが国立教師力開発センターの管轄下に入った。センターは公開株式会社(Открытое акционерное общество)であるが、株の過半数は国が持っている。2009年から次々と設置されてきたナザルバエフ知的学校の教授・学習経験を全国の学校に普及させるための教員研修、PISA型学習(キーコンペテンス、機能的リテラシー)に関する教員研修、教員管理職などの研修が行われる。

研修は二つのタイプのものがある。一つのタイプは72時間の短期間研修または72～108時間の中期間研修である。この研修は州レベルの教員研修所の教員が郡レベルの教育局と共同で開催するものである。二つ目のタイプの研修は3カ月の長期間研修である。この3カ月研修は3段階から構成される。第3初級段階—416時間理論+96時間教育実習、第2中級段階—440時間理論+120時間教育実習、第1段階上級段階—464時間理論+144時間教育実習)。この3カ月研修の段階別の研修修了は給与の増加につながる。第3段階の修了者は基本給の30%が追加される。第2段階の修了者は70%、第1段階の修了者は基本給100%追加される。

国立教員研修所の概要

国立教員研修所は、ソ連時代に1965年に中央教員研修所(Центральный институт усовершенствования учителей)として設置されたものである。1996年に現在の名称「カザフスタン共和国の教育制度管理職及び教育研究職の専門性向上のための国立研修所」 Республиканский институт повышения квалификации руководящих и научно-педагогических работников системы образования Республики Казахстан に改名された。2012年からは国立教師力開発センターの管轄下に入り、現在は主としてすべての教育段階の管理職、教員養成大学の教職員の研修を行っており、そのほかに初等中等教育学校の教員向けの3カ月の長期研修も行っている。研修は国内では研修所の中で実施するものと、E-learningシステムを使ってオンラインで実施するもの、さらに、外国の大学、研究所で受けるものがある。外国での研修は、契約が締結されている機関で行っている。これらの機関は、イギリスのニューカッスル大学、ノルウイッチ言語教育研究所(Norwich Institute for Language Education)、スペインのバレンシア工科大学、ドイツの国際経営技術アカデミー(Internationale Akademie für Management und Technologie)、ポルトガルのリスボン高等技術学院(Instituto Superior Técnico)、日本の筑波大学である。

研修所が実施している短期研修は この短期研修を 2015 年までのべ 11,000 の教員が受けた。研修のテーマは以下の通りである。

- 教育経営(Менеджмент образования)
- 12 年制教育
- 多言語教育
- インクルージブ教育
- 矯正教育機関における教育・訓育活動(Учебно-воспитательная работа в коррекционных организациях образования)
- ICT 教育
- 就学前教育

3 カ月の長期研修は、第 2 中級段階(440 時間理論+120 時間教育実習)のものであり、全国から 2500 人の教員が受けた。この研修の教育実習機関はナザルバエフ知的学校である。

教員養成大学の教職員の研修は、2015 年まで 2,500 人が受けており、そのうち 445 人は海外研修に参加した。研修の目的は、外国の教員養成制度、経験を学ぶことである。

<2016 年 3 月 21 日(月)>

⑩カザフ国立教育大学研究委員会書記、教師教育改革検討会メンバー、アイトバエヴァ氏へのヒアリング Айтбаева Айгулим Борангалиевна, ученый секретарь КазНПУ им.Абая, член рабочей группы по разработке реформы педагогического образования (ヒアリング時間：13：00～14：30、場所：市内の喫茶店)

質問：カザフスタンの教育改革と教員養成改革の関連について教えてください。

答え：

カザフスタンの独立以降の 25 年間の教育改革は、とにかく国際スタンダードに追いつくことを目指してきたような気がする。というのは、初等中等教育の 11 年制から 12 年制への延長、国家教育スタンダードの導入、国家統一試験の導入、ボローニャ・プロセスへの加盟による高等教育制度の改革、生徒一人当たりの予算の振り分け等々。これらの改革そのものが悪いわけではなく、やはり現状の十分な分析、改革の根拠づけがなされてこなかったこと、そして、教育大臣が代わるたび、重点政策が代わるといった継続性が保たれてこなかったことが大きな問題である。教員養成は学校と大学が代わることに追いついていけなかった。これが、若者の教職離れの原因でもあると考える。すなわち、大学で学んだことは学校で教えなければならないこととあまりにも違いすぎて、この違いに自分が対応して自習して、研修を受けていけるような資質も身につけていなくて、どんどんやめていくことが堅調である。25 年の間に教員養成のプログラムが大きく変わった。というのは、ソ連時代に教育学、児童心理学、各教科の教授法関係の科目に十分な時間が当てられていたのに対して、2000 年以降、一般教養科目(社会学、哲学、国家と法律などに)に時間がとられてしまい、学生たちが教職の理論的な・実践的な知識がかけている。教育実習も減らされ、学校現場を十分に体験してないものが教員になる。さらに、教員養成のプログラムは、初等中等教育の国家教育スタンダードの内容にも対応できていない。スタンダード自体がよく変わることも原因であるが、教員養成のプログラムの作成にはその変化に対応できるようなメカニズムがない。

質問：ロシアでは、教育大学に入っている学生の能力が低く、また教員になる卒業生の能力も低い、二重の悪の選抜があると言われていたが、カザフスタンではどうか。

答え：

ロシアで指摘されている問題は、全部カザフスタンにもある。能力の高い、教職に向いている学生を選抜するために、教員養成改革が一つようである。現在、その改革の原案の作成に取り組んでいる。

質問：その原案について可能な範囲で説明してもらえないか。

答え：

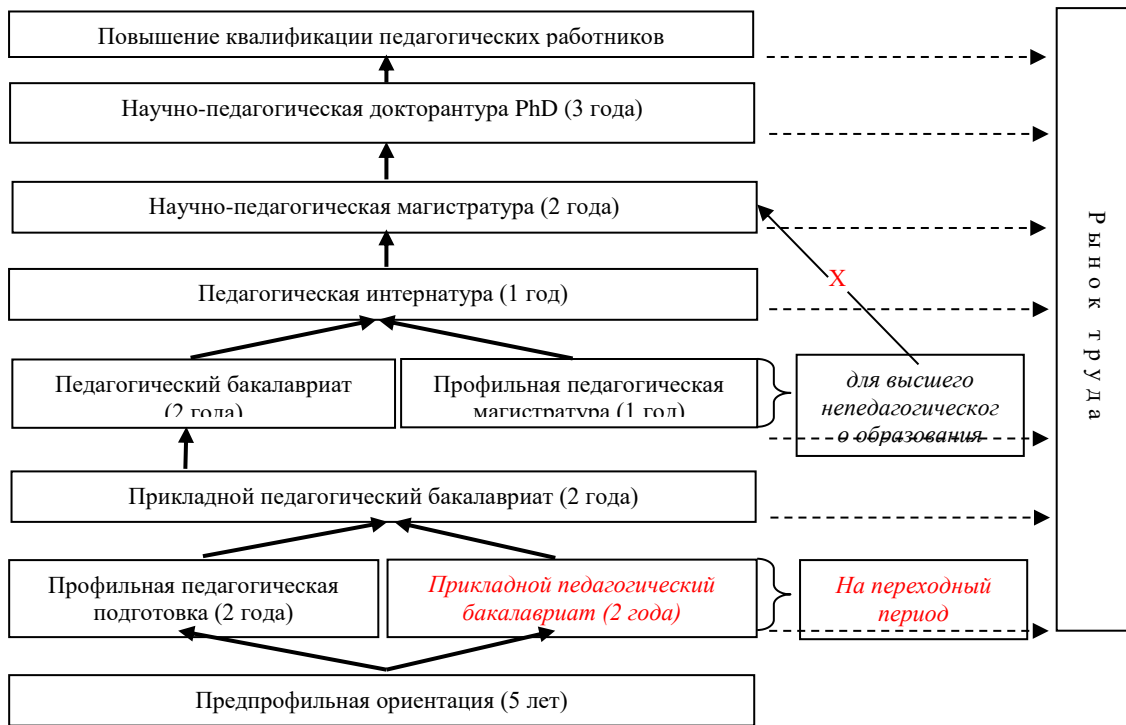
まだ検討段階にあるので、具体的なことを話せないが、最も重要なことは、初等中等教育段階の6～10学年、後期中等教育段階の11～12学年、中等職業教育段階にある教育カレッジと高等教育段階の教育大学を統合することである。12年制(5・5・2)の教育制度では、第6～10学年に選択科目として教育学関係の科目を取り入れる。この5年間はいわゆる職前オリエンテーション(предпрофильная ориентация)になる。次に、職探しの教育として設定されている11～12学年では一般教育と職業教育コースを選択できる。職業教育コースの中には教員養成課程を入れることで、教員になりたい若者を早期段階から発見することができる。これは教職準備期間(профильная педагогическая подготовка)とする。学校終了後に幼稚園の訓育者の補助、ベビーシッターとして働ける証明書をもたらえる。教員養成課程の卒業生は現在の教育カレッジに進み、さら2年間の課程で学ぶ。これは応用教育バカラブリアート(прикладной педагогический бакалавриат)になる。または、教育大学に進学し大学の最初の2年間の教育バカラブリアート(педагогический бакалавриат)で学ぶ。これらのいずれの修了によって補充教育の教員資格を取得できる。次の1年間は教育インテルナトゥーラであり、これを修了すれば、初めて教科担当の資格を得られる。次の2年間の教育・研究修士課程があり、その上に3年間の博士課程がある。

質問：このように変わる制度が当然、内容の変容ももたらすという理解していいか。

答え：

もちろん、内容には一貫したものでなければならない。従来の専門、資格、教育プログラムの再編、教育実習の再編といったあらゆる側面の全面的な再編が必要になる。さらに、このような教員養成制度の執行予算も国家だけではなく、地方予算からも割り当てられるようにしなければならない。これまでの国家要請の無償枠のほかに、地方要請の無償枠などを設定することである。それから、説明のために教育カレッジという単語を使ったが、教育カレッジはなくなるという想定である。というのは、教育カレッジは応用バカラブリアートとして再編されるので、高等教育制度の中に盛り込まれる。ただし、この2年の終了は大学修了としては認められない。

教員養成制度図 (案)



サンクトペテルブルグ調査報告書
2016年3月26日～31日（6日間）

澤野 由紀子
 大谷 実
 木之下 健一
 山下 正美

○調査日程

日付	時間	移動・調査機関
2016年 3月26日（土）	11：55 15：20 18：00 20：05	成田発 AY074 便 ヘルシンキ着 ヘルシンキ発 AY169 便 サンクトペテルブルグ着 アンバサダーホテル宿泊（4泊）
3月27日（日）	10：00～12:30 14：30～16:30	①プーシキン博物館附属記念リセ Всероссийский Музей А. С. Пушкина Мемориальный Музей-Лицей ②エルミタージュ博物館学校センターНаучно-методический отдел "Школьный центр" Государственного Эрмитажа
3月28日（月）	10：00～11:30 12：30～14:00 14：30～16:00 16：00～17:30	③サンクトペテルブルグ第8教育カレッジ Санкт-Петербургский педагогический колледж No8 ④サンクトペテルブルグ音楽教育学校 Санкт-Петербургское музыкально-педагогическое училище ⑤サンクトペテルブルグ・ディプロマ後教師教育アカデミー Санкт-Петербургская академия постдипломного педагогического образования あわせて教育博物館 Педагогический Музей も見学
3月29日（火）	8:30～10:00 10:30～13:00 13:30～18:00	ホテルにて Nina Litvinova 先生との懇談 ⑥子どもと教職員のためのレニングラード封鎖博物館 Народный Музей «Дети и Дошкольные работники Осаждённого Ленинграда» ⑦第239番大統領物理・数学リセ Президентский физико-математический лицей
3月20日（水）	11：55 13：10 17：15	サンクトペテルブルグ発 AY166 ヘルシンキ着 ヘルシンキ発 AY073
3月31日（木）	8：55	成田着

<2016年3月27日(日)>

①全ロシア A.S.プーシキン博物館リセ記念博物館 Мемориальный Музей-Лицей
Всероссийского музея А.С. Пушкина (訪問時間：10:00～12:30)

1. 対応者：

- 1) Добровольская Екатерина Борисовна, специалист отдела Музейных программ
- 2) Лузинова Ирина Викторовна, специалист отдела Музейных программ,
- 3) Подгорная Елена Григорьевна, концертмейстер ГБОУ гимназия №406 Пушкинского района г. Санкт-Петербурга
- 4) Шульга Елена Владимировна, педагог дополнительного образования гимназии №406

2. 住所：196600, г. Пушкин, ул. Садовая, д. 2

URL:<http://www.museumpushkin.ru/info/memorial-museum-lyceum.html>

3. 連絡先：Tel.:(812) 476-64-11

E-mail:

4. 入手資料：

- 1) Под редакцией С.М.Некрасова, Путеводитель Всероссийский музей А. С. Пушкина
- 2) Мемориальный музей-лицей, Виртуальный тур (DVD)
- 3) プリント資料

1811年に国家の人材養成のために初めて開設され、文豪プーシキンも初代入学生として6年間学んだリセの建物が1949年に小博物館となり、1956年にリセ博物館となった。今井エカテリーナさんの協力により、日曜日にも見せてもらえる子どもの校外活動の場として紹介していただいた。

案内していただいたエカテリーナ・ボリソブナさんは当館勤続34年、イリーナ・ヴィクトルヴナは勤続31年のベテランである。共にレニングラード大学の歴史学部の出身で「百科全書的知識を学んだ」という。同大学で博物館教育学も学び、当初は博物館ガイド(エクスクルサボード)として就職し、キャリアを積んでメトディストとなり、20年前の学童のためのオリジナルの教育プログラムを開発するようになった。

「アボネメント・システム」(事前予約制)により、多様な年齢の児童生徒のためのプログラムを実施している。例えば、「プーシキン・リセ」「私たちのプーシキン」「私達の友人・・・」(2～5学年対象)、「プーシキン・博物館についての話し合い」(5～7学年対象)などがあり、6回の授業が行なわれている。また「私たちはリセの記憶のなかに生きる」の展示を活用したテーマ授業も行なっている。高学年の生徒のためには、年間を通して「若いエクスクルサボード」のプログラムが実施され、夏季には博物館実習を行なっている。

1996年から毎年、子どものためのプログラムとしてリセ祭「ツアールスコエ・セローの秋」も行なっている。このプログラムでは、文学・郷土学の知的ゲーム、世界の古典の演劇コンクール、文学作品の主人公のコスチュームのコンクール、若い詩人・作家との対面、朗読コンクール、若い音楽家のタベ、文学・郷土学ゲーム、1年生のためのお祭り、若いエクスクルサボードの日などが実施される。コンクールの入賞者のために、「リセ舞踏会」も開催される。こうした行事の目的は、博物館を中心として才能ある子どもたちを集めることと、町の住民に子どもの芸術祭を贈物としてあげることにある。

行事は、学校教員の希望を考慮しながら企画する。その際、子どもたちの年齢特性、知的レベル、心理学的レディネスなどに留意する。博物館教員が作り出す自由に参加できる雰囲気の中で、子どもたちの潜在能力が開花され、子どもの心のなかに美や調和への志向性が育まれる。文学ゲーム、子ども舞踏会、展覧会などは、参加者に喜びと、歴史と文化の美しい世界への直接体験を与えるものとなっている。



当日プーシキン・リセについての説明やダンス、合唱などを披露してくれたのは、近隣の第406番ギムナジアの子どもたちだった。同校では、文学だけでなく、歴史や美術、音楽など様々な教科の教育をリセ博物館と連携しながら行なっているということだった。子どもたちの合唱やダンスを指導していたシュルゲ先生は、補充教育担当教員でコンサートマスターの資格をもつ。

②国立エルミタージュ博物館学術・方法部「学校センター」（就学前・初等中等学校就学年齢の子どものための活動担当） Научно-методический отдел "Школьный центр" Государственного Эрмитажа（訪問時間：14:00～16:00）

1. 対応者：
Ирина Дюбанова, заведующий отдела
2. 住所：190000 Санкт-Петербург, Дворцоваянаб., 34
URL: <https://www.hermitagemuseum.org/wps/portal/hermitage/learn/children?lng=ru>
3. 連絡先： тел. (812) 710 96 73
E-mail: school_c@hermitage.ru
4. 入手資料：
子ども用のパンフレット、教材等

エルミタージュには毎年 400 万人の利用者が訪れる。博物館ガイドは 20 人おり、32000 件のエクスカーションを行っている。エルミタージュは世界で初めて子どもを対象とする活動を導入した博物館である。20 世紀初頭から、子どもにどのように話すか、子どもはどのようなことに興味を持つか、などの研究をしている。

イリーナ・デュバノワ氏はエルミタージュ美術館勤務 24 年。レニングラード国立大学（当時）歴史学部で芸術学を学び、博物館ガイドとしてエルミタージュに就職。6 年前から当部門に配属。（当部門のスタッフは 13 人。）メトディストの資格もあり、子どものためのエクスカーションを企画したり、教材を作成する。同僚のほとんどが歴史学部を修了しているが、言語学部や心理学部の卒業生もいる。図書館司書の資格を持つ人も。大学 4 年次に博物館ガイドコースを履修し、メトディストに教育を受けて教育エクスカーションを企画する訓練を受けた。子どもや親への説明の仕方も工夫がいる。エルミタージュでは、エクスカーションは子ども用と大人用の方法部門が分かれて企画している。

自分は古代ギリシャの芸術が専門であるため、子どものためのテーマ・エクスカーションとして古代ギリシャやエジプトを取り上げたこともある。過去 20 年間に 170 のエクスカーションを企画した。

子どもは興味がなければ騒ぎ始めてしまうので、子どもを対象とするプログラムを開発する際、メトディストは文献にあたり、子どもにとって何が面白いのか、何を学ぶ必要があるかなど調査する。

子どものためのエクスカージョンは約60テーマで実施している。海のように多様である。1～11学年の子どもを対象とし、1～3年、4～6年、7～11年（7-9年、10-11年）に区分して、年齢段階ごとにテーマを定めている。

「エルミタージュの猫の日」「子どもの日」「ヨーロッパの日」「切り絵の日」などの行事も行っているほか、コンピュータ・グラフィックス・コンクールもある。

1930年から子どものためのサークル活動を無料で実施し、才能のある子どもの発掘を行っている。現在1～11年対象のサークルが30ある。活動は週1回。



<2016年3月28日（月）>

③ Санкт-Петербург教育カレッジ№8（訪問日時：3月28日（月）10：00～11：30）

⑥ 付属・国民博物館「レニングラード封鎖下の子ども達と就学前教育従事者」（訪問日時：3月29日（火）10：30～13：30）

Санкт-Петербургский педагогический колледж №8

Народный музей «Дети и дошкольные работники осажденного Ленинграда»

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5. 対応者： Людмила Петровна Иванова 校長
Людмила Григорьевна Жукова 副校長
Елена Николаевна Дмитриева 国民博物館「レニングラード封鎖下の子ども達と就学前教育従事者」博物館館長
他教職員の先生方 |
| 6. 住所：
① Санкт-Петербург, ул. Ивановская, д. 16
② Санкт-Петербург, ул. Можайская, д.49 |
| 7. 連絡先：
тел. 560-30-94 メール：info@pedagog8.ru
HP：noindex http://www.pedagog8.ru/noindex |
| 8. 入手資料：学校紹介のパワーポイント資料
「博物館に関する紹介資料」 |

Санкт-Петербург教育カレッジ№8は幼稚園や初等教育機関の教員養成を中心的に担う教育機関である。今回の訪問に際しては、アレンジの行き違いにより面談場所に手違い

が生じてしまった。3月28日（月）の朝①イヴァノフスカヤ校舎（下写真）を訪問すると、イヴァノヴァ校長先生（2012年より現職、「ロシア連邦名誉教師」称号受賞者）を含めスタッフの方たちが②モジャイスカヤ校舎での対応を予定していたとのことで、この日は急遽ジュカヴァ副校長先生の案内で①イヴァノフスカヤ校舎を見学しながらお話を聞かせて頂き、翌29日（火）に改めて②モジャイスカヤ校舎を訪問させて頂くこととなった。この②モジャイスカヤ校舎は、以前はレニングラード教育学校№5、後の Санкт-Петербург 教育カレッジ№5であったが、2010年に教育委員会令に基づいて教育カレッジ№8統合され現在に至っている。



に基づいて開校された。1992年に教育省令№292に基づいて Санкт-Петербург 高等教育学校「カレッジ」№8へと改組された。当時の社会状況下における初等教育教員養成へのニーズの高まりに合わせて、94年には人文社会科系のロシア語、英語、図工、またコンピューターを扱う「初等教育教員」資格を付与する「初等教育科」が設けられた。98年には「社会教育科」が開設され。これは「社会教育士」の資格及び「観光地域学活動に関する補充教育士」、「技術創造分野に関する補充教育士」、「教育管理士」、「心理学分野における補充教育士」の資格を付与するコースであった。2002年には「情報テクノロジー」、2011年には「補充教育教育学」に関する専門コースが開設された。

現在、教育カレッジ№8には「就学前教育」（コード：44.02.01）、「基礎普通教育」（コード：44.02.02）、「補充教育教育学（専門教育活動分野、観光地域学活動分野）」（コード44.02.03）という3つの専門的な教育学を学習するコースが設けられている。

就学前教育機関の教員を養成する「就学前教育」コースは、基礎普通及び中等普通教育卒業者を対象としており、9年生終了後の入学者は、3年10カ月、11年生終了後の入学者は、2年10カ月が在学年数となっている。昼・夜間部の場合は、11年生終了後、2年10カ月が在学年数となっている。

基礎普通学校の教員養成を担う「基礎普通教育」コースは、昼間部だけであり、9年生卒業者が3年10カ月、11年生卒業者が2年10カ月の在学年数となっている。

様々な補充教育機関の教員を養成する「補充教育教育学」コースも昼間部だけの開設となっており、9年生卒業者が3年10カ月在学することとなっている。11年生卒業者への募集は行っていない。

同校の学習言語はロシア語であり、寮は併設されていない。校内には、60以上の教室、11の実験室、2つの講堂、2つの体育館、食堂、15万冊の蔵書を持つ図書室、コンピューターとビデオ、オーディオ機器を備えた情報室、90台のパソコンを備えたパソコン室がある。

教育カレッジ№8は、学校全体として様々なコンクールに参加しているが、数年に1、2回のペースであった受賞数が過去数年間の間に大幅に増加している。2013年には、E.H.ドミートリエヴァ教諭（今回訪問した博物館の館長）が、「全ロシアコンクール“教師による情操功労賞”地区大会“子どもと青年に対する優良市民性・愛国心教育”部門、第1位」を受

賞。2014年は、「全ロシア教師技能コンクール“プロフィ”創作プロジェクト“人、市民、専門家”部門、第1位」、「青年教育ゲーム“寛容性の境界”、第1位」、E. Б.ディミンティエヴァ教諭「サンクトペテルブルグ市教育成果コンクール“専門教育系機関年間教師賞”部門、入賞」、「ロシア学生の春コンクール、サンクトペテルブルグ市“小劇場”部門、第1位」、「サンクトペテルブルグ市“製品（商品）、業務、サービスの質”部門栄誉賞、第2位」の受賞歴がある。また2015年は、Л.Г.ジューカヴァ副校長「サンクトペテルブルグ市“教育リーダー”コンクール“教育活動オーガナイザー”部門、第1位」、A.A.サカローヴァ教諭「サンクトペテルブルグ市“保健教師”コンクール、第3位」、「地域プログラム“アルト・プロフィ・フォーラム2015”、“創造的な専門性宣伝・発表コンクール”部門、入賞」、「市自主活動プロジェクト“1941-1945年大祖国戦争におけるソヴィエト人民勝利70周年記念・平和の空をありがとう：2000年代世代—40年代の英雄たち”市フォトクロス（写真の競技の一種目）“記憶の色”部門、入賞」、「1941-1945年大祖国戦争におけるソヴィエト人民勝利70周年記念、成長世代の市民性・愛国心教育における優秀機関の業績に関するサンクトペテルブルグ市教育機関視察コンクール、“成長世代の市民性・愛国心教育における優秀職業教育機関”部門、第1位」となっている。

このように上記のような様々な受賞歴を持つ同校であるが、背景として2012年に現在のイヴァノヴァ校長が就任して以降にこうした受賞歴が急増していることから、校長のリーダーシップによる影響が推察される。公開されている同校のその他の受賞歴は、2007年に1件、2011年に2件となっている。

様々な活動を行っている同校にはその他、各種スポーツ部門、演劇・ダンススタジオ、コーラス部、民謡アンサンブル、子ども楽器アンサンブルなどのサークルが設けられている。また、その他の課外活動としても、ミュージカル、文学イベント、創作活動、また併設されている国民博物館「レニングラード封鎖下の子ども達と就学前教育従事者」との間での活動なども行っている。

頂いた資料によると2016年1月1日時点での総在籍者数は基礎普通教育コースに365人、幼稚園教育コースに日中291人、日中・夜間471人、補充教育教育学コースに118人の生徒が在籍している。男女比は女子生徒の方が圧倒的に多く、男性生徒の数は33名となっている。卒業生は通算12,000名を越えており、そのうち5人に1人が市内の教育機関で働いている。

教員数は105名でそのうち、有効なカテゴリー保有者が75名、博士候補が6名、専門別表彰者35名、「ロシア連邦名誉教師」称号保持者3名となっている。またこのうち男性教員は15名である。①イヴァノフスカヤ校舎を見学した際には、数名の男子生徒を紹介して頂いたが、初日に校舎を案内して下さったジューカヴァ副校長先生（右下写真、右から3人目の方）は全ての男子生徒の姓名や専門を把握しておられた。副校長先生は、自身を「学校の母」と言われていた。様々な生徒を「学校の母」として面倒を見ている、とのことで、情熱的に生徒の指導に取り組んでいる様子が窺われた。副校長先生ご自身も、世界芸術文化と地理の二つの授業を担当しており、日本をテーマとした授業もされているとのことであった。授業中の教室、図書室等を見学させて頂き、初日の28日は時間の関係で早めに退出させて頂いた。



下記は、様々な課外活動の様子。（頂いた PPT 資料より抜粋。）



①イヴァノフスカヤ校舎は、サンクトペテルブルグ市の南東部にあり中心部から車で 30 分ほどの距離にある校舎である。敷地面積もこちらは広めである。一方の②モジャイスカヤ校舎は市の中心部に位置するが、敷地面積はそれほど広いわけではない。市内中心部の建物、アパートの中に学校がある、という雰囲気である。そしてその内部には、大学で言うところ中教室程度の部屋にレニングラード包囲戦に関する博物館を併設している。

二日目の3月29日に訪問したこの②モジャイスカヤ校舎では、校長先生を始め先生方が歓迎して下さい、軽食を取りながら学校の概要についてお話を頂いた。その後、校内に併設されている国民博物館「レニングラード封鎖下の子ども達と就学前教育従事者」（1972年開設）をドミートリエヴァ館長（下記の左側写真、左に立つ女性）の案内のもと見学させて頂いた。





レニングラード包囲戦は、第2次世界大戦期の1941年9月8日-1944年1月18日にナチス・ドイツ軍がソ連第2の都市レニングラード（現在のサンクトペテルブルグ）に対して行った長期に渡る900日余りの包囲戦のことで、激しい砲撃と深刻な飢餓により67万人の死者（ソ連政府の発表）を出したとされる。また、一説によれば死者の数は100万人を超えている、と言われている。1939年当時でレニングラード市の人口は319万人であったとされ、このことからその戦闘の激しさが窺われる。この900日余りの包囲戦の間、様々な社会生活、活動が停止を余儀なくされたが、一方で教育活動も細々で行われていた（下記の写真左は、全封鎖期を通じて授業行い続けたカズロフスカヤ教諭と子どもたちの写真）。そうした際の子どもたちや幼児教育者の日々の様子、教育活動の在り様について展示を行っているのが同博物館である。

こちらでは、レニングラード封鎖期の遺物や資料20,000点余りを収集し展示を行っている。こうした展示物はスタッフの方を中心に収集した実物である。子どもの遊び道具や、創作物、また教師に限られた物資の中で作った教材などが展示されており、当時の子どもと教師の様子を窺い知ることができる。また子ども用テーブルの上には、当時の厳しい食糧事情の下で配給されていた食事の模型が展示されている。140gのこの塊は、油の搾りかすを固め直したものとすることで、硬い黒パンか石の塊のようで、本来とても食用として使えないものではあるが、深刻な飢餓を受けてこのような搾りかすを固めて食べながら、飢えを紛らわせていた、とのことであった。子どもたちを含む来館者は、その塊を実際に手に取り、その少なさを体感することができる。（下記写真右を参照）





左の写真は、先述のカズローフスカヤ教諭（左上写真の白い服の女性）が自らのグループの子どもたちのために紙で作った人形である。子どもたちが防空壕に逃げる際に持って行ったものであった。

またこちらの博物館においては、同校の学生は全員1年生の時に見学を行うが、それ以外にも近隣の学校の子どもの見学のためにも開放しており、あらゆる児童、生徒がレニングラード封鎖期下を生きた子どもたちの生活とそれを教育者としての立場から支えた人々の生き方を学べるような展示となっている。また展示案内の役員はボランティアで同校の学生たちが行うこともある。頂いた資料によると年間の来館者数は以下の表のようになっている。

年	実施した見学会の回数	来館者数
2008-2009年度	170	約 5400名
2009-2010年度	200	約 6000名
2010-2011年度	195	約 5500名
2011-2012年度	230	約 6500名
2012-2013年度	300	約 7000名

ここからは、毎年 200-300 回余りの見学会（1日平均 1 回程度）、5500-7000 名余りの来館者数（1日平均 20 名程度）というように、高い頻度で多くの来館者に対して公開されている様子が窺える。

以下の写真は博物館を見学する児童の様子を写したものである（カレッジの HP より。博物館のスタッフによる案内の下、展示の解説が行われ、それを見学し、また献花をする児童の様子が HP に掲載されている。

http://www.pedagog8.ru/images/documents/college/museum/nar_mus_blok/na_ekskursiyh.pdf





こうした展示について、日本における広島・長崎における原爆投下に関する展示や、沖繩戦に関する展示による平和教育などを挙げながら、教育的意義づけをどのように捉えているのか、という点について質問をしたところ、「私たちは平和というものを大変重視しています。日本における惨劇も承知しています。これらの展示は、戦争において亡くなった方たちに関するものであり、こうした展示を政治的に使おうとする人はもちろんいるが、我々はこれを平和教育として意義づけており、こうした遺品を世代から世代へと受け継いでいくことが重要であると考えています」とのお話であった。

また子どもたちは展示を見学したあと、それぞれの感想や印象をもとに、作文や絵を描いたりする活動を行っている、とのことであった。

上記のような様々な質疑応答をさせて頂いたのち、今後も博物館を訪問する機会があれば、是非ご連絡下さい、教育交流をしていきましょう、というお話を頂きながら、この2日目の訪問を終えて、学校を辞去させて頂いた。

④サンクトペテルブルグ音楽教育学校 Санкт-Петербургское государственное бюджетное образовательное учреждение среднего профессионального образования техникум «Санкт-Петербургское музыкально-педагогическое училище» (訪問時間：12：30～14：00)

1. 対応者：

Кириченко Полина Владимировна (ピアノ教員)

Анцыгин Вадим Сергеевич (ピアノ教員)

Сысоева Кристина Владимировна (実習担当教員)

2. 住所：197198, Санкт-Петербург, ул. Воскова, д. 1

3. 連絡先 電話, Факс: 232-74-79

e-mail: mpk32008@mail.ru

4. 入手資料：

Прекрасное пробуждает доброе. Сборник материалов 2 Городских педагогических чтений «Прекрасное пробуждает доброе», посвященных 110-летию со дня рождения Д. Б. Кабалевского. – СПб.: НОУ «Экспресс», 2015.

歴史ある校舎

サンクトペテルブルグ音楽教育学校は、小礼拝堂を併設した歴史ある建造物を校舎としており、中に入るとすぐに天井の高い玄関ホール正面壁に飾られた美しいステンドグラスが目に入った(写真2)。



写真 1 音楽教育学校看板 文化庁の管轄である（撮影：山下）

この場所は、ロシアで初めての知的障害児教育者であるエカテリーナ・ニコラエヴナ・グラチェヴァ（1924 没）が、1891 年に、てんかんを患う子どものための養育院を建てた場所であるという。度重なる発作・痙攣に悩まされていたグラチェヴァの弟が、夢に出てきた聖母の教えに従って 1890 年 12 月 6 日に、この場所にある聖母像のもとを訪れ、イコンに接吻すると、たちまちに発作が止み、麻痺していた手では十字を切ることができるようになり、病が完治した、というエピソードが言い伝えられている。



写真 2 玄関正面ホールのステンドグラス（撮影：木之下）

1930 年～40 年代には、工場の附属学校となり、戦時中は病院、中等学校等を経て、今日の音楽教育学校に至る。1930 年代の改装により、教会のあった場所は講堂となり、サンクトペテルブルグ市でも最も音響のよい室内楽ホールの 1 つとされているようだ。

音楽学校での指導

音楽学校側では、ピアノ教員のポリナ・ヴラディミロヴナ先生と、若手の実習担当教員であり本校の卒業生でもあるクリスティナ・ヴラディミロヴナ先生が迎えてくれた。簡単に互いの自己紹介をしたのち、早速、構内を見学させて頂いた。

まずは合唱の授業である。正面にスタンドグラスを仰ぎ見ながら階段で 2 階に上がると、講堂内で合唱の授業が行われていた（写真 3）。演奏曲は、ピアノ伴奏の和声進行を聞いた限りでは、1900 年前後の作品かと思われるが、「ミゼレーレノービス Miserere nobis（我らを憐れみたまえ）」というラテン語の歌詞、つまりミサ曲で使われる通常文の歌詞が聞こえたことから、宗教曲を取り上げていたようである。

中央で教師が指揮をしながら指導していた。たまたまだったのかわからないが生徒たちは全員女子で、男子生徒は見当たらなかった。サンクトペテルブルグ市の中でも随一といわれるホールだけあって音響は素晴らしく、また学生たちの声量も十分で、美しく伸びのある声が観客席までよく響き渡っていた。

その後は、ソルフェージュの授業を少しだけ覗いて、器楽の個人レッスンの様子を見せて頂いた。

まずはピアノの学生で、4 年生のユーリヤさんがショパンのエチュード（練習曲）作品 25-12 と、‘プレリュード・マーチ’の通称でも知られるラフマニノフの前奏曲 作品 23-5 の冒頭部を弾いてくれた（次頁、写真 4）。両曲とも日本の音楽大学やコンクール、コンサ

ート等でもよく演奏される技巧的な曲である。日本のコンクール等では指先のテクニックを重視し、ミスなく演奏しきることがとかく目指されがちだが、ユーリヤさんの演奏は和声進行をよく理解した仕上がりになっており、好感を持てた。使用ピアノはドイツのレーニッシュ Rönisch 社製だった（本校ではヤマハからも楽器を買っているということだったが、ここでのピアノはヤマハ社製ではなかった。たまたまかもしれない）。続いて、同じ並びにある個人レッスン室に移り、今度はバヤン、そしてギターの演奏を聞かせて頂いた。バヤンは女子生徒が、ギターは男子生徒が弾いて見せてくれたが、こちらはまだ練習中といった様子で、現在取り組んでいる曲を少しだけ弾いて聞かせてくれた恰好である。

「もっとも基礎となる楽器はフォルテピアノです。」とポリーナ先生はいう。先生ご自身の専門もピアノである。実際、ピアノは独奏楽器にも、そして伴奏楽器にもなり得る点で万能な楽器である。日本の保育士養成や音楽科教員養成においてもピアノの演奏実技は避けられず、ピアノが重視されているのは日本と同じであるが、これにバヤンやアコーディオン等も加わるのはロシアならではの。



写真 3 講堂での合唱授業風景（撮影：木之下）

本校の入学試験では基礎楽器（основной музыкальный инструмент）の演奏として、ピアノ、バヤン、アコーディオン、ギターの 4 つの中から選択するかたちをとっている。ピアノ・バヤン・アコーディオンは鍵盤楽器で、ギターだけは弦楽器であるが、いずれも幼稚園や学校での伴奏に適した楽器といえよう。



写真 4 ピアノを演奏してくれた 4 年生のユーリヤさん。右奥は、校内を案内してくれたポリーナ・ヴラディミロヴナ先生（撮影：木之下）

入学試験では、基礎楽器の演奏のほかに、無伴奏での歌唱・二声／三声の和声聴音などのソルフェージュが課されている。実技試験はいずれも、レベルや技術の完成度だけでなく、専門教育を受けるに足る基本的な音楽能力（聴力、リズム、記憶）が備わっているかどうかを見極めるためのものである。

本校の修学年限は 3 年 10 ヶ月であるが、義務教育の 9 年生卒業者は 4 年間のカリキュラム、11 年生卒業者は 3 年間のカリキュラムで学ぶ。授業はすべて無償で、成人も約 10% 含まれる（大学等をいったん卒業したものの音楽の専門教育は受けたこと

が無い、という者も入学してくるそうだ）。入学定員は毎年 50 席までで、25 名ずつの 2 グループで並行授業が行われる。クラス替えはない。調査時、生徒は 220 名、教師は 150 名との説明があった。生徒 1 人あたりの教師数は約 1.5 人という計算になるから、生徒数に対して教員の数は非常に多いとあってよいだろう。授業の大半は個人レッスンで行われるため、これだけの教員数が必要、ということだったが、すべて無償である点は特筆に値する。同じくサンクトペテルブルグ市内のゲルツェン記念教育大学の学費は、音楽・演劇・舞踊等の専攻・国籍によって 1 学期 51,300～84,000 ルーブルほどである。本校の規模自体

が大きすぎないことも、すべて無償での教育が成り立つ一因であるかもしれない。

本校の授業には、集団で行われるものと、個人レッスンで行われるもの、そして幼稚園や学校等で行われる実習とに分けられる。時間割を見てみると、集団で行われるものとしては「ロシア語」「英語」「文学」「数学」「歴史」「地理」「社会 обществознание」「理科」「体育」等の一般科目や、「教育学」「心理学」、音楽の専門科目としては「合唱」「ソルフェージュ」「リトミック」「編曲」「和声」「分析」「音楽史」などがある。これらの授業の合間に、ピアノや声楽、指揮など実技の個人レッスンが入ってくる。生徒は、9年生卒業生から成人までと幅広いので、そうした個々人のニーズに合ったプログラムが組まれるそうである。

実習は、1学期間に毎週半日～1日、同じ実習先に通うかたちで継続される。午前中は本校で「文学」や「合唱」等の授業を受け、午後からは実習先に出向く、あるいは毎週水曜日は一日実習先で過ごす、といった時間割になる。はじめは5～6人ずつのグループで実習先に入り、ゆくゆくは1人で授業を担当できるように指導していく、どの学年でも本校と実習先とを常に行き来することになるので、実習先での些細な出来事や指導方法等についても本校教員に相談しやすいし、きめ細やかな指導を受けながら進められる体制となっている。

取得できる資格

卒業後に得られる資格は、連邦国家教育スタンダード中等専門教育 53.02.01“音楽教育 Музыкальное образование”である。本校で取得できる資格は、唯一この“音楽教育”のみではあるが、このディプロマにより義務教育学校の音楽教諭 учитель музыки や、幼稚園等の就学前教育機関の音楽指導者、子どもの音楽創造発達のレッスンや美的養育を行う、合唱団で働く、楽器演奏のレッスン（ピアノ、バヤン、アコーディオン、ヴァイオリン、ギター）を行う、アンサンブルの指導者、合唱団・舞踊団のコンサートマスター、子どもの個人レッスン等を行う権利が得られる。

卒業生の進路

卒業生には、幼稚園・学校等の教諭に就職する者のほか、大学等に進学してさらに音楽の勉強を続けるものも多い。2015年卒業生の就職状況を見ると、ここに載せられている35名の進路は、プーシキン記念国立サンクトペテルブルグ大学哲学部文化芸術学科音楽学講座への進学が4名、同音楽コースが2名、ゲルツェン記念教育大学音楽教育学科が3名などで、国立サンクトペテルブルグ文化大学合唱指揮科への進学者は7名もいる。今回対応して下さったクリスティナ・ヴラディミロヴナ先生も、本校を優等 (отличие) で卒業後、リムスキー・コルサコフ記念サンクトペテルブルグ国立音楽院の音楽学専攻を、やはり優等 (отличие) で卒業した、という高学歴の持ち主である。



写真 5 左からポリーナ先生、クリスティナ先生、山下、澤野、木之下

進学者では合唱指揮を専攻する者が多いが、講堂での合唱授業のレベルが高かったのも、合唱への生徒側の意識も非常に高いのだろう。また今回の訪問では残念ながらお会いできなかったが、校長のエリザロフ・アレクセイ・アナトリエヴィチ氏は、サンクトペテルブルグ国立アカデミーカペル（合唱団）の指揮者を務めているそうだ。教会での礼拝には合唱音楽が欠かせない。合唱指揮という校長のご専門や、小礼拝堂を併設し、教会だった建物を講堂へと改装し合唱の授業に用いている、といった音楽教育環境が、生徒の進路にもおのずと影響を与えてい

るのかもしれない。

教員の資格向上について

調査時、本校の教員数は 150 名ということだった。教員の大半は、高等専門教育（высшее профессиональное）修了者かつ資格カテゴリー（Квалификационная категория）の上級カテゴリー（высшая категория）である。経験の無い若い教員の場合は、まず勤続 2 年の後に市の資格検定委員会（Квалификационная комиссия）の定めた単位を取得し、それを終わると第 1 カテゴリー（первая категория）の資格が付与される。5 年後（つまり第 1 カテゴリー取得後 3 年）にまた資格検定があり、その後も 3 年ごとに、音楽院や指定の諸機関で必要な研修（たとえば新しい音響機材やパソコンの操作方法など）を受け、所定の単位を取得し、更新する。本校には定年がないので、70 歳近くまで働く教員も在籍している。

入手資料について—ドミトリー・カバレフスキーのこと

訪問時に頂いた資料 1 点は、ドミトリー・カバレフスキーの生誕 110 周年を記念した研究会の報告集であった。ドミトリー・ポリソヴィチ・カバレフスキー（1904-1987）は、サンクトペテルブルグ出身で、モスクワ音楽院で作曲とピアノを学んだ。カバレフスキーは国際音楽教育学会 ISME（International Society for Music Education）の名誉会長で、晩年は ISME をはじめ世界各国で招待講演を行っていた（1963 年に来日）。1974 年にモスクワで ISME の第 9 回大会が行われたときは、カバレフスキーがチーフエディターを務めており、その報告論集も出版されている。日本では、子ども向けピアノ曲の作曲者としても知られ、小中学生が参加するピアノコンクール等での課題曲としても、しばしば取り上げられている。

本校で、義務教育学校で使用する教科書を見せていただいたとき、「以前はカバレフスキーのプログラムに基づくものでしたが、この教科書は新しいものです」、内容は「5 年ごとに改定」される、という話だった。

本校のウェブサイトのトップページにはスホムリンスキー V. A. Сухомлинский の次の言葉「音楽教育は、音楽家の教育ではなく、なによりもまず人間教育である Музыкальное воспитание – Это не воспитание музыканта, а прежде всего воспитание человека」が掲げられているが、この言葉はカバレフスキーが「一般学校における音楽カリキュラムの基本原則と教育方法」の中で冒頭部分に引用した言葉でもある（この論考は、カバレフスキー著『子どもの心をひらく——カバレフスキーの音楽教育論』（坪能由紀子訳／音楽之友社／1989）の第 2 章に再録されている）。

本書からは、20 世紀ソヴィエト時代に教科としての音楽がどのように扱われてきたのか、その概要を知ることができる。その流れを要約すると、まず 1918 年の「労働者のための学校とそのカリキュラム」のなかで、革命前はただ「歌唱」と呼ばれていたものが「歌唱（音楽）」とされた（革命前の学校には、教会歌手の訓練という仕事が課されていた）。1920 年代半ばには「音楽」へ書き改められたが、当時の教師たちの多くは教員養成コースで「合唱指揮」という名の授業を受け、指揮者や合唱指導者としての訓練を受けていたので、「音楽」を教えることは難しく、第二次世界大戦後に教科の名前は「歌唱と音楽」へと退行し、ただ「歌唱」となり、それが 1960 年代まで続いた。60 年代後半に「歌唱」という科目が「音楽」に置き換えられた（1989: 11, 16, 23）。いずれも、これまでの学校音楽教育史の中では「歌唱」そして「合唱」が重視されてきた背景がある。キリスト教の教会が歌唱指導を行ってきたヨーロッパの流れと同様である。

本校を訪問して、もっとも印象深かったのは、かつての教会を利用した趣ある校舎と、そこでの合唱の授業で聞いた生徒たちの美しい歌声である。総じて、今回の訪問では、合唱指導を重視したロシア式音楽教育の、オーソドックスでもっとも伝統的な部分を見せていただけたように思う。今後、本校卒業生らの主要な進学先であるゲルツェン記念教育大学や、サンクトペテルブルグ文化大学での音楽科教員養成、音楽院や地方との比較等々に

も取り組めたらと思う。

<2016年3月28日(月)>

⑤ Санкт-Петербург・ディプロマ後教師教育アカデミー Санкт-Петербургская академия постдипломного педагогического образования および 附属教育博物館 Педагогический Музей (訪問時間：14:30～17:00)

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 対応者：</p> <ul style="list-style-type: none">1) Жолован, Степан Васильевич, Ректор (10年前から当アカデミーに勤務)2) Богатенкова, Наталья Владимировна, заведующая центром международных и региональных проектов3) Романов, Уражир Мил博士 哲学講座長4) Марчускина, Юリーна 社会教育学講座長5) Класнаヤ, Екатерина 国際センター広報 専門家 <p>2. 住所：199034, Санкт-Петербург, 1 линия В.О., д. 52, 3 этаж, аудитории 64а-67
URL:http://www.spbappo.ru</p> <p>3. 連絡先：Телефон/факс: (812) 406-07-98</p> <p>4. 入手資料：</p> <ul style="list-style-type: none">1) 英文パンフレット2) 教育博物館の歴史に関する本 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



帝政時代の女子商業リセの建物を使っている Санкт-Петербург 市の教員研修所。1864年創立。戦争で被弾などして、この建物は3番目の建物である。1908年に教育アカデミーとなる。ロシア連邦大統領・ロシア連邦政府プレミア賞等受賞。ユネスコ・スクール。

<ジョーロバン学長>

教員は400名。うち25人が教授である。7つのセンターと19の講座があり、学校教育に必要な領域をすべてカバーしている。講座には、哲学、経営、社会学、心理学、訓育活動、教育学・アンドラゴジー等がある。 Санкт-Петербург の幼稚園から職業教育まで全段階の32万5000人の教員の研修を行なうほか、ロシアの他の地域や他国の教員研修を請け負うこともある。プログラムは500ほどある。幹部職員や教員のための大学院プログラムもある。

連邦教育法の改正により、教員は3年に1回の研修を受けることが義務化された。資格審査と研修を組み合わせる場合もある。教育行政機関の教育職員。幹部職員の場合、資格

審査は5年に1回行う。教員のカテゴリーには1級、2級と上級があり、給料に反映される。

大学でも同様の研修が行なわれている。大学では補充職業教育が行われる。当アカデミーでも行っているような資格向上プログラムはカレッジにもある。今日サンクトペテルブルグでは、各地区（ライオン）に情報・教授法センターがある。同センターでは教授法に関する指導を行う他に教員の資格向上を行っている。

このようにロシア連邦では今日様々な機関が教員の補充教育を行っている。

サンクトペテルブルグの教員のための研修プログラムは多数ある。当アカデミーでは500のプログラムがあるが、資格向上プログラムは毎年147くらいである。企業教育や学術的研究なども含まれるが、子どもとの関係や家庭との連携などの実践的技能や方法に関する研修が重要である。新しいコンピテンシーを習得するためのプログラムもある。資格向上プログラムには2年間で1200時間のもの、2052時間のものがある。再教育プログラムには16時間のものから150時間のものまである。週1回で年間44時間、30時間、20時間、18時間などもある。研修の実施にあたっては、サンクトペテルブルグ市の教育バンク（データベース）に登録してある外部エキスパートも活用している。教員はインターネットで研修プログラムを選ぶ。

資格向上プログラムには、スタジロフカのような個別化モデルのプログラムもある。教員が自主的に理論に関する授業や行事など選んで研修を受けることもできる。また、3-4時間の授業をいくつか組み合わせたセット・プログラムのモデルが20以上あり、各教員・校長が選ぶことができる。

今日では、ロシア連邦の他の地方からの委託を受けて行う教員研修もある。18時間の遠隔・通信教育（スクーリングを含むものと含まないもの）もあり、職場や自宅で学ぶことができる。

生産教育マスターの子どもとの活動に関する研修など、他の教育機関と協力して開発したプログラムもある。

資格向上プログラムに関しては、講座ごとにそれぞれ秘策もあり、まだまだたくさんのお話を語ることができる。

<マーチュシキナ>(今年1450人の受講者がいる社会・教育学講座の講座長)

市の教育の質センターと連携したプログラムに、学校単位で当該学校における教育の質を評価する方法を指導するものがある。教員、親、上級学年の生徒にアンケート調査を行い、コンピュータを用いて分析する理論と方法を指導する。学校単位で教育の質を分析することは、市全体のノルマと成っている。各校は、全市のデータと比較したり、前年度のデータと比較する。また地区の教育当局は、地区の教育の質の分析をしなければならない。

他にも、サンクトペテルブルグの教員の実態調査、アカデミー研修生の満足度調査、講座ごとのレイティングなどを、オンライン・アンケート調査等によって行っている。

<ロマノフ>

哲学は成功への信念である。200年前にヤスパースは、人間は宗教を回避することはできない、と述べた。哲学的信念は真実の探求につながる。ロシア正教のキリル大司教は現代化のための能力として哲学を重視している。？

本アカデミーのように「教育哲学」を学ぶことができる高等教育は少なく、モスクワに1校、シベリアに5校くらいしかない。

本講座で重視しているプログラムの第1は、「科学哲学」である。ソ連時代の科学哲学では弁証法的唯物論と共産主義思想を教えていたが、ここではオックスフォード学派の哲学を教えている。中国も同様の道を進んでいる。科学哲学といえば、西洋ではヴィトゲンシュタインとカール・ポPPERがよく知られているが、ロシア国内では、モスクワ国立大学のレベデワ教授、オムスク大学のカンケ教授、モスクワ大学のクリャーニン教授が有名である。本アカデミーにおける科学哲学に関する研修では、教科を超えた学際的対話が重

視されている。

第2は教育発展のための哲学の方法論的基盤作りである。職階も年齢も異なる教員が同じ教室で研修を受けていることから、対話によって知的感覚を養うことが重視される。新しいスタンダードでは「論理学」が大きな役割を果たしている。情報コピテンシーにおいても、特に数学で論理学を身につけることが重要になっている。

第3は、「宗教文化と世俗倫理の基礎」である。正教、イスラム教、仏教、ユダヤ教、世界の宗教、世俗倫理のマスタークラスを実施している。父母にこの教科についての説明を行う校長、副校長の研修もある。またこの教科の学術的・教授法的活動には、200人の教員が参加している。

<バガテンコワ>

本アカデミーはEUと14か国と大規模な国際プロジェクトを実施している。

ベラルーシ、ウクライナ、ドイツ、オーストリア、イタリアとは、教員養成の共同研究を行っている。教育におけるダイバーシティ、子どもと親の教育ニーズ、新教育スタンダードにおけるコンピテンスなどへの対応が課題となっている。ロシア語ができない児童生徒への対応や特別支援教育は、ロシアの教員は不得意である。

大学学部レベルだけでなく、アスピラントウーラ、ドクトラントウーラにおける共同研究も行っている。

新しいコンピテンスをどのようにして伸ばすか、に関する研修も大きな課題となっている。教科のコンピテンスだけでなく、人格面のコンピテンスを伸ばすことは難しいが、教育の質向上につながる。

社会的パートナーと共に、環境分野の質を測る評価基準の開発も行っている。健康、安全、心理的安全、環境マネジメント、要員、組織などを評価し、エコロジー証明書を発行する。これを学校に導入することで、生徒が健康維持の大切さを認識するようになる。

このほか、外国（エストニアを始めとする旧ソ連諸国を含む）におけるロシア語教授の支援を行っている。就学前教育から職業教育、大学までのすべての段階の教員の研修コースをヨーロッパ及びアジアの26カ国に提供している。毎年サンクトペテルブルグで研修講座を開催している。

シリアに対するスポーツ教育の支援も行っている。

これらのプロジェクトでは、テクノロジーを活用し、遠隔教育やビデオカンファレンスも取り入れている。

サンクトペテルブルグで最近参加者が増えているのは教育経営システムのプログラムである。

【施設見学】



教員研修の教室



アカデミーの歴史を伝えるコーナー



歴代のアカデミー所長



アカデミーが取り組んでいる国際共同研究等の国際プロジェクト



レニングラード封鎖中に描かれた児童画



幼稚園用の教材コーナー

[教育博物館]

1863年に開設された世界最古の教育博物館。アレクサンドル2世による改革によって、軍隊の士官に新しい知識が必要とされ、9歳からの軍事教育を改革し、講義による一斉授業を改め、活動を取り入れた実物教育が導入された。化学、生物など、生徒が研究し、問題を提起し、議論が行われた。直観教材はドイツから当教育博物館が購入していた。

教育博物館は軍事学校の教員の研修も行う他、軍人と市民の教育も行っていた。

寄宿制で、教科別に教室があった。パブロフのような著名な科学者が講義を行った。授業料は兵士は無料、他は5カペイカほど払った。生徒数の上限は500人、1日2～3回の講義が行われた。ロシア民謡と宗教音楽の2つの合唱団もあった。





<2016年3月29日(火)>

⑦サンクトペテルブルグ市立第239番物理・数学大統領リセ Государственное бюджетное общеобразовательное учреждение «Президентский физико-математический лицей №239» (訪問時間：13:30～18:00)

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 対応者：Пратусевич Максим Яковлевич 校長
数学の先生 |
| 2. 住所：191028, Санкт-Петербург, Кирочная ул., д.8
http://www.239.ru/ |
| 3. 連絡先：Телефон: (812) 272-96-68, +7-921-944-30-26
director@239.ru |

ロシア国立教育大学訪問のアポイントメントがキャンセルになったため、大谷先生がアポイントを取っていた大統領リセを訪問した。5時間目(13:25-14:10)の9年生の数学の授業と6時間目(14:20-15:05)の8年生の数学の授業を見学し、校長室で数学の先生とお話しをした。その後、校長先生のご案内で、講堂、学校博物館、ビデオ撮影室等の施設見学をさせていただいた。

【学校の概要】

本校は1918年に創立後、学校の名称と所在地が何度か変わり、1961年にサンクトペテルブルグ市立物理・数学特別学校となった。ソ連で初の物理・数学特別学校だった。1975年に現在の校舎に移った。ここは、1738年創立のアンナ・シューレの校舎だった。1990年にロシア共和国教育省(当時)により物理・数学リセの地位を認められ、サンクトペテルブルグ市の物理、数学、情報学のスタンダードの実験ベース・研究所となった。1994年には「ロシアにおける人文教育革新」プログラムによるコンクールの結果、ソロス基金の助成金を授与された。また、アメリカ数学学会からCISのベスト10優秀校に選ばれた。2006、2008ならびに2012年に国家優先プログラム「教育」の教育機関コンクールで入賞。全ロシア「トップ500」ランキングで2013年と2014年に3位、2015年に1位となる。2014年から「大統領リセ」の名称を付与される。卒業生の中には、ポアンカレ予想を証明したフィールズ賞受賞数学者のグリゴリー・ペレルマンなどの著名な数学者を輩出している。60人以上が国際学力オリンピックで入賞、250人以上が全ソ・全ロオリンピックで入賞している。

教員71名、補充教育教員53名のうち50人が本校の卒業生である。12人が博士候補、2人が博士の学位を有し、科学アカデミー通信会員も1人いる。

サンクトペテルブルグ市以外の出身者のために寄宿舎がある。

【数学の先生のお話】

5-11学年の7年制で、第8学年、第10学年からも入学できる。入学試験は毎年4月の日曜日に5年生入試では数学と一般教養、8・10年生では数学のみ15-20問のテストを3時間かけて実施する。競争率は5年次が10倍、他は3-4倍である。ただ自分がまだ何になりたいか決まっていけないのに父母の希望で入学してくるため途中で転校する生徒も多い。

数学は5～7年生では週6時間で、サンクトペテルブルグ市立の他の学校と同じ時間数だが、8年生以上では週9時間(代数6時間、幾何学3時間)の深く学ぶプログラムとなり、パラメーター、多変量解析など一般校では扱わない内容も含められる。3クラスのうち2クラスが学力オリンピックに出場するレベルの生徒を対象としている。

教科書は多数の中から各教員が選ぶことができる。幾何学は教科書を使うが、代数は良い教科書がないので使っていない。テーマの修了時や学期末など、年間を通してテストを行っている。9年生と11年生では全国統一試験があるが、本リセの生徒には簡単な問題である。サンクトペテルブルグ市の平均点が45点だとすると、本リセの生徒の平均点は80

点くらいである。

水・土に各2時間のサークル活動が行われ、他校の子どもも参加する。一番人気はロボット・テクノロジー。文学サークルもある。学童オリンピックの訓練も行う。

現在、数学分野の天才を探すことが国の使命となっている。

統一国家試験では、本校の教員はエキスパートとして採点を担当している。

数学教育の問題として、EΓΘの数学の問題が簡単すぎる事が挙げられる。全員が同じテストを受けて大学に入学するという理想はいいが、実際にはそうになっていない。EΓΘの数学はロシア語と並んで必修であるため、問題が簡単過ぎる為に、大学に優秀な学生が来ないのである。5年前まで受験者の20%が合格点に達しなかったため、問題が易しくなった。そこで、学力オリンピックのディプロマ保有者が入学できるようにしたが、学力オリンピックの問題は非常に難しい。各大学が入学規則を作ることができるため、モスクワ国立大学やサンクトペテルブルグ国立大学では学力オリンピック入賞者はEΓΘの点数が自動的に100点となるようにしている。このため、授業に出ないで、補充教育サークルに通い、学力オリンピックへの入賞を狙う生徒がいる。このような生徒は授業に出席していないので、EΓΘではいい点を取ることができない。

EΓΘの数学は2部構成となっており、第1部は簡単で誰でもできるような問題である。第2部は大学に入学する生徒用で、ほとんどできないような問題である。第2部を解ける生徒は学力オリンピックに参加するので、0点が多い。数学を深く学ぶ学校の生徒だけが解ける。もう少し普通の面白い問題にしてほしいものだ。

学力オリンピックはスポーツの訓練に似ていて、マイナスとプラスがある。マイナス面として広い視野に欠けるということがある。ロシア人は皆1番になりたがるので、学力オリンピック対応のサークル活動には熱心に取り組む。

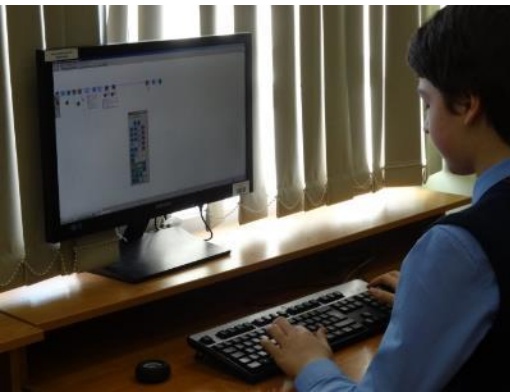
5～7学年で必修となっているロボット・テクノロジーは人気がある。

卒業生は大学で数学、物理学、プログラミングを専攻する者が多いが、経済学や言語学を専攻する者も居る。

他校の数学教員はほとんど女性だが、本校では男女比は半々である。過去2-3年に教員の給与が上がり、現在では大学教員よりも良くなっている。このため多くの男性が中等普通教育学校の教員となった。教員にとっては、最近の子どもたちは勉強させるのに大変エネルギーを要し、難しくなっている。計算機やコンピュータをすぐ使いたがる。教員のプレステージはまだ低く、弁護士などの方が上である。本校の教員には卒業生が多く、愛校心と愛国心が強い。教員は、大学で教育学、心理学ならびに数学を学んだ者が多いが、数学のみを専攻した者もいる。

研修は、モジュール・システムで行われ、3年間で120時間、教員自身がプログラムを選んで受けることができる。本校教員はサンクトペテルブルグ・ディプロマ後教師教育アカデミーで研修を受けたり、モスクワへ派遣される場合もある。この間教育の質センターで受けたコンピュータの研修は面白かった。ソチにプーチン大統領作った天才のためのセンターには、物理、化学、数学などのいい実験室があり、本校の生徒もよく行っているが、教員も研修を受けることができる。





左上、右上、左中写真は、ロボットのプログラミングの学習を行う生徒たち。
中右写真は、グレゴリー・ペレルマン等、著名な卒業生の名前が刻まれた銘板。

左写真、スーツの男性が、同校のプラトウセーヴィッチ校長。

III. 関連資料（仮訳）

1. ロシアの「教員」一用語の整理
2. 普通教育機関の教育職員の職業的水準の向上を図る総合計画
3. 子どもの補充教育の発展構想
4. 教員養成教育の発展支援構想（案）
5. 教師教育現代化プロジェクトの概要

ロシア語の「教員」一用語の整理

澤野由紀子

ロシアでは「教員」の呼称として、ウチーテリ (Учитель 教諭)、ペダゴグ (Педагог 専門教員)、ヴァスピターテリ (Воспитатель 保育士)、Преподаватель (Преподаватель 教授者)、Преподавательский персонал (Преподавательский персонал 教職員) などが用いられている¹。また、教員に準ずる職種として、教員-心理士 (педагог-психолог)、特殊教員/特別支援教員 (специальный педагог/дефектолог)、チューター (тьютор) なども置かれている。これらを整理したものとして、ロシア連邦技術規制・計測庁が定めている全ロシア職業分類のなかの、全ロシア教員専門分野分類 (Общероссийский классификатор специальностей по образованию、略称ОКСО²) がある。教員資格要件と関連する「教育・教育学」の専門分野は、自然科学教育、物理・数学教育、言語教育、社会・経済教育、技術教育、芸術教育ならびに教育学の7種類に分類されており、それぞれ対応する分野の学士号(バカラブル)もしくは修士号(マギストル)が資格要件となっている。各専門分野ごとに定められている教員の職種を以下に示す。ここでは、最も多いウチーテリを「教諭」と訳すこととする。その他の名称も便宜的な和訳をつけ、原語とともに示す。

コード 050100 自然科学教育

コード	呼称	資格	
		コード	呼称
050101	化学	65	化学教諭
050102	生物	65	生物教諭
050103	地理	65	地理教諭
		52	基礎普通教育学校地理教諭
050104	生活安全	65	生活安全教諭

コード 050200 物理・数学教育

コード	呼称	資格	
		コード	呼称
050201	数学	65	数学教諭

¹本報告書では、これらを文脈に応じて「教員」もしくは「教師」と訳している。

²2003年9月30日付ロシア国家スタンダードに関する決定第276-стにより定められ、2010年9月30日付ロシア連邦技術規制・計測庁決定第276-стによる第2承認により修正されたもの。ロシア連邦科学省が所管。(http://classifikators.ru/okso)

		52	基礎普通教育学校数学教諭
050202	情報	65	情報教諭
		52	基礎普通教育学校情報教諭
050203	物理	65	物理教諭

コード 050300 言語教育

コード	呼称	資格	
		コード	呼称
050301	ロシア語・文学	65	ロシア語・文学教諭
		52	基礎普通教育学校ロシア語・文学教諭
050302	母語・文学	65	母語・文学教諭
		52	基礎普通教育学校母語・文学教諭
050303	外国語	65	外国語教諭
		52	初等・基礎普通教育学校外国語教諭

コード 050400 社会・経済教育

コード	呼称	資格	
		コード	呼称
050401	歴史	65	歴史教諭
		52	基礎学校歴史教諭
050402	法学	65	法学教諭
050403	文化学	65	文化学教諭

コード 050500 技術教育

コード	呼称	資格	
		コード	呼称
050501	職業教育（部門別）	65	職業教育専門教員（Педагог）
		52	生産教育マスター（Мастер）（技師、技術者、建築・設計士、デザイナー等）

050502	テクノロジー・ビジネス	65	テクノロジー・ビジネス教諭
050503	テクノロジー	65	テクノロジー教諭

コード 050600 芸術教育

コード	呼称	資格	
		コード	呼称
050601	音楽教育	65	音楽教諭
		51	音楽教諭、音楽指導員
		52	音楽教諭、音楽指導員
		52	音楽教員、音楽指導員（補充養成プログラムに対応）
050602	造型芸術	65	造型芸術教諭
050503	テクノロジー	51	造型芸術・製図教諭
		52	造型芸術・製図教諭
		52	造型芸術・製図教諭（補充養成プログラムに対応）

コード 050700 教育学

コード	呼称	資格	
		コード	呼称
050701	教育学	65	教育学教授者(Преподаватель)
050702	訓育活動オーガナイザー教員	52	補充資格を有する、もしくは葉特定分野の補充養成教育を受けているオーガナイザー教員 (Педагог-организатор)（以下、補充養成教育の具体的プログラムの呼称に対応）
050703	就学前教育学・心理学	65	就学前教育学・心理学教授者(Преподаватель)
050704	就学前教育	52	就学前の年齢の子どもの保育士(Воспитатель)
		52	就学前の年齢の子どもの保育士(Воспитатель) (補充養成プログラムに対応)

050705	就学前特殊教育	52	就学前の年齢の発達に障がいのある子どもと、発達に損傷のない子どもの保育士(Воспитатель)
050706	教育学・心理学	65	教員-心理士 (Педагог-психолог)
050707	就学前教育教育学・方法論	65	就学前教育オーガナイザー-メトディスト (Организатор-методист)
050708	初等教育教育学・方法論	65	初等学年教諭
050709	初等学年における教授	52	初等学年教諭
		52	初等学年教諭 (補充養成プログラムに対応)
050710	補充教育教育学	52	子どもの補充教育専門教員 (Педагог) (活動分野を明示)
		52	子どもの補充教育専門教員 (Педагог) (活動分野と補充養成プログラムを明示)
050711	社会教育学	65	社会教育士 (Социальный педагог)
		52	補充資格を有する、もしくは特定分野の補充養成教育を受けている社会教育士 (Социальный педагог) (以下、具体的な補充養成プログラムの名称に対応)
050712	視覚障害者教育学	65	視覚障害者教育-教諭
050713	聾唖教育学	65	聾唖教育-教諭
050714	知的障害児教育学	65	知的障害児教育-教諭
050715	言語矯正学	65	言語矯正士-教諭
050716	特殊心理学	65	特殊心理士(Специальный психолог)
050717	特殊就学前教育学	65	発達に障がいのある就学前の子どもとの活動のための特別支援教員 (Педагог-дефектолог)
050718	特殊(矯正)教育施設における特殊教育学	52	学齢期の発達に障がいのある子どもと発達に損傷のない子どもの保育士(Воспитатель)
050719	初等教育における矯正教育学	52	初等学年および補償教育ならびに矯正・発達の教育を行なう初等学年の教諭
050720	体育	65	体育教員 (Педагог)

		51	体育・スポーツ教員 (Педагог)
		52	重点的養成を行なう体育・スポーツ教員 (Педагог)
		52	体育教諭
		52	体育教諭 (補充養成プログラムに対応)
050721	適応体育	51	適応体育教員 (Педагог)
		52	適応体育教員 (Педагог)
		52	適応体育教諭

普通教育機関の教育職員の職業的水準の 向上を図る総合計画

Комплексная программа повышения профессионального уровня педагогических работников общеобразовательных организаций

翻訳・注記：遠藤忠

Утверждена заместителем председателя правительства РФ О.Голодец
28 мая 2014 г. №3241п-П8

普通教育機関*3の教育職員の職業水準の向上を図る総合計画*4

本計画は、すでに採択済みの連邦特別計画文書である、ロシア連邦国家計画 2013-2020年「教育発展」、ロシア連邦国家計画「経済発展と革新的経済」、2011-2015年教育発展連邦特別計画の中で承認されている普通教育機関の教育職員の職業水準の向上に係る基本的な目的及び課題、施策を統合したものである。

本計画の諸施策は、現代的な教授および訓育に関する技術及び方法や、障害者のインクルーシブ教育*5及びニーズ対応的教育課程*6の実現を保障するための知識、技能、習熟の習得を含め、普通教育機関の教育職員の職業水準の向上に関する教育分野における国家政策を実現する範囲内における連邦及び地方の教育行政機関、教育機関の力を統合することを目指している。

本計画における各方面の施策の財政的保障は、連邦予算及びロシア連邦構成主体の行政機関の予算において上記の特別計画文書に示されている国庫支出金の範囲内で賄われることになっている。

本計画が策定され実施されなければならない理由

普通教育の質の向上にせよ、その競争力の向上にせよ、それらは教育職員の職業水準に密接に依存している。教員*7の仕事の職業的技量は新しい普通教育制度の質の形成を保障し、子どもたちの発達、彼らが適切に社会化される決定的条件の一つである。

連邦法「ロシア連邦の教育について」や、普通および就学前教育の連邦国家教育スタンダードは、教育機関および就学前教育機関の長期的発展目標、すなわち、系統的-活動的(コンピテンシー)アプローチへの移行を規定し、2022年までに普通教育の全段階の連邦国家教育スタンダード(障害者を統合する教育を含めて)の導入や、新しい法規および財政-経済的調整の仕組みを導入することを定めてある。

改正されたロシアの普通教育制度の目的は、教育職員の質に対するこれまでの伝統的な基準を引き上げるとともに職業的な教育活動全体の水準に対する新しい基準を打ち立てるものである。ロシアの教師と保育者*8養成のより良き伝統を守るにあたって、教授および訓育、発達の分野における職業活動のスタンダードに対応する新しい職業的質を発達させる必要がある。

承認された教員の職業スタンダードは教育の仕事に係る多くの問題の調整機能をもつ複雑な装置である。すなわち、教員の就職斡旋、その職務の定義、資格審査、仕事の評価、

賃金である。

教員の職業スタンダードは、制度形成的仕組みのものにならない。それは、連邦国家教育スタンダードの基準に応じて教員の仕事の質を向上させ、職業教育水準に必要な職務行動や知識、能力の客観的基準を創り出すものである。職業スタンダードは、養成や再教育あるいは資格向上の内容と方向を規定し、教員の職業的能力水準とその職務や賃金条件を職業活動の成果に客観的に関係づけること（成果契約 *эффективный контракт*^{*9)}）を可能ならしめるのである。

この場合、職業スタンダードは教員の資格と労働の評価の根拠として立ち現れなければならない。また、成果契約は具体的な普通教育機関の課題解決のために教育職員と管理者の利害を結びつける手段として立ち現れなければならない。それとともに、教員の職業スタンダードの基礎となる質と成果の評価の一般的枠組みが、普通教育制度のあらゆる水準と機関の参加を得て、創出されなければならない。

以上のように、本計画の枠中においては、教員の職業スタンダードの内容と基準にもとづく教育職員の労働の評価と賃金や資格認定と定期的資格審査の手続きの相関的変革の構築、ならびに現代的な教育技術と教授・訓育の両面にわたる指導法や障害者のインクルーシブ教育を保障するための知識・技能・習熟を含む教師教育制度全体や教員養成、資格向上、再教育それぞれの変革、さらには教育職の社会的地位と威信を高めることが企図されているのである。

本計画の実現にロシア連邦構成主体の積極的な参加があれば、教育職員の職業活動水準の向上や、児童生徒が高度な教育成果に到達することを目指した活動の質の向上、さらに、教育要員の養成、再教育、資格向上のシステムに存在している諸問題を解決することに係る多くの重要な問題を解決することができる。この分野における基本的諸問題には以下のものが含まれる。

職業スタンダードの基準と教員の職業的活動の現状との間にあるおびただしい数の不一致。彼ら教員は児童生徒の教授と訓育、発達、それに教科上の教育成果や教科を超えた教育成果、人格的な教育成果、さらには、障害をもつ児童生徒を含め児童生徒の特殊な教育要求を考慮して自らの職業的活動の個別化を目指した職業的行動をするために不可欠な知識と資格を持っていない。

資格向上プログラムのある部分の非特定で非個別的な性格。

大グループ専攻や「教育と教育科学」専攻ごとの現行高等教育連邦国家教育スタンダードにもとづいてつくられた教員志望者向けの基本的専門教育課程の内容や技術および教育成果と、教員職業スタンダードや雇用者たちによって示されている卒業時必要能力要件との間に断絶が存在すること。

普通教育を受けた後だけではなく非教員養成教育を受けている最中やすでに受け終わった後で教員養成教育を選択するものを含め教育活動を志望するものをこの職業に引き入れるための教員養成教育を受ける多様な経路が存在していないこと。

将来の教育活動に対するしっかりした動機を生徒たちに形成、支援、発達させるための教育機関の目的志向的な職業指導活動が不十分であること。

教育分野における教師たちの成功物語や（教員に対して既に与えられている社会的特典や報酬を含め）国家政策の成果をメディアで伝えたり PR で囃し立てたりする効果的なルートが欠如しており、教職における極端な官僚主義とかダイナミックでも創造的でもなく古臭い慣習に縛られた退屈な教員の仕事といったイメージが残っていること。

基本的キャリア段階や職務内容と（職業スタンダードから見て）それに必要な資格の間の結びつきを含め、教育職員の職業活動においてキャリア形成の明瞭な原則が欠如していること。

教育職員の資格（職業水準^{*10)}、能力水準^{*11)}）、その職業的活動の質や成果と労働報酬との間の明瞭で客観的な相互関係が欠如していること。

以上のような諸問題にもとづいて、学校の教育職員の職業水準の向上のための 4 つの相互に関連する方針を定めることができる。

教職スタンダードの導入。

教師教育の現代化。

教育職員の成果契約制への移行を確実に行うこと。

教職の社会的地位と威信を引き上げること。

以上 4 つの方針（下位計画）は、全体として普通教育機関の教育職員の職業水準の向上を確実に実現するに違いない。

下位計画 1. 職業スタンダード『教員（就学前教育および初等普通教育、基礎普通教育、中等普通教育分野の教育活動）（保育士、教師）』の導入。

本下位計画の目的：職業スタンダード『教員（就学前教育および初等普通教育、基礎普通教育、中等普通教育分野の教育活動）（保育士、教師）』（以下、教員職業スタンダード）が機能する状況下で普通教育の教育機関が活動を行えるようにすること。

本下位計画の課題：

教員職業スタンダードの基準に合わせて普通教育の教育職員の再教育及び資格向上を組織すること。

教員職業スタンダードに基づいて普通教育の教育職員の資格審査制度を形成すること。

本下位計画の基本的方策：

現代的教育技術及び教授・訓育の方法、さらに障害者のインクルーシブ教育の確実な実現のための知識及び技能、習熟の獲得のためのものを含め、教員職業スタンダードに対応した教育職員の再教育及び資格向上プログラムの策定と実践検証^{*12}を行うこと（2014-2015年）。

現代的教育技術及び教授・訓育の方法、さらに障害者のインクルーシブ教育の確実な実現のためとニーズ対応的な教育課程の実施のための知識及び技能、習熟の獲得を含め、教員職業スタンダードに対応した教育職員の再教育及び資格向上を行うこと（2014-2020年）。

教員職業スタンダードに基づき新しい個別的資格向上モデルの開発と導入を行うこと（2015-2018年）。

教員職業スタンダードの下で機能する普通教育機関の標準文書一式（人事政策および人事管理、学習指導組織、職員評価、職務規則、作業の賃率決定、職員の給与等級決定、生産・労働・管理の諸組織の特質を考慮した給与体系の制定^{*13}）の開発及び実践検証、導入を行うこと（2015-2018年）。

教員職業スタンダードに基づいた教育職員の職務の構成を行うこと（2015-2016年）。

資格審査の過程において教員職業スタンダードの水準に教育職員を対応付ける評価方法の開発と実践検証を行うこと（2015-2016年）。

教員職業スタンダードに基づいて教育職員の資格審査の法令的基礎を開発すること（2015-2016年）。

教員職業スタンダードの基準にもとづいて普通教育に携わる教育職員の資格審査システムへの移行と定着を確実に行うこと（2015-2020年）。

下位計画 2. 教師教育の現代化

本計画の目的：教員職業スタンダードおよび普通教育連邦国家スタンダードにしたがって職業教育機関及び高等教育機関における教師教育を確実に行うこと。

本下位計画の課題：

新教職スタンダードの基準を考慮し普通教育連邦国家スタンダードを確実に実施するために、（教員養成の…訳注）連邦国家教育スタンダードの内容を変更し、教員養成の大系統グループおよび「教育と教育科学」専攻や教育技術といった養成系統ごとに基本教育課程の

内容を変更すること。

(教員養成の…訳注) 連邦国家教育スタンダード及び基本教育課程の実践検証を行い、2020年までに教員養成の大系統グループおよび「教育と教育科学」専攻の枠内で教育課程を実施している高等教育機関と職業教育機関にそれらを確実に導入すること。

本下位計画の基本的方策：

現代的教育技術と教授・訓育の方法や新しい教育内容及び新しい教育技術、障害者のインクルーシブ教育を確実に行うための知識と技能、習熟の習得ならびに連邦国家教育スタンダードなどの開発と実践検証に参加する高等教育機関所属の教授・教員層の資格向上のためのものを含め、教職スタンダードおよび連邦国家普通教育スタンダードの当該規定を考慮し、連邦国家教育スタンダードおよび教員養成の大系統グループおよび「教育と教育科学」専攻の基本的専門教育課程を開発し実践検証を行うこと(2014-2017年)。

すでに中等職業教育歴ないしは高等教育歴をもっている学生に対する個別的教育歴対応の保障を含め、実習訓練を著しく増強し(3回以上)、実習期間も長いという特性をもつバカラブリアートの教育課程に対応するために、高等教育機関と職業教育機関や高等教育機関と普通教育機関を結ぶコンピュータ・ネットワーク連携モデルを実現すること(2014-2017年)。

二つの専門教育を組み合わせることを前提とする新しいタイプの連邦国家教育スタンダードにもとづく多専門からなるバカラブリアートの教育課程を開発すること。二つの専門教育とは、学生個々人の適性と能力を考慮して基本的科目群^{*14}を学んだ後に選択される教養教育^{*15}と教育学教育^{*16}であり、教育学教育には現代的教育技術および教授・訓育の指導法、そして障害者のインクルーシブ教育を保障する知識・技能・習熟の習得のための科目が含まれている(2015-2017年)。

以下の3タイプのマグストゥラトゥーラの基本的教育課程の開発の過程で養成モデルの実践検証が行われること。3タイプとは、実践が強化された教員養成課程、研究的方向性をもつ教員養成課程、教育制度内機関の管理者のためのマネジメント課程である(2015-2017年)。

教職教育を受けていないが教育活動に意欲をもつものが実践的方向性をもつマグストゥラトゥーラ課程で教職教育を受けるモデルの開発と実践検証が行われること(2015-2017年)。

下位計画3. 成果契約への移行

本下位計画の目的：すべての普通教育機関において、普通教育分野における中・長期のバランスの取れた歳出を保障し、教育職員との成果契約の締結にもとづいた効果的な人材政策を実現すること(人数割り積算財政の枠内で、かつ児童生徒の激増を考慮して)。

本下位計画の課題：

教育職員と結ぶ標準的労働契約の開発と導入。

連邦国家教育スタンダードの効果的実施を保障する教員の職業スタンダードにもとづく分野別労働ノルマの明確化と制定。

成果契約に基づく効果的人事政策の開発・実施問題についての教育機関指導者のための追加的専門教育(コース別養成)の標準的教育課程の準備と実践検証およびその導入。

本下位計画の基本的方策：

成果契約への移行に関する方策として、地域の「ロード・マップ」実施のために必要な一連の措置と点検を行うこと(2014-2018年)。

ロシア連邦国民教育職員・研究職員労働組合の参加を得て、教育機関における成果契約への移行に必要な一連の措置を明らかにすること(2014年)。

新しい標準的労働ノルマの開発と現行の標準的労働ノルマの見直しに対するニーズを明らかにし、標準的労働ノルマの種別ごとの開発に関する諸課題を提示すること(2014年6-

9月)。

分野別標準的労働ノルマ案を実践検証し、その案を労働組合とともに検討し、ロシア労働省の同意を得ること(2014年第4四半期-2015年前期)。

教育職員の現行労働時間ノルマを実施する(2015年8月までに)。

成果契約の導入に伴い必要な情報的措置を行う(2014-2018年)。

下位計画4. 教職の威信を高める。

本下位計画の目的: 職業世界及び一般社会における教職の威信を向上させること。

本下位計画の課題: 教員の職業水準の職業的・社会的評価のための基準の創出。

ロシア連邦構成主体において、教員の社会的地位向上の優れた実践例の点検を行い、普及すること。また、教員に対する社会的支援策のシステムの発展を促進するメカニズムの点検を行い、普及すること。

教員の社会的地位及び教職の威信を向上させるための方策に関する一連の情報的措置を取ることに。

本下位計画の基本的方策:

障害者のインクルーシブ教育保障にあたる教員を含め多様なカテゴリーの教育職員のための社会的地位向上の手段として職業的評価を効果的に高める措置を開発し、実践検証を行い、導入すること(2014-2020年)。

教員の教科教育研究会や若手教員会議その他の職能団体を教職の威信を高めるための活動に参画させる方策の開発と導入を行うこと(2014-2020年)。

自治体、地方、連邦の各レベルのすべてにおいて教員の社会的地位を向上させるような多様な広報手段の開発・実施を進め、教員の職業活動に対するしかるべき敬意を社会的に形成すること(2014-2020年)。

ラジオやテレビ番組について放送中のものを活性化するとともに新しい番組を作り出し、さらに、印刷媒体やインターネット上のマスメディアの中で優れた教員の職業活動についてシリーズものの広報を作り出すこと(2014-2020年)。

優れた教員の職業活動に関する出版物や映画に対する国家発注の提案を開発し実施すること(2014-2020年)。

*1 ロシア連邦政府議長は、いわゆる首相 премьер-министр のことであるが、ロシアの法制上この用語はなく、「ロシア連邦議長 Председатель Правительства Российской Федерации」という用語が正式名称である。したがって、副議長はいわゆる副首相である。議長代行を務めることができるのは第一副議長のみであるが、通常複数の副議長がいる。副議長は法令を発する権限はもたないが、連邦執行機関に執行義務のある委任をする権限を持っている。本計画はそのようなものと考えられる。

*2 Википедияによれば、Ольга Юрьевна Голодец (1 июня 1962, Москва) — российский государственный деятель, Заместитель председателя Правительства Российской Федерации с 21 мая 2012 года. 以下の経歴に見るように、大企業の労務・人事問題が専門である。経歴; 1984年にモスクワ大学経済学部を卒業。1984-1997年、ロシア科学アカデミーの労働研究所勤務。1997-1999年、「Реформуголь»財団の社会事業担当。1999-2008年、ОАО «ГМК „Норильский никель“»の社会政策・人事担当課長、人事・社会政策担当総務部次長。2001年から、заместитель губернатора Таймырского (Долгано-Ненецкого) автономного округаの社会問題担当知事次官。「Норникеля»退社後2008年12月16日まで同社の民営退職基金であり、民間投資会社 ОНЭКСИМの資産でもある(НПФ)の統括を行った。ГМК «Норильский никель»社の社会政策課が作った年金計画に従って Ольге Голодецには他の幹部社員と並んで月20万ルーブルの終身年金が配分された。2009年、マスコミ報道としてノ

リニッケルの元上司ミハイル・プラホラフとともにロシア企業化連盟の理事会メンバーとして報じられ、2010年にはPCSPの労働市場・人材戦略委員会議長であるミハイル・プラホラフの次席と報じられた。2008-2010年、全ロシアニッケル・貴金属製造業・雇用者連合総裁、保険会社«Согласие»取締役会議長。2011年から副議長就任までの1年間はモスクワ市副市長として、教育及び保健問題を担当していた。(2016.01.26.閲覧)

*3 原語は *общеобразовательная организация*。 *образовательная организация* はわが国でいう「学校」を指すことばとして、*учреждение* に代わり 2012年制定の連邦教育法で使用されている言葉である。同法翻訳の際に「教育組織」という言葉で翻訳することを提案したが、やはり据わりが悪い。日本語で読むものがこの言葉によって「学校」をイメージするのにいささか距離を感じる。「公共機関」や特に「官庁」という意味をもつ *учреждение* が私立学校を含む学校全体を指し示す場合、違和感が生じるのを避けるために *организация* が使われることになったのではないかと想像されるが、いずれにせよ、日本でいう「学校」を意味する言葉であり、「学校」のように日常語的ニュアンスではなく改まった制度論的ニュアンスを表す場合に使われる言葉であるので、「教育機関」という日本語が適当なのではないかと思う。

*4 この文書を読み、また、文中に示されている関連資料を読むうちに、勤務評価制度や雇用契約制度などを徹底した新自由主義的なデザインで作り上げつつあるということが明確になる文書である。また、この文書策定の開発拠点として *Высшая школа экономики* が重要な役割を果たしていることが浮かび上がってくる。

*5 原語は *Инклюзивное образование лиц с ограниченными возможностями здоровья*。

2012.12.29.付の連邦教育法第2条27項では、「インクルージョン教育(*инклюзивное образование*)：特別な教育要求や個人的可能性を考慮して、すべての学習者のために教育への平等なアクセスを保障すること」とある。

ウィキペディアによれば、*Инклюзивное образование* とは「障害者が現代社会において共同体 *социум* に加わることができる(し、加わらなければならない)という考え方にもとづいて普通教育を変えてゆく過程の一つ」と説明されている。また、*лица с ограниченными возможностями здоровья* は、以下のようにわが国における「障害者」概念とほぼ同一と考えられる(2016.01.26.閲覧)。*ОВЗ – ограниченные возможности здоровья. Лица с ОВЗ – это люди, имеющие недостатки в физическом и (или) психическом развитии, то есть глухие, слабослышащие, слепые, слабовидящие, с тяжёлыми нарушениями речи, нарушениями опорно-двигательного аппарата и другие, в том числе дети-инвалиды.*

(http://moeobrazovanie.ru/ogranichennyye_vozmozhnosti_zdorovja.html 2016.01.27.閲覧)

ただし、1994年の「サラマンカ声明」では、“Schools should accommodate all children regardless of their physical, intellectual, social, emotional, linguistic or other conditions. This should include disabled and gifted children, street and working children, children from remote or nomadic populations, children from linguistic, ethnic or cultural minorities and children from other disadvantaged or marginalized areas or groups. (The Salamanca Statement and Framework for Action on Special Needs Education, para 3)”とし、Education for Allを実現するこのような学校制度での教育を *Inclusive Education* と呼んでいる。一方、わが国では一般に「特別な教育的ニーズをもつ子供たちは彼らのニーズに合致できる児童中心の教育学の枠内で調整する、通常の学校にアクセスしなければなら」ないとし、通常学校での障害児の教育を「インクルージブ教育」と呼んでいる(国立特殊教育研究所HPより)。

1955年に創立されたカナダ *British Columbia* 州の発達障害児の親の会「*inclusion bc*」のHPでは「地域社会への統合」すなわち共生という視点から次のように定義している。*Inclusive education means that all students attend and are welcomed by their neighbourhood schools in age-appropriate, regular classes and are supported to learn, contribute and participate in all aspects of the life of the school.*

サラマンカ声明に示された *Inclusive Education* の原則には *inclusion bc* のような草の根の運動の成果が反映していると考えられる。翻って、ロシアのインクルージョン教育 *инклюзивное образование* の定義をみると、通常学校での共同教育という視点はみられな

い。サラマンカ声明の前年 1993 年 12 月に国連総会で採択された「障害者の機会均等化に関する基準規則」でも、「政府は障害をもつ児童・青年・成人の統合された環境での初等・中等・高等教育への機会均等の原則を認識すべきである」としており、「統合」という視点がロシアの定義には欠けていることが明らかである。なお、2016 年 1 月 1 日までに従来の特殊教育機関は名称を変え、普通教育機関と名乗ることになっている Специальные (коррекционные) образовательные учреждения для обучающихся, воспитанников с ограниченными возможностями здоровья должны переименоваться в общеобразовательные организации не позднее 1 января 2016 года (п. 1 ч. 5 ст. 108 Федерального закона от 29.12.2012 №273-ФЗ «Об образовании в Российской Федерации») 。その実態がどのようなものであるか興味深い。

*6 原語は адаптированные образовательные программы。2012.12.29.付連邦教育法第 5 条 5 項 1 号の規定「発達障がい者の矯正と社会的適応及び早期の矯正的支援を行うために、健康の可能性に制限のある者が差別なく質の高い教育を受けるための必要な条件が創造される」を実現する教育課程を指す。

*7 原語は педагог

*8 原語は учителя и воспитатели

*9 「Блог инспектора народного образования (<http://eduinspector.ru/2014/01/29/jeffektivnyj-kontrakt-s-pedagogom/>)」なるインターネット・サイトによれば、「成果契約 эффективный контракт」の意味は以下のとおりである。

成果契約とは何か

教員との成果契約への移行は、2013.05.15.付№792-p ロシア連邦政府命令により承認された「ロシア連邦国家計画・2013 - 2020 年における《ロシアの発展》」に規定されている。

成果契約の定義は、2012.11.26.付№2190-p ロシア連邦政府命令承認「2012 - 2018 年における国家（公的）機関での賃金システムの段階的改善計画」においてなされている。

「成果契約として理解されるのは、労働者の職務、賃金条件、労働成果および提供される国家（公的）サービスの質に応じた奨励金や社会的支援措置を指定するための成果度合いの評価項目や基準が具体的に示されている労働契約のことである。」

また、ロシア高等教育機関職員組合連合の НР によれば、成果契約 Эффективный контракт 法的根拠は以下のとおりである。

- 1. 2012 年 5 月 7 日付大統領令 № 597 «国家の社会政策実現のための方策 О мероприятиях по реализации государственной социальной политики»;
- 2. ロシア連邦国家計画 2013-2020 年における《教育発展》ロシア連邦政府命令 2013.05.15. 付№ 792-p により制定。Государственной программой Российской Федерации на 2013-2020 годы, утвержденной распоряжением Правительства РФ от 15.05.2013 г. № 792-p;
- 3. 2012-2018 年における国家(公的)機関の賃金体系の段階的改善計画、ロシア連邦政府命令 2012.11.26.付№ 2190-p により制定。Программа поэтапного совершенствования системы оплаты труда в государственных (муниципальных) учреждениях на 2012 — 2018 годы, утв. распоряжением Правительства РФ от 26.11. 2012 г. № 2190-p;
- 4. ロシア連邦労働省令 2013.04.26.№167н«成果契約の導入にあたって国家(公的)機関の職員との労働契約の締結について勧告の承認について» Приказом Минтруда России №167н от 26 апреля 2013 г. «Об утверждении рекомендаций по оформлению трудовых отношений с работником государственного (муниципального) учреждения при введении эффективного контракта»;
- 5. ロシア教育科学省通知 2013.09.12.№ НТ-883/17«ロシア連邦法 2012.12.29.№ 273-ФЗ の 108 条 11 項の施行について Письмом Минобрнауки России от 12 сентября 2013 года № НТ-883/17 «О реализации части 11 статьи 108 Федерального закона от 29 декабря 2012 г. № 273-ФЗ «Об образовании в Российской Федерации»».
- 6. 地方自治機関が制定した管轄下の国公立機関の活動の効率性指標 Показателями эффективности деятельности подведомственных государственных, муниципальных

учреждений образования, утвержденными органами местного самоуправления.

...以下略。 高等教育機関職員組合連合公式サイト Официальный сайт Межрегионального профсоюза работников высшей школы より。 <http://unisolidarity.ru/?p=3241> (2016.01.27.閲覧)

なお、上記 2012 年 5 月 7 日付大統領令 № 597 は以下のように、公務員の賃金引き上げを命じている。「2018 年までに実質賃金を 1,4-1,5 倍に増やすこと。2012 年においては、普通教育機関の教育職員の平均賃金を当該地方の平均賃金まで引き上げ、2013 年までに就学前教育機関の教育職員の平均賃金を当該地域の普通教育分野の平均賃金まで引き上げること。2018 年までに初級および中級職業教育機関の教員及び生産教授マスター並びに文化機関の職員の平均賃金を当該地方の平均賃金まで引き上げること。2018 年までに医師及び高等職業教育機関教員、学術研究者の平均賃金を当該地方の平均賃金の 200%まで増額すること。2020 年までに高度有資格職員の数を全有資格職員の 3 分の 1 以上に増やすこと。2013 年 - 2015 年の間において身体障害者のための専門的職員定数を毎年 14200 人分新設すること。

б) 2012 年 9 月 1 日までに職業スタンダードの開発及び承認、実施に係るロシア連邦法規への修正に関する連邦法案を準備し、ロシア連邦議会下院に提出すること。

в) 2012 年 12 月 1 日までに職業スタンダードの開発計画を承認すること。

г) 2015 年までに 800 以上の職業スタンダードを開発し承認すること。

д) 労働要員の専門的養成の統一的評価原則を策定するために、以下のことを行う。

労働要員の職業的水準の向上を図る活動を行う機関の審査体制に係るロシア連邦法規修正に関する連邦法案を 2014 年 8 月 1 日までに準備し、ロシア連邦議会下院に提出すること。2015 年 12 月 1 日までに労働要員の専門的養成及び再教育、資格向上のための拠点的センターの体制を確立すること。

е) 要員の潜在能力を維持し、公的経済セクターにおける職業の威信と魅力を高めるために、提供されるサービスの質および量に関する具体的指標の達成によって賃金の上昇をもたらす、そのように規定する公的経済セクターの職員の賃金システムの段階的改善計画を 2012 年 12 月 1 日までに採択すること。

2018 年までに、医療機関の福祉職員を含む福祉職員および下級医療職員（医療サービスの提供条件を保障する職員）、中級医療（薬局）職員（医療サービスの提供条件を保障する職員）の平均賃金を当該地方の平均賃金の 100%まで引き上げ、医療（医療サービスの提供を保障する）サービスを提供する高等医学（薬学）教育あるいはその他の高等教育を有する医療機関職員の平均賃金を当該地方の平均賃金の 200%に増額すること。職業資格グループごとに基本給 базовый оклад を確定すること。非効率機関の再編によって得られた資金の 3 分の 1 以上を充てて公的資金経済セクター職員の賃金の向上を図ること。」

*10 原語は профессиональным уровнем。

*11 原語は уровнем владения компетенциями。

*12 原語は апробация。当初「認可」という訳語を当てたが、「この言葉には実際に試してから認定するという意味がある」との共同研究者ミソチコ氏 Мисочко Григорий Олегович の教示により、「実践検証」という訳語を当てた。Википедия、"апробация"の項においても以下のようにこの言葉には単なる認可ではなく、実践的な検査を経て承認するという意味がみられる。「предыдущая, предэксплуатационная проверка в действии теоретически обоснованных технических, научных, финансово-экономических программ (проектов) и оценка эффективности их практической реализации.»

*13 2008 年 12 月 1 日に、「統一賃金表 Единая тарифная сетка」に代わるものとして「新賃金体系 Новая система оплаты труда (НСОТ)」が発表された。導入は 2010 年 1 月 1 日より。これにより賃金は、本俸、手当、報奨給から構成されることになり（оклад, компенсационные выплаты, стимулирующие выплаты）、賃金決定における企業経営者 руководители предприятий の独裁的権限が強化された。また、2011 年 6 月 1 日から構成主

体、地方自治体を含む全公務員が新賃金体系に移行した。(Википедия "Единая тарифная сетка"、"Новая система оплаты труда"の項参照、2016.02.10.)

*14 原語は основной блок。

*15 原語は общегуманитарный профиль。Елканова Тамара Михайловна, Чеджемova Нина Михайловна, ФИЛОСОФСКО-МЕТОДОЛОГИЧЕСКИЙ КОМПОНЕНТ ОБЩЕГУМАНИТАРНОГО БАЗИСА ОБРАЗОВАНИЯ

(<http://cyberleninka.ru/article/n/filosofsko-metodologicheskii-komponent-obshchegumanitarnogo-bazisa-obrazovaniya>) によれば、「現代文明はあたらしいタイプの社会文化的教育によって特徴づけられる。その中において、主要なものは、認識の方法と内容の習得に向けられた訓練である。したがって、教育の目的となるものは、得られたものを獲得することだけではなく、なによりも、活動の方法の習得であり、その手段である。」とある。общегуманитарный профиль で学ぶものは、中世の大学教育に例えれば、学芸学部における哲学をはじめとする教育内容を指すことになる。したがって、ここでは「教養教育」の語をあてた。

*16 原語は педагогический профиль。

翻訳「普通教育機関の教育職員の職業的水準の向上を図る総合計画」
付属参考資料について

翻訳・注記：遠藤忠

付属参考資料について

翻訳した標記の文書をよりよく理解するために、以下の参考資料を翻訳者である遠藤の裁量で訳出した。限られた時間と能力の中で行ったことなので、もとより不十分なものであるが、わずかなりとも参考になれば幸いである。

付属参考資料一覧

1. ロシア連邦国家計画 2013-2020 年『教育の発展』（概要）

2013 年 5 月 15 日付 №792-p ロシア連邦政府決定によって定められた表記計画の概要である。標記翻訳本文の冒頭に触れられている本総合計画の基礎文書となっている国家計画についてロシア連邦教育科学省が作成・公表した概要版の翻訳である。就学前教育から高等教育、さらには生涯教育にわたる質・量の両面にわたる教育全般の構造的改革計画が示されている。

2. 国家の社会政策実現に関する大統領令(全訳)

2012 年 5 月 7 日付 N597 Указ Президента РФ о мероприятиях по реализации государственной социальной политики の全文翻訳である。

教育機関(就学前、普通教育機関、高等教育機関、その他職業教育機関、補充教育機関等)の他に文化機関、医療機関の職員の賃金の大幅引き上げ(35~170%)や職業スタンダードの改正、賃金決定と結びついて職員の評価システムの開発、障害者雇用の促進などが一体となった政策が明らかにされている。

3. 賃金システムの段階的改善計画付属資料抄(№1 および 4)

公務員の賃金システムの段階的改善計画 Программа поэтапного совершенствования системы оплаты труда в государственных (муниципальных) учреждениях на 2012-2018 годы の付属資料の№1 と№4 の翻訳である。

№1 は教育、保健、社会福祉分野の職員の月給の 2007 年から 2011 年までの推移が連邦全体の平均月給に対する比率のかたちで示されている。これら教育職員等の賃金がいかに低い水準であったかが数値で示されており、興味深い。№4 は、2012 年に普通教育教員の賃金が及び 50%引き上げられ連邦平均と等しくなった状況を前提とし、2018 年までの間での他の改善対象職員の改善スケジュールを示したものである。

4. 2012-2017.児童のための国家行動戦略についての大統領令(全訳) および「児童のための国家行動戦略」(目次と I はじめに)

2015 年 6 月 1 日付 N761 Указ Президента РФ "О Национальной стратегии действий в интересах детей на 2012-2017 годы" の全訳と「児童のための国家行動戦略」の抄訳である。本文中でこの国家戦略が「欧州議会の戦略を考慮して」策定されたことが明らかにされ、ヨーロッパほか国際社会の活動とロシアの児童保護の活動を調和させることの重要性が指摘されている。

ロシア連邦国家計画 2013-2020 年『教育の発展』 概要版

ロシア連邦教育科学省

教育分野における国家政策システムの重点事項

- 第一重点事項 — 就学前教育のアクセスの保障。
- 第二重点事項 — それぞれの水準の教育成果の質の向上。
- 第三重点事項 — 柔軟で修正可能な教育組織形態と人生の全期間にわたる社会化を含む生涯教育分野の発展。
- 第四重点事項 — ロシアの教育空間の統一性の強化。

国家計画の基本目標¹

1. 住民の変化する要求と将来のロシア社会および経済の発展課題とに対応するロシア教育の高い質を保障すること。
2. わが国の画期的な福祉社会的発展のために青少年政策の実施効率を向上させること。

目標達成のためには以下の諸課題の解決が必要である。

1. 人間の可能性を開発し、ロシア連邦の社会・経済的発展の短期及び中長期的需要を保障する、柔軟かつ公的貸与制の生涯教育システムの形成。
2. 就学前教育および普通教育、児童補充教育の平等なアクセスを保障する社会的基盤インフラストラクチャーと経済組織上のメカニズムの開発。
3. 学力および社会化の現代的質の達成を目指した就学前教育および普通教育、児童補充教育の各システムの教育課程の現代化。
4. 公開、客観、透明、一般人と専門家双方の参加といった原則に基づく教育の質の現代的評価システムの創出。
5. 青年の社会化及び自己実現、その可能性の開発の効果的システムの保障。

国家計画の期待される主な成果

1. 普通教育の質の国際的比較研究の結果においてのロシアの生徒たちの成績を改善すること（PIRLS, TIMSS, PISA）。
2. 教育サービスの質に対する住民の満足感を向上させること。
3. 新財政原則の実現により公的資金使用の効率性を向上させ、教育機関の財務・経営的自主性を保障すること（国家的（自治体的）課題にもとづき）。
4. 教職の魅力を高め、教科担当教員の資格水準を向上させること。
5. 現代化および技術発達の重点方向における高度資格人材に対するロシア連邦経済の需要に応える。
6. 最も著名な世界の大学ランキングにおいて上位 500 校にはいつロシアの高等教育機関の数を増やすこと。
7. わが国市民が生涯全体にわたって職業教育を受け、資格向上を受け、再教育を受けられる条件を創出すること。
8. 官民パートナーシップの枠組みで提供される教育サービスの割合を増やすこと。
9. わが国の先進的高等教育機関のネットワークを形成すること。
10. 就学前教育を確実に受けられるようにすること。

¹以下では、便宜的に各項目に原文にはないが、番号を付す。

11. 3歳から7歳の幼児の就学前教育施設への入園に待ち行列をなくすこと。
12. すべての普通教育機関において連邦国家教育スタンダードの基準に対応した条件を創出すること。
13. 5歳～18歳の未成年者の75%以上を補充教育課程に参加させること。
14. 青少年社会団体の活動に参加する若者の割合を2010年の17%を2020年までに28%まで引き上げること。
15. わが国の画期的発展のために青少年政策実現の効率性を引き上げること。

下位計画

1. 職業教育の発展
2. 就学前教育および普通教育、児童補充教育の発展
3. 教育の質の評価システムおよび教育システムの情動的透明性の発展
4. 社会的実践への青少年の参加
5. ロシア連邦教育計画2013-2020年「教育の発展」の実現の保障およびその他の教育分野における方策

以上の他に以下の二つの計画が本国家計画の一部をなしている。

- 連邦特別計画2011-2015年教育発展
- 連邦特別計画2011-2015年『ロシア語』

国家の社会政策実現方策に関する大統領令

Указ Президента Российской Федерации от 7 мая 2012 года N 597 "О мерах по реализации государственной социальной политики"

Дата подписания: 07.05.2012 Дата публикации: 09.05.2012 00:00

国家の社会政策を一層改善するために、以下のことを命令する。

1. ロシア連邦政府に対し、

a) 以下を保障すること。

2018年までに実質賃金額を1,4-1,5倍に増やすこと。2012年においては、普通教育機関の教育職員の平均賃金を当該地方の平均賃金まで引き上げ、2013年までに就学前教育機関の教育職員の平均賃金を当該地域の普通教育分野の平均賃金まで引き上げること。2018年までに初級および中級職業教育機関の教員及び生産教授マスター並びに文化機関の職員の平均賃金を当該地方の平均賃金まで引き上げること。2018年までに医師及び高等職業教育機関教員、学術研究者の平均賃金を当該地方の平均賃金の200%まで増額すること。2020年までに高度有資格職員の数に全有資格職員の3分の1以上に増やすこと。2013年-2015年の間において身体障害者のための専門的職員定数を毎年14200人分新設すること。

б) 2012年9月1日までに職業スタンダードの開発及び承認、実施に係るロシア連邦法規への修正に関する連邦法案を準備し、ロシア連邦議会下院に提出すること。

в) 2012年12月1日までに職業スタンダードの開発計画を承認すること。

г) 2015年までに800以上の職業スタンダードを開発し承認すること。

д) 労働要員の職業的養成の統一の評価原則を策定するために、以下のことを行う。

労働要員の職業的水準の向上を図る活動を行う機関の審査体制に係るロシア連邦法規修正に関する連邦法案を2014年8月1日までに準備し、ロシア連邦議会下院に提出すること。2015年12月1日までに労働要員の職業的養成及び再教育、資格向上のための拠点的センターの体制を確立すること。

е) 要員の潜在能力を維持し、公的経済セクターにおける職業の威信と魅力を高めるために、提供されるサービスの質および量に関する具体的指標の達成によって賃金の上昇をもたらす、そのように規定する公的経済セクター職員の賃金システムの段階的改善計画を2012年12月1日までに採択すること。

2018年までに、医療機関の福祉職員を含む福祉職員および下級医療職員（医療サービスの提供条件を保障する職員）、中級医療（薬局）職員（医療サービスの提供条件を保障する職員）の平均賃金を当該地方の平均賃金の100%まで引き上げ、医療（医療サービスの提供を保障する）サービスを提供する高等医学（薬学）教育あるいはその他の高等教育を有する医療機関職員の平均賃金を当該地方の平均賃金の200%に増額すること。専門資格グループごとに基本給を確定すること。非効率機関の再編によって得られた資金の3分の1以上を充てて公的資金経済セクター職員の賃金の向上を図ること。

ж) これら機関の長とその職員の平均賃金の比率を定め、収入及び資産・資産的性格の債権に関するこれら機関の長の報告書を規定したうえで連邦予算からの支出によって充当される機関長の賃金メカニズムの透明性を構築する。

з) 機関の管理運営への職員参加を拡大するために、ロシア連邦法規に職場会議 *производственный совет* を期間内に設置することに関する修正を行う提案を2012年12月1日までに準備する。ただし、機関長の権限も定義しておくこと。自治機関発展の総合的方策を開発し、職業倫理法典を採択すること。

и) 2013年3月1日までに国家財政経済セクター分野に人数積算方式を適用することに関する提案を提出すること。

к) 2013年4月1日までに社会団体と協力して、機関活動の効率性基準の決定と活動の公開格付けの導入を含め、社会的サービスを提供する機関の活動の質についての独立した評価システムの形成を保障すること。

л) 2013年から福祉目的をもつ非営利組織の支援を強化するための方策を始めるよう規定すること。

м) 年金開始年齢まで働き続ける意思を明らかにしかつ年金支給の延期を決定し、さらに年貯金の保障と年金投資による収入の保障を確実にを行う措置を定めた市民の年金額の増額メカニズムを年金システムの中に規定したうえで、2012年12月1日までに年金システムの長期的戦略案を策定すること。

н) ロシア文化の一層の保存と発展のために、以下のことを行う。

2015年までに小規模都市の中に5つ以上の文化発展センターを設置する。ロシア連邦で出版されている書籍点数のうち10%以上を国家電子図書館に毎年納める。公共的な電子図書館や博物館や劇場のサイトをインターネット上に設置することや、さらに、映画や舞台の著名な監督のフィルムや公演をインターネット上の無料閲覧ポータル・サイトに搭載する。2012年12月1日までに文化・芸術活動のために才能のある青少年への奨学金や、さらに、文化および芸術分野において全国的意義を有する創造的プロジェクト支援のための補助金交付に対する連邦予算からの支出を増額することを保障する。2013年3月1日までに、小規模および中規模の都市の博物館や美術館における芸術作品展示のために主要なロシアの博物館の移動用収蔵品セットを創出し、さらに、2018年までに27のヴァーチャル博物館を設置することを保障すること。

2018年までにロシア連邦構成主体において行われる展覧会事業の数を2倍に増やすこと。2015年までに卓越した文化・芸術活動家および若い才能ある作家のための国家給費の数を4000口まで増やすこと。2018年までに才能をもつ青少年たちを発掘し、支援するために創造的行事に参加せしめられる子供たちの数を全児童数の8%まで増やすこと。

2. ロシア連邦政府はロシア連邦構成主体行政機関と協力して、以下のことを行う。

а) 2012年8月1日までに文化活動職員の賃金の段階的上昇措置を実現することを定めた法令の開発を保障すること。

б) 2012年11月1日までに、ロシア連邦の博物館相互の展示品交流の実践を拡大し、夕刻から夜間に博物館を開館する総合的方策を開発し、それを確実に実行すること。

в) 2012年11月1日までに、身体障害者の雇用促進に関する措置のより効果的实施を促進し、身体障害児及び障害者の職業指導法の改善を含め職業教育へのアクセスを保障し、心身の発達と個人的能力の特性を考慮して障害者の職業教育の専門的な教育課程を準備し、さらに、障害者の社会的自立のための個別的プログラムも準備し、障害者のための職場の設備（装具）環境を含め障害者の雇用水準の向上が図れるような条件を作り出すための総合的方策を開発すること。

3. ロシア連邦政府及びロシア連邦構成主体行政機関は、2013年、2014年、2015年の期間において連邦予算及び連邦構成主体予算を策定するにあたって本大統領令に規定する措置を実現するための支出金を定めること。

4. 本大統領令は公示の日をもって効力を発する。

ロシア連邦大統領 В. Путин

Материал опубликован по адресу: <http://www.rg.ru/2012/05/09/soc-polit-dok.html>

賃金システムの段階的改善計画附属資料抄 (№1 および 4)

№1 教育、保健、社会福祉分野の職員数と賃金の推移

教育	2007	2008	2009	2010	2011
職員数(百万人)	5.77	5.71	5.66	5.52	5.36
2007年比	100	99.1	98.1	95.8	93
平均加算月給(千ルーブル)	8.8	11.3	13.3	14.1	15.8
2007年比	100	128.9	151.4	160.3	180.1
ロシア平均月給に対する比率	64.6	65.5	71.3	67.2	67.6
保健及び福祉サービス	2007	2008	2009	2010	2011
職員数(百万人)	4.45	4.46	4.5	4.46	4.46
2007年比	100	100.2	101	100.3	100.1
平均加算月給(千ルーブル)	10	13	14.8	15.7	17.5
2007年比	100	130	147.7	156.7	174.8
ロシア平均月給に対する比率	73.8	75.5	79.5	75	75.1

№4 指定機関職員平均給与の標準(指標)値比の改善行程% 原注 1

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
1 高等職業教育機関教員	84	110	125	133	150	175	200
2 学術研究員	135	128	134	143	158	179	200
3 医師及び医療サービスを提供する(提供を保障する) 高等医学(薬学)あるいはその他の高等教育を有する医療機関職員	125.3	129.7	130.7	137	159.6	200	200
4 中級医療(薬事)職員	72.9	75.6	76.2	79.3	86.3	100	100
5 下級医療職員	48	50.1	51	52.4	70.5	100	100
6 文化機関職員	49	53	59	65	74	85	100
7 福祉職員	37	47.5	58	68.5	79	89.5	100
8 児童補充教育機関教育職員 原注2	58	75	80	85	90	95	100
9 初中職業教育教員と生産教授マスター	70	75	80	85	90	95	100
10 普通教育機関教育職員	100	100	100	100	100	100	100
11 就学前教育機関教育職員 原注3	80	100	100	100	100	100	100

訳注：指定機関職員とは、2012.05.07.N597 大統領令「国家社会政策実現方策について」及び2012.06.01.N761 大統領令「2012-2017 年度間における児童のための国家行動戦略について」で賃金の引き上げ対象とされている職員のことである。

原注 1：ロシア連邦労働社会保護省およびロシア連邦保険証、ロシア連邦教育科学省、ロシア連邦文科省の評価資料をもとに作成、指標的性格のものであり、本計画の実施策のロードマップの中でより精緻化される。

原注 2：ロシア連邦構成主体における教員の平均給与に対する値。

原注 3：ロシア連邦構成主体における普通教育分野の平均給与に対する値。

2012年6月1日付ロシア連邦大統領令№761

「2012 - 2017年度間における児童のための国家行動戦略について」
Указ Президента РФ от 1 июня 2012 г. N 761 "О Национальной стратегии действий в интересах детей на 2012 - 2017 годы"

および

2012 - 2017年度間における児童のための国家行動戦略

《目次》

- 2012年6月1日付ロシア連邦大統領令№761「2012 - 2017年度間における児童のための国家行動戦略」
 - 2012 - 2017年度間における児童のための国家行動戦略
- I. はじめに
1. 児童に関する基本的諸問題
 2. 国家戦略の主要原則
- II. 幼児保護の家族政策
1. 状況分析の概要
 2. 基本的課題
 3. 当面の対策
 4. 子どものいる家庭の貧困対策
 5. 子どものための安全で快適な家庭環境形成のための対策
 6. 家庭からの児童の取り上げ(親権停止、親権喪失)および育児放棄を予防するための対策
 7. 期待される効果
- III. 児童の質の良い教育 **обучения и воспитания** へのアクセスおよび文化的発達、情報的安全
1. 状況の概要
 2. 基本的課題
 3. 教育のアクセスと質の保障のための対策
 4. 才能を有する児童青少年の探索と支援のための対策
 5. 児童の訓育の発展と社会化のための対策
 6. 補充教育システムの発展と児童の創造的発達と訓育のインフラストラクチャのための対策
 7. 児童期の情報的安全の保障のための対策
 8. 期待される効果

- IV. 児童にやさしい保健と健康な生活習慣
 - 1. 状況の概要
 - 2. 基本的課題
 - 3. 児童にやさしい保健の創出のための対策
 - 4. 児童及び未成年者の健康な生活習慣の形成のための政策展開の対策
 - 5. 官民パートナーシップ原則に基づく児童の休息と健康増進組織の現代的モデルをつくるための対策
 - 6. 児童及び未成年者の健全な食事文化形成及び児童の健康の基礎としての食事の質と食習慣の保障
 - 7. 期待される効果
- V. 国家の特別な配慮を必要とする児童のための平等な機会
 - 1. 状況の概要
 - 2. 基本的課題
 - 3. 孤児と親の保護に欠ける児童の権利及び利益を守るための対策
 - 4. 身体障害児と障害児の国家的支援のための対策
 - 5. 期待される効果
- VI. 児童の権利及び利益の保護と保障システムならびに児童にやさしい司法システムの創出
 - 1. 状況の概要
 - 2. 基本的課題
 - 3. 児童の権利と利益保護に係るロシア連邦法規の改革のための対策
 - 4. 児童にやさしい司法創出のための対策
 - 5. 刑期中および刑期終了後の児童の処遇の改善のための対策
 - 6. 未成年者に対する暴行の予防と被害児童の社会復帰のための対策
 - 7. 期待される効果
- VII. 国家戦略の実施主体としての児童
 - 1. 状況の概要
 - 2. 基本的課題
 - 3. 当面の対策
 - 4. 期待される効果
- VIII. 国家戦略実施のメカニズム

2012年6月1日付ロシア連邦大統領令№761

「2012 - 2017 年度間における児童のための国家行動戦略」

児童の権利条約にしたがいロシア連邦における児童の状態の改善に関する国家政策を編成するために、以下のことを決定する。

1. 付属の 2012-2017 年度間における児童のための国家行動戦略を承認する。
2. ロシア連邦大統領府長官に対し、2 か月以内に 2012-2017 年度間における児童のための国家行動戦略の実施についてのロシア連邦大統領付属調整会議規程案を承認のために提出し、当該会議の編成について提案すること。
3. ロシア連邦政府に対し、
 - a) 2012-2017 年度間における児童のための国家行動戦略の最重要規定についての 2014 年までの緊急対策計画を 3 か月で承認すること。
 - b) 次年度および計画期間内の連邦予算案の編成に際して、2012-2017 年度間における児童のための国家行動戦略のための国庫支出金を規定すること。
4. ロシア連邦構成主体国家権力機関に対し児童のための地方行動戦略を制定するよう勧告すること。
5. 本大統領令は署名の日をもって施行する。

Президент Российской Федерации

В. Путин

Москва, Кремль

1 июня 2012 года N 761

2012-2017 年度間における児童のための国家行動戦略

(2012. 06. 01. N761 ロシア連邦大統領令により制定)

I. 初めに

包括的な人権宣言にしたがい児童は特別な配慮と援助とを受ける権利を有する。ロシア連邦の憲法は家族及母性、児童に対する国家的支援を保障している。児童の権利条約及び児童の権利保障に関するその他の国際的規約に調印し、ロシア連邦は、児童の生活が安寧かつ善意に充ちた環境を形成せんとする国際社会の行動に加わることに賛意を表明する。

ロシア連邦における児童のための国家行動計画 Национальный план действий в интересах детей は 1995 年に採択され、2000 年まで行われることになっていた。わが国社会-経済の現発展段階において、切に求められているのはあたらしい文書の策定と制定である。すなわち、2012-2017 年度間における児童のための国家行動戦略(以下、国家戦略)である。

国家戦略の主要目的は、児童のための国家政策の基本方向と基本課題を定め、かつ広く認められた国際法上の原則および規範にもとづく戦略の主要実施メカニズムを定めることである。

最近の 10 年間において児童の福祉と保護の保障はロシアの基本的国家優先事項の一つとなっている。ロシア連邦連邦会議に向けたロシア連邦大統領教書においても児童問題における現代的かつ効果的な国家政策の策定に関する課題が掲げられていた。児童に関する諸問題及びその解決の道筋は 2020 年までのロシア連邦の社会的-経済的長期的発展構想や、2025 年までのロシア連邦人口政策構想にも反映させられている。

児童に関する数多くの問題の実践的解決の手段となったのは、優先的国家計画『健康』と『教育』、連邦特別計画の実施であった。児童の権利の行使を激著しく脅かすものを予防するための多くの重要な法令が採択された。新しい国家施設や社会的施設が設けられた。大統領付属児童の権利全権代表の職が制定され、また、多くのロシア連邦構成共和国において児童の権利全権機関が設置され、深刻な生活状態にある児童を支援する基金が設置さ

れた。ロシア連邦予算及びロシア連邦構成主体予算からの福祉的支出額が増やされ、子どもをもつ家庭への新たな社会的支援策が採用された。児童虐待に反対する全国的な大規模な情報キャンペーンがロシアで初めて行われ、統一番号の電話相談が機能を開始した。

これらの対策の結果、出生率の上昇と児童死亡率の低下や、子どもをもつ家庭の社会－経済的状態の改善、児童の教育や医療へのアクセスのしやすさ、親の養育に欠ける子供のうち家庭に引き取られるものの数の増加という肯定的な傾向がみられるようになった。

以上の状況と同時に、児童の生活にとって安寧かつ善意にあふれた環境の創出に関する諸問題は依然として厳しい状態のままであり、最終的な解決には程遠い有様である。児童人口の減少は継続しており、就学前年齢の幼児および普通教育機関の生徒たちの少なからぬものたちにさまざまな疾病や機能障害があることが判明している。

ロシア連邦検事総局の情報では、児童の権利侵害の件数は減っていない。2011年では9万3千人以上の子どもたちが犯罪の被害者になっている。身体障害児および孤児、親の保護に欠ける子どもの数の減る速度はわずかである。アルコール依存や麻薬依存、毒物依存に陥っている未成年者の問題は深刻である。犯罪の4分の1は酩酊状態の未成年者によって犯されている。

ハイテクの発達や国際社会への開放性はインターネット上での人権侵害コンテンツから児童を守りきれない状態を招き、児童売買や児童ポルノ、児童買春にかかわる問題を深刻化してきた。ロシア内務省МВДの情報によれば、児童ポルノを含むサイト数は3倍に増加し、インターネット情報量そのものの数は25倍に増えている。自殺に関するサイトの数は極めて多く、未成年者がいつでもアクセスできるようになっている。

2010年のロシア統計局のデータによれば、16歳未満の子どもで最低生活水準で暮らすものの割合は全ロシアの平均貧困水準を超えていた。弱者として最も配慮されなければならない状態にあるものは、1歳半から3歳までの子どもであり、また、多子家庭や片親家庭、両親が失業している家庭の子どもたちである。

わが国の将来の利害と安全に対する新たな脅威を生み出しつつある児童に関する諸問題の規模と深刻さはロシア連邦国家権力機関や地方自治体、市民社会に対し、児童の状態の改善とその保護のために緊急措置を取ることを強く求めている。

1. 児童に関する基本的諸問題

児童の保障および権利と利益の保護に関する現行のメカニズムの効果が不十分であること。児童の権利分野での国際標準が実施されていないこと。

特に多子家庭及び片親家庭において出産の際の貧困の高いリスク。

低福祉家庭や児童虐待、児童に関するあらゆる形態の暴力の蔓延。

低福祉家庭や児童に対する予防活動の効果が低いこと、親権はく奪や育児放棄状態の拡散。

児童及びその家庭のためのサービスの量と質についてロシア連邦構成主体の間で不平等が存在していること。

児童の中の弱者（孤児および親の保護に欠ける児童、社会的に危険な状態にある身体障害児、）を社会的に排除していること。

児童にとって危険な情報が蔓延することにより新たなリスクが増大していること。

児童が社会生活に参加し、彼らを直接傷つけるような諸問題の解決に加わることを保障する有効なメカニズムが欠如していること。

2. 国家戦略の主要原則

家庭で生活し、教育を受けるという子どもの基本的な権利の実現。ロシア連邦においては子どもの権利と法的な利益が家庭において守られ、また、それらの侵害が適時に暴かれ、家庭と子どもに対する司法的支援が組織され、困難な生活状況に陥り支援を必要とする

家庭と子どもとに直接に支援が届けられ、保障されるための条件が作り出されなければならない。また、必要ならば、親の保護に欠ける子どもを市民の家庭において養育する措置を取らなければならない。

一人一人の子どもの権利の保護。ロシア連邦では、状況の診断、児童の権利の保護と侵害された権利の回復に必要な総合的な措置の計画と執行を含めいかなる差別もなく一人一人の子どもの権利の侵害に対し確実に対応するシステムが形成されなければならない。虐待や犯罪被害の犠牲者となった子供一人一人が社会的に立ち直るための援助を与えること。

子ども一人一人の可能性を最大限実現すること。ロシア連邦においては、子どもたちにとって生きるに値する前途が形成され、その教育、訓育と社会化が行われ、社会的に望ましい活動において最大限の自己実現が図られるような条件が作り出されなければならない。

子どもの健康の維持。ロシア連邦においては、家庭と子どもたちに健康的な生活スタイルへの欲求を形成し、病気全般に対する早期の予防を図り、児童の生活全般にわたって健康維持技術を定着させ、いかなる状況においても資格を有する医療支援を提供できるような措置を講じなければならない。

家庭内の発展させ、子どもの欲求を満たし、国家支援があって実現されるような支援技術。ロシア連邦においては、人々の内的な積極性に基盤を置く社会活動の効果的技術の広範な導入を図り、専門家とともに自らの問題解決に関わり、独創的な経済的解決を探求するような可能性を人々に与えることが必要である。

子どもたちの中の弱者に対する特別な配慮。ロシア連邦においてはあらゆる場合において特別で十分な配慮が子どもたちの中の弱者に振り向けられなければならない。彼らに対する社会的な排除を克服することを可能にし、社会的自立と十分な価値のある社会統合を促進するような、これらの子どもに対する活動形態を開発、導入しなければならない。

個々の子どもたちやその家庭に対する働きかけにあたって専門性と高い資格を保障すること。ロシア連邦においては、児童に関する政策の策定と実施は社会分野を含め科学の指針の成果と現代的技術の使用にもとづかなければならない。子どもと家庭に対する活動にいろいろな形で結びついているあらゆる分野の人材の質の高い養成と定期的な資格向上のための条件を保障しなければならない。

子どものためのパートナーシップ。ロシア連邦においては、児童政策は社会的パートナーシップすなわち社会的-専門的審査技術に立脚し、児童の権利及び利益の保障と保護に係る現実的な問題の解決に対して実業界の参加を得て、社会組織と国際的パートナーを加えることによって実施される。開かれた社会サービス市場を形成し、児童の権利の保障と保護の分野における社会的統制システムを創出する方策を取る必要がある。

* * *

本国家戦略は2017年までの期間のためのものであり、その任務は児童の権利に関する国際標準への到達を保障し、子どもについて最も緊急性の高い問題の解決のための目標及び課題、活動方向、当面の対策に対するロシア連邦の国家権力機関と地方自治体機関、市民社会の施設、市民個人の統一的な取り組みを形作ることである。

本国家戦略は、2012 - 2015 年度間の児童の権利保護に関する欧州評議会の戦略を考慮して策定された。欧州評議会の戦略は以下の基本目標を含んでいる。すなわち、子どもにやさしいサービスとシステムが生まれることを促進すること。児童に対するあらゆる形態の暴力の根絶。子どもが最も弱い状況におかれたときにその権利を保障すること。

いわゆる欧州評議会の戦略や児童の権利保障と保護の分野での重要な国際条約の規定の実現に参加し、広く認められている国際法の原則や規範に従ってロシアの法規を改正することは、児童の権利と利益を守るロシアの活動を国際社会の活動と調和させることを可能にし、ロシア連邦の領土においてヨーロッパ諸国の肯定的な経験を広く定着せしめ、革新的なロシアの経験を世界の舞台に登場せしめ、地球上のどこであってもロシアの子どもたちの権利と利益を守ることを促進するであろう。

以下の基本方向で本国家戦略の実施を進めることが規定されている。すなわち、幼児保護の家族政策、児童の質の良い教育 *обучения и воспитания* へのアクセスおよび文化的発達、情報的安全、児童にやさしい保健と健康的な生活習慣、国家の特別な配慮を必要とする児童のための平等な機会、児童の権利及び利益の保護と保障システムならびに児童にやさしい司法システムの創出、国家戦略の実施主体としての児童。

2014年9月4日付ロシア連邦政府政令№1726-pによる承認

子どもの補充教育の発展構想

Концепция развития дополнительного образования детей

翻訳：岩崎正吾 1～12頁（I～V）

20～23頁（VII～VIII）

森岡修一 12～20頁（VI）

Утверждена распоряжением Правительства Российской Федерации
от 4 сентября 2014 г. N1726-p.

2014年9月4日付（モスクワ）ロシア連邦政府政令№1726-p

1. 提案されている、子どもの補充教育の発展構想（以下、構想）を承認する。
2. ロシア教育・科学省は、ロシア文化省及びロシアスポーツ省と協力して、構想の実現に関する施策プランを3ヶ月内に作成し、所定の手続きに基づいて、ロシア連邦政府に提出すること。
3. 構想の実現は、しかるべき財務年度の連邦予算に計上されている予算支出額の枠内で、関係する連邦執行権力機関〔行政機関〕によって遂行される。

ロシア連邦首相 デ・メドヴェージェフ

I. 総則

ロシア連邦の産業社会からポスト産業情報社会への転換という状況の中で、教育システムと人間の社会化とへの挑戦が強まっている。開かれた選択可能な教育としての補充教育の必要性の社会的理解、発達と様々な活動（ここでは、子ども・少年少女の人格的及び職業的自己決定が行われる）の自由な選択への人間の権利の最善の保障という補充教育の使命の社会的理解という課題は、ますます先鋭になっている。

社会的及び経済的過程に含まれる人間の能力が保障されるこうした教育組織は、切実なものとなっている。

その他の種類のフォーマル教育と比較して、補充教育の競争的なメリットは、以下のような特徴づけに現れている。

- ・人間の個人的発達を規定する活動の自由な個人的選択。
- ・教育過程の内容と組織形態の多様性。
- ・グローバルな知識と情報の各人にとってのアクセス性。
- ・生起する変化への適応。

これらの特徴づけの分析は、個人の動機的ポテンシャルと社会の刷新的ポテンシャルを増大させるユニークで競争力のある社会的実践としての補充教育の価値ある地位を自覚させる。

補充教育の鍵となる社会文化的役割は、子ども・少年少女のサブカルチャーの自己発展の内的な能動性の動機づけが、幼稚園、学校、テフニクム又は高等教育機関といった個々の組織的・管理的機関ではないすべての社会の課題となっているという点にある。まさに21世紀において教育の優先事項とならなければならないのは、動機づけられた空間への生活空間の転換であり、そこでは、人間の人格形成は、認識、創造、労働、スポーツへの並びにロシア人民の多民族文化の価値や伝統に対する接触への動機づけの形成から開始される。

子どもの補充教育の発展構想（以下、構想）は、成長する世代の認識、創造、労働及びスポーツへのモチベーションを発展させる社会文化的実践としての補充教育の使命を体現すること、即ち、補充教育現象を個人、社会及び国家の競争力を保障する開かれた選択可能な教育の真の体系的統合機関へと転換することに向けられている。

子どもの補充教育の価値ある地位とその使命の社会的承認は、ロシア連邦政府の指示に示されている国家政策の諸施策を実現することを可能にする。

人間の基本的欲求の充足という課題が解決されるポスト産業社会では、表記プランに対して自己表現、人格的成長及び市民的統合という価値が提起されている。このことは、教育に適用すれば、普通教育、「マス」教育のアクセス性と義務性の保障という課題から、個人の自己実現のための個人的教育(персональное образование)空間の構築という課題への転換を意味している。教育は、共通の規準や文化様式の習得及び社会統合の手段となるだけでなく、人間の発達、即ち、人間による自己自身の探求と発見のプロセスの基本的ベクトルを実現する可能性を作り出す。

この課題解決を国家が拒否することは、周辺の（サブカルチャー的）社会化空間における自然発生的アイデンティティの形成リスクをもたらすことになる。

このリスクを予防する手段となり、グローバルゼーションの要請への回答となるのは、アイデンティティ構築の情動的に豊富な社会文化空間としての個人的教育(персональное образование)をデザインすることである。

こうした教育は、人間の可能性を原理的に拡張し、各人が個人的発達の目的と戦略を自分のために規定することのできる大きな選択の自由を付与する。それは、彼らの社会的・職業的自己規定、即ち、個人的人生設計や願望の実現計画において、今、ここでと同様に将来においても、積極的な社会化の文脈における生徒達の個人的な生活創造の保障へと方向づけられている。

子どもの補充教育において、個人の認識的積極性は、まさに教育界の枠を超えて、最も多様な社会的実践の領域へと羽ばたく。高度に動機づけられた子ども・大人の教育共同体の成員となりつつ、子ども・少年少女は、構成的な相互作用と生産的な活動の広範な社会的経験を受け取る。これらの条件の下で、補充教育は、生活への準備または職業的な基礎の習得として理解されるのではなく、文化及び活動の主体としての人間の生涯にわたる自己実現、自己改善のプロセスの本質的な基礎となる。

就学前、普通、職業教育の水準を通して、補充教育は、成人する個人にとって、意味ある社会文化的核心—その重要な特徴づけは創造、遊び、労働及び研究活動を通じた認識である—となる。

補充教育の個人化(персонализация)は、フォーマル教育のその他の機関と比較して、以下の側面を実現することにより、そのメリットを増大させる。

- ・子どもの興味、関心及び才能に応じた、子ども（家庭）の自由意思による選択に基づく選択可能な発達教育プログラムへの参加。

- ・教育プログラム習得のレジムとテンポを選択することができ、個人的教育軌道の整備を可能なものとする（このことは、英才児や健康に偏りのある子どもに適用すれば、特別な意義を持つ）。

- ・試行や間違ふことへの権利、教育プログラムや教師及び組織を取り替えることができること。

- ・教育内容、教育過程の組織、補充教育の組織様式の非形式性。

- ・教育成果の評価の可変的性格。

- ・実地応用との緊密な結合、具体的な個人的作品の制作とその公的なプレゼンテーションへの方向づけ。

- ・習得した知識や技能を実際に活用できること。

- ・グループ(объединение)の多年齡的性格。

- ・教師、指導者、トレーナーを選択できること。

以下のような側面に現れる開放的性格も、子どもの補充教育の重要な特質である。

・あれこれの近い種類の活動に従事している大人や同年齢者の社会的・職業的及び文化余暇的共通性との相互作用に向かわせること。

・教師や生徒にとって、社会文化的現実の差し迫った出来事、それらの体験や反省を取り入れることができること。

・ボランティアや社会的活動の発展を含めて、子ども（少年少女）と同様に大人の社会的イニシアチブやプロジェクトの生成と実施のための有利な条件があること。

子どもの補充教育は、居住地や家族の社会的・経済的地位に関係なく、一人ひとりの子どもの成功のための条件の創造により、社会的安定と社会における公平性を高める重要な要因である。子どもの補充教育は、家庭や普通教育機関における必要な規模または質の教育資源を受け取っていない大部分の子どもにとって「社会的上昇」(социальный лифт)の機能を果たすが、このようにして、それらの欠陥を補正し、または、健康に偏りのある子どもや困難な生活条件におかれたカテゴリーの子どもを含めて、彼らの教育的及び社会的達成のための選択的可能性を提供する。

現在、情報社会化という条件の下で、子どもの補充教育は、成長する世代の価値、世界観、市民的アイデンティティを形成し、社会的及び技術的転換のテンポへ適応させる手段となり得る。

II. 子どもの補充教育の状況と問題

現在、補充教育を受ける可能性は、各管轄部門（教育、文化、スポーツ及びその他）の国家（公立）機関、同様に、非国家的（商業的及び非商業的）機関及び個人企業によって保障されている。

現段階において、補充教育プログラムの内容は、以下のように方向づけられている。

- ・生徒の人格的発達、積極的社会化及び職業的自己決定のための必要条件の創出。
- ・知的、芸術的・美的、道徳的発達における、また、体育やスポーツ、科学・技術的創造の授業における生徒の個人的欲求の充足。
- ・生徒の創造的能力の形成と発達、才能ある生徒の発掘、発達及び支援。
- ・生徒の精神・道徳教育、市民教育、愛国教育、労働教育(воспитание)の保障。
- ・生徒の健康で安全な生活様式文化の形成、健康の増進。
- ・健康に偏りのある生徒のうち障がい児をふくめて、連邦スポーツ訓練スタンダードに応じた高度なクラスのスポーツ予備軍やスポーツマンの養成。

最近、有料利用を含めて、子どもの補充教育への家庭の関心が高まっていると指摘されている。補充教育プログラムに引き入れられる就学前年齢児童の数が増大している。様々なコンクールの行事に参加する家庭と子どものモチベーションが明確に高まっている。大衆的な公開オンライン・コースやビデオ授業を含めて、情報・遠隔交信設備網「インターネット」（以下、「インターネット」網）を積極的に利用する青少年が増大している。

増大する需要への回答は、様々な補充教育プログラムの量的増大である。教育イニシアチブが、博物館、図書館、新しい社会文化的展示場、社会的諸機関によって積極的に提起されている。科学の庭園や博物館、体験型科学博物館(эксплораториум)、児童コンピュータ・アニメ動画スタジオ、ロボット技術スタジオ、3-D（三次元）モデルや模型などのような刷新的組織の形態が普及している。子どもの余暇・休息、教育観光の分野でプロジェクトを考案し、実施する商業的及び非商業的機関の数が増大している。

市民の関心に応え、この分野への投資を促進する補充教育の非国家的セクターが活発に発展している。

こうしたことすべてが、5歳から18歳までの年齢の若いロシア連邦住民の60%以上を

補充教育に引き入れることを可能にしている。その際、補充教育のアクセス性と質は、それぞれの連邦構成主体においてかなり異なっている。

子どもの補充教育においては、新しい教育形態（ネット、電子教育など）と技術（人間的、工学的、ビジュアル的、ネットワーク的、コンピュータ・アニメ動画的など）の利用が広まっている。

インフォーマル教育のサービスや支援の市場（教育オンライン資源、バーチャル読書室、*мобильные приложения* など）が発展している。

このようにして、子どもの補充教育の分野は、グローバルな知識や情報の入手を拡大し、国の将来の発展課題に応じてその内容を素早く刷新することを含めて、教育全体の発展のための特別な可能性をつくりだす。この分野は実際に、未来の教育モデルや技術を仕上げるための刷新場となっており、一方で、補充教育の個人化(*персонализация*)は、21世紀の教育発展の主要な流れとなっている。

それと同時に、社会的及び経済的諸関係の発展、技術様式の変動、家庭や子どもの要求の変化は、新しい要請をつくりだし、子どもの補充教育の祖国システムの競争力のあるメリットの利用と新しいアプローチや手段の探求を促進する。

子どもの補充教育の全般的アクセス性と無償性の憲法的保障が欠如している中、連邦法「ロシア連邦における教育について」は、地域〔構成主体〕と地方自治体の権力機関に対して、子どもの補充教育を提供する機関の権能をいっそう強化している。このことは、子どもの補充教育分野への国家的支援の提示を可能にするが、サービス受容の地域間及び地方自治体間格差をもたらし、様々なレベルの収入を伴う社会的な諸グループ間の教育上の不平等を促進するというリスクを負っている。

補充教育分野における規準的調整メカニズムの欠如は、一方では、プログラムの必要な改変と刷新を行うことを可能にするが、他方では、相応のサービスの提供と全てのレベルの予算資金の効果的な使用を保障するとは限らない。

現代の大衆的な子どもの補充教育のインフラは、数十年前につくられ、現代の要求から取り残されている。現代的な施設、設備、学習参考書、コンピュータ技術の点で、また、とりわけ、高度テクノロジープログラムの実施のための質の高いインターネット網の保障の点で、システムには重大な不足がある。

補充教育の教師の給料水準を高めるといふかすかに認められる動向は、最良の有資格要員の流出をくい止めるには至っておらず、有能な若いスペシャリストを数多く引き入れるには至っていない。

職業、労働市場、情報環境及び技術の発展傾向は、補充教育プログラムのスペクトル〔種類〕を拡大するという必要性を示している。しかしながら、子どもの補充教育の内容の刷新は、ゆっくりとしか進んでいない。

コンクール施策（オリンピック、選手権大会、競技会）の分野のスペクトル〔種類〕の数が増大し、拡大しているという肯定的な観察傾向に際して、家族のモチベーションを高め、才能ある子どもを発掘し、補充教育機関の活動の効果をモニタリングする仕組みとして、そのポテンシャルを実現することのできる、遂行されるべき体系的な活動の必要水準は、今のところ保障されていない。

現在の規準的調整システムは、補充教育サービスの規模とスペクトル〔種類〕の拡大、インフラの現代化のために、非国家的セクターや公私のパートナーシップのポテンシャルを利用するという可能性を制限している。

Ⅲ. 子どもの補充教育の目的と発展課題

構想の目的は以下の通りである。

・発達への、個人的〔人格的〕な自己規定と自己実現への子どもの権利を保障すること。

- ・教育分野における子どもとその家族の多様な関心を充足させるための機会の拡大。
- ・社会の刷新的ポテンシャルを高めること。

構想の目的を達成するためには、以下の課題を解決する必要がある。

- ・認識、創造、労働、芸術及びスポーツへの個人のモチベーションの資源としての個人的補充教育(дополнительное персональное образование)を発展させること。
- ・成長する世代の「発達の社会的状況」の必要条件として動機づけられた教育環境をデザインすること。
- ・教育システム全体の選択可能性と個別化の拡大に方向づけられた補充教育と普通教育の統合。
- ・普通教育と補充教育における自己評価及び認識的関心の成長を促進する、子ども・少年少女の到達度を評価する手段の開発、個人の達成動機の診断。
- ・各人のための補充教育の選択可能性、質及びアクセス性の向上。
- ・子どもの関心、家庭や社会の需要に応じた子どもの補充教育内容の刷新。
- ・グローバルな知識や技術に各人がアクセスするための条件の保障。
- ・国家の支援と投資魅力の保障により、子どもの補充教育のインフラを発展させること。
- ・居住地、健康状態、家庭の社会的・経済的地位にかかわらず、補充普通教育プログラムへの子どもの参加への権利を財政的に支援するメカニズムの創出。
- ・子どもの補充教育の発展を管理する効果的な官庁間システムを形成すること。
- ・子どもの補充教育システムの発展の管理に家庭や団体が参加する条件をつくること。

IV. 子どもの補充教育発展の国家政策の原理

子どもの補充教育の発展とそのポテンシャルの効果的利用は、内容と技術の領域と同様に、とりわけ、管理的及び経済的モデルの領域における現代的な、科学的に基礎づけられた決定の採択によるこの分野の責任ある国家政策の樹立を前提としている。

子どもの補充教育の国家的調整と発展管理の以下のような刷新的手段が要請されているが、それらの手段は、補充教育のための基本的な自由と非形式性を維持し、教育分野の全ての主体（子ども、家庭及び機関）を動機づけ、引き込み、支援する社会－国家パートナーシップの原理に基づいている。

- ・質の高い、安全な子どもの補充教育への国家の社会的保障の原理。
- ・補充教育への子どもの参加を拡大するための、補充教育の予算投資に関する国家義務の拡大及び家庭への刺激と支援を含む社会－国家パートナーシップの原理。
- ・様々な種類の構成的及び人格形成的活動における子ども・少年少女の個人的・職業的自己規定の発達への権利実現の権利。
- ・様々な分野の補充普通発達プログラムと補充職業前プログラムのスペクトル [種類] の拡大による、並びに現代の情報社会、ポスト産業社会及び多文化社会における伝統的及び全人类的価値に子どもを親しませることを保障する補充教育機関網の拡大による多様な子ども時代、個人の独自性、ユニーク性を支援するための社会－国家パートナーシップの原理。
- ・補充教育を通して、子ども・少年少女の社会的及びアカデミックな機動性を高める原理。
- ・子ども・少年少女の個人的、職業的自己規定、彼らの自己実現と積極的な社会化をめざす質の高い科学普及プログラム、放送、デジタル及び印刷製品、携帯遠隔教育資源のレパートリーの拡大に向けた、大量コミュニケーション手段（大衆情報手段、テレビ、「インターネット」網、社会的及び知的ネットワーク、出版）を刺激するための社会－国家パートナーシップの原理。
- ・補充普通教育プログラムの実施条件、教育環境の心理・教育学的設計、認識、創造及び構成的活動に向けた子どもの刺激の拡大を促進する、安全な遊びを生み出す遊戯産業（一般的な発達及び学習的性格のコンピュータゲームを含めて）の分野における国と私の

パートナーシップ促進の原理。

・これらの諸機関（図書館、博物館、劇場、展覧会、文化の家、サークル、子ども病院、学術・研究機関、大学、貿易・産業コンプレックス）における子ども・少年少女の補充教育の実施機会の提供に向けて、教育活動を行う様々な機関（学術機関、文化、スポーツ、健康及びビジネス機関）を刺激するための社会－国家パートナーシップの原理。

・教育機関ではなく、教育プログラムが補充教育システムの基礎的要素とみなされるプログラム方向定位(программоориентированность)の原理。

・すべての年齢段階において教育軌道を継続する可能性を保障する補充教育の継承性と生涯性の原理。

補充教育プログラムの計画と実施は、以下の根拠に基づいて組み立てられる。

- ・教育プログラムとその習得レジム [体制、日課、条件] の選択の自由。
- ・補充教育の教育プログラムと形態の子どもの年齢的及び個人的特質への一致。
- ・教育プログラムの可変性、柔軟性、機動性。
- ・教育プログラムの多水準性（段階性）。
- ・教育プログラム内容のモジュール性、成果の相互評価(взаимозачета)の機会。
- ・メタ教科的及び個人 [人格] 的成果に向けた教育の方向づけ。
- ・教育プログラムの創造的、生産的性格。
- ・ [教育プログラム] 実施の開かれたネットワーク的性格。

V. 子どもの補充教育の基本的発展メカニズム

子どもの補充教育の基本的発展メカニズムは、以下の通りである。

・現代の情報・市民社会において、補充教育の価値ある地位に相応しい新しいイメージを大衆情報手段において形成すること。

・ネットワーク上で相互に関係のある機関を含めて、様々なタイプの機関や種類別 [担当別、タイプ別] システム(кластерная система)の枠内での下位管轄機関の省庁間及び水準間協同、資源の統合。

・社会的分野の統合された（または総合的な）機関の設置。

・国、実業界、市民社会の諸機関のパートナーシップ。

・補充教育の何らかのプログラムとプロジェクトの支援に関する決定の採択やプログラム実施の質のコントロール及び予算資金の配分において、社会団体、専門家及び職業共同体の参加メカニズムを通して実現される、子どもの補充教育分野の管理の開放的国家社会的性格。

・内容の刷新とサービスの質の向上を刺激する競争的環境の創出。

・子どもの補充教育サービスの質管理における国家的コントロール、独立した質評価及び自己規制の要因の結合。

・一定の資金規模を確保することにより、補充教育の参加者の教育軌道の動機づけ、選択の自由、建設の支援を保障する人間化された財源投資(персонифицированное финансирование)（人間化された義務を尺度とすること）、並びに利用者によるこのプログラムの選択の後、補充普通教育プログラムを実施する機関（個人事業者）へのそれらの伝達。

・個人情報保護についてのロシア連邦法のすべての要求を遵守し、電子ポートフォリオとその正面玄関への提示の開かれた統一的フォーマットに基礎づけられた、（普通教育の連邦国家教育スタンダードの枠内における課外活動プログラムを含めて）様々な補充普通教育プログラムにおける子どもの個人的な達成を記録する統一システム。

・情報の公開性、すなわち、補充教育プログラムの質、機関、教育成果についての、また、これらのプログラムの社会的・専門的検定についての充分で客観的な情報に対する市民のアクセスの保障。

・補充教育の祖国の最良の伝統と世界的実践の利用に際して、子どもの補充教育システム発展の刷新的、率先的性格の保障。

・国家と社会の特別な注意を必要とする子どものグループ（社会的リスクをもつグループの子ども、健康に偏りのある子ども、社会的・経済的に低い地位の家庭の子ども）に方向づけられた教育プログラムの支援。

・才能の発掘と支援の国民的システムとしての、職業的自己規定のための、また、高度技術や工業生産の分野において刷新的活動への参加に青少年を導き、動機づけるための基本的システムとしての子どもの補充教育分野の発達。

・子どもと家庭のイニシアチブへの支援、家族共同体の資源や青少年のサブカルチャー共同体の積極的なポテンシャルの利用。

VI. 構想の基本的実現方針

補充普通教育プログラムの到達可能性を保証するためには、以下のことがらが前提となる。

- ・子どもの補充教育のサービスが受けられる国家的要求のシステムの形成。
- ・子どもの補充教育の地域プログラム財源的支援のメカニズムを国家的レベルで形成すること。
- ・補充教育への子どもの参加の統計的算出、および電算機システムの統合に基づいたその結果の統計的算出システムの現代化。
- ・プログラムの選択支援をも保証する補充普通教育のプログラム参加者の開かれた情報搬送（ナビゲーション）システムを創出し、個別的教育軌跡を形成すること。
- ・国家および地方自治体の基本的（部門的）サービスリストに教育や科学の分野での業務、職業前および補助普通教育プログラムの実現に対するサービスを、それらのプログラムにおける情報割り当ての多様性と義務を考慮に入れて包摂すること。
- ・規範的、方法的、組織・財政的保証、ネットワーク形式における保証教育の委任の保証。
- ・インフラの到達可能性および教育的軌跡の可変性を保証する地域的教育コンプレクス（クラスター）での補充教育。
- ・村落部児童のためのプログラムを実現する補充教育の組織を支援するメカニズムを定着すること。
- ・家族および親族集団における補充教育の支援、ならびに子どもの補充教育の共同的（家族、児童一成人）実践の支援。

補充教育業務に子どもを参加させ、子どもの訓育における親の権限を高める家庭のモチベーションのための情報・啓蒙キャンペーンを行う。

補充普通教育のプログラムのスペクトルを拡大するには以下のことが前提となる。

- ・補充普通教育プログラムの内容、およびその方法的援護を刷新し、教育者資格を向上させる財政的、基準にあった支援。
- ・多様なレベルの補充職業前プログラムモデルの作成と実現。
- ・健康の可能性が限定されている児童、特別な教育的要求を考慮に入れて障害児の社会一心理学的リハビリを助ける適切な補充普通教育プログラムの作成と実現。
- ・援助の増大、明確な基準策定、休暇中に行われる補充教育のプログラムの方法的およびスタッフの支援。
- ・高等教育の教育機関（遠隔教育テクノロジー、夏季プロフィールスクール〈交代性〉を含む）における子どもの補充教育のプログラム、プロジェクト、創造的イニシアチブの多様性の拡大。
- ・補充教育のプログラムのスペクトルを拡大と、よりよい実践の発掘と普及（助成、コンクール、研修場）を促す手段の定着。
- ・現実の生産（工場や農業での）における学習者の学習の性格の実践を基準通りに強化し、社会領域の組織において、独立の教育形式として文化産業でそれらの実現を支援する

こと。

若者の課業にとって不可欠な条件を、全ロシア社会 - 国家組織「陸空海軍後援会」のシステムを含む技術的、軍事 - 応用的スポーツの種類によって創り出すこと。

補充一般教育プログラムの実現の質の管理システムの発達は、以下のことがらを前提とする。

- ・組織融資の官庁の障壁除去を含む、子どもの補充教育の分野における管理の官庁間モデルの形成。

- ・補充職業前教育プログラムに対する現代の連邦的国家要求の定着と完全化。

- ・補充普通教育プログラムの実現の質、教育組織、個人的企業家の効率を効率的に評価するためのメカニズム、基準、装置作りの精査と定着。

- ・補充普通教育プログラムを実現する内容と形式に対する社会的要請の定期的調査の組織化。

- ・現有のシステムの支援、ならびに補充教育のシステムにおいて子どものためにオリンピック、コンクール、様々なレベルの競争の新しい展望ある方向性の発展。

- ・補充教育での子どもの成績、さらには彼らの社会的活動（ボランティアを含む）の成果を明らかにし集計する（専門的教育機関及び高等教育の教育機関入学の場合を含む）システムの定着。

子どもの補充教育システムの人員ポテンシャルの発展は以下のものが前提となる。

- ・補充教育の教育者の専門的スタンダードの認可と定着。

- ・教育、文化、スポーツのシステムにおける補充教育の分野の教育関係者の準備教育レベル。

- ・専門的スタンダードおよびキャリア向上モデルに基づいた教育関係者の資格審査に対する要求の現代化。

- ・補充教育機関の教育関係者と指導者との効率的契約の精査と定着。

- ・子どもの補充教育の分野へ、若い専門家と彼らの専門的、創造的発達を誘致する条件の創出。

- ・補充教育の組織において教育学の教育を持たない芸術、テクノロジー、スポーツの分野を含む有能な専門家の作業の可能性を、資格認定の変更を介してでも広げること。

- ・専門的活動の質、および教育者の人格の自己評価の装置として補充教育の教育関係者の業績評価システムの定着。

- ・補充教育の分野の活動に対するボランティア、科学、高等学校、学生、保護者団体の代表者の参加。

- ・教育活動遂行のライセンスを取得しなくても補充教育のサービス供与資格を持つ個人経営者の資格で、教育関係者を子どもの補充教育システムに参加させることの支援。

- ・基本的専門教育プログラムに対して、子どもの補充教育に関する学習者の選択にかかわるモジュールの組み入れ、および基本的専門教育プログラムに対して、子どもの補充教育、英才児や青年の業務にかかわる義務的モジュールの教育学的、心理 - 教育学的、欠陥学的動向の組み入れ。

- ・バカラブリエートの2部構成プログラムに補充教育プロフィールを導入、子どもの補充教育のシステムに対する教育者の準備教育を目指したマギストラトゥラのプログラムを創出。

- ・子どもの補充教育に関係し、英才児や若者の育成に関するモジュールを教育実践の場所によって保証すること。

- ・子どもの補充教育の領域における教育要員の連続した専門的発達の現代的随伴システムの形成（個人的教育プログラムに即した教育の可能性を持つ資格向上のネットワーク形式およびモジュールプログラムの実現、補充教育関係者の専門的発達のチューター随伴、資源センターおよびより良い実践などに基づいたインターン形式での補充専門教育の組織

化)。

- ・マネージメント、マーケティング、組織のプロフィールに対応する教育活動分野におけるプライオリティをもった子どもの補充教育領域のための教育プログラムの現代化、ならびに行政要員の準備教育の量的拡大。

- ・英才児、困難な生活条件におかれている子ども、健康の可能性に限界のある子どもに携わっている補充教育関係者の所番地支援メカニズムの定着。

- ・子どもの補充教育の分野の教育関係者における専門的共同体（連合）の創出ならびに活動支援。

補充教育発展の財政的 - 経済的メカニズムの完成には以下のことがらが前提となる。

- ・音楽学校、芸術学校、体育学校における予算的資金（健康の可能性に限界のある子ども、困難な生活条件におかれている子どもなどのための補充職業前および一般的発達のプログラムに関する）によって融資される学習者数の決定方法の定着を含む、所有および行政官庁の縦割り従属のさまざまな形式の組織における基準人数的融資に基づいた補充普通教育プログラムの財政的保証メカニズムの発展。

- ・補充普通教育プログラムの体現された融資のメカニズムの精査と定着、および補充教育を受ける家族の支援。その中には、暮らしが豊かでない子どもの多い家庭のために補充教育の支払いの割り当て分の補償、補充教育を所得税の割り当ての可能な支出の指令書の成分に含めることを含む（市民権制定の提出の際には所得税の割り当て分を取扱う）、補充普通教育プログラムに即した教育に対する消費クレジットを市民が受給する際のクレジット利率の低減の可能性を検討すること。

- ・補充普通教育プログラムの実現に即したサービス需要者による部分的支払（国家と需要者の融資原理に基づく）の可能性を広げるメカニズムの創出。

- ・課税関連を含む免除・減率及び特惠関税を利用することで、子どもの補充教育の発展におけるビジネスの動機づけのメカニズムを創出するオファーの精査。

- ・地方自治体の任務における子どもの補充一般発達プログラムの実現に向けた独立部門を一般教育組織に割り当てること。

- ・補充教育のサービス供与における非国家的セクターの参加の拡大。

国家—個人経営パートナーシップのメカニズムの定着は以下のことがらが前提となる。

- ・補充普通教育プログラムを実現する非国家的、国家的組織を予算融資に向けて競争的ルートを保証すること。

- ・補充普通教育プログラムを実現する、あらゆる組織と個人経営者に対して、子どもの補充教育の分野におけるライセンスの要求を完成させる（やむを得ない場合には簡略化したもので可）こと。

- ・補充普通教育プログラムを実現する非国家的組織に対して、国有（地方行政）財産への賃貸料率低減の可能性を見越したメカニズムの発展。

- ・補充普通教育プログラムを実現する非国家組織発展のための課税報奨のメカニズムの利用。

- ・子どもの補充教育の分野における展望ある主導的プロジェクトに対する国家的保障の提供。

- ・社会的に方向づけられた非営利的組織に対するギャランティのシステムを通じて、補充普通教育プログラムを実現する非営利的組織支援の規模を拡大すること。

- ・自然人、法人の慈善事業を促進するメカニズムの形成。

- ・子どもの補充教育の分野におけるコーポラティブな社会的責任の発展を援助すること。

子どもの補充教育のインフラを現代化するには、次のことがらが前提となる。

- ・子どもの補充教育システムでは、連邦レベル、およびロシア連邦主体のレベルにおいて、学習者のテクノロジーの準備教育を保証するために「リソースセンター」の設立、科

学一技術、芸術創造、およびスポーツの施設の創設。

- ・人口学的傾向、社会文化的特質、都市建設計画、社会的インフラ施設における正規の要求の決定スタンダードに対応したロシア連邦主体での補充教育設備の発達。

- ・身体文化およびスポーツの分野での補充教育の組織における体育のインフラの現代化と発展、教育のインフラ、余暇、子どもの休息及び健康管理、児童及び生徒のための相互交流的教育プログラムの実現のための博物館、図書館、展覧会ホール。

- ・新たな基盤（地方自治体および地域のレベルの具体的、現実的諸問題の解決、社会的に意義ある活動への子どもの参加）に基づいたクラブ施設（児童・成人、未成年）を居住地ごとに再建すること。

- ・健康の限られた可能性をもつ子ども、障害児に対する特別の適応的・補充普通教育プログラムの現代的実現条件の導入。

- ・子どもおよび若者の興味を考慮した管轄地域計画化、建設、所有複合体の管理のシステムのオリエンテーション、教育的・発達の環境、さまざまな活動形式のための開かれた空間、クラブ活動の創出。

- ・設備および専用器具一式（音楽機材、スポーツ備品）、ならびに補充普通教育プログラムのための方法的教材をふくむ学習技術工業化の発達、その中には事業に対して税務的刺激のシステムを介し、補助的児童教育の分野における投資プロジェクト（インタラクティブ博物館、補助教育の多機能的、文化-教育センター）をロシア連邦政府の認可する児童商品工業の優先インベンションの目録に計上することを含む。

- ・デジタル的デザインおよび3次元プロトタイプによる、学習-科学-生産的な製作工程の多重電子通信方式およびビデオスタジオを含む、デジタル革新テクノロジーを補助教育のシステムに利用するための条件を作り出すこと。

- ・マスコミの手段（マス情報化の手段、テレビ、「インターネット」設備など）を、質の高い学術的-大衆的プログラム、放送、デジタルおよび印刷物、子どもおよび若者の個人的・専門的自己規定に向けたモバイル教育のプログラムに対して促進、支援して行くこと。

- ・普通教育の連邦国家教育スタンダードを促進する補充教育分野での学習方法的教材に対する教材のステータスを付与すること（児童及び学術・大衆的文献、電子教育リソース、社会文化的リソースの主題コレクション、学術・大衆的映像、発達の遊戯、イミテーションモデル）。

不定形でインフォーマルな教育の発達は以下のものを前提とする。

- ・子どもの補充教育における文化およびスポーツの組織化のポテンシャル利用の可能性を広げること（博物館、図書館、バーチャル読書ホール、フィルハーモニー、劇場、スポーツセンター）

- ・児童や若者の教育に向けられたプロジェクトの社会的（児童や若者グループの目的をもった大規模な視聴者）なメディア「インターネット」のネットワークサービスの機器としてテレビ、ラジオ、動画を利用する）をサポートし、彼らにポジティブな価値観、市民的志向、積極的な生活態度を形成すること。

- ・開かれた教育プログラムの発展、さまざまな種類の教育サービスを含む専門化されたゲート（プラットフォーム）の「インターネット」における創出。

- ・「熱中して学ぶこと」のプログラムセクターの発展サポート（受益者、「職業都市」学術的娯楽パーク、創造的・技巧的・主題的パークといったような）。

- ・子どもの教育ツーリズムの発達を基準的・方法的・リソース的にサポートすること。

- ・子どもの（児童-大人の）インフォーマルな（自己活動的な）統合および共同（ロールプレイ、歴史的復元、体育およびスポーツ課業の現代的種目）のポジティブなポテンシャル利用に関するプロジェクトを実現すること。

VII. 構想実現の諸段階

構想の実現は、次の二段階において遂行される。即ち、2014～2017年の第一段階及び2018～2020年の第二段階である。

第一段階においては、構想の実現に関する施策プランの作成と共に、その実現メカニズムの創設（管理、財務、情報・学術方法的保障）が計画される。

構想の実現を保障するために、構想の実現に必要な予算投資額の修正を含めて、2014年4月15日付ロシア連邦政府決定No.295により承認された、2013～2020年における「教育発展」ロシア連邦国家プログラム「2013～2020年における『教育発展』ロシア連邦国家プログラムの承認について」が修正されるであろう。

構想に規定されている制度的変更(институциональные изменения)を保障するロシア連邦法の修正が予定されている。

構想の優先的方針に基づいて、ロシア連邦構成主体におけるパイロット・プロジェクトが作成され、実施されるであろう。

ロシア連邦構成主体においては、本構想に基づき、子どもの補充教育の地域発展プログラムが作成されるであろうし、その実現が開始されるであろう。

第二段階においては、構想実現に関する施策プラン、子どもの補充教育の地域発展プログラムの遂行が継続されるであろう。ロシア連邦構成主体におけるパイロット・プロジェクトと共に、構想実現のよりよき実践の成果が普及されるであろう。特に注目されるのは、補充教育のインフラの現代化である。

構想実現に関する施策プランの財務は、全ての水準の予算資金や私的投資を含めて、様々に資源から賄われるであろう。

ロシア教育・科学省は、ロシア文科省、ロシアスポーツ省、ロシア連邦構成主体の執行権力機関及び関連組織と連携して、構想実現のための恒常的なモニタリングを行い、その効果や期待される成果の達成度を評価するであろう。

VIII. 構想実現の期待されるべき成果

構想が実現されれば、2020年までに次の成果が保障されるであろう。

- ・ 5～18歳の75%を下回らない子どもが補充普通教育プログラムに引き入れられる。
- ・ 教育活動を行う機関や個人企業からの提案といった広範なセクターの独自の関心や情熱に基づいて、補充教育プログラムの子どものモチベーションが形成され、選択可能性が保障される。
- ・ 自己発達、職業的自己決定及び生産的な余暇のためのインフォーマルかつノンフォーマルな資源を子どもや若者が利用するための条件が創造され、そのための能力が形成される。
- ・ 補充教育に参加する子どもの権利の財政的支援メカニズムが形成される。
- ・ 子どもと家庭に対して、具体的な機関や補充教育プログラムについての客観的で十分な情報へのアクセスが提供され、プログラムの選択や個人的教育軌跡の計画の相談支援が保障される。
- ・ 子どもの補充教育の効果的な国家・社会的省庁間管理メカニズムが形成される。
- ・ 健康に制約のある子ども、困難な生活状況にある子ども及び英才児を相手とした活動モデルが実現される。
- ・ 競争環境の創出、有資格要員の引き入れ、国家コントロールの諸手法の組み合わせ、独立した質評価と自己規制により、補充教育プログラムの高度な質と刷新能力が保障される。
- ・ 教育要員や行政要員の生涯職業発達のための刺激と支援の効果的なメカニズムが機能する。

- ・ 補充教育が投資や企業イニシアチブのための魅力的分野となる。
- ・ 非国家的セクターの組織、国私のパートナースHIP、及び発展しつつある実物・造形手段や教育プログラムの設備生産の分野における刷新的活力や学術・生産協働のための有利な条件が創造される。
- ・ 子どもの訓育、教育、身体発達及び健康増進の社会的要求を満たす、現代的な幼年時代の総合的なインフラが創造される。

構想実現の結果、以下の事柄が保障されるであろう。

- ・ 体系的な補充教育によって提供される自己実現の機会により、若い世代と家庭の生活の質の充足感が向上する。
- ・ 未成年者の中で反社会的現象が減少し、少年少女の中での喫煙、飲酒、麻薬、遊興マニアの広範な普及が減少する。
- ・ 子どもの身体能力が増大し、子どもや若者の罹病が減少し、健康な生活様式へのモチベーションが形成される。
- ・ 体育やスポーツの分野で、スポーツに定期的に従事し、スポーツ学校や職業教育機関で自己の学習を継続しようとする子どもの数が増大する。
- ・ 補充教育システムにおいて形成された価値やコンピテンシー、世代間及び文化間コミュニケーションのメカニズムにより、社会的安定が強化される。
- ・ 若い世代に市民的態度、パトリオチズムが形成される。
- ・ 人間的及び社会的資本のレベルが向上することにより、国内の補充的な投資が引きつけられる。
- ・ 取得された高い教育水準、形成された人格特質と社会的に意義のあるコンピテンシーに基づいて、教育機関の卒業生の競争能力が向上する。
- ・ より高い質の社会的成果を獲得することにより、教育システムへの社会投資の社会的・経済的効果が高まる。

教師教育の発展支援構想(案)¹

Концепция поддержки развития педагогического образования (проект)

翻訳・注記：松永祐二

序

新しい連邦国家教育スタンダードにおいて表明された学校教育の質への新しい要請、教員²の専門スタンダードの承認は、教員養成の組織、内容、技術および規模の変更を不可避免的に必要とする。

ロシア連邦は、調整労働市場の条件下で構築された教員養成システムというものを、このシステムは大卒者の義務的な割当を行うことによって大学生数を厳密に調整し大学志願者の流動性を制限することを可能にしたのであるが、引き継いだ。

教員養成システムは、長年変わらず、比較的均等に領土内に配置された教育大学と中等職業教育施設のネットワークを抛り所にしていた。近年、教育大学の数は減少している。たとえば、2008年では196の大学（その内の70は教育大学）で教員が養成されたが、2012年では167の大学（その内の48は教育大学）であった。

2012年における専攻大グループ 050000「教育と教育学」³へのロシア連邦予算による入学者受入れ計画は57,000人以上で、高等教師教育を受けた専門家の輩出数は、2012年で13万3,100人であった。

2012年にロシア連邦教育科学省によって実施された国立大学およびその分校の教育活動のモニタリングの結果は、42の教育大学の内の30大学（71.43%）、37の教育大学分校の内の29分校（78.38%）は、非効率性の特徴を有すること⁴を示した。他方、医科大学ではその様な大学は10.26%、人文系大学では42.86%であった。

¹ ロシア連邦教育科学省によって提案された本案は、2014年1月20日に「全ロシア教育会議（ВПС:Всероссийское Педагогическое Собрание）」、「高等教育連邦国家教育スタンダード」及びロシアの主要な教育大学（国立モスクワ教育大学、国立ロシア教育大学、モスクワ市立教育大学、モスクワ市立心理・教育大学）のサイトに掲載されて全国的な討論に付されることになった。この案の作成のために「教師教育制度改革作業部会」が設置され、同部会は2013年2月に原案を作成した。その原案は、同年10月までロシアの15地域において延3000人以上の教育関係者（大学教員、教諭、教育行政管理職、海外の教育専門家等）によって検討された。このような検討をベースにして、2013年11月に原案の最終版が作成された。それが本案（①）である。なお、本案の原語は Концепция поддержки развития педагогического образования である。以下、педагогическое образование はすべて教師教育と訳出した。

この後の経過を示すと、2014年5月19日付けでロシア連邦教育・科学省の教師教育改革のための専用サイト（<http://педагогическоеобразование.рф/>）に、②「教師教育の現代化構想(案)（Концепция модернизации педагогического образования : проект）」が公表され、2014年5月28日にはロシア連邦政府副議長 О.Голодец によって③「普通教育機関の教育職員の専門的水準の向上を図る総合的計画

（КОМПЛЕКСНАЯ ПРОГРАММА повышения профессионального уровня педагогических работников общеобразовательных организаций）」が承認された（これは遠藤忠氏によって全訳されている）。さらに、2014年6月18日には、教育分野「教育と教育学」調整委員会委員長 Болотов В.А(председатель Координационного совета по области образования < образование и педагогика >)によって、同上専用サイトに④「教師教育現代化計画 2014—2017（Программа модернизации педагогического образования 2014—2017）」が公表された。②および③は、①を踏まえて承認・公表されたものである。

² 原語は педагог。以下、педагог はすべて教員と訳出した。

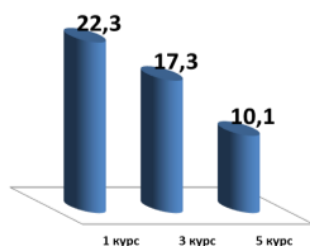
³ 原語は УГС 050000 < Образование и педагогика >。УГС は укрупненные группы специальностей のこと。

⁴ 大学の教育活動の程度を示す指標の数値が低い、つまり、活動状態が良くないということ。「非効率性の特徴」の原語は признаки неэффективности。

教育分野への入学者受入れとその学習の結果ならびに当該プログラム卒業生への就職斡旋に関するデータは、全体として、「二重の否定的な選抜」の存在を証明している。つまり、教育大学には大学受験者の最も「優秀な」者（学力の意味で）は進学せず、教育大学の最も優秀な卒業生は教職には就かないということである。

この場合、教員養成プログラムで学習した卒業生の大部分は、教育システムにも社会的分野にも就職してない（図1）⁵。

図1 教育大学生の教職志向性の変化動態(2007年、%)



(出所：B. ソープキン、O. トカチェンコ「教育大学の学生-生活的・職業的展望」、ロシア教育アカデミー、モスクワ、2007年)

このような状況の形成に少なからず重要な役割を果たしているのは、教師教育を受けることのみならず全体としての教職（教諭⁶の仕事の低い権威、キャリア展望の欠如など）にも関係する矛盾の総体である。従って、その解決が本構想の検討対象であるところの、以下の3グループの諸問題が識別できる。：

教職への入口の問題、これには次が該当する。教育学プログラムの入学志願者の統一国家試験の平均点の低さと教員養成の専攻・分野における教育活動に動機付けられた志願者を選抜する可能性の欠如、教育学プログラムの卒業生が教育システムにその専攻で就職する割合の低さ。

養成上の問題、これには次が該当する。卒業生の養成の不満足な質（方法・技術が古いこと、実習や研修の時間が十分でないこと、学生の養成において活動的なアプローチを欠くこと、教科学習と実際の学校の要請との間の連関欠如）、研究活動に学生を十分に引き入れていないこと、教育学プログラムにおける学習過程の施設・設備的基盤が弱いこと。

教職への引留めの問題、これには次が該当する。地域での教員職員需要の予測の欠如、大学入学定員の未充足と卒業生への就職斡旋未遂行に対する地域の責任欠如、教職に最も優秀な卒業生を惹きつけるメカニズムの低い効果に対する地域の責任欠如、若い教諭の専門的支援と随伴指導⁷のシステムの欠如、同様に教諭のキャリア展望の欠如、教諭の学校からの離職に対する対応の遅れが最近強まっていること。これらの問題は、事実上現代的要請に一致していない。

プログラムの基本目的は、教育職員養成の質の向上、教師教育システムを教員の専門的活動スタンダードならびに普通教育連邦国家教育スタンダードに一致させること、「二重の否定的な選抜」の克服である。

表明された目的の実現は、一連の重要な諸課題の解決を前提としている。つまり、

⁵ 図1は次を意味している。すなわち、教育大学の1年生で大学卒業後教職に就くことを希望する者は全体の22.3%に過ぎないが、この割合は学年が上がるにつれて減少し、3年生では17.3%、5年生では10.1%という状況である。

⁶ 原語は учитель。以下、учитель はすべて教諭と訳出した。

⁷ 原語は сопровождение молодых учителей。

・学習の線形軌道⁸を放棄して、様々な種類の学習者（学生、バカラブリアート⁹の卒業生、現役の教諭、他の職業の専門家）のために、教員養成プログラムに自由に「入る」条件を創ることによって、教師教育を受けている学生の質を向上させること、つまり、「ユニバーサル・バカラブリアート¹⁰」というタイプの教育バカラブリアートの教育プログラムの構築；

・教員の新しい専門スタンダードと学校教育の新しい諸スタンダードの実現、実践的養成を確かなものにするを目的として、教員養成プログラムの内容と学習方法の変更、養成内容の全成分（教科、心理・教育、情報・技術）と教員の実践・専門的諸課題との関連強化；教科計画を実習・研修の広い組織網を持ったシステムで満たすこと、学校・大学間パートナーシップのメカニズムを広く活用して、様々な教科の教諭だけでなく、様々な種類の学校や生徒のためにも教諭を養成する可能性。学校外・教育システム外の広範な教育活動のための教育職員の養成；

・カレッジ¹¹と大学間のコンピューターネットワーク連携を基礎に教員（応用バカラブリアートの）の実践的養成共同プログラムの導入、教育システムで働き始めたいあるいは専門的活動を継続したいと希望する様々な種類の大学入学志願者のために大学の修士プログラムを発展させることによって、現在教員養成プログラムを実施している教育カレッジと教育大学の効率性を高めること；

・卒業生の随伴指導システムと教諭のキャリア発達を確かなものにするを目的として、様々な養成プログラムで教師教育を受けた教員たちの独立した専門証明システムを作成し実践検証¹²すること。

構想の実現過程で教員養成の新しいシステムが創られなければならない。そのシステムの鍵となる要素として次を挙げることができる。：

1. 全ての養成プログラムにおいて新しい専門スタンダードに基づいて実践的能力を発達させること、パートナー学校での実習を通しての実践的能力養成も含めて。

2. 理論的講義の大部分を実践的成分に置き換えることが前提となっている、教員養成の基本モデルとしての応用教育バカラブリアート（これは大学、中等職業教育機関¹³、学校間のコンピューターネットワーク連携において実現されるものだが）。

3. 教育活動に動機づけられた、非教育系大学の非教育バカラブリアートの3、4年生のための教員養成プログラム。

4. 教育大学のユニバーサル・バカラブリアート（リベラルアーツ・バカラブリアートに類似）、これは、教育系の進路選択に際しての要請（統一国家試験の結果に対する要請も含めて）の強化を前提としている。

5. 教諭-メトディスト¹⁴、管理職のためのマギストラトゥーラ¹⁵、教育システムの労働者のための無償席優先受入れ。

6. 教師教育を受けていない者を教職に速やかに就かせる可能性ならびに普通教育分野で既に働いている者のための優先登録制を有する、実践的モジュール・マギストラトゥーラ。

7. 教職に就くように鼓舞するとともに教員養成の質の評価を可能にする、新しい教員

⁸ 予め用意された学習教材を厳格に順を追って学ばせるというやり方で学習が展開されること。原語は линейная траектория обучения。

⁹ 4年制の大学学士課程のこと。原語は бакалавриат。

¹⁰ 次に出てくる時に「リベラルアーツ・バカラブリアートに類似」との説明がある。原語は универсальный бакалавриат。

¹¹ 3-4年制の中等専門学校のこと。原語は колледж。

¹² 原語は апробация。

¹³ 原語は организация СПО。以下、организацияは全て機関と訳出した。

¹⁴ 原語は учитель-методист。

¹⁵ 2年制大の学院修士課程のこと。原語は магистратура。

専門スタンダードに基づいた資格試験の導入。教育職員養成基礎教育プログラムを履修した卒業生の独立した資格試験の結果に基づく、このプログラムの社会・専門的認証評価。

8. 新任教員の随伴指導（彼らの専門的な随伴指導と専門的発達を確かなものにするものとしての）。

9. 学校における学生の実習を鼓舞するシステム：教育実習生の労働報酬（学校によるものも含めて）および学校・大学の労働者側からの実習の内容的指導（大学によるものも含めて）についての計画、この場合、その計画でこれらの教育機関の効率性指標が過度に悪化しないようにすること。非教育系大学の学生の心理・教育的訓練（実習も含めて）のための資金供給システム（教育行政機関および普通教育施設による資金供給も含めて）。教育機関において、そのために必要な資金割当てを伴う学生の研修の組織化（研修生の労働報酬も含めて）のための条件を作ること

10. 学生・実習生の自律的な教育活動（授業の準備と実施）－これは、その活動の情報環境への定着と教諭・大学教員と共同の実習後反省会を伴う。資格審査の際に利用したり雇用者側に提示したりするために学生と生徒による数字で表されたポートフォリオの作成。

構想の実現は、いくつかのステップで実施することが予定される。

2014～2015年

7～25の大学でのパイロット計画の実施：新しいモデルとプログラムの作成、新しい思想¹⁶と技術を有する者の育成。

教育プログラムへの受入れシステムの変更に関する提案の作成。

2015～2016年

新しいモデル・プログラムへの移行を鼓舞する教員養成のための入学定員の新配分システムの作成。新しいモデル・技術の普及の方法論的随伴指導。ロシア連邦の教育職員養成の全システムに新しいモデルを拡大すること。

構想実現の「ロードマップ」には、次の施策を含むことが提案される。

2014～2015年

1. 普通教育分野の教育職員・管理職に対する地域・地方自治体教育システムの需要に関する毎年のモニタリングの作成と実施。

2. 卒業生の義務的随伴指導（大学受験生の入学登録への強められた要請を伴っての）と就職保障を伴う地域・地方自治体教育システムのための専門家の合目的な契約型養成モデルの作成。

3. 毎年のモニタリングの結果で非効率性の特徴を有する教育大学・分校の発展プログラムの作成・実施に対する方法論的支援の組織化。

4. 教諭の専門スタンダードならびに普通教育連邦国家教育スタンダードに一致した、高等教師教育連邦国家教育スタンダード案の作成。この案は、バカラブリアート・プログラム（応用バカラブリアート、ユニバーサル・バカラブリアートを含めて）、マギストラトゥーラ・プログラム（専門マギストラトゥーラを含めて）、アスピラントウーラ¹⁷・プログラムでの柔軟で選択可能な養成の可能性を確かなものにするものである。

5. 実習の新しい形態と中等教育、高等教育、補充専門教育諸機関間コンピューターネットワーク連携のメカニズムを含んだ教育職員養成の柔軟で多様な多水準モデルを作成すること。

¹⁶ 原語は идеология。

¹⁷ 3年制の大学院課程のこと。原語は аспирантура。

6. 普通教育分野に就職を希望する候補者（卒業生を含めて）のために、また教員の資格審査の際に作成済みモデルを利用するために、資格試験（証明）のモデルを作成すること。

7. 地域の学校・大学間パートナーシップの組織化のための競争的な支援、ならびに教育職員の養成を行っている教育諸機関のコンピューターネットワーク連携の他の形態。

8. 教員の専門スタンダードに一致した教育専攻に関する資格と専門的再教育の強化プログラムに対する現代的要請の作成。

9. 勤務開始から最初の3年間にわたる教諭の専門的発達の随伴指導に関するモデルとプログラムの作成。

10. 17～25の大学におけるパイロット計画の実施：新しいモデルとプログラムの作成、新しい思想と技術を備えた者の養成。

2015～2016年

11. 地域・地方自治体教育システムの普通教育分野における教育職員・管理職に対する需要ならびに教育プログラム卒業生への就職斡旋結果に関するモニタリングの毎年実施。

12. 地方自治体の教育施設に就職しようとしている主要なロシアの大学の優秀な卒業生を補助金面・方法面で支援するプログラムの作成と実施。

13. 主要なロシアの大学、ロシア教育アカデミー、主要な教師教育国際センターを基盤にして、教育専攻に関する養成を行っている大学の教員スタッフ¹⁸に対して補充的専門教育（研修、専門的再教育、資格向上）を行うこと。

14. 必修インターンシップと就職保障を伴う地域・地方自治体教育システムのための専門家の合目的な契約型養成モデルを実行すること。

15. 非教育系専攻・分野の学生のために、教科担当教諭の資格を普通教育機関での必修実習を伴ってより短期間で獲得できる柔軟なコンピューターネットワーク・プログラムを開設すること。

16. 普通教育分野で働きたい者のための、また資格審査の際に利用するための、資格試験（資格証明）のモデルを地域で実践検証すること。

17. 教師教育プログラムの設計に際しての利用可能性を考慮して、専門スタンダード「教諭」を作り上げること、その中に普通教育分野における教育キャリア発達の数種の可能性を反映させること。

18. 教師教育の新モデル・技術を完成させるために実験場¹⁹間でコンクールを行うこと。教育インターンシップ・プログラムを実施している実験場のための資金供給標準量²⁰を強化すること。

19. 教師教育の現状についての報告書作成を含めて、パイロット計画の実施に関するモニタリングの毎年実施ならびに教師教育システムにおける優秀な実践の普及支援の実施。

20. パイロット計画の結果に基づいて、教師教育プログラムの認証評価の新しいシステムを作ること。

21. 大学の教師教育プログラムへの進学のための補足的な入学試験を導入する標準的な可能性をつくること。

22. 教師教育システムのための管理要員の発達に関する計画を実施すること。

23. 基礎教育資格の取得過程（学習期間の1年延長可能性を伴って）あるいは教育活動の期間に、補足的な教育資格の獲得のためのプログラムを作成すること（教育システムの管理班、教員-心理士²¹、社会教育士²²、健康上の問題を持つ児童・生徒担当教員、特別な支援が必要な児童・生徒担当教員、補充教育・就学前教育システムの教員等）。

¹⁸ 原語は профессорско-преподавательский состав。

¹⁹ 原語は пилотная площадка。

²⁰ 原語は норматив финансирования。

²¹ 原語は педагог-психолог。

²² 原語は социальный педагог。

24. 教育労働者の給与の基礎部分にマギストル²³等級追加給を含めるための、教諭がマギストラトウーラやアスピラントウーラで学んでいる場合その間給与減額なしに授業時間を削減するための勧告を作成すること。

25. 教諭の最低水準資格要件の作成と導入：低学年での仕事に際してはバカラブル²⁴を下回らないこと、特別な支援を必要とする児童・生徒との仕事（心理学者、言語矯正士²⁵、矯正教育士²⁶）に際してはマギストルを下回らないこと。

²³ 修士のこと。原語は магистр。

²⁴ 学士のこと。原語は бакалавр。

²⁵ 原語は логопед。

²⁶ 原語は коррекционный педагог。

教師教育現代化プロジェクトの概要

Описание прека модернизации педагогического образования

翻訳：タスタンベコワ・クアニシ、カキモフ・バザルハン

サフロノヴァ M. A.

地域における教師教育現代化プロジェクトの実施に対して専門的支援を提供するリソースセンター、モスクワ国立心理・教育大学、優先的研究発展センター長、ロシア、モスクワ市

Maria.Safronova@ngppu.ru

N. V. ビイシツク**

地域における教師教育現代化プロジェクトの実施の専門家的支援を提供するリソースセンター、高等経済大学教育研究所 教育におけるリーダーシップ開発センター研究員、ロシア、モスクワ市、nbysik@hse.ru

ロシア連邦教育科学省は、教師教育現代化プロジェクト及び2011年-2015年の教育発展連邦目的プログラムの枠組みにおいて、教員養成の実践的・研究的面が強化されるバカルブリアート（学士課程）とマギストラトゥーラ（修士課程）の基礎職業的教育プログラムの新しいモジュールを開発するプロジェクトを実施している。

2014年－2017年の教師教育現代化プログラム

プログラムの目的:

- －教員養成課程に在籍する学生の資質を徹底的に向上させる。
- －新しい職業スタンダード及び初等中等教育 (школьный)スタンダード、就学前教育スタンダード（実践的コンピテンシー、就学前教育及び初等教育の教員の質向上、教員のキャリア・教育的展望）の実施を確保するために教員養成の内容とテクノロジーを変革する。
- －教員養成プログラムを実施している大学と教育カレッジの効率を向上させる。

新しい教員養成制度の基本要素

- －活動を取り入れる教育心理学、教育学と教授法の新しいコースの開発及び連携学校における長期的の実習と研修を含む、新しい職業スタンダードに基づく実践的コンピテンシーの発展の強化。
- －中等職業教育機関と高等教育機関のネットワーク連携によって実施される応用バカラブリアート。

- －職業への参入を円滑にし、教員養成の質の評価を可能にする、新しい職業スタンダードに基づく資格審査の導入。
- －教育大学において優秀な学生から教員を養成する広範なバカラブリアート(широкий бакалавриат)。
- －非教育バカラブリアート2年目修了後の3-4年目における教員養成。
- －メトジスト教員と教育管理職用のマギストラトゥーラ。
- －教育学部を修了していない人の職業への円滑な参入を可能にするマギストラトゥーラ。

プログラム実施計画

2014年-2015年

- －17~25の大学におけるパイロットプロジェクトの実施：新しいモデルとプログラムの試行、新しいイデオロギーとテクノロジーの担い手(носителей)の養成。
- －新しいモデルとプログラムへの移行を推進する教員養成定員 (контрольные цифры приема: КЦП) の新しい制度の開発。

2016年-2017年

- －教員養成定員の新制度の新しいモデルとテクノロジーの普及のための利用。
- －新しいモデルとテクノロジーの普及の教授法的サポート。

プログラムの第一段階の結果

- －完成した基本教育プログラムのパッケージと、実施に関する実践的ガイドライン、法規程、教員の資格向上プログラムを含む、普及の準備ができた教員養成モデル。
- －新しいイデオロギーとテクノロジーの普及の中心になる教員養成の新しい柔軟なモデルを導入している20以上の大学の存在。これらの大学による教師教育協会の設立。
- －革新的プログラムに参加している3000人以上の学生。
- －新しいテクノロジーとアプローチを習得した2000人以上の教員。
- －職業スタンダードの要求に対応した職業的コンピテンシーの独立評価のためのツール。

プロジェクト1. 教員養成の実践的指向性の強化

プロジェクトの課題

1. 大学と学校の連携、特別研修といったメカニズムの導入によって将来の教員の養成の実用性を向上させるために、新しい職業スタンダードに対応した教育バカラブリアートの基本教育プログラムの開発と試行。
2. 中等職業教育機関と高等教育機関のネットワーク連携によって将来の教員の養成の実用性の向上するために、教員の職業的活動スタンダードに対応した応用教育バカラブリアートの基本教育プログラムの開発と試行。

プロジェクト 2. 選択的な教員養成

プロジェクトの課題

1. 意欲のある優秀な学生の教育活動に向けた養成と、それ以外の卒業生のその他の職業活動に向けた養成を目指す教育大学での広範なバカラブリアートのプログラムの開発と試行。
2. 非教育バカラブリアートで2～3年を学習した意欲のある学生の教員養成モデルの開発と試行。

プロジェクト3。教育制度における高度な資格を持つ専門家の確保。

プロジェクトの課題

1. メトジスト教員を養成する研究マギストラトゥーラのプログラムの開発と試行。
2. 教育機関での長期的な実践的研修が含まれた応用マギストラトゥーラのプログラムの開発と試行。
3. 教育管理のマギストラトゥーラの開発と試行。

プロジェクト参加大学 (表1、2、3)

2014年4月～6月に行われたオープンコンクールの結果によって、教師教育現代化の分野における次のプロジェクトを獲得した大学が公表された。

- －教育機関間のネットワーク連繋の形成によって、拡大された「教育と教育学」という専門グループの枠組みのバカラブリアート・プログラムにおける教員養成の実践的指向性の強化(6つの大学)。
- －学生の職業に焦点を当てた深化した実習を取り入れ、教育機関間のネットワーク連繋に基づく、拡大された「教育と教育学」という専門グループの枠組みの中で職業的(教育学)マギストラトゥーラの基本職業的教育プログラムの新しいモジュールの開発と試行(5つの大学)。
- －ネットワーク連繋の中で学生のアカデミックモビリティを取り入れたバカラブリアートの基本教育プログラムの新しいモデルの開発と試行(7つの大学)。
- －異なる段階の教育機関のネットワーク連繋の中で学生たちの研究と実習の拡大を取り入れたマギストラトゥーラの基本教育プログラムの新しいモデルの開発と試行(2つの大学)。

プロジェクトの実施によって期待される成果

1. 教員養成の資質の向上：
 - －プロジェクト実施大学における教員養成プログラムの現代化；
 - －プロジェクト共同実施大学における教員養成プログラムの現代化；
 - －プロジェクト実施大学の卒業生の資質の独立評価；
 - －当該大学で他のプログラムの現代化の実施ができる教員チームの形成；
 - －教員養成を行っているその他のすべての大学の開発されたモジュールへのアクセス；
 - －新しい要求に対応した教員の資格向上プログラム；

- ープロジェクトに参加していない大学の教員の資格向上プログラムに参加できる地域間チームの形成；
- ー教師の職業スタンダードの要求に応じた連邦国家教育スタンダードの改定に関する提言。

2. 教員養成の実践的指向性を強化したプロジェクトについては、次の結果が想定される。

- ー教員の職業スタンダードと連邦国家教育スタンダードの要求に対応してプロジェクトの実施結果によって、ロシア連邦の7つの連邦管区の19の大学において3つの分野で拡大された「教育と教育学」という専門分野（6つのカテゴリーの教職）において15以上の教員養成プログラムが現代化される。大学の普通及び職業教育のプログラムを実施している教育機関とのネットワーク連携の新しいモデルに基づいて実施される50以上の実践的（職業的）指向性が強化された現代的な教育モジュールが開発・試行される。
- ー2000人以上の学生（将来の教員）が、「応用なバカラブリアート」と「教育（職業的）マギストラトゥーラ」のプロジェクトの実施の中で開発された新しいモジュールで学習し、終了後に教員の職業スタンダードに応じて取得した資格（職務を実施する準備）の独立評価を受ける。
- ープロジェクトの実施に参加した大学の2000人以上の教員が大学内、大学間（プロジェクトオペレーターによって実施される）資格向上を受ける。
- ープロジェクト実施の中で開発された新しい教育プログラムの普及のため、また、ロシア連邦のその他の大学がアクセスできるように「pedagogicheskoeobrazovanie.rf」というポータルが開発される。
- ー学生と教員のアカデミックモビリティと開発された教育モジュールの共同利用に基づいた教員養成プログラムを実施している大学の広範囲のネットワーク連繋が形成される。
- ー拡大された専門分野「教育と教育学」の高等教育連邦国家教育スタンダードの現代化のための提言が作成・試行される。

表1
プロジェクト参加大学

連邦管区	ロシア連邦 構成主体	大学(主な担い手)	プロ ジェ クト の 数	プロジェクト*			
				ПБ	АБ	ПМ	ИМ
中央連邦管 区	モスクワ	モスクワ市立心理・教育大学	3	1		1	1
		モスクワ市立教育大学	3			2	1
		モスクワ国立教育大学	3	2		1	
		ショーロホフ記念モスクワ国立人 文大学	2	1	1		
		国立研究工科大学 MISIS	1		1		
北西連邦管 区	サンクトペテル ブルク	ゲルツェン記念ロシア国立教育大 学	2	1		1	
	アルハンゲリス ク州	ロモノーソフ記念北部(北極)連 邦大学	1		1		
沿ヴォルガ 川連邦管区	ニジニノヴゴロ ド州	コジマ・ミニン記念ニジニノヴゴ ロド国立教育大学	1		1		
	タタルスタン共 和国	カザン(沿ヴォルガ川)連邦大学	3	1	2		
	ウリヤノフスク 州	ウリヤノフ記念ウリヤノフスク国 立教育大学	1			1	
シベリア連 邦管区	クラスノヤルス ク地方	シベリア連邦大学	1	1			
	ノボシビルスク 州	ノボシビルスク国立教育大学	1		1		
南部連邦管 区	ロストフ州	南部連邦大学	1		1		
5	9	13	23	7	8	6	2

*ПБ-応用なバカラブリヤート、АБ-アカデミック・バカラブリヤート、ПМ-職業的(教育学)
マギストラトゥーラ、ИМ-研究マギストラトゥーラ

表2
共同実施大学

実施大学	共同実施大学	プロジェクトのタイプ
カザン（沿ヴォルガ川）連邦大学	モスクワ国立教育大学	АБ
	アックムラ記念バシキール国立教育大学	АБ
	ウラル国立教育大学	АБ
	エフセエフ記念モルドヴィア国立教育大学	АБ
	ヴァット国立人文大学	АБ
	ヴォルガ国立社会人文アカデミー	АБ
	コロレンコ記念グラゾフ国立教育大学	АБ
	ウリヤノフ記念チュヴァシュ国立大学	АБ
	ナーベレジヌイエ・チェルヌイ社会的・教育テクノロジーとリソース大学	АБ
	ヴォルガ国立体育・スポーツ・観光アカデミー	АБ
	ロシア・イスラム大学	АБ
	経済・経営・法学大学（カザン市）	АБ
コロレンコ記念グラゾフ国立教育大学	ПБ	
コジマ・ミニン記念ニジノヴゴロド国立教育大学	ゲルツェン記念ロシア国立教育大学	АБ
	ノボシビルスク国立教育大学	АБ
	ショーロホフ記念モスクワ国立人文大学	АБ
	モスクワ市立教育大学	АБ
ショーロホフ記念モスクワ国立人文大学	ロモノーソフ記念北部（北極）連邦大学	АБ
	ウラジミール国立大学	АБ
	モスクワ国立教育大学	ПБ
	コジマ・ミニン記念ニジノヴゴロド国立教育大学	ПБ
ウリヤノフ記念ウリヤノフスク国立教育大学	モスクワ市立心理・教育大学	ПМ
	モスクワ市教育大学	ПМ
モスクワ国立教育大学	なし	ПБ
	なし	ПБ
	なし	ПМ

表 3
共同実施大学一覧

№	大学
1	カント記念バルト連邦大学
2	アックムラ記念バシキール国立教育大学
3	ブリヤート国立大学
4	ウラジミール国立大学
5	ボルゴグラード国立社会・教育大学
6	ヴァット国立人文大学
7	コロレンコ記念グラゾフ国立教育大学
8	人文大学（北部（北極）連邦大学のセベロドビンスク市分校）
9	ザバイカル国立大学
10	経済・経営・法学大学（カザン市）
11	ツィオロコフスキ記念カルーガ国立大学
12	アスタフィエフ記念クラスノヤルスク国立教育大学
13	エフセエフ記念モルドヴィア国立教育大学
14	ナーベレジヌイエ・チェルヌイ社会的・教育的テクノロジーとリソース大学
15	高等経済大学
16	ヤロスラブル・ムドロイ記念ノヴゴロド国立大学
17	オムスク国立教育大学
18	オリョール国立大学
19	ヴォルガ国立体育・スポーツ・観光アカデミー
20	ヴォルガ国立社会人文アカデミー
21	ロストフ国立経済大学（教育学部）
22	ロシア・イスラム大学
23	北コーカサス連邦大学
24	スタプロポリ国立教育学大学
25	トムスク国立教育大学
26	トルストイ記念トゥーラ国立教育大学
27	ウラル国立教育大学
28	チェリャビンスク国立教育大学
29	ウリヤノフ記念チュヴァシュ国立大学

研究課題番号 15H05198
平成 27～29 年度 科学研究費補助金
基盤研究 (B) 海外学術調査

ロシア及び CIS 諸国における教育改革と
教師教育の現代化に関する総合的調査研究

平成 27 度中間報告書

平成 28 年 (2016 年) 3 月

研究代表者 嶺井明子
(筑波大学 人間系)